

講義科目名称：キリスト教概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Christianity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2単位 (2-0)	大学必修科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：CHR200	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 キリスト教を概観してその基礎を学ぶ。 【到達目標】 キリスト教の成立と思想についての基本的な知識を獲得する。		
授業計画	第1回	キリスト教を学ぶにあたって：なぜ宗教を学ぶか 宗教とは何か、又、キリスト教の発生した地理的位置と歴史的背景についての講義。 最初に、学生達の持っている宗教観についての意識を発表させる。近年の日本社会における「宗教」認識は、ともすれば単純で偏向した傾向があるように思われるが、学生達の宗教認識を知った上で、宗教の持つ意味と重要性を社会的・文化的ななかで理解させた上で、キリスト教が、比較宗教的にどのような特徴をもっているのかを理解する。どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。	
	第2回	本学の成り立ちと願い 本学創立の最重要人物である、仲里朝章牧師が本学を建学するにいたる経験と懺悔と追い求めたキリスト教教育の内実を問う。 本学院の建学の精神を理解する上で、戦前・戦中の時代背景と教育の内容とその教育の本質がいかなるものであるのかを知ることは重要である。又、これから、本学の建学の精神がどのような信仰的決断と反省から生まれたのかを検証する。 その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第3回	キリスト教特別講演会（4月上旬）※レポートにして提出 春期キリスト教講演会での講師の講演内容を、約1000字で纏めると共にその講演について自らの感想と意見をレポートする。当該講演会は、本学院の建学の精神を深めるためのものであり、講師はその基本路線に従って選ばれる。	
	第4回	キリスト教の誕生：イエスとその時代 キリスト教の誕生：イエスとその時代 ローマ帝国によるユダヤ支配の時代背景と、宗教的・社会低背景の中でおこなわれた、イエスの神の国運動の内容について講義する。 ユダヤ教の背景を説明し、その社会の価値観と歴史の説明をする。一方で、当時の世界帝国として地中海世界に君臨したローマ帝国の起原と勢力の大きさを理解する。そのような状況でナザレのイエスのおこなった神の国宣教運動の教えの意味と、イエスの生き様を講義する。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第5回	キリスト教の誕生：初代教会と社会 ナザレ人イエスの復活の証言とイエスはキリストという信仰の告白は、初代キリスト教会を誕生させる。ペンテコステの出来事以来、エルサレムからアンティオキアそしてローマ帝国全土にその宣教がひろまり、教会が進展した。ペトロやパウロによる信仰経験の違いと、地中海世界での宣教においてどのような文化的背景があったのかも明らかにする。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第6回	古カトリック教会 古カトリック教会の時期は、キリスト教の重要教理である三位一体論、教会組織、正典としての聖書が完成された重要な時期である。これらの理解によって、キリスト教の基礎を把握する事が可能になる。当時の地中海世界を席卷したグノーシス等の異端思想の問題に直面する中で、教会教義と組織が確立して行く過程を学ぶ。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第7回	教会の東西分裂と文化 ローマ帝国の分裂と教会の東西分裂の意味を考える。東ローマ帝国はビザンティン帝国としてギリシャを中心とした東ヨーロッパに影響力を及ぼすようになった（東方正教会）。又、ローマ・カトリック教会は、イタリアのローマを中心に西ヨーロッパにその影響を及ぼし、両者は現在まで存続している。いずれもが、ローマ帝国の首都として機能した都市であるが、両者の文化的、政治的、歴史的違いと特徴を明らかにする。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第8回	中世のローマカトリック 一千年に及ぶ西ヨーロッパの中世期は、ローマ・カトリック教会の絶大な影響力を語らずして理解する事は出来ない。それは又、現在の西洋社会のありように大きな影響を与えている。その時代の社会・文化・芸術はカトリック信仰が基盤になった。それらを紹介すると共に、教皇権の絶対化は神聖ローマ皇帝との軋轢を生むようになった。このことから、宗教と政治の問題を考える。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第9回	宗教改革（1）ドイツ マルティン・ルターによって始められた宗教改革運動により、プロテスタント教会が誕生する。宗教改革者となったルターの運動の源泉である個人的体験から、聖書研究、改革のプロセス、その影響を学ぶ。プロテスタン教会誕生の歴史と共にその原理と、宗教的な面のみならず政治的な影響をも学ぶ。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。	
	第10回	宗教改革（2）スイス ツヴィングリとジャン・カルヴァンによる、スイスの宗教改革を学ぶ。この二人の改革者の改革	

	運動から「改革派教会」が誕生するが、彼らの信仰の闘いは政治的闘いとも重なるものであった。改革運動の志半ばで倒れたツヴィングリと、カルヴァンの運動の軌跡をたどりながら、その思想的影響が資本主義に至るという説をも紹介する。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。 第 1 1 回 宗教改革（3）英国 純粋な宗教家によらず、イングランドの国王ヘンリー八世によって引き起こされ推進された改革運動である。英国国教会がこれによって誕生したが、大陸の宗教改革の影響等からピューリタン革命、ひいてはアメリカ合衆国建国の原動力もこの改革運動によって引き起こされる事になる。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。 第 1 2 回 宗教改革と近代 宗教改革の影響は、ヨーロッパからアジア、新大陸にまで及ぶ。北米、中南米、アジアにキリスト教の波が押し寄せるのは反対宗教改革の流れと、植民地や奴隷制、移民の動きと関連して世界中に広がるようになる。近代以降の帝国主義や政治的動き派無視する事が出来ない。それぞれの地域で、キリスト教がどのような思想と影響を与えるようになったのかを学ぶ。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。 第 1 3 回 沖縄・日本とキリスト教 日本では近代化の流れの中でキリスト教の宣教師が到来した。沖縄も又然りである。近代化の波の中で、キリスト教がどのような影響を日本と沖縄に与えたのかを学ぶ。沖縄のキリスト教においては、政治的な支配-被支配の関係からどのような教会の形成がなされたのかも検証する。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。 第 1 4 回 宗教とカルト 近年、若者達をターゲットにして社会問題になっている宗教があるが、宗教には大別して人間を解放させ、安息を与えるもの（Religion）と、人間を抑圧し、奴隷化する（Cult）の二種類に分類する事が出来る。その両方の特質について教え、間違った宗教を認識させる。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。 第 1 5 回 授業総括（まとめ） これまでの講義について、古代、中世、宗教改革とそれ以後のことについて重要なポイントを要約し、学生達の質問を受け、より深い理解ができるようにする時間を持つ。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて、適宜解説をおこなう。
授業の概要	本学の拠って建つキリスト教とは何かを学ぶ。キリスト教の歴史と思想を概観（大まかに学ぶこと）し、その人間観、人権思想、そして戦争と平和についての考え方について考察する。この学びをとおして、今日の社会状況の裏にある宗教的な事柄に対する理解を深める。
予習	次回の講義についての予習すべき内容をそのつど告知する。
復習	その日の講義内容をまとめる
テキスト	大村修文『キリスト教はじめの一步』日本キリスト教団出版局
参考書	聖書（旧・新約）を各自購入しておくこと。
評価方法・評価基準	レポート、小テスト80%・チャペルレポート10% 授業態度10% 【D P 1~4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 前回の講義について小テストを行うことがあるので注意すること。 2. 評価は、大小のレポート、授業態度を総合的に勘案して行う。 3. キリスト教講演会レポート：原稿用紙約1000字、ワープロA4 1 枚、もしくは用意されたレポート用紙 4. 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので回数は指定しないが、月曜礼拝での講師の「メッセージ」についてまとめて、その感想をレポート。※指定した用紙で提出提出期限：当該礼拝の終了まで。 5. 学期中に一度は最寄りの教会の礼拝に参加することを薦める。 6. 授業中の私語、教科以外の学習、その他授業の妨げとなる行為などは堅く禁止する。
オフィスアワー	（仮）毎週水曜日 4 限目 金研究室
課題に対するフィードバック方法	講義時間にレポートを返却して解説を加える。

講義科目名称：聖書における人間

授業コード：

英文科目名称：Man and Woman in the Bible

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2単位 (2-0)	大学必修科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：CHR201	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 聖書の基本的理解 【到達目標】 旧約・新約両聖書を通して、聖書における思想の知識を獲得する。		
授業計画	第1回	ガイダンス/聖書とは 本講義についてのガイダンスを行なう。聖書全体の概要を説明し、その歴史的・現代的な意味を学ぶ。	
	第2回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 旧約聖書の時代と社会の背景 旧約聖書の特質である、イスラエルの宗教的・民族的アイデンティティについて、歴史的、文化的、地域的側面から説明し、沖縄や日本との違いを認識しつつ、聖書を学ぶことの意味を学ぶ。	
	第3回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 人間の本質（1） 旧約聖書に記される世界観と人間観はセットになっている。壮大な世界観の中で、最も大切な創造者としての神存在に対比される人間存在の意味を問い、学生達の世界観・人間観と対比させて聖書信仰の原点を知る。	
	第4回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 人間の本質（2） 創世記の「失楽園」にはじまる物語から、人間の弱さや罪の本質について学ぶ。古代のイスラエルの人々にとっての人間理解の重要な側面を学ぶ。それが、今日の日本の宗教文化において認識されているものとどのように異なるのかについても考察する。	
	第5回	キリスト教講演会 秋期キリスト教講演会での講師の講演内容を、約1000字で纏めると共にその講演について自らの感想と意見をレポートする。当該講演会は、本学院の建学の精神を深めるためのものであり、講師はその基本路線に従って選ばれる。	
	第6回	イスラエル信仰の始祖達 アブラハム、イサク、ヤコブの物語からイスラエルの民族・信仰共同体の原点ともいべきものを学ぶ。	
	第7回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 出エジプト（1） 出エジプトを題材にした映画 Prince of Egyptの鑑賞と解説をおこなう。人間の「解放」について学ぶ。	
	第8回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 出エジプト（2） 出エジプト記に見られる、モーセの生涯と十戒の思想について学ぶ。使命に生きること。戒めを守る生き方の原点について学ぶ。	
	第9回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 イスラエルの英雄 ダビデ王をはじめとしたイスラエルの英雄達の物語は、芸術の領域にも反映されているが、聖書に描かれている姿の意味を学ぶ。	
	第10回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 イスラエルの預言者 旧約聖書の預言活動について学ぶ。預言者達の生きた時代背景と彼らが発したメッセージに込められた信仰の思想の意味を学ぶ。	
	第11回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 新約聖書の時代的・地理的背景 新約聖書の概要を学び、イエス・キリストの宣教活動の舞台となるパレスチナとローマ帝国について、又、パスク・ロマーナ（ローマの平和）とキリストの平和の違いについても学ぶ。	
	第12回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 イエスの宣教活動とその思想 ナザレのイエスがおこなった神の国宣教運動について、又、当時のユダヤ教社会における意味と影響について学ぶ。	
	第13回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 イエスの宣教活動とその思想 ナザレのイエスがおこなった神の国宣教運動について、又、当時のユダヤ教社会における意味と影響について学ぶ。特に十字架にかけられるにいたる宗教的・政治的状況と復活信仰についての理解をする。	
	第14回	その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。 初代キリスト教会の使徒 初代キリスト教会の中でも、特に重要なペトロとパウロについて学ぶ。イエスの弟子集団の中の中心人物であったペトロと、ヘレニスト・ユダヤ人であったパウロの回心と宣教の進展を支えたこと。初代教会の発展を支えた多様な人的背景を知る。	

	第15回 授業総括（まとめ） 一学期間に学んだ、聖書の人間観と人物象の中に含まれる意味を総括する。その他、どのような事でもキリスト教・宗教に関係する事は質問を受け付けて解説をおこなう。
授業の概要	旧約・新約両聖書の中に登場する人々の人間像を描く中で、聖書がその人々を通して示そうとした思想と使信を明らかにする。特に「人間」に焦点を置くことによって、「罪」、「希望」、「信仰」、「愛」等に対する聖書の描写と使信を学ぶことを目的とする。旧約では、創造物語の中で描かれている人間のあるべき姿、アブラハム、モーセ、王国建国の英雄ダビデ、預言者といわれる人々の姿を中心に学ぶ。新約では、イエスと初代キリスト教会の人物像と教えをその時代背景とともに学ぶ。
予習	次回講義についての予習すべき内容をそのつど告知する
復習	その日の講義内容をまとめる
テキスト	日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、その他授業のガイダンスにおいて詳しく指定する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	評価は、大小のレポート、授業態度を総合的に勘案して行う。 キリスト教講演会レポート：原稿用紙約1000字、ワープロA4 1枚、もしくは用意されたレポート用紙 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので回数は指定しないが、月曜礼拝での講師の「メッセージ」についてまとめて、その感想をレポート。※指定した用紙で提出提出期限：当該礼拝の終了まで。 小テスト・レポート80% 月曜礼拝レポート10% 授業態度10% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）毎週水曜日 4限目 金研究室
課題に対するフィードバック方法	レポートを講義において返却し解説する。

講義科目名称：英語聖書講読

授業コード：

英文科目名称：English Bible Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：CHR225		

授業のテーマ及び到達目標	The Bible is a sacred book for Christians and Judhists and a bestseller in the world. In this class, we will read 13 stories from Old Testament such as "Adam and Even," "Noah's Ark," "Exodus," "Ten Commandments," etc. And we will read 11 stories from New Testament such as "Birth of Jesus Christ," "The Last Supper," and "Jesis dies and comes back to life," etc. This class is designed to help you understand the central ideas of the Christian faith by reading some stories from the Bible.		
授業計画	第1回	Introduction (What is the Bible? Outline of Old & New Testament) The Old Testament is the first part of Christian Bibles. It was written by the Israelites beleved by most Christians and religious Jews to be the sacred Word of God. The second part of the Christian Bible is the New Testament. It discusses the teachings and person of Jesus Christ, as well as events in first-century Christianity.	
	第2回	The Creation of the World/Adam and Eve "The Creation of the Wolrd" tells us how God created this world for seven days. And Adam and Eve were the first man and woman in the Bible. It provides the basis for the doctrines of the fall of man and original sin that are important beliefs in Christianity.	
	第3回	Cain and Abel/Noah's Ark Cain and Abel were sons of Adam and Eve. Cain, the firstbonr, was a farmer, and his brother Abel was a shepherded. The brothers made sacrifices to God, but God favored Abel's sacrifice instead of Cain's. Cain murdered Abel, whereupon God punished Cain to a life of wandering. Noah's Ark is the vessel in the Genesis flood narrative by which God spares Noah, his family, and a remnant of all the world's animals from a world-engulfing flood.	
	第4回	The Tower of Babel/God Tests Abraham "The Tower of Babel" is an origin myth meant to explain why the world's peoples speak different languages. And in the story of "God Tests Abraham", God tested Abraham's trust in Him in a totally unexpected way. God used Abraham to picture the greatest example of His love - long before Jesus gave His life for us.	
	第5回	Joseph's Colorful Coat/Baby Moses In the story of "Joseph's Colorful Coat", Joseph's 11 brothers were jealous of him because he was loved by his father Jacob. And they sold Joseph to some traders. But God had a special plan for Joseph. In "Baby Moses", the baby moses was saved by Pharaoh's daughter from the Nile river.	
	第6回	The Ten Plagues/Moses Parts the Sea "The Ten Plagues" were ten calamities that God inflicted upon Egypt to persuade the Pharaoh to release the ill-treated Israelites from slavery. The Pharaoh capitulated after the tenth plague, until which God had prevented him from being swayed, triggering the Exodus of the Hebrew people.	
	第7回	The Ten Commandments/David and Goliath "The Ten Commandments" are a set of biblical laws relating to ethics and worship, which play a fundamental role in Judaism and Christianity. In the story of "David and Goliath", the boy David defeated Goliath, the champion fighter of the Philistines.	
	第8回	Jonah and the Whale Jonah was called upon by God to travel to Nineveh and warn its residents to repent of their sins or face divine wrath. Instead, Jonah boarded a ship to Tarshish. Caught in a storm, he ordered his shipmates to cast him overboard, whereupon he was swallowed by a giang fish. Three days later, Jonah agreed to go to Nineveh.	
	第9回	Mid-Term Exam/The Birth of Jesus One day about 2,000 years ago an angel named Gabriel appeared to a young Jewish woman named Mary. Gabriel told Mary she would have a son, Jesus, who would be the Son of God. Mary was confused and worried about this sudden news, but she had faith in God and said, "I am the Lord's servant; let it be as you say."	
	第10回	The Boy Jesus at the Temple Every year Jesus' parents went to Jerusalem for the Festival of the Passover. When he was twelve years old, they went up to the festival, according to the custom. After the festival was over, while his parents were returning home, the boy Jesus stayed behind in Jerusalem. After three days they found him in the temple courts, sitting among the teachers, listening to them and asking them questions.	
	第11回	Turning Water into Wine/The Good Samaritan The transformation of water into wine at the Marriage at Cana is the first miracle attributed to Jesus in the Gospel of John. Jesus, his mother and his disciples are invited to a wedding, and when the wine runs out, Jesus devlivered a sing of his glory by turning water into wine. The parable of the Good	

	第12回 Samaritan is a parable told by Jesus in Luke. It is about a traveler who is stripped of clothing, beaten, and left half dead alongside the road. First a priest and then a Levite comes by, but both avoid the man. Finally, a Samaritan happens upon the traveler. The Lost Son/Feeding Five Thousand The Parable of the Lost Son is one of the parables of Jesus and appears in Luke. In the story, a father has two sons. The younger son asks for his inheritance and after wasting his fortune, becomes destitute. He returns home with the intention of begging his father to be made one of his hired servants. The father welcomes him back and celebrates his return. The Feeding Five Thousand is also known as the miracle of the five loaves and two fish, because five barley loaves and two small fish supplied by a boy were used by Jesus to feed a multitude. 第13回 Jesus Walk on Water /Lazarus Jesus walks on water is one of the miracles of Jesus. Jesus sent the disciples by ship back to the other side of the Sea of Galilee while he remained behind, alone, to pray. After rowing against the wind most of the night, the disciples saw Jesus walking on the sea. Lazarus is the subject of a prominent miracle of Jesus in the Gospel of John, in which Jesus restores him to life four days after his death. 第14回 The Last Supper/Jesus Is Betrayed The Last Supper is the final meal that Jesus shared with his Apostles in Jerusalem before his crucifixion. The Last Supper provides the scriptural basis for the Eucharist, also known as "Holy Communion." Jesus was betrayed by Judas, one of his disciples. Judas kissed and betrayed Jesus to the Sanhedrin for 30 silver coins. 第15回 Jesus Dies and Comes Back to Life The resurrection of Jesus is the Christian religious belief that, after being put to death, Jesus rose again from the dead. It is the central tenet of Christian theology. 第16回 Final Exam
授業の概要	The focus of the class is put on understanding some stories from the Bible. However, it is hoped that by focusing on the content and meaning of some stories, you will be able to improve your English reading ability as well.
予習	The students will be required to read previously the Bible Stories assigned in the next class. The group assigned to make a presentation in each class should prepare the presentation (power point) about the interpretation of the part of the Bible Stories in advance.
復習	The students should review and cultivate better understanding of the Bible Stories while referring to the interpretation and the discussion given in every class.
テキスト	The textbook for this class is Bible Stories by Nina Wegner (IBC Publishing, Inc. 2013). Some materials related to the topics are also provided for every class.
参考書	It would be wise to have a copy of the Bible in Japanese.
評価方法・評価基準	Participation in class (20%)、Reaction Papers (30%)、Mid-term/Final Exam (50%) 【DP 1～4との関連】 ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	In the first class, the students will be divided into some groups (5～6 in one group). Then, each group will be required to make a presentation about the interpretation of the Bible Story assigned in every class. After the presentation, we will have a discussion about that part of the Bible Story. At the end of each class, the students will be required to write and submit the reaction paper about the discussion.
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週火曜日（4限目）仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：キリスト教倫理

授業コード：

英文科目名称：Christian Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
青野 和彦			
	ナンバリング：CHR301		

授業のテーマ及び到達目標	本講義は聖書に基づいて、人間の生きる「道」を探究する学びである。これによって、キリスト教の死生観や「原罪」等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を理解できるようになる。また、本学習を通して、キリスト教学（概論）で学んだ聖書の知識をより深めることで、現代社会に発信する聖書のメッセージも把握できるようになる。この学びを通して、本学の建学の精神の基盤となるキリスト教に関する知識をより多角的に習得すると共に、課題等の作成を通して、批判的思考力も養成もできる。		
授業計画	第1回	講義オリエンテーション ここでは、オリエンテーションとして、①キリスト教学を学ぶ意義と目的、②講義内容、③評価方法、④受講上の諸注意を説明する。これにより、講義の主旨の把握と同時に、学びへのモチベーションを高める。	
	第2回	第一部 キリスト教倫理学の重要概念を学ぶ：生命倫理①「生」について ここでは、キリスト教の生命倫理の特色を、①キリスト教倫理学における「生」、②「生」に対する神学的考察（カール・バルトを中心に）、③聖書における「生」の意味、④生をめぐる現代の課題（ヒトクローン、ゲノム技術、人工妊娠中絶、AIの導入）、から解説する。この学びから、聖書の生命倫理の観点と共に現代社会において軽視されがちな生命の尊厳を認識する。	
	第3回	生命倫理②「死」について ここでは、「死」に関する聖書の観点を、①聖書の死生観、②「死」をめぐる現代の課題（尊厳死と安楽死、自殺）から解説する。そこから、「死」というテーマを聖書の観点から学ぶと共に、現代人が抱える心の闇とそれへの対応の重要性を覚える。	
	第4回	生命倫理③「3・11」について考える ここでは、「東日本大震災」の記録映像（DVD）を見ながら、①震災からの被災者の心理的回復のプロセス、②ある大学生の卒論が問かける「グレーゾーンにある死」、③聖書を参考に被災者に対して可能な支援、について解説する。そこから、自然災害がもたらす物的・心理的被害の大きさとともに、生命の尊厳を覚えつつ、被災者を支援することの重要性を覚える。	
	第5回	キリスト教における「愛」 ここでは、①ギリシャ世界における四種類の「愛」、主に「エロース」と「アガペー」の意味、②聖書におけるこれらの愛の関連性、③夏目漱石の『こころ』に描かれるエロースの酷さ、④聖書が示す「アガペー」の性質、を解説する。そこから、「エロース」に喜びまた苦しむ人間の本性（human nature）を知ると同時に、その苦悩を救う「アガペー」の重要性を学ぶ。	
	第6回	「幸福」について ここでは、①四段階の幸福（快楽、幸せ、歓喜、祝福）の意味、②日本人の幸福感、③聖書の「二つの食事」にみられる「幸福」（「マルコによる福音書」6：14～44）の内容、について解説する。さらに、苦難の中にあっても幸福を創出できることを遠藤周作の小説等を題材に紹介する。そこから、人生において苦難を克服させる精神的力の存在を認識する。	
	第7回	「罪」について ここでは、愛と並んでキリスト教人間学（倫理学）の重要テーマである「罪」について、①「罪」に対するキリスト教文化と日本文化の考えの違い、②聖書の示す「原罪」の意味と起原、その赦し、から解説する。そこから、聖書が描く「原罪」の意味とそれを赦すキリストの十字架での贖（あがな）いの効力のみならず、キリスト教文化圏に暮らす人々の神観や人間観も学ぶ。	
	第8回	第二部 現代社会の諸問題の考察：男性と女性－キリスト教と性的少数者－ ここでは、主に性的少数者に対するキリスト教というテーマを扱い、それを①性的少数者に対する旧・新約聖書の教え、②性的少数者に対するキリスト教会の解釈の違いから解説する。そこから、キリスト教、特にプロテスタント教会では、本テーマをめぐる、様々な聖書の解釈の違いから見解の相違と同時に、性的少数者の人権を尊重しつつ、テーマの学びを深める。	
	第9回	結婚と家庭 ここでは、①聖書の結婚観、②キリスト教の結婚式の中心としての「誓約」、③聖書の家庭観、④家庭をめぐる現代の諸問題（「家庭内暴力」、「ネグレクト」）から解説する。そこから、結婚と家庭に関するキリスト教的な観点のみならず、人生における結婚という決断と家庭生活の重要性を認識する。	
	第10回	労働と余暇 ここでは、①聖書の労働観（「創世記」、イエス・キリスト、パウロ）、②プロテスタント宗教改革者達（ルター、カルヴァン）の職業観、③聖書における「余暇」の意味を解説する。そこから、人間にとつての労働に重要性と同時に余暇の宗教的意味を学ぶ。関連して、人間が労働することの意味、「天職」（Beruf）を見つけることの意義や就労上の待遇格差等の労働をめぐる現代の諸問題の原因も考察する。	
	第11回	社会と福祉 ここでは、「社会と福祉」というテーマをキリスト教的観点からアプローチする。つまり、①旧約聖書に見られる社会的弱者（重病人、罪人、障がい者等）、②新約聖書に登場する障がい者に対するイエス・キリストの関わり、③その関わりから見えてくるイエスのメッセージを解説する。そこから、キリスト教社会福祉思想を理解すると共に、少子高齢化が進む現代にあって障がい者や高齢者に対する対応策も考察する。	
	第12回	国家と政治 ここでは、①聖書の国家観（特にイエスとパウロ）、②国家に対するキリスト教の関わり（ローマ帝国期の初代教会の対応、ドイツ第三帝国期のボンフェッファーの抵抗、日本の「訓令第12号」（1899年）に対するプロテスタント教会の対応、内村鑑三の「愛国心」思想）から解説する。そこから、「日米同盟」、「辺野古新基地移設」、憲法改正案等の政策についても検証する。	

	第13回 戦争と平和①聖書の平和思想 ここでは、①旧約聖書の平和思想（預言者を中心に）、②新約聖書の平和思想（イエスを中心に）から、テーマを解説する。また、ジョン・ペイントンの平和思想も紹介する。そこから、今後の国際社会において、武力手段による平和維持・戦争抑止力の限界性やイエスに示される非暴力による平和の構築の意義を学ぶ。 第14回 戦争と平和②キリスト教と核兵器 ここでは、前回の講義内容を参考にしつつ、①戦争の性質と原因、②ヒロシマ・ナガサキの原爆投下が現代社会に問いかけるメッセージ、③西洋史の中で形成された「正戦思想」を解説する。その際、原爆投下した「エノラ・ゲイ号」の搭乗員や広島市の被爆者の証言も紹介する。そこから、原爆投下の思想的背景となる「正戦思想」や「黄禍論」を学ぶと共に、現代世界において核兵器を製造・保有することのリスクを認識する。 第15回 イスラム教とキリスト教—もうひとつの世界宗教との関わり— ここでは、①「イスラム」の意味、②イスラム教の中心的教義、③キリスト教との共通点と相違点、④イスラム教徒の日常生活（礼拝、習慣等）を解説する。そこから、キリスト教に次いで信者数の多いイスラム教の基礎知識を正しく学び、国際社会において双方の宗教の共存の形態について模索する。このような他宗教の学びは、キリスト教をより多角的に学ぶ上で意義があり、平和構築の可能性を広げるものと考えられる。
授業の概要	「キリスト教人間学」とは、聖書、特に新約聖書に示されるイエス・キリストの教え（隣人愛とキリストの十字架での身代わりの死）を土台にしつつ、人間にとってふさわしい生き方を考察する学問である。それはまた、キリスト教の学問領域の中で「組織神学」に位置づけられ、「キリスト教倫理学」(Christian ethics)とも呼ばれる（ただし、テーマは聖書学、教会史、実践神学の領域にも及ぶ）。本講義では、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①各テーマに対する聖書の理解、②聖書のメッセージとテーマとの関連性を解説し、現代世界が抱える様々な問題解決の糸口を探っていく。なお、本講義の第一部（第二回～第7回）では、キリスト教倫理学上の重要概念を学び、第二部（第8回～第15回）では、その学びを土台に、現代社会の様々な問題を考察していく（※詳細は、授業計画を参照）。
予習	教科書（テーマの該当ページ）、資料（事前配布）を読み、次回の講義で学習する内容を把握しておく。箇所は毎回指定する。
復習	テーマに関する簡潔な「復習プリント」（レビュー・シート）を次回の講義時に提出する。なお、その内容はテーマに関する問い（1問）であり、学生からの質問もそこに記入することができる。この復習により、学生はテーマをより確実に把握することができよう。
テキスト	・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。 ・原 栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間3）、新教出版、1992年。 ※テーマに関連する資料も講義時に配布する。
参考書	・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。 ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』（1-4巻）、日本キリスト教団出版局、1999年。
評価方法・評価基準	【平常点】40%：①「復習プリント」、②課題、③授業参加度。 ※「月曜礼拝」出席も本学の建学の精神、聖書およびキリスト教の幅広い理解の向上の観点から、評価に反映させる。 【期末試験（レポート）】60% ・期末レポートは講義で扱ったテーマを1つ選択し、①テーマに関する聖書の観点と②それに対する自分の意見を作成する内容となる。なお、テーマの選択方法やレポートの書式の詳細については講義時に説明する。これらの作業を通して、本学の建学精神の礎となるキリスト教に関するより深い教養と批判的思考力を養うことを目指す。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席（毎回とる）。※遅刻・欠席に注意。 ・課題の提出および学生として積極的姿勢・相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教学Ⅰ」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。 ・講義やキリスト教に関する質問があれば、講義時や「オフィス・アワー」を利用するとよい。
オフィスアワー	毎週木曜日 2限目 研究室（西研2-2）
課題に対するフィードバック方法	・提出された「復習プリント」および課題は点検後、講義時に返却する。その際、学んだ内容を確実に理解してもらうために、担当教員が改善点を返却時に講評する。

講義科目名称：キリスト教芸術

授業コード：

英文科目名称：Christian Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
金永秀・神谷智子・糸洲のぶ子			
	ナンバリング：CHR307		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 キリスト教芸術の中でも、キリスト教音楽の作品の合唱讃美の実践。学内のクリスマス礼拝に参加する。 【到達目標】 西洋音楽史におけるキリスト教音楽を理解する。中でも近代西洋音楽において多大な影響を与えたJ. S. バッハとF. G. ヘンデルなどのプロテスタント信仰を基礎にした教会音楽に対する理解を深めながら、実践を通してその音楽技術を修得させる。		
授業計画	第1回 キリスト教音楽とは（クラスオリエンテーション） クラスオリエンテーション（授業概要などシラバスの確認） 講義 「ヘンデルの＜メサイア＞に至る教会音楽史」 キリスト教音楽の発生と歴史をたどり、プロテスタント信仰を基礎にした教会音楽に対する理解を深める。 授業で扱う楽曲の音源を聴き、4声のパート分けを行い、パートリーダーを決める。 第2回 「メサイア」よりNo44 “ハレルヤ” 曲目の解説とことばの読み合わせ、対訳をする。 ストレッチ、体を使った発声を試みる。 第3回 「メサイア」より “ハレルヤ” ストレッチ、発声練習をした後、パートの音源を個人で録音し、パートごとに分かれて練習する。 第4回 「メサイア」より “ハレルヤ” ストレッチ、発声練習をした後、パートごとの練習を全体で行う。 第5回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声”（J. S. バッハカンタータBWV140-No. 7） ストレッチ、発声をした後、ハレルヤを4声で歌う。 J. S. バッハのカンタータの説明をし、原曲を聴く。 讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声”を聴いた後、実際に歌う。 第6回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” パートごとに音程の確認をし、ハーモニーを聴きあう。 第7回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 実技試験の課題を発表し、個人で歌えるか確認をする。曲の全体をまとめる。 第8回 実技試験（“ハレルヤ”のパート） 課題の箇所を各個人で歌えるか試験する。 第9回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 発音、フレーズ、アーティキュレーションなど細かい点に注意し、オルガンの伴奏に合わせて歌う。 第10回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 「We wish you a merry christmas」 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声”に加え、クリスマス礼拝の退出の時に歌う「We wish you a merry christmas」を練習する。 第11回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 「We wish you a merry christmas」 本番の位置で、指揮者、聖歌隊と全体練習をする。 第12回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声”、「We wish you a merry christmas」オーケストラとの合同練習 オーケストラの伴奏で、アンサンブルを味わいながら歌う。 第13回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 「We wish you a merry christmas」 オーケストラとの合わせで気になった点に留意しながら、聖歌隊と共に調整する。 第14回 ハレルヤ、讃美歌21-230 “「起きよ」と呼ぶ声” 「We wish you a merry christmas」 本番の流れをイメージして歌えるように、最終調整をする。 第15回 実演（クリスマス礼拝参加） 礼拝での賛美を体験し、クリスマスを祝う。 第16回 期末テスト（レポート形式） キリスト教芸術を受講してどのようなことを感じたかをまとめ、提出する。		
授業の概要	キリスト教音楽の発生と歴史をたどり、プロテスタント信仰を基礎にした教会音楽を実践的に学ぶ。 J. S. バッハのカンタータBWV140 “「起きよ」と呼ぶ声”の第7曲（讃美歌21-230を用いて）、G. F. ヘンデルのオラトリオ「メサイア」よりNo44 “ハレルヤ”を基礎発声法と言葉の大切さを中心に合唱し、クリスマス礼拝で賛美する。		
予習	定められた楽譜の音とりを各自でおこなう。 各自練習をパートを録音し、毎日10分～20分程度音源を聴き練習して授業に臨む。		
復習	全体練習を思い起こしながら自分のパートを正確に歌えるようにする。		
テキスト	初回講義にて楽譜を配布する。		

参考書	聖書、讃美歌 21（日本基督教団出版局） 三ヶ尻正著「『メサイア』ハンドブック」 発行所：（株）ショパン
評価方法・評価基準	クラスでの学習態度、授業への参加度、レポート、実技を総合して評価する。 実技テスト50% 授業への参加度30% 授業内レポート10% 授業態度10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	毎回遅れずに出席して下さい。（出欠確認を行います） 教室、時間変更等、その都度掲示板で確認して下さい。
オフィスアワー	（仮）金：毎週水曜日 4限目 研究室 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	期末レポートは各自のメールボックスへ返却します。

講義科目名称：キリスト教平和学

授業コード：

英文科目名称：Christian Peace Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位 (2-0)	大学必修科目
担当教員			
古澤健太郎・友利廣・金永秀・青野和彦			
	ナンバリング：CHR309		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 自校史と共にキリスト教思想を学びながら、平和を実現するために何ができるかを考える。 【到達目標】 本学の歴史・沿革を理解し、これを説明できるようになる。 本学の建学の精神を理解し、キリスト教の平和学についての基本的な知識を獲得する。		
授業計画	第1回	イントロダクションとガイダンス 授業のテーマや目標、概要について説明する。また、進行方法や評価基準についても説明する。	
	第2回	学院史から建学の精神を学ぶ意義 一事例を通して（学長：友利廣） 沖縄戦後史を直視しそこに潜む固有の課題を掘み何をすべきかを考える機会とする。	
	第3回	「仲里朝章」とその時代（金永秀） 本学院の創立者、仲里朝章が本学建学に至った個人的、時代的経験のなかで、いかなる信仰と反省を持ったのかを学ぶ。	
	第4回	沖縄キリスト教学院創立前の沖縄キリスト教の状況とキリスト教学院草創期の教育内容（青野和彦） 本学院が創設された戦後の沖縄の歴史的文脈と本学院の教育内容（カリキュラム等、担当教員等）を紹介し、本学院がそのように教育の中で建学の精神を学生達に伝えていたのかを概観する。その際、『創立60周年史』（2009年）等の文献、史料、証言を用いる。	
	第5回	キリスト教史における平和と戦争 キリスト教の歴史を概観しながら、戦争と平和への関わりについて学ぶ。戦争とキリスト教の関わり及び平和とキリスト教の関わりについて、歴史上の変遷を辿りながら今後の授業に必要な基礎知識を得る。	
	第6回	「正義」の歴史(1) - 古代～中世 そもそも「正義」とはなにか、どのように創造され、どのように用いられてきたのかについて学ぶ。第6回ではとりわけ古代社会から中世社会における「正義」を概観する。キリスト教における「正義」に主な焦点を当てるが、より広く様々な文化に目を向ける。	
	第7回	「正義」の歴史(2) - 近代～現代 第6回の講義に引き続き、世界の「正義」について学ぶ。とりわけ2度の大戦を経て正義論は大きく変革した。今も私達が接する平和論の礎ともなった「正義」について、近代から現代を中心としてその議論の変遷を考える。	
	第8回	平和研究に関する知識と議論 これまでの講義内容を踏まえ、一人ひとりが「平和」について考える。思想史の中の平和論に焦点を当て、その変遷と今日の議論について学んだ後、受講者は各自の考えをまとめなければならない。時間をもってディスカッションを行うが、論文形式によるレポートの提出も求められる。	
	第9回	聖書における平和と暴力(1) - 旧約聖書 イエス・キリストの行動と思想に一人ひとりが迫るという目的のため、第9回、及び第10回の講義では聖書に焦点を当てる。先に取り扱う「旧約聖書」は、イエス・キリストとその属した社会が規範とした聖書である。旧約聖書における平和と暴力について学ぶ。	
	第10回	聖書における平和と暴力(2) - 新約聖書 イエスの行動、弟子たちの活動、初期のイエス支持者による書簡などから成る「新約聖書」を通じて、そこに見られる平和の特徴と、聖書読者が見過ごしてはならない暴力の有り様について学ぶ。	
	第11回	戦争責任と私たち 戦争に直接関わったことのないように思える私達に、戦争責任はないのか。実際の「戦争責任」についての議論を学び、一人ひとりが私達の戦争責任について考える。時間をもってディスカッションを行うが、レポートの提出も求められる。ディスカッションやレポートの中では、実際の自分の意見とは異なる立場での考察も要する。	
	第12回	宗教と暴力 宗教間の紛争や弾圧は、今この時にも人々を苦しめ続けている。過去から現在の様々な宗教間対立や暴力を学び、「平和」にとって「宗教」はいかなる存在であるのかを考える。時間をもってディスカッションを行うが、他にレポートの提出も求められる。	
	第13回	沖縄の平和、世界の平和 これまでの講義で「平和」について各々の考えを培ってきたが、第13回では、具体的に、私達の住むこの沖縄で平和を実現するにはどうすればよいのかということについて議論する。また、「ピースメーカーの養成」という本学の理念に即し、それが世界の平和とどう関連していくのかについても議論する。議論の中では、実際の自分の意見とは異なる立場での考察も求められる。	
	第14回	平和思想の潮流と私たち 前回の議論も踏まえ、今日広まりつつある「平和」についての考え方を学ぶ。今回の講義では、平和に関する最新の論文や議論、潮流を事前に調査してくることが求められる。	
	第15回	イエス・キリストの生き方、考え方 これまでの授業をもとに、今日における「イエス・キリストの平和」とはなにかについて、一人ひとりが考える。講義形式で行うが、自由な意見の発表が求められる。	
	第16回	定期試験 収集した知識をもとに、提示されたテーマに沿って自分の考えをまとめる。テーマについては当	

	日発表する。論文としての体裁が整えられていることが望ましい。
授業の概要	(1) 内容 聖書からイエス・キリストの生き方、考え方を学び、キリスト教の平和思想について考える。沖縄の歴史をふり返りながら現状を分析し、「平和」とはなにか、それを実現するためにはどうすればよいのか、一人ひとりが自分の力で考え、議論を重ねる。また、他者と共感することのできる「共生社会」を目ざすための方法を考える。それを阻害する身体的・精神的暴力の問題についても学ぶ。 (2) 方法 講義を基本とするが、ディスカッションなどを随時取り入れる。その場合には発言など積極的な参加を要する。 ミニレポート：講義に参加し、講義内容に関するミニレポートを提出する 平和に関するレポート：学期内に平和についてのレポートを提出する
予習	次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	その日の講義内容をまとめる。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	『聖書』。
参考書	講義中に提示された質問事項などを鑑みそのつど紹介する。
評価方法・評価基準	期末試験：50% 収集した知識（情報）をもとに、提示されたテーマに沿って自分の考えをまとめる。 レポート：30% 1) 講義内容に関するミニレポートを提出する。 2) 平和についてのレポート（論文形式）を提出する。 授業態度：20% 質問、発表などで積極的に講義に参加する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	古澤：メール、または授業終了後に質問を受付けます。（メールアドレスは、初回授業でお知らせします） 友利：毎週**曜日 **限目 事前にメール予約してください。 メールアドレス：htomori@ocjc.ac.jp 金：毎週**曜日 **限目 事前にメール予約してください。 メールアドレス：kim@ocjc.ac.jp 青野：毎週**曜日 **限目 研究室（西研2-2）
課題に対するフィードバック方法	申し出のあった希望者については、課題等の提出物をメールボックスへ返却する。

講義科目名称：朗読の科学

授業コード：

英文科目名称：Interpretative Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
	ナンバリング：CMS230		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 日本語の音声学的知識と実践的な音声表現を学び、言語感覚を磨く。 【到達目標】 日本語の音声学の知識を得る。朗読の表現方法の理論を学び、実践できる。作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める。集団でのパフォーマンスにおける責任感を培い、コミュニケーション力を養う。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・群読体験 呼吸法、身体ほぐし体操、発音・発声のアラカルトと、群読を体験する。 日本語の音声学的知識を学ぶと同時に、音声表現の実践と、芸術的表現を学ぶことの意味についてオリエンテーションを行う。 課題：授業であつかった群読作品についての鑑賞レポートを作成。	
	第2回	声・呼吸・響き 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践。 わらべうたのリズムと響きを体験。 課題：授業であつかった「丹田呼吸法」を中心に呼吸法についてのレポート作成。	
	第3回	深い呼吸に支えられた深い声 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 ピッチアクセントについての理論と実践。 課題：ピッチアクセントのリズム練習表のオリジナル版を作成。	
	第4回	美しいリズムと声の響き（1）内に向かうリズムと外に開くリズム 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践。 リズムについての理論と実践。古代ギリシアのアナペストとダクトゥロスのリズムの獲得。 課題：アナペストとダクトゥロスの2つのリズムを表現する詩歌作成。	
	第5回	美しいリズムと声の響き（2）言語におけるリズム構造について 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語のリズム構造（拍、モーラ、ポーズ、フット）についての理論と実践。 アクセントとイントネーションの理論と実践。 課題：指定作品のリズム構造の分析レポート作成。	
	第6回	美しいリズムと声の響き（3）日本語作品におけるリズム構造の分析 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 作品のリズム構造分析。 課題：指定作品のリズム構造分析とアクセント記号の記譜レポート作成。	
	第7回	群読について 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 群読の歴史と群読の技法（かけあい、わり・わたり、おいかけ、BGM、漸減法・漸増法）について 課題：指定作品の群読台本作成。	
	第8回	日本語音声学（1）基礎 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語音声学の基礎（調音器官、母音と子音、D、ジョーンズの母音多角形）を学ぶ。 課題：調音器官の作図。	
	第9回	日本語音声学（2）応用 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の実践。 日本語の3つの「ん」（【m】【n】【ŋ】）の語彙リストから、日本語音声学のルールを構築する。 課題：3つの「ん」の語彙リスト作成と分析。	
	第10回	日本語音声学、群読の技法、呼吸法、発声 まとめ 息の通り道をつくる体操、丹田呼吸法、立体子母音の理論と実践、再確認。 群読の技法をつかった台本作成。 日本語音声学の知識についてのふりかえり。 課題：授業1～9回までのまとめのレポート作成。	
	第11回	表現する（1）台本音読 担当講師作成の群読パフォーマンス用台本の解説と音読。 課題：台本の読み込みと鑑賞レポート作成。	
	第12回	表現する（2）リズムと響き 群読パフォーマンス台本の芸術的表現方法について。 課題：担当箇所についての表現方法についてのレポート作成。	
	第13回	表現する（3）意識を連ねる 群読パフォーマンスのためのトレーニング。 課題：より深い鑑賞と表現についてのレポート作成。	
	第14回	表現する（4）ゲネプロ（衣装着用） 群読パフォーマンスゲネプロ。 課題：グループ群読についての練習と台本完成。	
	第15回	朗読パフォーマンス・レポート	

	群読パフォーマンス。 課題：群読パフォーマンスの感想レポート、第1～15回の授業全体についてのフィードバックレポート作成。
授業の概要	15回の授業のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、音声表現のための実践トレーニングを行う。 前半クラスは「①体操・呼吸法・発声のトレーニング ②日本語の音声学・群読の技法についての講義 ③課題への取り組み」の3つの内容で行う。後半クラスは、群読パフォーマンスの台本を元に、実践的なトレーニングを行う。
予習	シラバスを確認し、講義内容についての情報収集レポートを作成する(約2時間要す)
復習	講義内で指示したタスクにとりくむ(約2時間要す)
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	テーマ毎に適宜紹介する。
評価方法・評価基準	日本語音声学についての授業内レポート30% 群読パフォーマンスへの参加と取り組み(群読台本含む) 50% 最終レポート20% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③朗読パフォーマンスとゲネプロに参加できることが履修条件
オフィスアワー	毎週水曜日(11:00～12:30) 研究室
課題に対するフィードバック方法	基本的に、授業内で返還。 最終レポートについては、各自のメールボックスに返還。

講義科目名称：文化人類学

授業コード：

英文科目名称：Cultural Anthropology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：CUL151	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：「文化」という概念を説明できる。「ヒト」の特性を理解し説明できる。 関心意欲：自己と他者の関係性に興味を持てる。「人間」という存在に対して哲学的興味を持つようになる。 思考判断：社会的構築物としての概念を指摘できる。「常識」を批判的思考で捉えられるようになる。 態 度：既存概念に疑いを持つ。 到達目標：ヒトや文化に対する自らの考えを構成できるようになる。哲学的疑問を自ら追求できるようになる。		
授業計画	第1回 「文化人類学」とは？「文化」とは？ 「文化」や「人類」など基本的な概念について学ぶ。心理学や社会学など、他の学問領域からも積極的に引用し、人類に対する理解を深める。 第2回 「ヒト」の歴史 宇宙の歴史、地球の歴史、そして人類の歴史を振り返る。改めて「ヒト」という存在を認識する。またホモ・サピエンスに特徴的な二足歩行や社会性、脳の発達などについて学ぶ。 第3回 人類とコミュニケーション 脳の発達に伴い、高度な社会性とコミュニケーション能力を身につけた人類の特徴について学ぶ。男女によるコミュニケーションスタイルの差異や文化による違いについても学ぶ。 第4回 言語人類学 レヴィ＝ストロースやフランツ・ボアズに加え、ソシュールの言語学について学ぶ。高度に発達した人類の言語の特徴や、言語に対する様々な考え方について学ぶ。 第5回 文化とアイデンティティ 「自己」と「他者」の関係や、文化人類学における文化的他者との向き合い方について学ぶ。哲学や心理学などからも引用しつつ、「自己」という存在について深く理解する。 第6回 「自己」と「他者」～境界線と二分法の脱構築～ 社会に存在する様々な二分法的概念と自己理解のメカニズムについて学ぶ。文化人類学の歴史において、文化的他者との出会いと異界序列の暴力的関係が、社会の人間関係に深く反映されている現実について理解する。 第7回 構造主義とポスト構造主義 マルクス主義やフロイトの精神分析学を通して構造主義を理解する。またミシェル・フーコーの「権力」の概念やパノプティコンなどを通して、現代社会に生きる「ヒト」の存在を確認する。 第8回 フロイトと無意識 「無意識」という精神領域について考える。ユング心理学などを通して、人類の無意識が日常生活や知的活動にどのような影響を及ぼしているのか、考えてみる。 第9回 フロイトと精神分析学 近代性と文明が人類に何をもたらしたのか、フロイトの精神分析学を通して考えてみる。またニーチェやアドラーなどにも触れ、人類の歩みをより深く理解する。 第10回 テクノロジーと人類 様々なテクノロジーの発達に伴って、人類の暮らしや関係、精神構造までも変化を遂げてきた。IT技術やコンピューターテクノロジーの発達は、私たちの生き方自体を変えてきた。スマートフォンやSNSが身近になることで人類はどのような変化を遂げ、またこの先どのように変わっていくのだろうか。監視システムの発達やビッグデータ、スマホ依存症やIoTの拡大など、私たちの生活を取り巻く変化に着目し、将来の展望について議論する。 第11回 人工知能と人類の未来（1） 人工知能の出現は、これからの人類のあり方を劇的に変えることだろう。映画『マトリクス』の世界を例に、人工知能と人類のあるべき関係性について考える。 第12回 人工知能と人類の未来（2） 未来予測やビッグデータによる社会活動の変化など、実際に始まっている人工知能の利用と、その可能性・危険性について考える。 第13回 人工知能と人類の未来（3） アンドロイドの開発やロボットの日常化で、私たちの生活はどう変わるのか。人間同士の関係、人間と人工知能との関係はかつてない変化の局面を迎えることになるだろう。新しいテクノロジーに依存して生活し、精神的にも依存を高める人類のこれからについて考える。 第14回 人類の未来 様々な分野で人間の能力を超え、これから仕事までも奪っていくだろうと予測される人工知能の存在。そんな現実と直面して、人間はどのような生き方の選択を迫られるのだろうか。「人間らしさ」とは何だろうか。人工知能にできなくて人間にできることは何だろうか。改めて人間という存在について考えてみる。 第15回 人間という存在（総括） これまでの講義を振り返り、人間という存在について改めて考える。特に人工知能との比較において、人間の特性を脳科学や心理学を引き合いに考える。人類の未来を考えるとともに、一人の人間として私たちに迫られた選択について議論する。		
授業の概要	私たちの日常生活に存在する「文化」と「人類」に関する様々な課題を考える。15世紀に始まった大航海時代の異文化観からグローバル時代の文化人類学に至るまでの歴史を追い、「ヒト」と「文化」に対する考え方の変化を理解する。また、沖縄という現実を通して、文化人類学という学問が、わたしたちの社会生活にどのように影響を及ぼしてきたかを学ぶ。人工知能の発達が、人類の様々な生活分野にどのような影響を与えるのか、また「人間とは」や人間の存在意義について考える。		

予習	次回の内容予告を受け、基礎的な概念について調べておくこと。
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連を再確認すること。
テキスト	講義に必要なテキストならびに資料は、担当者がその都度準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート 50%、学期内不定期課題（2 回程度） 20%、授業への参加度（受講態度を含む） 30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。他者へのリスペクトを常に意識してください。私語などの授業妨害行為は許されません。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新のニュースや授業で取り扱ったテーマを取り巻く状況について把握するように努力してください。ドキュメンター映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：日本国憲法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Constitutional Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：CUL244		

授業のテーマ及び到達目標	そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。		
授業計画	第1回 ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ 第2回 日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？） 第3回 人権総論（人権の分類、新しい人権、外国人の人権） 第4回 子供の権利 第5回 法の下での平等 第6回 精神的自由①内心の自由 第7回 ②表現の自由 第8回 ③検閲の禁止 第9回 経済的自由（財産権保障の構造他） 第10回 社会権（自由権とはどう違うのか？） 第11回 その他の人権、まとめ 第12回 統治総論 第13回 国会および内閣 第14回 裁判所 第15回 平和主義、総まとめ 第16回 定期試験		
授業の概要	まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に学びます。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。		
予習	配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。		
復習	講義で指示した点を復習してください。		
テキスト	『スタート憲法入門第2版補訂版』吉田仁美[編]（成文堂）		
参考書	講義にて紹介		
評価方法・評価基準	中間・期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。 定期試験55% 授業態度25% 受講者の発表20% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。毎回授業のため、予習・復習してください。		

オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：ジェンダー論

授業コード：

英文科目名称：Gender Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：CUL330		

授業のテーマ及び到達目標	ジェンダーそのものの意味を理解しながら、社会をジェンダーの視点でみていく力を持つことができる。 知識理解：ジェンダーの持つ意味の理解 関心意欲：社会の起っている事象をジェンダーの視点から見つめることができる 思考判断：ジェンダーの歴史的な流れおよび新しい示唆を持つことができる 態度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組みにつながる		
授業計画	第1回	ジェンダーの学びは何故必要か（WS、講義） 授業イントロダクション ・流れ、学生に求められること、評価等 ・ジェンダーという言葉聞いたことがあるのか？ ・ジェンダーの定義	
	第2回	女性学・ジェンダーとは何か 女性学、ジェンダーの学問が生まれた背景について ・女性らしさ、男性らしさにみる刷りこみ ・言葉の定義	
	第3回	家父長制、日本（沖縄）における女性運動 ・家父長制とは何か？ジェンダーを考える上で大事なこと ・家父長制の受け継がれていく中、女性たちは何をしてきたのか ・沖縄の伝統文化と女性たちの性、生を考える	
	第4回	メディアリテラシーとジェンダー メディアで流れる女性のイメージ→水着、きれい、痩せている メディアで流れる男性のイメージ→飲む、力強い、マッチョ これらのイメージと、実際の相違、私たちの作られたイメージを探る	
	第5回	アニメにみるジェンダーその1 ディズニリアニメに観るつくられたジェンダー ・きれいで、気立てのよいプリンセスには白馬の王子が迎えに来るってホント？ ・ディズニー、サザエさん、等々アニメにおけるそれぞれの性の描かれ方を学ぶ ※この時にレポート課題が出る予定	
	第6回	アニメにみるジェンダーその2 上記で行った分析を元に、グループディスカッションを行い、メディアによって作られたジェンダーの視点を批判的に読み解く。	
	第7回	グローバリゼーションとジェンダー グローバリゼーションの課題の中で、子ども、女性が貧困に巻き込まれ、取り残されてしまう。何故そうなのか？社会的な弱者になってしまう仕組みを学び、これからのグローバリゼーションにどう向き合うのか受講生なりの考えを持つ。	
	第8回	ワークシェアリング 家庭、家族、個としてどう生きるのか 社会、家庭の中で女性の果たす役割は大きい。女性、男性共に、私たちの暮らしをどう見詰め直せるのか考える。	
	第9回	L G B Tについて学ぶ LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、それぞれの英語の頭文字からとったセクシャルマイノリティ。 昨今、生まれながらの性別にとらわれない性別のあり方が見直され、世界中で同性間の結婚や、結婚と同様の権利を認める動きが活発化してきている。 知っておきたいLGBTの基礎知識と制度 （※ゲストの招へい予定）	
	第10回	男性性について考える ジェンダーを学ぶと、男性が変わらなければならないとよく言われる。 変わるべきは男性か？ 生きにくい社会の制度、女性も男性もどの性別にも存在する。家父長制の中で押しつけられた男らしさの中で男性も生きづらさを感じていることを知って、お互いの性の役割を模索する	
	第11回	社会派映画にみるジェンダー問題 社会派の映画に観るジェンダーの問題に触れ、ディスカッション等を行う。	
	第12回	新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション 準備 これまで学んだジェンダーの問題を一つ取り上げ、グループでさらに深めて、全体プレゼンテーションを行う。手法、ポスターセッション。 本授業ではグループにて準備を行う時間とする。	
	第13回	新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション発表 その1 グループ毎に分かれてポスターセッションを行う 前半グループ セッション終了後に、授業者の振り返りと、教員からの評価を行う	
	第14回	新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション発表 その2 グループ毎に分かれてポスターセッションを行う 後半グループ セッション終了後に、授業者の振り返りと、教員からの評価を行う	
	第15回	産まれるから考える～産む性、産まない性、育み合う性～	

	最終講義、全体を振り返る 教室に存在する誰もが誰かから”産まれている”。この産むという行為は女性特有のものであるが、産む、産まない、産むべきという社会的な圧力はジェンダー問題の一つである。命を考える時間を持つ。
授業の概要	ジェンダーとは、語源はラテン語: “genus” (産む、種族、起源) である。「生まれついでの種類」という意味から転じて、性別のことを指すようになった。しかし、ジェンダー研究が進むにつて、家族・政治・軍隊などこれまで自明とされてきた事柄へのジェンダーの関与が明らかになり、ジェンダーを男女という2つの項目と捉えるのではなく、2つの区分を作り上げるものである。 メディアリテラシーからジェンダー捉えていく意味でも、アニメや様々なメディア情報を通して通して学んでいく。また沖縄の中で戦後復帰以降の女性運動にも触れていく。 授業の中で学んだトピックを学生自らが（グループ可）一つ取り上げ・掘り下げ、新たなジェンダー思想または価値観について発表を行ってもらう。
予習	身の回りのジェンダー課題に意識的になり、学びの視点を意識して作られた価値観を批判的に見る。適時、予習課題を与えるので取り組む
復習	身の回りの作られたジェンダー思想に対して、新たな視点、意識を持つことが出来るようになり、課題やプレゼンに備える
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（25%）、課題（レポート）（25%）、プレゼンテーション（30%）授業への貢献・積極的発言（20%） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	第13、14回は学生自らによるプレゼンテーションです。グループ、個人、自由
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：経済学

授業コード：

英文科目名称：Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
友利 廣			
	ナンバリング：BUS170		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 商品の生産、流通、消費、貿易、雇用や失業、不況や好景気、公共投資の影響など、人々の生活へ多大の影響を与える経済活動を学びの対象とします。経済学の成り立ちとその変遷を通して経済学が世の中の経済現象の解明に取り組んできたことを理解させます。 【到達目標】 経済学で使用されている専門用語と経済現象の関連性を理解し、新聞や雑誌、TV等の経済報道の内容を理解できるようにすることを到達目標とします。		
授業計画	第1回 ガイダンス：講義の狙い、受講の心構え、成績評価等について説明する。 第2回 経済学の登場：アダム・スミスの紹介を通して経済学登場の背景を説明する。 第3回 経済発展と自由貿易：デイビット・リカードの貿易の考えを説明する。 第4回 経済発展と保護貿易：フリードリッヒ・リストの貿易の考えを説明する。 第5回 大恐慌とケインズ経済：J・M・ケインズの経済の考えを説明する。 第6回 ディスカッションと報告：ケインズ以前の経済理論のディスカッションと報告を行う。 第7回 ディスカッションと報告：ケインズの経済理論のグループディスカッションと報告を行う。 第8回 ミクロ・マクロ経済学：ミクロ経済学、マクロ経済学の考え方を概説 第9回 完全競争市場：完全競争市場の考えを概説する 第10回 完全競争市場と価格：価格を通して完全競争市場の特性を考える 第11回 不完全競争市場：不完全競争市場の考えを概説する 第12回 不完全競争市場と価格：価格を通して不完全競争市場の仕組みを考える 第13回 国民所得と閉鎖経済：閉鎖経済の下での国民所得の決定を概説 第14回 国民所得と開放経済：貿易を想定した国民所得の決定を概説 第15回 景気循環とケインズ経済：ケインズの有効需要理論を中心に概説 第16回 期末試験		
授業の概要	経済の基本を理解することは社会人として大切な要件です。語学を職業とする皆さんの場合でもさまざまな現場で活躍するために不可欠な学問です。この点を理解した上で受講するか否かを判断してください。 講義は二部構成とします。まず、前半では経済学の成り立ちと経済発展の仕組み、自由貿易と保護貿易を巡る国家の思惑等について解説します。これを踏まえ受講生の理解を促すためにグループ編成による討論と報告会を設けます。後半ではミクロ経済学とマクロ経済学の両分野から代表的な考えを取り上げて価格と所得の形成を解説し経済学の理解を深めます。 尚、講義はパワーポイントや動画、新聞記事を活用して理解し易い工夫を講じます。又、出席カードの質問への解答をまとめた資料を配布し双方向の講義にします。		
予習	講義は基本的にパワーポイントを使用して行いますが、その内容は資料としても配布します。 配布資料の専門用語は講義で説明することはありません。配布資料を丁寧に読み込み、なおかつ用語もしっかり調べた上で講義に臨んでください。また、予習時間は毎講義前に少なくとも2時間を確保するように課題を与えます。		
復習	受講生が出席カードに記入した質問を解答したプリントを毎回配ります。同プリントを必ず読み直して次回講義に臨んでください。また、配布資料に関する解説を踏まえ配布資料と講義の説明を比較し自身でも予め2時間程度の復習を確保してください。		
テキスト	テキストは使用しません。講義はレジュメを事前に配布して予習、復習ができるように配慮します。		

参考書	適宜紹介する。
評価方法・評価基準	期末試験70% 小テスト・授業内レポート15% 受講者の発表10% 授業態度・授業への参加度5% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度なコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・毎回出席カードを配り点呼代わりに使用します。受講生が記入した質問、意見、感想で受講態度を評価します。 又、同カードによる質問等に対してはとりまとめた結果を翌週配布、解説します。 ・3回の遅刻は1回の欠席としてカウントします。又、三分の一以上の欠席は不可とします。 ・配布資料の予習、受講生の質問を説明した資料の復習を欠かさないこと。 ・受講中の退室、私語、スマホは厳禁とします。 ・理由あって欠席する際は前日迄に事情を記してメールで連絡してください。
オフィスアワー	毎週火曜日 4 限目 友利研究室 その他の対応は学長秘書と時間を調整すれば適宜対応する
課題に対するフィードバック方法	課題は指定した様式に基づいて A 4 版にまとめて提出する。提出はメール添付での提出とする。提出した課題は添削を行いメール添付で返却する。課題提出者は添削し易いようにワードで呈出する。P D F ファイルによる提出は添削ができませんので遠慮下さい。

講義科目名称：死生学

授業コード：

英文科目名称：Thanatology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
	ナンバリング：SSS380		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 本講義は、医療と結びついている内容でもあり、また教育の現場とも連動している内容となります。こうしたことから、この講義を受講している皆さんには社会的にどういう事象が現在、起こっているのか、こうした予備知識を理解しつつ、担当者も解説に努めます。医療医学的知識が身に付くことを期待します。そうした中で、何故、こうした講義が本学で開講されているのか理解できることが、1つの到達点であるように考えています。教職課程の学習とも連動していると考えます。生と死を学ぶ教育、こうした視点を医学的観点から解説してゆきます。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	生と死を学ぶ学問 講義導入部分にあたるため、『死生学』にあたる学問の先駆的な内容が、アメリカから導入されている背景なども加味して学ぶ。講義全体の方向性を概説する。	
	第2回	よりよい生と死を考える視点 本講義が医科学系の内容で、医療と密接に絡むことを理解させてゆく。また、生と死の連続性を学ぶ視点を教示する。	
	第3回	ホスピスは我が国に定着するのか ホスピスは我が国で定着しているのか、緩和ケア病棟とは。こうした視点を、学ぶ。また、何故、死を考えることが重要であるのかここを話し合う（＝場合によっては、概説となる）。	
	第4回	在宅死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から― 在宅死を考える視点を取り扱う。担当者が、1986年8月から展開しているフィールドワークの地、鹿児島県大島郡与論町を手がかりに、筆者の歩みを通して、生と死を学ぶ教育の視点を考える題材を提供することとなる。	
	第5回	在宅ターミナルケアを学ぶ ビデオ学習（担当者；テレビ出演番組(60分)） 担当者出演、テレビ番組が2本ある。これは、在宅ターミナルケアを学ぶ視点となる。担当者テレビ出演番組（60分）ドキュメントスペシャル、30分番組からは、ある意味、終末期医療の本質が学べる。欠席者の人数などにより、内容を変更することがあります。	
	第6回	病院ケア、病院死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から― 病院ケア、病院死を考える視点を中心に概説する。鹿児島県大島郡与論町でのフィールドワークからの視点を再考する。離島診療所、救急搬送、ストレッチャー搬送、担当者の体験を元に教示を試みる。	
	第7回	エンバーミング、遺体観、身体観そして剖検（病理解剖）の側面を学ぶ エンバーミング、遺体観、身体観、病理解剖率、剖検率の変化などについて学ぶ。ここには、現在の死を学ぶ視点がある。また、献体が集まる大学病院とそうでない大学病院。死のあり方事情を教示することで、この側面を深める。	
	第8回	ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(1) 担当者は、過去に5日間に及ぶ日程でのハンセン病医療医学研修受講歴がある。そのため、ハンセン病医療医学を学ぶ側面は、1回で終えることは厳しい。当該講義内容を複数日設ける中で、講義中、各自1つ以上の質問を担当者がぶつけ、その場でその質問への即答をはかる取り組みを行いたい。素朴な疑問で、かまわない。	
	第9回	ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(2) この週も、ハンセン病医療医学を学ぶ視点を継続する。各自、ハンセン病についての疑問を解消していけているかの検証をはかる。さらなる疑問点の解消に向けて、講義を進め、受講生の理解度を深める。	
	第10回	各地にみられる死生観の側面を学ぶ 日本各地に見られる死生観の違いを実例を通し学ぶ。福島県昭和村の死者儀礼、ほか。その地域に地域に根付く伝統儀礼から、生と死を学ぶ視点を教示する。	
	第11回	若者～高齢者の持つ死生観 若者から高齢者、年齢階層別にみる死生観について学ぶ。また、医学と死生観が密接に絡んでいることを教示する。百寿者＝センテナリアンの存在、意義を考究する。	
	第12回	死の人類学(1) ビデオ学習(30分)（担当者；テレビ出演番組） 死の人類学と題し、この側面を2回に分けて、学ぶ。始めは、ビデオ学習で、担当者出演番組テレビメンタリーから、エージング（加齢）、老い、終（つい）の場所、死、死者儀礼、死ぬ瞬間、死後の世界などを学ぶ。	
	第13回	死の人類学(2) 生から死への途次、死後・死者儀礼と文化 今、『死生学』を学ぶ意義とは何か、ここを考究する。担当者論文などを講義資料で随時用いてきている中、これまでの内容から、また、新たな資料から、何が言及出来るのか、研究目線を教示する。試験に代わる課題、課題1紹介。	
	第14回	エージング（加齢）、老い、終（つい）の場所、死、死者儀礼を探る 今、『死生学』を学ぶ意義とは、キーワードを交えながら、説明。[試験に代わる課題：課題1～課題3、これらの説明。	
	第15回	まとめ（試験に代わる課題提出の説明、解説） 最終講義となる。そのため、まとめの視点、重要な視点のおさらとなる。[試験に代わる課題：課題4～課題5提示。書き方、など詳細説明を行う。]。今回講義の総括を行う。	
	第16回	試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）	

	(毎回、教務課成績処理日の前の日夕刻締め切り等で、なるべく、ぎりぎりまで見計らう努力は行っています。)
授業の概要	各宗教(宗派)には、生と死に対する考え方がある。加齢(エージング)と共に、生きることの質が問われると同時に、死の質(Quality of Death)も考察しなければならない時代となってきた。終末期医療、ターミナルケアのあり方やホスピスケアの意義、死への科学(サナトロジー)を学生・社会教育の上で取り扱う時代が到来してきているその本質を教示する。実りある豊かな老いを考えるために、医学史におけるトピック、病理解剖面での知見、医療技術の変遷、再生医療等の現状を紹介し、現代社会における医療の役割を学びながら考究してみる。
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。前回までの配布資料の持参は、必要なし。
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。前回までの配布資料の持参は、必要なし。
テキスト	特になし＝毎回、担当者配布資料を配付。
参考書	塩月亮子(制作ビデオ):『死生観の人類学』第1巻「死をみつめる」、第2巻「死を体験する」、(株)新宿スタジオ 第1巻に担当者の協力資料の紹介あり。その他、担当者出演テレビ番組2本のビデオテープを用いた教材を使用。(毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります)。受講者の状況をみて、こうした教材を避けて配付資料で説明の場合もあります。
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄を設けています。「ここで一言」のコーナーには何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は、成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかかわるレポート提出の課題(B5版のレポート用紙で作成)を明示します。 試験(中間・期末試験)70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%(=欠席者は、後で提出。全て提出していることが、「試験に代わる課題」提出が出来る条件となる) 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1) 特に前知識(死生学に関連した)は必要としない。専門的な知識の修得を狙うのではなく、生と死を地域や担当者のフィールドワークから投げかける視点を通して、学んで欲しい。 2) 視覚教材を用いて講義を行う予定であるが、上述したように変更も出てくる。 3) なお、最終段階の内容となる内容については、成績評価に疑問がある場合は、即座に教務課に申し出ること。評価内容を説明する。
オフィスアワー	予定; 毎週月曜日&火曜日 4限目 近藤功行研究室(北研4-4:エレベーター前)
課題に対するフィードバック方法	これまで、毎時提出をはかってもらっている提出物については、回収した全体記載がどうなっているのか入力をはかり、講義資料に盛り込む努力を行っている。なお「試験に代わる課題」に関しては、教務課が設けた成績提出日前ギリギリで締切日夕刻の設定を行っている。そのため、当該提出物の返却を求める場合、それを明記してもらい、こちらでコピー後、返却日程を調整し、研究室にて提出物の返却を実施する。

講義科目名称：生命の科学と倫理

授業コード：

英文科目名称：Life Science and Life Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
	ナンバリング：SSS280		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 2004年度から実施となった本講義において、この時期から数年間は、BSE問題が、本講義におけるキーワードとして浮上した。逆に、2010年度においてはこのキーワードはベスト10から外れた。この年度、COP10が開催されたこともあり、生物多様性などに関連したもの、宇宙関連の内容も増えた。こうした本講義に関連した新聞記事収集を図りつつ、単年度でみれば合計件数はこの順位だが、トータルするとまだBSE問題は上位に来るため、目線をどこに置くかでこうした内容は違ってくる。基礎的知識に基づき、多層的な思考を養いつつ、既存概念に疑いを持ちつつ、生物系の内容に興味を持たせる取り組みを行う。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	生命の科学と倫理を学ぶ意義を考える視点 全体説明。『生命の科学と倫理』を学ぶ意義を考える視点の教示。講義で目指す視点：講義関連の新聞収集結果を毎時、講義資料で配付することなど、配付資料と毎回の提出物についての説明。	
	第2回	遺伝子組み換えと遺伝子組み換え技術 遺伝子組み換えと遺伝子組み換え技術、概説。本講義は、予備知識全く不要。興味関心と配付資料の分厚さを享受する受講生を希求。高校での生物9割、残り1割が、地学・化学・物理内容となる。	
	第3回	遺伝子組み換えと現在の農業 ー自給率4割の国、日本ー 遺伝子組み換え、と食を考える視点。日本の食糧自給率とサトウキビ栽培。和食と米が、世界で日本をどう救うのか。お米マイスターの必要性。酪農家、日本の農家を考える視点。	
	第4回	種、BT菌、ES細胞（黄教授の功罪）、ヒトES細胞とiPS細胞（万能細胞） 種、BT菌、ES細胞（ソウル大学・黄教授の功罪）、ヒトES細胞とiPS細胞＝万能細胞の今。前半5回位まで、本講義の意義＝生態系、進化を巡る視点を教示。ノーベル賞発見と森の重要性。	
	第5回	クローンネコ、クローン犬の誕生からクローン奄美の黒ウサギ、マンモスへ クローンは、そもそも何故、必要なの。クローン猫、クローン犬の誕生からクローン動物の今。そして、マンモス。クローンネコ価格、女性と男性、どちらが高い値を付ける？そこに働く、心理的要素は何？	
	第6回	進化を考える視点 ー小笠原諸島、ガラパゴス諸島と1000年後のヒトー 小笠原諸島とガラパゴス諸島の違い。1000年後のヒトは、どうなっているのか。生態系、進化を巡る視点、DNAを巡る視点。	
	第7回	DNA技術とミトコンドリアDNA鑑定ーこの用語のもつ意味ー DNA技術とミトコンドリアDNA鑑定。この用語の持つ意味を巡る。生物の営みから何が分かるか、生態系を巡る視点を教示する。ヤモリは、卵を年間、何回産むのか。	
	第8回	生物を考える視点① ー雑種交配、絶滅危惧種、新種、希少（貴重）種、外来種ー バラスト水、雑種交配、絶滅危惧種、新種、希少種、貴重種、外来種、在来種、世界の種貯蔵庫の存在意義とそもそもの目的は、ほか。生態系を調べることの重要性について教示。	
	第9回	生物を考える視点② ー固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石 固有種、品種改良、ツボカビ、レッドブック、生物多様性、化石、恐竜化石、アリと蛾の幼虫の共生、生命の不思議、生物学者、サル学者が行う研究について紹介し、生態系から得られる視点を教示。	
	第10回	地球環境と地球温暖化ー森林から海への本来の必要な環境ー 砂漠化は、何故起っているのか。森林から海への本来の必要な環境とは。中国砂漠化は何故、起こったのか。今、社会＝世界で何が起っているのかに目を向けてきている教示手法を理解させる。	
	第11回	地球資源とバイオ燃料ー代替エネルギー、バイオマスとはー 地球資源とバイオ燃料、化石燃料を学ぶ。代替エネルギーとバイオマスを探る。引き続き、生態系の研究を紹介してゆくことで、生物地学系内容に興味を持ってもらう。	
	第12回	食を考える視点ー遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全ー 食を考える視点。これまでに触れた、遺伝子組み換え技術と食の安全性、食の安全。地産地消、食糧自給率を考える。そもそも、本講義で「倫理」が出てくる由縁の再理解をはかる。	
	第13回	BSE問題を考える視点ープリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説ー 本講義が開始された年度、BSE問題が新聞紙上でクローズアップされた時代。その後、数年。このBSEを考える視点を教示。プリオン病、狂牛病。米国産牛問題の概説。統計を読み解く内容。日本の食も考究しつつ、学習をはかる。試験に代わる課題、一部紹介。	
	第14回	命を考える視点 ー代理出産、無国籍児、体外受精ー 命と倫理を考える視点：代理出産、無国籍児、体外受精。300日間問題。食品偽装。科学と倫理。講義名称で「倫理」となっているその意味、十分な理解が出きているかを検証。この講義を学んできた意義とは。試験に代わる課題一部、紹介。	
	第15回	まとめ 講義総括。〔試験に代わる課題：全提示〕。本講義では、この年に出てくる講義関連の新聞記事を毎回、資料で紹介してきている。この日も継続。この年の新聞に出てきた内容に小見出しを付け、それらを集めた時、何が突出したかを探ることが出来る。その視点を述べ、終わる。	
	第16回	試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）	

	(毎回、教務課成績処理日の前の日夕刻締め切り等で、なるべく、ぎりぎりまで見計らう努力は行っています。)
授業の概要	近年の科学技術の進歩は将来、長い目で見れば、人間の進化にもその影響を及ぼすと考えられる。講義当初の年度は当該科目に関するキーワード内容として、新聞記事に着目するとBSE問題などが突出した年度であった。その後、クローン、遺伝子治療、代理出産、など様々な内容が出ている。こういった講義を実施している中において、どのようなキーワード(小見出しとなる関連事象)が現在、社会で起こっているのかに目を向け、概説して行くこととする。本講義は臓器移植や安楽死問題などよりも、より生物学(一部、地学内容含む)的な内容を重視し、その講義関連内容の最新情報の収集を図り、教示してゆく。
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。疑問点があれば、次回講義で質問があれば、概説します。
テキスト	毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります。
参考書	特になし。講義を進める上で、その内容に関連した文献は、講義資料で紹介することがあります。ただし、当該書籍を購入する必要性は、ありません。
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかわるレポート課題(B5のレポート用紙で作成)を出します。 試験(中間・期末試験)70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%(=欠席者は、後で提出。全て提出していることが、「試験に代わる課題」提出が出来る条件となる) 【D P 1~4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	予備知識は、全く不要となる。生物・地学系の内容が中心となる中、現在起こっている本講義に関連する社会事象が学べる。資料をきちんと、自宅に持ち帰り保管して欲しい。バイオマス・環境問題など多岐にわたる視点は、学べるはず。ただ、配布資料の枚数が毎回多いため、こうした内容を受け入れてもらえる受講生を歓迎します。こうした配付資料を読み解くことで(=毎回、概説します。)、講義の方向性はわかってくるはずで
オフィスアワー	予定; 毎週月曜日&火曜日 4 限目 近藤功行研究室(北研 4 - 4 : エレベーター前)
課題に対するフィードバック方法	これまで、毎時提出をはかってもらっている提出物については、回収した全体記載がどうなっているのか入力をはかり、講義資料に盛り込む努力を行っている。なお「試験に代わる課題」に関しては、教務課が設けた成績提出日前ギリギリで締切日夕刻の設定を行っている。そのため、当該提出物の返却を求める場合、それを明記してもらい、こちらでコピー後、返却日程を調整し、研究室にて提出物の返却を実施する。

講義科目名称：生活環境論

授業コード：

英文科目名称：Human Environmental Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
	ナンバリング：SSS383		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 本講義では、医療・保健・福祉分野において、予防医学的な視点を中心に、離島医療における高齢者の終（つ）いの問題など、担当者の調査研究に基づいたフィールドワークから得られた視点を教示します。直接、受講者の卒業論文に影響を及ぼさないかも分かりませんが、本講義を通して、研究手法、研究に関する一連の内容を教示することに心がけます。4年生の受講となる講義のため、研究目線を中心とした内容で本講義を展開します。深い洞察力を身に付け、社会事象を理解し、より深い知識が身に付けられることを目指したいと考えています。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	人類働態学 (Human Ergology)、人類生態学 (Human Ecology) 的健康観 全体説明。人類働態学的健康観、人類生態学的健康観。講義で目指す視点の教示。フィールドワーク、聞き取り調査手法など。[毎時配付する資料と毎回の提出物説明]	
	第2回	疾病予防と介護予防 転ばぬ先の杖、この杖にも種類あり。疾病予防と介護予防、2000年から実施の介護保険制度。2017年、病院で見る高齢女性とAIロボット。どんな光景が見れたのか。高齢者施設とこどもを取り巻く内容についても、概観する。	
	第3回	寝たきり予防は自己管理で可能か ー与論島での調査研究からー 寝たきり予防は自己管理で可能か。与論島でのフィールドワークからの教示を展開。「ぬ〜でいばらばらししないで待ってね。」(大学病院看護師)。高齢者夫婦に、この看護師語る方言の意味内容とは。	
	第4回	元気な高齢者であることの意義 元気な高齢者であることの意義とは。「80歳を前にしての心筋梗塞。次、自分の身体にもうメスはいれないでいい。」「104歳で亡くなった妻の親、10年間は植物人間状態だった。」。これら聞き取り事例の持つ、現代社会の内容を探る。	
	第5回	3障害の中で、精神障害者、回復者を考える視点 「障害」、この用語を定款通りで記載する意味とは。身体・知的・精神障害者。法整備が最後になってくるのは、記載順。障害には、児者あり。「精神障害児」は、あるのか。答えは、ある。こう確認をとった著名な児童精神科医の今、ここも紹介する。	
	第6回	バリアフリーとユニバーサルデザインを考える 医療福祉学とは。医療福祉を学ぶ視点を教示。障害を持っている人、そうでない人、同じ目線で。担当者実施の『ひらめき☆ときめきサイエンス』で、高校生に投げかける視点を共に学ぶ。	
	第7回	ノーマライゼーションの発想と障害者雇用、その職種、職場環境を探る 障害者雇用率は、現在「身体・知的・精神」障害者が対象。始めは「身体」、次「身体・知的」、そして、ようやく近年「精神」障害者が加わる。当初から、後者の視点に力を入れてきている自治体かどうか、ここが大事。この視点を共に学ぶ。	
	第8回	雪国における車椅子の使い方について 担当者、川崎医療福祉大学医療副学部医療福祉学科に在職時代＝1990年代後半、取り扱った内容。随分時代が経過したため、当時と現代とで何が相違が出ているのかなど、検討をはかりながら、受講生と一緒に学んで行く視点を模索する。	
	第9回	3障害にみる手厚さの違い ー交通バリアフリー法、補助犬法、ジョブコーチ制度などー 日本では、ナショナルな研究機関が出来る前に、国際会議誘致などとの関連が指摘されてきた。福祉をめぐる法制度の充実、身体から始まっているとされるが、医療福祉を学ぶ中で、どういう視点が必要か、そこを考究する。	
	第10回	福祉船の就航する島 ー岡山県笠岡市の島々ー 福祉船は、離島の人々の健康維持のために欠かせない。離島で、自宅死を迎えるためには、何が必要か。それは、有床診療所の存在である。また、離島でも比較的大きい人口を持つ島では、放射線治療が出来る病院は重要となる。離島医療を探る。	
	第11回	寝たきりにかわる用語を探る 高齢者医療の現状を紹介。喜寿・米寿・白寿などのある既存の用語としての「寿」がある一方で、福寿、健寿など、造語としての「寿」も模索されている。担当者は、「適寿」を提唱した時期がある。こうした視点で「寝たきり」、ここを考える。	
	第12回	百寿者が生活する家庭環境 百寿者＝センテナリアンが生活する家庭環境、ここについて探る。終末期医療＝胃瘻・人工呼吸器・透析治療、などを探る。これまでの講義関連感想やアンケート入力を実施し、配布資料で紹介。講義の理解度を深めるため、結果を紹介する。)	
	第13回	ケアサイエンスとフィールドワーク (1) これまで学んだ期間にみる、『生活環境論』関連の新聞記事を紹介、解説を試みる。試験に代わる課題、一部紹介。沖縄本島における子供の遊び場についての考究も、はかる。	
	第14回	ケアサイエンスとフィールドワーク (2) 前週に続き、これまで学んだ期間にみる、『生活環境論』関連の新聞記事を紹介、解説。前週で、子供の遊び場の考究をはかった視点を学問として捉え、受講生と一緒に考える。試験に代わる課題、一部紹介。	
	第15回	まとめ (試験に代わる課題提出の説明、解説) まとめ。『生活環境論』を学ぶ視点。[試験に代わる課題：全て提示。解説を実施]。これまで	

	の講義における重要な点、今回講義の総括を行う。 第16回 試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出） （毎回、教務課成績処理日の前の日夕刻締め切り等で、なるべく、ぎりぎりまで見計らう努力は行っています。）
授業の概要	寝たきり予防は、自己管理で可能か。超高齢社会に突入した現在、疾病予防と介護予防の2つの行政サービスが展開されている。「転ばぬ先の杖」という言葉は昔からの言い伝えだ。ただ、杖1つとっても、ステッキ、T字型、フィッシャー形、C字型、ロフトランド・クラッチと目的用途は多数である。歩行器や車椅子も、多種多様。家庭内事故、転倒、骨折、寝たきり。「高齢者が病院に行くわけ」を考えること、住宅改造のイロハ、福祉器具などを考えることで、先の命題が解決できないだろうか。介護に関連する内容も加味し、このテーマを考究する。
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。
テキスト	こちらで講義資料を印刷して、準備します。
参考書	近藤功行(共著)『高齢者教育論』東信堂1997(講義資料は毎回プリント配布します。購入は、不要です。) その他、当該学問に必要な文献は、講義資料で紹介いたします。購入の必要は、ありません。
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想を書く余白、そしてその下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方的になりがちな講義の解消に努めます。講義終盤で、試験にかかわるレポート課題（B5のレポート用紙で作成）を明示します。 試験（中間・期末試験）70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%（＝欠席者は、後で提出。全て提出していることが、「試験に代わる課題」提出が出来る条件となる） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特に、前知識は問いません。講義計画は、1～15まで記載していますが、講義の進行状況や学生の興味関心などで、順位の変動や内容が変わる場合も想定されます。授業への積極的な取り組みを希望します。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介などを含めて、講義を進めて行きます。なお、感想用紙などを毎回用いる理由には、これまで4年制大学で卒論ゼミを持った学生が、2次3次の就職試験で落ちてくるのは簡単な作文です。日頃から書くことをしておきたい担当者の老婆心から始まっている内容です。
オフィスアワー	予定；毎週月曜日&火曜日 4 限目 近藤功行研究室(北研4-4；エレベーター前)
課題に対するフィードバック方法	これまで、毎時提出をはかってもらっている提出物については、回収した全体記載がどうなっているのか入力をはかり、講義資料に盛り込む努力を行っている。なお「試験に代わる課題」に関しては、教務課が設けた成績提出日前ギリギリで締切日夕刻の設定を行っている。そのため、当該提出物の返却を求める場合、それを明記してもらい、こちらでコピー後、返却日程を調整し、研究室にて提出物の返却を実施する。

講義科目名称：健康の科学

授業コード：

英文科目名称：Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
	ナンバリング：SSS287		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 担当者は、医療・保健・福祉系分野で継続研究を行っている。こうした経緯を学生に教示する中で、学生も研究手法や当該分野の内容に興味を持って欲しい。なるべく、幅広い設定で、予備知識抜きにした中で、新たな知識を伝授したい。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	全体説明。人間にとっての健康とは、病気とは。 精神的健康とは、癌が国民に何人に1人か、沖縄の長寿復興の鍵、今回、追ってゆく内容、講義目標について概説する。〔配付資料と毎回の提出物説明〕	
	第2回	健康幻想。高齢女性の一過性の徘徊行動と当該研究から得られた視点。 近年の科学の進歩は凄まじい。そうした中、人間行動と健康、文化面を探る視点は、医科学でも重要となる。そこを教示する。	
	第3回	医療圏と救急搬送。沖縄・奄美群島内における救急医療の課題。観光と医療。 沖縄・奄美群島内には、医介輔・歯介輔制度が戦後設けられていた。何故か。現在、透析治療と観光、観光業と医療の連携がある内容に触れる。	
	第4回	缶飲料にみるカロリー表記。大正時代の沖縄本島のある村の食と現代人の摂取カロリー 缶飲料では、カロリー表記がなされている。このカロリーをめぐる内容について、長寿との関連で教示する。	
	第5回	百寿者＝センテナリアンを探る。沖縄県と秋田県での比較から。 旧厚生省の長寿科学研究事業に、担当者は着手した経緯がある。百歳老人の内容、また、長寿と短命にはどういう因子が働くのか等を探る。	
	第6回	身体の恒常性＝ホメオスタシス。心と精神のバランス。心身医学・精神衛生学の視点 旧厚生省国立精神神経センター精神保健研究所に、担当者は所属した経緯がある。精神と健康、文化の側面について教示する。	
	第7回	高齢者の生きがいを探る。「よい老人ホームとは。」何かを考える視点を学ぶ。 「よい老人ホームとは」、回答全てが正解である。しかし、抜け落ちている内容、発想を変えたとこれか、ここを引き出したい。また、探りたい。	
	第8回	適寿（Appropriate age）の視点、衛生学公衆衛生学的視点から。 担当者は、現在も、琉球大学医学部医学科衛生学公衆衛生学教室に所属している。適寿とは、筆者の打ち出した用語である。ここを学ぶ。	
	第9回	高齢女性の社会的役割、高齢者と死生観を探る視点 高齢女性の役割については、沖縄から得られる視点は大きい。また、離島における高齢者の死生観等についても考究をはかる。	
	第10回	QOL&QODをめぐる考究 「QOL」は「生活の質」だけではない。一方、「死の質」をめぐる内容は、近年、終活、散骨など死のあり方を学ぶ動きがある。ここを学ぶ。	
	第11回	再生医学と形成外科学の視点。エンバーミングと日本人の死のあり方。 死を取り巻く内容は、現在、大きく変化しようとしている。遺体処理、葬送儀礼の変化、これらは人間の健康とも関連してくる。ここを学ぶ。	
	第12回	沖縄の長寿は守れるのか。長寿科学研究と沖縄の問題点を探る。 小児科・産婦人科領域など、医療内容についての説明と、これまでの講義で取り上げていなかった長寿科学の視点について学ぶ。	
	第13回	今、『健康科学』を学ぶ意義とは（1）。 これまで学んだ期間にみる、担当者執筆論文、『健康科学』関連の新聞記事を紹介、解説。試験に代わる課題、一部公表。	
	第14回	今、『健康科学』を学ぶ意義とは（2）。〔試験に代わる課題：課題1～課題3提示。〕 これまで学んだ期間にみる、『健康科学』関連の新聞記事を紹介、解説。試験に代わる課題、一部公表。	
	第15回	まとめ。保健・医療・福祉を学ぶ視点。〔試験に代わる課題：課題4～課題5提示。〕 これまでの講義における重要な点、今回講義の総括を行う。試験に代わる課題、全て公表。	
	第16回	試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出） （毎回、教務課成績処理日の前の日夕刻締め切り等で、なるべく、ぎりぎりまで見計らう努力は行っています。）	
授業の概要	講義に関連ある質問をB4用紙の回収用紙で行い、記載された回答を担当者入力、次回講義で紹介する努力を払うことで、復習となるように心がける。		
予習	講義が進む中で、キーワードが何か書き出せるようにする。		
復習	講義配付時の資料で、疑問点が書き出せるようにしておく。		
テキスト	講義資料を毎回、担当者が用意。それに基づき、講義を展開する。		
参考書	自著、自執筆の学術論文、担当者が執筆また紹介されている新聞記事などを講義資料におり交ぜる時間もつくるため、こうした内容を中心に本講義の参考として欲しい。		

評価方法・評価基準	毎回、講義関連の質問&感想などを実施、時間内回収。欠席者は、研究室前に受け取り用の箱を設置。当該資料を受け取り、欠席時の内容を記載して速やかに提出。全回提出必要。試験に代わる課題、規定枚数あり。総合評価に。講義時回収の質問&感想用紙（欠席の場合は、これが「宿題」となる。感想は、この日休んでいため、配付資料を読んで記載。これまでの講義内容追加ありでも、可。） 試験（中間・期末試験）70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%（＝欠席者は、後で提出。全て提出していることが、「試験に代わる課題」提出が出来る条件となる） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	前知識は、不要である。毎回、感想類を提出してもらっている。欠席時の講義感想は、公欠であっても、これまでの配布資料を読み、あるいは講義で記憶に残っている内容を記載してもらっている。なお、ネットなどからの引用はダメ。白紙にしない。ある程度、書くことが求められる。
オフィスアワー	予定；毎週月曜日&火曜日 4 限目 近藤功行研究室(北研 4 - 4：エレベーター前)
課題に対するフィードバック方法	これまで、毎時提出をはかってもらっている提出物については、回収した全体記載がどうなっているのか入力をはかり、講義資料に盛り込む努力を行っている。なお「試験に代わる課題」に関しては、教務課が設けた成績提出日前ギリギリで締切日夕刻の設定を行っている。そのため、当該提出物の返却を求める場合、それを明記してもらい、こちらでコピー後、返却日程を調整し、研究室にて提出物の返却を実施する。

講義科目名称：日本語表現法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
	ナンバリング：CMS228		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 「伝わる言葉」の使い手を目指し、日本語力を高める。 【到達目標】 コミュニケーションについての認識を深め、相手を尊重すること、自分を省みることができる。 相互交流での学び合いによるセルフ・ラーニングの意識を培う。		
授業計画	第1回	オリエンテーション／呼吸と姿勢について 「伝わる言葉」とは何かについてのレクチャーにより、日本語の音声表現を学ぶ意味を認識する。 深い呼吸を支える身体ほぐしと発音・発声の理論と実践（※すべての授業のはじめに行う） 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第2回	ヒーローインタビューとポジショニング インタビューという言語活動を通して、コミュニケーションについて学ぶ。 ポジショニング理論の基礎を学ぶ。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第3回	聞く・聴く・訊く 「きく」ことの3つのスイッチについて学ぶことで、「良い話し手」への基本姿勢の認識を深める。 メモの5つの効用について学び、集中力を高める技法を習得する。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第4回	声のパワー / 自己紹介スピーチ 「伝わる言葉」の一番大切な要素である「声の力」についての実践と理論を学ぶ。 話し言葉と書き言葉のルールの違いについての認識を深める。 「1分自己紹介」の実践と改訂版作成。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第5回	敬語意識（1） 他者尊重の視点からの言葉 他者尊重という視点からの「敬語意識」について学ぶ。 標準語と方言、個人レベルの言葉使いについてのディスカッションを行う。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第6回	敬語意識（2） 敬語使用の実践 「敬語」についての基礎的知識を学ぶ。 間違い敬語、うっかり敬語の点検を行い、自分の敬語使用状況について客観的に把握する。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第7回	朗読表現 「朗読表現」を実践的に学ぶことで、スピーチやプレゼンテーションにおける表現力を高める。 朗読鑑賞と、群読実践。 課題：授業で取り上げた作品についての鑑賞レポート作成。	
	第8回	パブリックスピーキング（1） 伝達・情報化 パブリックスピーキングの基礎を学ぶ。 情報を的確に伝達するための情報化のメカニズムについて学ぶ。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第9回	パブリックスピーキング（2） 結婚披露宴友人代表スピーチ パブリックスピーキングの実践として、「自分の結婚披露宴友人代表スピーチ」。 自分の長所を的確にPRするスピーチを組み立て、友人代表という役割意識をもったスピーチを行う。 課題：アドバイスに基づいて、スピーチ原稿改訂版作成。	
	第10回	聴衆分析／即興スピーチ 「伝わる言葉」のための、もうひとつの要素として、聴衆についての分析方法を学ぶ。 4つの類型への分類と、それぞれに対するスピーチやプレゼンの心構えについての認識を深める。 即興スピーチ（3つのタイプ）の実践スタート。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第11回	教室プレゼンテーション・20の技法 効果的なプレゼンテーション（スピーチ含む）を、5系列、20技法の視点で整理する。 第1～10回の授業のまとめ。 課題：授業メモからの授業ノート作成	
	第12回	プレゼン実践（1） 取材と報告 プレゼン実践として、テーマに対する取材を行う。 取材内容についての報告書を作成する。 課題：授業で指示するタスクに取り組む	
	第13回	プレゼン実践（2） 写真リポート プレゼン実践として、2葉の写真についてのリポート。 タイトル、コンセプト、1分スピーチ、をそれぞれ作成する。 課題：写真リポートの完成。	
	第14回	プレゼン実践（3） プレゼンと評価 プレゼン実践として、第13回の授業で作成した写真リポートについてのプレゼンを行う。	

	良い聞き手への訓練として、スピーチ評価票に基づき、的確な評価とコメント方法について学ぶ。 第15回 課題：アドバイスに基づき、プレゼン原稿改訂版作成。 まとめ（プレゼン、即興スピーチ、最終レポート） 全体のまとめ。 第14回の授業で作成した写真リポート改訂版を、プレゼンする。 1分感覚の達成度を測るための即興スピーチを行う。 授業メモからの授業ノートに基づき、1分スピーチ原稿（3つ）作成する。
授業の概要	日本語の音声表現についての講義と実践を通し、的確なコミュニケーションのための土台作りをする。 以下の5つの観点からの学びを行う。 ① 自分の考えや意見を音声言語で表現する方法を訓練する。 ② 他人の話聞く訓練をする。 ③ コミュニケーションのしくみを学ぶ。 ④ 1分スピーチ力を養成する。 ⑤ 効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。
予習	授業で指示したタスクに取り組むこと（約2時間要す）
復習	講義内で学んだ内容メモを授業ノートに整理する（約2時間要す）
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	テーマ毎に指示する。
評価方法・評価基準	①授業のタスクへの取り組み 20% ②プレゼンテーションへの取り組み 30% ③即興スピーチ 20% ④授業ノートをベースにした最終レポート 30% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと。 授業内容メモを授業ノートに整えておくこと。
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内で返還。最終レポートについては、各自のメールアドレスに返還。

講義科目名称：うちなーぐち講座

授業コード：

英文科目名称：Uchinaaguchi (Okinawan Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
比嘉 光龍			
	ナンバリング：CUL130		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ・うちなーぐち（おきなわ語）を方言ではなく「言語」だときちんと認識する。うちなーぐちはうちなーんちゅ（おきなわ人）の母語であり、うちなー文化の根幹であることを理解する。 【到達目標】 ・挨拶や日常で使える言葉を覚え、実践できるようになる。		
授業計画	第1回	講師紹介と全講義の内容概略 1 講師紹介とシラバス確認 2 「い」と「ゐ」の違い 3 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い 4 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第2回	各自のうちなー名字を確認しアイデンティティ再考を促す 1 各学生の名字のうちなー名 2 琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？） 3 「琉球諸語」と「しまくとぅば」の混同について 4 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第3回	琉球語ではなく「琉球諸語」と理解する 1 各学生の名字のうちなー名（その二） 2 琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？）（その二） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第4回	「やー（家）」と「いゃー（お前）」の区別など首里の発音を理解 1 うちなーぐちの発音 2 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い（その二） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第5回	オジー、オバーは下品語、たんめー、うんめーが本来の言葉 1 うちなーぐちの発音（その二） 2 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い（その三） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第6回	めんそーれはおかしな表記で「めんそーれー」である 1 うちなーぐちのあいさつ 2 「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第7回	はいさい・はいたいは軽い挨拶で使用する際は注意 1 うちなーぐちのあいさつ（その2） 2 「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」（その2） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第8回	「とぅー（十）」と「とー（唐）」の表記の区別を覚える 1 うちなーぐちの表記（オ列長音と小文字書き「う」について） 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第9回	1879（明治12）年は琉球処分ではなく「沖縄県強制設置」 1 琉球・うちなーの歴史概略 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第10回	多言語だと認知症になりにくい（欧米のデータ紹介） 1 琉球諸語に誇りを持つ意義とメリット 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第11回	「めんそーれ」は語尾抜け言葉 1 音引（長音府）の有無により単語の意味が変わる 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第12回	「安里屋ゆんた」は八重山民謡でうちなー民謡ではない 1 「琉球諸民謡」という新しい呼称の提唱（琉球諸民謡演奏動画鑑賞） 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第13回	「かじゃでい風」、「唐船どーい」など講師生演奏と解説 1 講師による「かじゃでい風」、「ていんさぐぬ花」、「唐船どーい」生演奏と解説 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第14回	講師論文をもとに現在の琉球諸語の状況を説明 1 講師論文『うちなーぐち（おきなわ語）を歴史認識で復興させる試み』解説 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
	第15回	琉球諸語復興の未来 1 琉球諸語復興を皆で考える 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習	
授業の概要	うちなーぐちの挨拶、発音、語彙、表記を学ぶ。琉球・うちなーの歴史をきちんと知る事で、うちなーぐちを自らの言語だと認識できる講義を行う。		
予習	テキスト・配布資料は必ず毎回持参し、次の講座に前回の復習を行うので見直しておくこと。		

復習	配布資料はきちんと保管し、発音や語彙、表記を復習すること。
テキスト	比嘉光龍(2015).『沖縄語リアルフレーズBOOK. 研究社
参考書	国立国語研究所(2001).『沖縄語辞典』,財務省印刷局. 半田一郎(1999).『琉球語辞典』,大学書林. 琉球新報社・新垣毅編著(2015).『沖縄の自己決定権』,高文研. 桂木隆夫・ジョン・C・マーハ編(2016).『言語復興の未来と価値』,三元社.
評価方法・評価基準	評価方法 ・本講義はテストはせずレポート（千文字以内）を2回提出。ただし、同じレポートを1回目は紙、2回目はメールで提出。 ・1回目のレポート提出期限は講義11回目とする。提出されたレポートは添削し生徒へ返却する。 ・2回目のレポート提出期限は講義14回目とする。info@fi.jabyron.comへメールにてワードで送付する。 ・最終的にメールで送られてきた各自のレポートを見直し最終評価をする。 評価基準 レポート60% 授業への参加度20% 授業態度（講師へうちなーぐちで挨拶をする）20% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 講義ではテストは行わない。そのかわりレポートを提出する。 2 講義は、言語を学ぶ講座なので声を出すことが基本になる。何度も発音させるが、恥ずかしがらず声を出す。 3 講義のはじめに必ず「光龍先生、今日拝なびら」と講師へあいさつすること。できなければ減点の対象とする。
オフィスアワー	・授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	・講義11回目に提出されたレポート（A 4用紙1枚千文字以内）は13回目の講義までに各自へ添削し返却する。

講義科目名称：中国語Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：ChineseⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
	ナンバリング：SLA110		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中国語の発音と声調コントロールの基礎を習得する。 【到達目標】 基本的な文法事項を理解（36個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができるレベルを達成する。		
授業計画	第1回 授業概要の説明。中国語の発音（1）。授業の進め方、評価の基準についての説明。中国語の子音・母音の発音の仕方。 第2回 中国語の発音（2）。中国語の声調（1）。有気音と無気音の発音の仕方。巻舌音の発音の仕方等。中国語の声調のコントロールについての説明。 第3回 第1課：中国語の声調（2）。形容詞述語文（1）。疑問文。中国語の声調コントロールの練習。いろいろな形容詞述語文。“？”を用いた疑問文。 第4回 第2課：形容詞述語文（2）。基数。いろいろな形容詞述語文。数字の数え方（1～10）。第2課の会話。 第5回 第2課：練習。入れ替え練習。数字の数え方（1～31）。日付表現の練習。 第6回 第3課：肯定文と否定文。肯定文と否定文の作り方。“？”を用いた疑問文。第3課の会話。 第7回 第3課：練習。入れ替え練習。月・年の言い方。 第8回 第4課：自己紹介の仕方など。動詞「是」。自己紹介の仕方、相手の名前の訊き方。動詞「是」の用い方。第4課の会話。 第9回 第4課：練習。入れ替え練習。国籍の言い方。 第10回 第5課：疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」。中間試験。いろいろな疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」の用い方。第5課の会話。中間試験。 第11回 第5課：中間試験解説。練習。中間試験解説。入れ替え練習。「ちょっと～します。」「あなたはどこへ行きますか？」。 第12回 第6課：。名詞述語文。時間副詞。誘い方。いろいろな名詞述語文。「夜あなたは何をしますか？」。「～するのはどうですか？」。第6課の会話。 第13回 第6課：練習。入れ替え練習。「明日は何曜日ですか？」「午後彼の家に彼に会いに行きます。」。 第14回 第7課：「動詞＋目的語」構造。「動詞＋介詞＋目的語」構造。文末の「了」。「動詞＋目的語」「動詞＋介詞＋目的語」構造の用いられ方。語気助詞「了」の文法的意味。第7課の会話。 第15回 第7課：練習。入れ替え練習。「（どこどこ）で（何々を）します。」「あなたは（兄弟姉妹）がいますか？」 第16回 期末試験。		
授業の概要	中国語のピン音（発音記号）の概要を説明するとともに、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。		
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。		
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。多く音読練習をすること。		
テキスト	『漢語会話301句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社。		
参考書	中日辞典など。		
評価方法・評価基準	中間試験、期末試験80%。授業参加度・発表20%。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 （仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対する フィードバック方法	授業中逐次フィードバックいたします。

講義科目名称：中国語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：ChineseⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
	ナンバリング：SLA111		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中国語の発音（声調コントロールを含む）の正確な発声方法を習得する。 【到達目標】 基本的な文法事項を理解（92個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と平易な日常会話が多くできるレベルを目標とする。		
授業計画	第1回 授業概要の説明。中国語Ⅰの復習。 授業の進め方、評価の基準についての説明。中国語Ⅰの復習。 第2回 第8課：疑問詞を用いた疑問文。時間副詞。 「今何時ですか?」「あなたは何時に～しますか?」。第8課の会話。 第3回 第8課：練習。 入れ替え練習。時刻の言い方。「何時に～します。」 第4回 第9課：介詞「在」。連動文。 「あなたはどこに住んでいますか?」。連動文の特徴。第9課の会話。 第5回 第9課：練習。 入れ替え練習。「私は（どこどこに）（～しに）行きます。」。 第6回 第10課：所在の尋ね方、道の尋ね方。第10課の会話。 動詞「在」の用い方。副詞「怎?」の用い方など。 第7回 第10課：練習。 入れ替え練習。「～はどこにありますか?」「～はどう行きますか?」 第8回 第11課：能願動詞（1）。 「要」の用いられ方。第11課の会話。 第9回 第11課：練習。 入れ替え練習。「何が買いたいですか?」「何が飲みたいですか?」 第10回 第12課：能願動詞（2）。動詞の重ね型。中間試験。 「想」の用いられ方。「我看看○○」等。第12課の会話。中間試験。 第11回 中間試験の解説。第12課：練習。 入れ替え練習。「私は～がしたいです。」「ちょっと試してもいいですか?」 第12回 第13課：動詞「給」。介詞「到」。能願動詞（3）。 「あなたに～をあげます。」「（どこどこ）まであといくつのバス停がありますか?」。第13課の会話。 第13回 第13課：練習。 入れ替え練習。「あなたに5元あげます。」「コーラ2杯買います。」「わたしは～ができます。」。 第14回 第14課：能願動詞（4）。動詞「?」。 「可以」「能」の用いられ方。頼み事をする表現。第14課の会話。 第15回 第14課：練習。 入れ替え練習。「ここで両替できますか?」「この漢字を書いて下さい。」 第16回 期末試験。		
授業の概要	個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習も継続しつつ、十分な時間をかけ各課を学習する。各課の学習においては、基本的な文法事項の学習に続き、その応用として、簡単な日常会話の練習と作文練習を行う。		
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。		
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。多く音読練習をすること。		
テキスト	『漢語会話301句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社。		
参考書	中日辞典など。		
評価方法・評価基準	中間試験20%、期末試験80%。授業参加度・発表20%。 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること		

	.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 （仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対する フィードバック方法	授業中、逐次フィードバックいたします。

講義科目名称：韓国語Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：KoreanⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
金 永秀			
	ナンバリング：SLA114		

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：ハングルの初歩 到達目標：ハングルの読み書きの基礎を身につけ、簡単な単語により会話をするができるようにする。		
授業計画	第1回	コースガイダンス、韓国と日本、沖縄について。 ガイダンス。 ハングルの言語的構造と日本語を含むアルタイ語系との関係性について学ぶ。 ハングルの母音の学習	
	第2回	ハングルの読み方と書き方。（1）母音 ハングルの母音の学習の復習	
	第3回	ハングルの読み方と書き方。（2）子音 ハングルの子音の学習を行なう。	
	第4回	ハングルの読み方と書き方。（3）パッチムについて。 ハングルの子音の復習とともに、パッチムと複合母音について学ぶ。	
	第5回	自己紹介と関連文法 ハングルの子音及びパッチムと複合母音の復習。 自己紹介と挨拶を学ぶ。挨拶に必要な文法の解説をおこなう。 一人称代名詞の単数と複数 助詞 は 平常文：です。 疑問文：ですか 等の表現を学ぶ。	
	第6回	挨拶と自己紹介（国、職業） 挨拶と自己紹介に必要な世界の主要国名と、職業についての単語を記憶し、それらの単語を使用して練習をおこなう。	
	第7回	平常文と疑問文 前回の復習と文法の学習	
	第8回	「これ、それ、あれ」の指示代名詞の学習と疑問文、そして日常生活のなかの単語の更なる学習。 単語を増やしての練習 平常文と疑問文（2） 前回の復習と文法 「ここ、そこ、あそこ、どこ」の使用法の修得 接続詞「～も」の用法 否定形 「～ではありません」の用法を学ぶ。	
	第9回	生活用品と存在詞 部屋の中にある用品をハングルで修得し、これまでの平常文と疑問文を使って練習する。 例）カバン、時計、服、ベッド等	
	第10回	家族の紹介 前回の復習、家族の紹介と疑問文の練習「この、あの、その、どの」、「お方」をおこなう。 助詞「の」の用法を学ぶ。 新出語を使っての練習	
	第11回	親族の呼称について 韓国の親戚関係の呼称を覚えて、これまでの文法と表現を使って練習。	
	第12回	どこにありますか。 前回の復習と練習 新しい文法の修得 例）助詞 ～が、～に、～と ある（いる）、ない（いない）	
	第13回	韓国の歌の表現 前回の復習と練習	
	第14回	位置関係の接続詞修得と練習（例 上下、左右、東西南北等）をつかって、文法の応用と練習 韓国の映画の表現 街に実際にある建物や施設の名称を覚えて、前回までの文法と単語を併せて練習をおこなう。 例 デパート、ホテル、銀行 会社等）	
	第15回	まとめ 総復習と練習によって、一学期間の学習した単語と文法を使って、実際に読み、書きができるようにする。	
	第16回	期末試験 試験によって学習の成果を試す。	
授業の概要	ハングルの基礎から、簡単な会話と読み書きの習得を目的とする。実際に使われている音声に慣れる。日常会話で最もよく使われる基本的な単語を使用し、実際の例文を使って反復練習をおこなう。あいさつ、感情表現、自己紹介、旅行に必要な会話、交流に必要最低限の語学力の習得ができる内容とする。実際の場面を想定した練習を、できるだけ多くおこなう。会話のみならず、読み書きも会話力に応じた実力を養う。		
予習	次回の講義について予習すべきことを毎回告知する。		

復習	その日の講義で学んだことを自宅で復習することを指示
テキスト	『韓国語を学ぼう』初級（前半）
参考書	民衆 韓日辞典
評価方法・評価基準	適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする 期末試験100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	語学は、反復が大切。過去に習った単語・文法を何度も繰り返しつつ、新出の語彙と文法事項を習得して行きます。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。特に、読み書きの基本についてはCD等で各自の復習が重要です。確認のため適宜ショートテスト等、読み書きについてのチェックをおこなう。
オフィスアワー	（仮）毎週水曜日 2限目 金研究室
課題に対するフィードバック方法	講義の最終時間に解答と解説を行なう。

講義科目名称：韓国語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：KoreanⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
金 永秀			
	ナンバリング：SLA115		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ハングルの基礎的構造を理解し身につける。 【到達目標】 会話に必要な文法の基礎、特に動詞の時制や数詞の活用を身につける。			
授業計画	第1回	何をしますか 助詞　～を、　～へ、　～で 動詞の現在形：母音語幹と子音語幹による活用変化を学習する。その文法の理解として原型からの変化の法則を学び、体言を変えて表現の練習を繰り返す。	第2回 何をしますか（2） 助詞　～で　　　　　動詞の現在形：子音語幹による活用変化。 前回の復習をおこない、続いて動詞の現在形の子音語幹による活用変化の法則を学び、これも反復練習をおこなう。 第3回 何をしますか（3） 前回の復習を行ない、動詞の現在形の活用を併せて練習しどのような状況の中でもその表現を理解し、活用出来るようにする。 否定形を学ぶことによって、現在形の動詞活用の基本が完全に出来るようにする。 第4回 何をしますか（4） これまでの復習をして、人体各部の名称、指示代名詞、疑問詞を総合的に覚えて活用する。又、体言を併せて練習することによって、より広い表現力を養う。 第5回 どこに行きますか 前回の復習を行なった後、新出の「曜日」と　　助詞：（時間）～に　　を学んで、練習を行なう。 第6回 どこにいきますか（2） 前回の復習を先ず行なった上で、動詞の尊敬語の基本的変化と、特別な尊敬表現の用法を学ぶ。又、特別な子音の脱落用法と、方向性を表す助詞を学ぶ。 第7回 昨日、何をしましたか（過去形） 過去形の文法的説明と用法について学ぶ。最初の段階として用言の語幹最終音における最初の変化について学び、その用言を使った練習を行なう。 第8回 昨日、何をしましたか（過去形　2） 前回の復習と練習を行なった後、用言の語幹最終音における第二の変化について学び、その用言を使った練習を行なう。その他、混乱しやすい変化の注意事項を学んで、新出語を併せた練習をおこなう。 第9回 昨日、何をしましたか（過去形　3） 前回の復習と練習を行なった後、過去の用言の尊敬語への変換について学ぶ。その他、継続起動作の表現、逆説・対比の表現を学び、反復共に新出語を組合わせた練習をおこなう。 第10回 試験はいつですか 漢数字の修得をすることによって、金額の計算、年、月、日などの暦の表現などを修得する。 第11回 試験はいつですか（2） 前回の復習と練習を行なった後、助詞の時間的～から、場所的な～から、そして体言に接続した比較基準の表現を学び、これを反復練習する。 第12回 今、何時ですか 前回の復習を行なった後、固有数詞を覚える。固有数詞は覚えにくく用法も漢数字と異なるが、練習を繰り返して学ぶ。 第13回 今、何時ですか（2） 前回の復習を行なった後、固有数詞のみならず、漢数字との違いを認識して時間、分、年齢の表現方法を正確に覚える。 第14回 今、何時ですか（3） 体言について時間的、距離的な限度、範囲、到達点を表す、「～まで」の表現、体言について場所の起点を表す「～から」 体言について手段、道具、材料を表す「～で」の表現を数詞の復習と共に反復練習する。 第15回 まとめ この学期で学んだ語彙、表現、文法を復習して理解すると共に、実際に読み書きができるのかを検証する。 第16回 期末試験 今学期のこれまでの学習の成果をテストする。	
授業の概要	韓国語Ⅰの単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にする。旅行などで困らない程度の会話力、また、簡単なハングル文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とする。基本的動詞の現在・過去・未来時制の理解と活用、そして尊敬語及び数詞を用いた会話で暦や金銭の数え方を習得する。			
予習	次回の講義の予習すべきことを毎回告知する。			
復習	その日の講義で学んだことを自宅で復習。			

テキスト	『韓国語を学ぼう』初級（後半）
参考書	民衆 韓日辞典
評価方法・評価基準	適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする。 期末試験100% 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテスト等、チェックをおこなう。
オフィスアワー	（仮）毎週水曜日 4限目 金研究室
課題に対するフィードバック方法	最終講義において解答と解説を行なう。

講義科目名称：スペイン語Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：SpanishⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
	ナンバリング：SLA118		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。 【到達目標】 スペイン語の基本的な文法を理解し、簡単な文が読め、平易な会話が少しできるベルを達成する。		
授業計画	第1回	授業の概要説明、第1課：スペイン語の発音と表記法（1）。 授業の進め方、評価の基準等についての説明。 スペイン語を公用語とする国々についての紹介。スペイン語の子音、母音の音声学的特徴、並びに表記法についての説明。	
	第2回	第1課：スペイン語の発音と表記法（2）について。 注意を要する発音（子音&母音）について、練習を交えながら、具体的な発音方法を説明。スペイン語の表記法に関する説明。簡単な挨拶と基数（1～10）の練習。	
	第3回	第2課：名詞の性・数と定冠詞・不定冠詞（1）。 男性名詞、女性名詞の別。複数形。それら名詞の定冠詞・不定冠詞との結びつき方。	
	第4回	第2課：名詞の性・数と定冠詞・不定冠詞（2）。 名詞の定冠詞・不定冠詞との結びつき方。hayを用いた表現。第2課Diálogo.	
	第5回	第3課：人称代名詞。ser動詞、estar動詞。 10種の主格人称代名詞。ser動詞とestar動詞の直説法現在。	
	第6回	第3課：人称代名詞。ser動詞、estar動詞（2）。 ser動詞とestar動詞を用いた疑問文と否定文。国籍を表す語。第3課Diálogo	
	第7回	第4課：規則活用動詞（-ar動詞、-er動詞、-ir動詞）（1）。 標記3種の規則動詞の活用変化（直説法現在）。その練習（習得方法）。	
	第8回	第4課：規則活用動詞（-ar動詞、-er動詞、-ir動詞）（2）。 標記3種の動詞の活用変化の練習。指示形容詞。指示代名詞。第4課Diálogo.	
	第9回	第5課：不規則動詞（1）、形容詞。 1人称が-goで終わる動詞の直説法現在。形容詞の性・数。	
	第10回	第5課：不規則動詞（2）、中間試験。 1人称が-goで終わる動詞の活用練習。形容詞の用いられ方。第5課Diálogo. 中間テスト。	
	第11回	第6課：中間試験解説。一般不規則動詞（1）、所有形容詞。 中間試験解説。一般不規則動詞の直説法現在。6種の所有形容詞前置形と男性形・複数形。	
	第12回	第6課：一般不規則動詞（2）、前置詞a、基数。 不規則動詞の活用練習、前置詞aの用いられ方。数字の数え方（11～20）。第6課Diálogo.	
	第13回	第7課：1人称単数形だけが不規則活用する動詞。目的格人称代名詞（1） conocer等動詞の活用と練習。直接目的格及び間接目的格人称代名詞（14種）。	
	第14回	第7課：その他不規則動詞、目的格人称代名詞の用いられ方（2）。 dar等動詞の活用と練習。直接目的格及び間接目的格人称代名詞の用いられ方。第7課Diálogo.	
	第15回	総復習。 スペイン語の発音・表記法、第1課～第7課の復習。練習問題等。	
	第16回	期末試験。	
授業の概要	スペイン語の文字・発音についての概要を説明するとともに、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話がができる基盤を構築してゆく。また、挨拶、数の数え方、日時、曜日の言い方等、日常会話で頻出する平易な表現を練習する。		
予習	文法事項を事前に目を通しておくこと。		
復習	授業内容が理解できているか確認すること、語彙（スペル）の書き取り練習を行うこと。多く音読練習を積むこと。		
テキスト	『基礎から学ぼう！スペイン語 初級』西川喬，朝日出版社。		
参考書	西和辞典など。		
評価方法・評価基準	中間試験、期末試験80%。授業の参加度・発表20%。 【D P 1～4との関連】 ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること		

	・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 （仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対する フィードバック方法	授業中、逐次フィードバックいたします。

講義科目名称：スペイン語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Spanish Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
	ナンバリング：SLA119		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。 【到達目標】 スペイン語の基本的な文法を理解し、簡単な文がやや流暢に読め、平易な会話ができるべしを達成する。		
授業計画	第1回 授業概要の説明。スペイン語Ⅰの復習。 授業の進め方、評価の基準についての説明。スペイン語Ⅰの復習。 第2回 第8課：語幹母音変化動詞（1）。 語幹母音変化動詞直接法現在の活用。 第3回 第8課：語幹母音変化動詞（2）。接続詞que。所有形容詞。 語幹母音変化動詞直接法現在の用いられ方。従属接続詞queと所有形容詞後置形。第8課Dialogo。 第4回 第9課：再起動詞と再起代名詞（1）。 再起動詞の活用と再起代名詞との組み合わせ。再起代名詞seを用いた受け身表現。 第5回 第9課：再起動詞と再起代名詞（2）。基数。 再起代名詞seを用いた受身表現。基数（21～100）。第9課Dialogo。 第6回 第10課：過去分詞と現在完了形（1）。 過去分詞の作り方。現在完了形の作り方。 第7回 第10課：過去分詞と現在完了形（2）。時刻の表現。 現在完了形の用いられ方。時刻表現の用いられ方。第10課Dialogo。 第8回 第11課：直説法点過去（1）。 規則動詞の直説法点過去の活用形。 第9回 第11課：直説法点過去（2）。無人称表現。日付。 規則動詞の直説法点過去を用いた表現。主語不定の無人称表現。日付を用いた表現。第11課Dialogo。 第10回 第12課：不規則動詞の直説法点過去（1）。中間試験。 不規則動詞の直説法点過去の活用形。 第11回 中間試験解説。第12課：不規則動詞の直説法点過去（2）。 中間試験解説。いろいろな不規則動詞の直説法点過去。動詞gustarを用いた表現。第12課Dialogo。 第12回 第13課：規則動詞の直説法線過去（1）。 不規則動詞の直説法線過去の活用形。 第13回 第13課：規則動詞の直説法線過去（2）。曜日の表現。現在分詞。 いろいろな不規則動詞の直説法線過去。曜日用減の用いられ方。現在進行形の作り方。第13課Dialogo。 第14回 第14課：形容詞・副詞の比較級（1）。 優等比較級、劣等比較級、同等比較級。 第15回 第14課：形容詞・副詞の比較級（2）。副詞。 形容詞の比較級（不規則形）。副詞の不規則形、-menteの副詞、所有代名詞。第14課Dialogo。 第16回 期末試験。		
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習を行いつつ、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。その上で、平易な日常会話ができるよう練習を行う		
予習	文法事項を事前に目を通しておくこと。		
復習	授業内容が理解できているか確認すること、語彙（スペル）の書き取り練習を行うこと。多く音読練習を積むこと。		
テキスト	『基礎から学ぼう！スペイン語 初級』西川喬著，朝日出版社。		
参考書	西和辞典など		
評価方法・評価基準	中間試験、期末試験80%。従業参加度・発表20%。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 （仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対する フィードバック方法	授業中、逐次フィードバックいたします。

講義科目名称 : Discussion & Debate I

授業コード :

英文科目名称 : Discussion & Debate I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
David Ulvog・Simon Robinson			
	ナンバリング : EOC230		

授業のテーマ及び到達目標	Studying the basics of English language debate.		
授業計画	第1回	What is Debate? An introduction to the subject and the course.	
	第2回	Opinions and How to Express Them.	
	第3回	Facts: How to tell them from opinions, and how to use them.	
	第4回	Review and Test 1	
	第5回	Agreeing or Disagreeing - formal and casual	
	第6回	Reasons - extending your opinion	
	第7回	Integrating Facts and Opinions to Strengthen your Position.	
	第8回	Review and Test 2	
	第9回	Presenting an Argument to an Online Forum	
	第10回	Challenging an Argument on an Online Forum	
	第11回	Presenting and Challenging Arguments (reinforcing 9 and 10)	
	第12回	Review and Test 3	
	第13回	Developing your Argument and Searching for Supports.	
	第14回	Selecting a Resolution to Champion and Preparing to Defend it (in pairs)	
	第15回	Presenting/Defending a Chosen Resolution	
	第16回	Test 4 - Debating a Resolution.	
授業の概要	In this course students will learn to discern between opinions and facts. They will practice how to use facts to support opinions. They will study how to defend their opinions and also how to challenge the opinions of others. Every fourth class there will be a test to consolidate learning and assess progress.		
予習	Students will need to join the class Line-group in order to view course materials online.		
復習	Students will be expected to review class-notes and materials visible in the class Line-group, especially if they have been absent previously.		
テキスト	There is no formal text. Class documents will appear on the Line-group online. Students may download materials and are also encouraged to ask questions pertaining to the class there.		
参考書	n/a		
評価方法・評価基準	Four tests (4 x 20%) plus participation grade (20%) 【DP 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		
履修上の注意	Students are expected to stay abreast of the workload and to make a concerted effort in class to		

	answer questions and take part in classroom activities. N.B. Six absences without permission will result in a Fail grade.
オフィスアワー	(仮) Ulvog：毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室 (仮) Robinson：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称 : Discussion & Debate II

授業コード :

英文科目名称 : Discussion & Debate II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson			
	ナンバリング : EOC231		

授業のテーマ及び到達目標	Further developing the students' ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.		
授業計画	第1回 Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester 第2回 Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion 第3回 Topic 1: Debate preparation and debate 第4回 Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion 第5回 Topic 2: Debate preparation and debate 第6回 Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion 第7回 Topic 3: Debate preparation and debate 第8回 Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion 第9回 Topic 4: Debate preparation and debate 第10回 Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion 第11回 Topic 5: Debate preparation and debate 第12回 Exam Preparation (1) 第13回 Exam Preparation (2) 第14回 Exam Preparation (3) 第15回 Exam (1) 第16回 Exam (2)		
授業の概要	In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI		
予習	Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class.		
復習	students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.		
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka.		
参考書	n/a		
評価方法・評価基準	1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30% 2. Final exam 70% 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	Discussion and Debate I（2単位）を履修済みのこと。 Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対する フィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：Current Issues in English

授業コード：

英文科目名称：Current Issues in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Michael Bradley			
	ナンバリング：ERE220		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 【到達目標】
授業計画	第1回 Introduction. Tales of hope from the Tsunami. 第2回 Bases in Okinawa. 第3回 The Hague Convention. 第4回 The Migrant Crisis in Europe. 第5回 Agent Orange in Okinawa. 第6回 Islamist violence. 第7回 Tabloids and Broadsheets. 第8回 Henoko. 第9回 Students write a script for a video report. 第10回 Mid-term test ? Students introduce a Japanese news story. 第11回 Environmental news. 第12回 A foreigner's view of Okinawa. (A BBC radio report.) 第13回 Japan's ageing population. 第14回 Lance Armstrong ? a cautionary tale 第15回 Lighter stories from Japan and abroad 第16回 Final Test ? students introduce a Japanese news story.
授業の概要	The purpose of this course is to introduce students to English as it is used in the media. It aims to: build students' vocabulary; develop a greater awareness of local, national, and international issues; and increase their ability to express themselves.
予習	Students should familiarize themselves with the topic before every class, to enable them to better understand the lesson.
復習	Students will usually be asked to write a short report after every class giving their reaction to that week's topic.
テキスト	No textbook, All the materials are provided by the instructor
参考書	特になし
評価方法・評価基準	Assignments/Classwork: 40%. Two Presentations: 30% each 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし

オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Bradley研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：高等英文法

授業コード：

英文科目名称：Advanced English Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2 年	2単位 (2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：EWR214		

授業のテーマ及び到達目標	経験、できごと、希望などを説明し、意見や計画の理由、説明を簡潔に書くことが出来る。各文法分野をよく理解し、コンテクストに応じた英文をスムーズに作れるようになる。		
授業計画	第1回	Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 2 Present Continuous, Simple Present	
	第2回	Tense (Present Perfect & Past), Unit 3 - 6 Present Continuous and Simple Present 1,2, Simple Past, Past Continuous	
	第3回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 7-13 Present Perfect, Present Perfect and Past 1, 2, Present Perfect Continuous, Present Perfect Continuous and Simple, How long have you been...? For and since	
	第4回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 14-17 When...? and How long...? Past Perfect, Past Perfect Continuous, Have and have got, Used to	
	第5回	Tense (Future) 18-24 & Review of Tense Present Tenses with a Future Meaning, (I' M) going to (do), Will 1, 2, I will and I'm going to, Will be doing and will have done, When I do, When I' ve done, When and if	
	第6回	Modals, Unit25-29 Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and might	
	第7回	Modals, Unit30-35, Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It' s time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers, Permission, and Invitations)	
	第8回	Review of Modals Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and might,Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It' s time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers,Permission, and Invitations)	
	第9回	Conditionals Unit 36-37 If I do..., If I did..., I wish I knew...	
	第10回	Conditionals, Unit 38-39,Review of Conditionals If I had known, I wish I had known, Review of Conditionals	
	第11回	Passive, Unit 40-44 Present, past, Continuous, perfect, Passive 1 (is done / was done), Passive 2 (be done / been done / being done), Passive 3 (two objects, passive of being, get), It is said that... He is said to... He is supposed to..., Have / get something done	
	第12回	Reported Speech, Unit 45-46, Review of Passive & Reported Speech He said that..., say and tell, tell / ask somebody to do something, Review of Passive, Reported Speech	
	第13回	Questions Unit 47-50 Wh-questions, indirect questions, tag questions	
	第14回	-ing & the infinitive, Unit 51-53 Verb + ing (enjoy doing / stop doing), Verb + to (decide to..., forget to...), Verb (+Object) + to... (I want you to)	
	第15回	-ing & the infinitive, Unit 51-55 Verb + -ing or to...1 (remember / regret), 2 (try / need / help), 3 (like / would like)	
	第16回	Final exam	
	授業の概要	英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本人の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。	
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答まで済ませておく。各回、約2時間の事前学習を要する。		
復習	授業でなされた文法事項の説明を振り返り、間違った問題を再度解いて確認する。各回、約2時間の事後学習を要する。		
テキスト	Raymond Murphy, "Grammar in Use Intermediate", Cambridge		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、クイズ(10%)、授業への参加度(10%)を総合的に判断して評価する。 【D P 1～4との関連】		

	.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・定期的にはQuizを行うため必ず予習してくる事。 ・英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当以上の実力がある学生が受講すること。
オフィスアワー	毎週火曜日 3,4限目 新垣友子研究室（前期） 毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室（後期）
課題に対するフィードバック方法	小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。

講義科目名称：Advanced Writing

授業コード：

英文科目名称：Advanced Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
	ナンバリング：EWR322		

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.		
授業計画	第1回	Introduction introductions review syllabus H O M E W O R K: read short essay “Sugar: Friend of Foe” pgs. 3-4	
	第2回	Discussions of readings 1 discussion of Unit 1 in small groups finish exercises H O M E W O R K: read Unit 2, pgs. 8-14	
	第3回	Discussions of readings 2 discussion of Unit 2 finish all exercises in class H O M E W O R K: -finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 -read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class	
	第4回	Peer review bring a copy of your essay to share with your classmate work through Unit 3 together H O M E W O R K: -finish your the Peer Review of your classmate’ s essay for the next class	
	第5回	Finish peer review finish up Peer Review process, refer to “Put it Together” pg. 22 writers’ workshop for essay H O M E W O R K: -read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class	
	第6回	Discussions of readings 3 discussion of Unit 4 finish all exercises H01 Exercise in Online Research H O M E W O R K: -read and follow directions in “Put it Together” pg. 29 -read Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class	
	第7回	Brainstorming and outline submit essay for grading give a lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline. discussion of Unit 5 finish all exercises H O M E W O R K: -read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class	
	第8回	Discussions of readings 4 discussion of Unit 6 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in “Put it Together” pg. 49 -read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class	
	第9回	Discussions of readings 5 discussion of Unit 7 finish all exercises read and follow directions in “Put it Together” pg. 59 H O M E W O R K: -read Unit 8 to understand any new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft during next class	
	第10回	Discussions of readings 6	

	discussion of Unit 8 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in “Put it Together” pg. 66 -read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class 第11回 Discussions of exercises and Writers’ Workshop discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class 第12回 Writers’ Workshop 2 discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 10 to understand any new vocabulary and the purpose of academic language -do exercise 4 on pg. 78, exercises 8 and 9 on pg. 81, and exercise 10 on pg. 82 第13回 Discussion of exercises 2 discussion of exercises writers’ workshop for research paper discussion of Unit 12 H O M E W O R K: -prepare your presentation for the next two classes 第14回 Presentations 1 students’ presentations 第15回 Presentations 2 students’ presentations 第16回 Course submissions finalize and submit final research paper
授業の概要	This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Writing Research Papers (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)
参考書	No other materials are needed.
評価方法・評価基準	Presentation = 10% Short Essay = 30% Research Paper = 40% Participation = 20% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：英語音声学

授業コード：

英文科目名称：The Sounds of English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：ENG110		

授業のテーマ及び到達目標	英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。母音や子音の分類に基づき、それぞれの音の特徴を認識し、聞き取り、音声記号での表記ができるようになる。アクセントやイントネーションパターン、連結、脱落、同化のメカニズムを理解する。		
授業計画	第1回	イントロダクション&Practice 1（前舌母音） 英語発音を学ぶ前の準備、英語音声学の基礎知識、音について、母音について、Practice 1前舌母音(/i:/, /i/, /e/)（Step 1-4）	
	第2回	Practice 2（後舌母音）、Practice 3（中舌母音） 後舌母音(/u:/, /u/など)) (Step1-4)、中舌母音(Step1-2)	
	第3回	Practice 3（中舌母音）、Practice 4（二重母音<1>） 中舌母音(Step3-4)、二重母音[1] /ei/, /ai/, /au/, /ou/など）(Step1-4)	
	第4回	Practice 5（二重母音<2>）、母音まとめ 二重母音[2]、(Step1-4)、母音の総まとめ（高母音、中母音、低母音、前舌母音、後舌母音、中舌母音）	
	第5回	母音のクイズ、子音について、Practice6（閉鎖音） 母音の確認クイズ、子音に関して（有声、無声、調音点、調音法）、閉鎖音（閉鎖音/p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/)（Step1-3）	
	第6回	Practice 6（閉鎖音）、Practice 7 閉鎖音(Step4)、鼻音（鼻音 /m/, /n/など) (Step1-4)	
	第7回	Practice 8（摩擦音<1>）、Practice 9（摩擦音<2>と破擦音） （摩擦音[1] /f/, /v/, /θ/, /s/, /z/) (Step1-4)、Practice 9（摩擦音[2]と破擦音) (Step1-3)	
	第8回	Practice 9（摩擦音<2>と破擦音）、Practice 10(側音と半母音)、子音のまとめ 摩擦音[2]と破擦音（Step4）、Practice 10(側音と半母音/l/, /w/, /r/, /j/) (Step1-4)、子音復習（閉鎖音、鼻音、摩擦音、破擦音、側音、半母音）	
	第9回	子音のクイズ、Lesson 1（音節と語強勢） 子音の確認クイズ、音節と語強勢（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1-2)	
	第10回	Lesson 2（文強勢） 文強勢（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1-2） 内容語、機能語	
	第11回	Lesson 3（ポーズ）、Lesson 4（ピッチとイントネーション） ポーズ（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1）、ピッチとイントネーション（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1-2)	
	第12回	Lesson 5 音のつながりⅠ 連結 （音のつながりⅠ 連結）①子音＋母音、②[t, d, s, z]以外の子音＋[j]（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step2)	
	第13回	Lesson 6 音のつながりⅡ 脱落(1) ①閉鎖音＋子音([j]は除く（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1-2)	
	第14回	Lesson 7 音のつながりⅢ 脱落(2) ①同じ子音が重なった場合（Let’s Listen Step1-2, Let’s try Step1-2)	
	第15回	Lesson 8 音のつながりⅣ 同化、まとめ [t, d, s, z]＋[j]（Let’s Listen Step1-2, Let’s try)	
	第16回	期末試験	
授業の概要	英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び。更に、音声記号の読み・書きを練習することにより、英語音により近い音が発せられるようになることを授業の目標とする。		
予習	各章に出てくる単語を調べて、解説をしっかりと読んで要点をまとめてくる。各回、約1時間の事前学習を要する。		
復習	各章で学んだ音声記号を読めて書けるようにする、自主学習用のCDで発音練習をする等、各回、約1時間の事後学習を要する。		
テキスト	今井由美子他（2010）『Sounds make perfect 英語音声学への扉』英宝社		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	母音のクイズ(25%)、子音のクイズ(25%)、期末テスト(50%) 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること		

	○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・丸暗記することなく、英語発音の仕組み（メカニズム）を捉えること。 ・発音記号の読みと表記に慣れるよう予習復習を怠らないこと。 ・遅刻欠席をせず、発音の練習時や問題を解くとききちんと参加すること。 ・視聴覚教材を用いる際、私語は妨げとなるので静かにしっかり集中すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	（仮）毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室
課題に対する フィードバック方法	クイズは授業内で採点し、次回の授業内で返却。期末テストは担当教員が採点し、各自のメールボックスへ返却します。

講義科目名称：英語学概論Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to the Study of EnglishⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：ENG120		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。 【到達目標】 英語史、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の基礎的な概念・理論を理解することができる。		
授業計画	第1回	イントロダクション&ことばの起源と語族（第1章） なぜ人間だけがことばを持っているのだろうか。人間はいつごろから、どのようにしてことばを話すようになったのかことばの起源を考える。また、英語はどのような言語と親戚関係にあるのか、語族・語派について学ぶ。	
	第2回	人間のことばと言語研究（第2章）、英語の発音とスペリング（第3章） 人間のことばにはどのような特徴があるのだろうか。言語研究の諸分野、言語資料の収集や方法について学ぶ。また、なぜ英語の発音と綴りの関係、ローマン・アルファベットと正書法、歴史背景を概観し、英語の音の移り変わりを捉える。	
	第3回	英語の語彙と多様性（第4章）、標準英語の成立（第5章） 英語の語彙はいくつぐらいあるのか、なぜ英語とフランス語は似ているのかなど英語語彙の歴史的発展を考える。英語の標準語はどのような変種が基盤になったのか歴史的背景を紐解きながら、標準英語の変遷を概観する。また、アメリカ英語の発展の歴史や、インドやシンガポールなどで用いられている国際英語に関しても学ぶ。	
	第4回	英語のバリエーション（第6章）、ことばの変化（第7章） 英語の地域変種にはどのような種類があるか、否定表現、不規則変化動詞の平準化など地域的非標準英語の言語的特徴を学ぶ。また、アメリカ英語の特徴や、カナダ、オーストラリアなど英米以外の英語の特徴を考える。また、英語の歴史的変化に関してその背景と言語的特徴を考える。	
	第5回	ことばと音声（第8章）、音の組み合わせとアクセント（第9章） 発音器官と有声音・無声音、母音・子音の区別や分類に関して学ぶ。音素、異音、ミニマルペアや音の脱落や同化などの音の変化、音節やアクセント・リズム、語強勢・文強勢などの音韻的特徴も学ぶ。	
	第6回	単語が出来るしくみ（第10章） 単語はどのように組み合わせられて成り立っているのだろうか。自由形態素、拘束形態素などの形態素や屈折接辞、派生接辞の特徴、そして複合、派生、転換、逆成、短縮、混成、頭文字語、借用などの語形成のプロセスを学ぶ。	
	第7回	文が出来るしくみ（第11章）、文の内部構造（第12章） 単語はどのように組み合わせられて文になるのだろうか。構成素・範疇、句構造標識、句構造規則などの統語構造の基礎を学ぶ。さらに中間的な構成素、X⁰理論、補部と付加部の概念、単文、補文の構造についても考える。	
	第8回	Review（第1-11章） 1章から11章の復習・まとめ、練習問題	
	第9回	ことばの意味（第13章） ことばの意味とは何だろうか。人間の外界認識と切り離すことが可能なものであろうか。ことばの意味に対する伝統的な説、指示説と構造意味論の特徴と問題点を概観し、ことばの意味は認識の産物であり、人間の認知能力が極めて重要であるとする概念説を学ぶ。ことばの意味は、人間の側から対象に対する能動的な解釈が加えられて成り立つことを理解する。	
	第10回	語の間の意味関係（第14章）、意味の拡張（第15章） 語と語の意味の間にはどのような関係があるのだろうか。同義性、反義性、上下関係（分類学的・機能的）観点から考察する。語の意味は経験に基づいて得た知識構造を背景にして定義されるというフレーム理論も学ぶ。1つの語や表現が複数の意味を持つのは、シミリー、メタファー、メトニミーなど人間の認知能力が関係していることも学ぶ。	
	第11回	ことばの意味に見られる主観性（第16章）ことばの意味とコンテクスト（第17章） 話者の認識はことばの意味にどのように反映されているのだろうか。話者の認識内容や認識作用を表現する言語表現に関して学ぶ。また、認識の仕方が言語表現にどう反映されるか、日本語と英語の間に違いがあるのかについて学ぶ。言葉の意味とコミュニケーションで伝えられる意味と同じか、違う場合、その差はどう埋められるかに関しても考える。	
	第12回	まとまりのある文章（第18章）、文章中の情報構造（第19章） まとまりのある文章とはどのような文章か、結束性の5つの要素（指示、代用、省略、接続語、語彙の連環）を考える。また、文章においてどのような順で文が並べられているか前景・背景、文頭・文尾の原則、旧情報・新情報、情報の連環と言う観点から情報構造を捉え、読みやすい文の特徴を考える。	
	第13回	ことばのやりとりにおけるルール（第20章）、コミュニケーションの民俗史（第21章） 日常会話における「ルール」協調の原理（量の公理、質の公理、関連性の公理、作法の公理）、そしてそれに違反した時に生じる会話の含意に関して学ぶ。さらに、ある発話の解釈に大きく作用する可能性のある社会的状況を分類したデル・ハイムズのSPEAKINGモデルを学び、発話の構造と機能の面からコミュニケーションを考える。	
	第14回	英語と文化（第22章）、ことばと社会（第23章） 聖書や論語の例から、ことばに信頼を置く西洋文化と、言わぬが花の東洋文化に関して考察する。言語がある程度人間の思考に影響を及ぼすというサピア=ウォーフの仮説、そして言語と文化の関係が文章のレベルで表われるとする対照修辞学をまなぶ。また、地域変種、社会変種、アフ	

	第 1 5 回 リカ系アメリカ人の英語の特徴、多言語使用、差別用語の中立化（P C）など社会と言葉の関係について学ぶ。 ことばと国家(第24章)、日本の英語教育と教授法(第25章) 英語圏の4つの邦、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの言語状況と言語政策を学ぶ。アメリカの英語公用語化の動きとそれに反対する動き、カナダやオーストラリアの多文化主義と言語教育を概観し、日本における英語教育と教授法の変遷（オーラル・メソッド、オーラル・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ等）を学ぶ。 第 1 6 回 期末試験
授業の概要	英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分的特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、問題を解くことで理解の確認をはかる。
予習	決められた章を読んでノートをとる。約2時間の事前学習を要する。
復習	授業で配付するプリントの問題の復習。約1時間の事後学習を要する。
テキスト	長谷川瑞穂（編）『はじめての英語学(改訂版)』研究社（2006）
参考書	なし
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、期末テストの結果(90%)を総合的に判断する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・予習や課題は義務であり、必ず済ませて授業に参加すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	（仮）毎週火曜日 3,4限目 新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業内で解答、適宜回収し授業内に返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

講義科目名称：英語学概論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to the Study of English Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：ENG221		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 英語の構造と機能について理解を深める。語学としての英語ではなく、一般言語学、理論言語学という幅広い学問の一部として英語を分析する方法を学ぶ。 【到達目標】 英語学の各分野の基本的な概念を英語で理解し、応用する力を身につける。		
授業計画	第1回 Introduction English Linguistics(英語学) というのは、どういう学問か、一般的な語学としての英語学習と何が違うのか。また、英語学を学ぶことによってどのような発見があるのか。 第2回 Why Study English Linguistics① Knowledge of Language, What is English linguistics?, Components of Grammar(morphology, semantics, syntax, phonetics and phonology) 第3回 Why Study English Linguistics② Subfields of Linguistics, How English has been studied? (Traditional Grammar, Structural Linguistics, Generative Grammar, Cognitive Linguistics) 第4回 How Words Are Made: Morphology① Dividing words into parts, Compounding(Compound Stress Rule, Phrasal Stress Rule, Right-hand Head Rule) 第5回 How Words Are Made: Morphology② Compounding(Semantic Compositionality, Binary Branching Constraint) Derivation 第6回 How Words Are Made: Morphology③ Conversion, Inflection, Minor Word Formation Processes(Clipping, Blending, Acronym, Initialism) 第7回 How Words Mean; Semantics I① Kinds of meaning(conceptual meaning, associative meaning), Meaning as a set of properties, Categorization and prototypes(The Sapir-Whorf Hypothesis) 第8回 How Words Mean; Semantics I② Semantic Networks(hyponymy, meronymy), Synonyms and antonyms, Polysemy, Metaphor and metonymy 第9回 Review (1) 1-8 Comprehension Check and Exercises 第10回 How Sentences Mean : Semantics II① Semantic Roles and argument structure(Agent, Patient, Goal, Source) 第11回 How Sentences Mean : Semantics II② Selectional restrictions, Constructional meaning(locative alternation, dative alternation, dative construction, double object construction) 第12回 How Sentences Mean : Semantics II③ Word order and information(topicalization, Principle of End Focus), What do pronouns refer to?(personal pronouns, reflexive pronouns) 第13回 How to Communicate with Other People: Pragmatics① What is pragmatics? Formal vs. Informal style, Politeness(Tact Maxim, negative face, positive face, colloquial ellipsis) 第14回 How to Communicate with Other People: Pragmatics② Speech acts, Indirect speech acts, Conversational implicature, The co-operative principle 第15回 Review (2) 10-14 Comprehension Check and Exercises 第16回 Final Examination		
授業の概要	英語学概論Ⅰで学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。特に英語学概論Ⅰで深く扱えなかった形態論、意味論、語用論の分野に焦点を当てる。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。		
予習	決められた章を読んで、事前に配布する問題を解く。英文をしっかりと読み解き、英語学概論Ⅰで学んだ専門用語の確認もしておくこと。約2時間の事前学習を要する。		
復習	授業で行う議論・解答を参考に内容を再度確認する。約2時間の事後学習を要する。		
テキスト	適宜、プリントを配布する。		
参考書	影山太郎他(2004) "Introduction to English Linguistics" 2nd ed. くろしお出版		
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、課題や練習問題(30%)、期末テスト(60%)の結果を総合的に判断する。		

	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・英語学概論Ⅰを履修しておくこと。 ・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。 ・教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室
課題に対する フィードバック方法	課題は採点、評価後、授業内で返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

講義科目名称：英国文学作品研究 I

授業コード：

英文科目名称：Readings in British Literature I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
	ナンバリング：LIT311		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ジェーン・オースティン（Jane Austen）の『高慢と偏見』（Pride and Prejudice）の研究を行う。 【到達目標】 英文学の主要な作品にじかにふれ、キャラクター（登場人物）やシーン（場面）、バックアップ（背景）をよく知ることで、イギリスの文化、社会、歴史への理解を深める。『高慢と偏見』に見られる豊かな英語表現の多くに親しみ理解できるようになる。		
授業計画	第1回 イントロダクション / Chapters 1-6 文学とは何か（フォルマリズム）（イーグルトン pp. 3-25） 第2回 Chapters 1-6 文学とは何か（フォルマリズム）（イーグルトン pp. 3-25） 第3回 Chapters 7-11 文学とは何か（フォルマリズム）（イーグルトン pp. 3-25） 第4回 Chapters 12-17 ロマン派とビクトリア朝の文学観（イーグルトン pp. 29-48） 第5回 Chapters 18-22 ロマン派とビクトリア朝の文学観（イーグルトン pp. 29-48） 第6回 Chapters 23-28 新批評（I・A・リチャーズ）（イーグルトン pp. 67-83） 第7回 Chapters 29-34 新批評（I・A・リチャーズ）（イーグルトン pp. 67-83） 第8回 まとめ Chapters 1-34 映画観賞（コリン・ファース、ジュニファー・イーリー主演 『高慢と偏見』 BBC製作、1995年） 第9回 Chapters 35-40 記号論 & 構造主義（『はじめての構造主義』（橋爪）&『現代思想の冒険』（竹田）） 第10回 Chapters 41-43 記号論 & 構造主義（『はじめての構造主義』（橋爪）&『現代思想の冒険』（竹田）） 第11回 Chapters 44-47 記号論 & 構造主義（『はじめての構造主義』（橋爪）&『現代思想の冒険』（竹田）） 第12回 Chapters 48-52 記号論 & 構造主義（イーグルトン pp. 143-166） 第13回 Chapters 53-56 記号論 & 構造主義（イーグルトン pp. 166-196） 第14回 Chapters 57-61 脱構築（「中心と終焉の消滅」大橋） 第15回 まとめ Chapters 35-61 映画観賞（キーラ・ナイトレイ主演 『プライドと偏見』 スタジオカナル、ワーキング・タイトル・フィルムズ製作、2005年） 第16回 期末テスト		
授業の概要	Jane AustenのPride and Prejudice（1813）を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、課題の提出やそれについての討論を行う。中間と期末には小論文を提出する。		
予習	該当する Chapters に目を通し、主なシーンについてある程度イメージをもって講義にのぞむこと。ストーリーを大まかに把握できるように、分からない単語はあらかじめ調べておく。各回、約2時間程度の事前学習を要する。		
復習	講義で説明のあったキャラクターやシーン、時代背景、批評理論については整理しておき、期末のエッセイにそなえる。各回、約2時間程度の事後学習を要する。		
テキスト	Austen, Jane. Pride and Prejudice. New York: Oxford UP, 2004		
参考書	サブテキスト、その他の資料は適宜クラスで配布する。		
評価方法・評価基準	学習メモ (50%) 期末エッセイ (50%)		

	【D P 1～4との関連】 一 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 一 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	.
オフィスアワー	毎週月曜日（13：00～14：30）研究室 できれば、事前にメール予約をお取りください。 メールアドレス：hamagawah@ocjc.ac.jp
課題に対する フィードバック方法	毎回、学習メモは採点したあとクラス内で返却する。期末エッセイは、採点したあとメールボックスに返却する。

講義科目名称：英国文学作品研究Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Readings in British Literature Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
渡久山 幸功			
	ナンバリング：LIT312		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：19世紀後半から20世紀のイギリス文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：イギリス文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度（社会・文化・政治）から文脈の解釈を実践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、小説を批評分析する能力を身に付ける。英文の読解力を付ける。		
授業計画	第1回 コース・イントロダクション コース・イントロダクション（シラバス説明）および Virginia Woolf の紹介 および To the Lighthouse の説明 第2回 To the Lighthouse The Window 1－3 テキスト精読およびディスカッション 第3回 To the Lighthouse The Window 4－5 テキスト精読およびディスカッション 第4回 To the Lighthouse The Window 6－8 テキスト精読およびディスカッション 第5回 To the Lighthouse The Window 9－10 テキスト精読およびディスカッション 第6回 To the Lighthouse The Window 11－15 テキスト精読およびディスカッション 第7回 To the Lighthouse The Window 16－17 テキスト精読およびディスカッション 第8回 To the Lighthouse The Window 17 テキスト精読およびディスカッション 第9回 To the Lighthouse The Window 18－19 テキスト精読およびディスカッション 第10回 Time Passes 1-10 テキスト精読およびディスカッション 第11回 The Lighthouse 1-3 テキスト精読およびディスカッション 第12回 The Lighthouse 4-5 テキスト精読およびディスカッション 第13回 The Lighthouse 6-10 テキスト精読およびディスカッション 第14回 The Lighthouse 11-13 テキスト精読およびディスカッション 第15回 To The Lighthouse 最終講義 テキスト精読およびディスカッション 第16回 期末試験 テキスト精読およびディスカッション		
授業の概要	Virginia Woolf の後編小説 To the Light House の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行い、毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。テキストを精読が重要になり、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション（討論）に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文（英文 A4版 1ページ 12フォント 20行 700英単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。		
予習	毎回のリーディング・アサイメントをこなして、授業に臨むこと。		
復習	授業におけるディスカッションおよび講義の内容を確認し、期末テスト受験および英文批評論文提出に備える。		
テキスト	Virginia Woolf 著 To the Lighthouse (1927) (Penguin, paperback)		
参考書	サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。		
評価方法・評価基準	定期試験：（30％）英文小論文：（30％）クイズ：（20％） ディスカッション貢献度：（10％） 発表：（10％） 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことが		

	できること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	積極的にディスカッションに参加して欲しい。口頭発表、期末試験受験、小論文（英文）提出のいずれかを行っても単位は与えられません。3分の1以上の欠席は文部科学省の規定により、単位取得はできません。英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			
		ナンバリング：LIT321	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 (技能・表現) 文学作品を読む作業を通してtextual analysis (テキスト分析) の基礎を学ぶ。 (思考・判断) その上でテキストと (1) 米国の (黒人女性を主体とした) 文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせることで、(2) race, gender, sexualityの基礎概念を理解することに焦点をあてる。 (関心・意欲) アフリカ系アメリカ人女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や大衆文化・社会に影響してきたのかを考察する。また時代や空間を超えて今、沖縄に生きる私たちにどう呼応するのかを議論する。 【到達目標】 (1) 基礎的な「テキスト分析 (textual analysis) の実践ができるようになる。 (2) 文学作品の背景となる歴史的、政治的、文化・社会的文脈について調べ、発表することができる。 (3) 社会学的な分析概念 (ジェンダー、人種など) の入門的な知識を獲得する。 (4) 作品に関わるテーマがどのように現代や沖縄にも普遍的に関係しているのかについて批判的視点から議論することができる。		
授業計画	第1回 インTRODakション アメリカにおける黒人女性作家の位置づけや、著者の紹介を1960年代からの歴史的な文脈の中で概観する。 テキストの入手や副教材としてのGoogle+のアクセスの仕方を確認する。 第2回 The Bluest Eye p. 1-32 小説はどのように「読む」ことができるのか、テキスト分析の基本概念を学ぶ。 (Character Analysis and Point of View) 副教材：「黒人文学論」、Google Siteにて関連情報を共有。 物語の時代的、地理的背景を把握する。 第3回 グループ発表とディスカッション (1) 調べ学習してきたアフリカ系アメリカ人の歴史について発表する。 序章、プロローグを読み、1940年代アメリカの時代背景を確認する。 リアクションペーパー (ワークシート) を書く。 第4回 The Bluest Eye p. 33-58 グループまたはペアを作り、授業内でテキスト分析の実践を行う。 ワークシートにまとめ、クラス全体にシェアする。 (主要登場人物の描写を細かく読み取る。ナレーターについて分析する。) 第5回 グループ発表とディスカッション (2) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 リアクションペーパー (ワークシート) を書く。 第6回 The Bluest Eye p. 59-93 グループまたはペアを作り、授業内でテキスト分析の実践を行う。 小説に出てくる、文化的テキスト (映画俳優、広告、音楽など) について学ぶ。 家族構成を把握しながら、人種と階級がどのように関わっているかを考察する。 第7回 グループ発表とディスカッション (3) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 リアクションペーパー (ワークシート) を書く。 第8回 The Bluest Eye p. 95-131 グループまたはペアを作り、授業内でテキスト分析の実践を行う。 黒人社会を中心とした、時代の流れを把握する。 人種、階級に加えて、性 (セクシュアリティ) という分析概念を導入する。 第9回 グループ発表とディスカッション (4) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 リアクションペーパー (ワークシート) を書く。 第10回 The Bluest Eye p. 132-163 グループまたはペアを作り、授業内でテキスト分析の実践を行う。 プロットを理解し、人物描写、奴隷解放からThe Great Migrationを経た黒人社会を取り巻く環境について、歴史的な繋がりを分析する。 「ジェンダー」がどのような文化的な要素を持ち、個人や社会に影響を及ぼしているかを理解する。 第11回 グループ発表とディスカッション (5) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 リアクションペーパー (ワークシート) を書く。 第12回 The Bluest Eye p. 164-205 グループまたはペアを作り、授業内でテキスト分析の実践を行う。 プロットを理解し、人物描写、奴隷解放からThe Great Migrationを経た黒人社会を取り巻く環境について、歴史的な繋がりを分析する。 「ジェンダー」がどのような文化的な要素を持ち、個人や社会に影響を及ぼしているかを理解する。		

	第13回 グループ発表とディスカッション (6) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、ポスタープレゼンテーションの形式で発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 第14回 グループ発表とディスカッション (7) 担当ペア・グループは与えられたキーワードや質問について、ポスタープレゼンテーションの形式で発表する。 その後、クラス全体でディスカッションを行う。 第15回 まとめ 小説を読むことについての分析方法、歴史的、文化・社会的、政治的な文脈を確認する。 特に、race, gender, class, sexualityといった分析概念についてワークシートを用いて、理解を促す。 期末エッセイの準備として、クラス全体でのディスカッションを行う。 第16回 授業内試験：期末エッセイ 授業内で、期末エッセイを書く。
授業の概要	(概要) テキストはTony MorrisonのThe Bluest Eye (1970) を使用する。 グループで割り当てられたチャプターを担当して概要や感想をシェアしながら読み進める。 (授業方法) その流れの中で ①作者やアフリカ系アメリカ人女性と文学作品に関する時代背景、②race, gender, sexualityの概念と文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義を盛り込む。Google+のコミュニティを利用してコメントをシェアし、各セクションでは感想ノートを提出する。期末はin-class エッセイ方式とする。
予習	1冊の文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、毎週の割り当て分のチャプターを読んでから授業に臨むこと。
復習	Google+にコメントや質問をシェアしたり、わかりにくかった箇所は和訳を参照したりして理解を深めること。
テキスト	Tony Morrison, The Bluest Eye (New York: Pocket Books, 1970) ※アマゾンで各自購入します。 ネットでの購入が難しい場合は相談してください。
参考書	トニ・モリスン著、大社淑子翻訳『青い眼がほしい』（早川書房） クラスで適宜、資料を配布またはGoogle+のコミュニティに投稿する。
評価方法・評価基準	期末エッセイ30% ワークシート・授業内レポート30% 受講者の発表30% 授業態度10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「米文学史」を履修していることが望ましい（必須ではない）。
オフィスアワー	毎週火曜日 2限目 毎週木曜日 4限目 崎原研究室 (西2-7)
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは評価して（採点・評価後）返却する。 期末エッセイは、評価後、各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称：米国文学作品研究Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Readings in American LiteratureⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			
		ナンバリング：LIT322	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：米国文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。（特にアジア系アメリカ人の作品について） 関心意欲：米国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。20世紀米国小説の特色を理解し、研究論文を作成する。		
授業計画	第1回	コース・イントロダクション 授業の概要、目的、評価方法などの確認を行う。 アメリカにおけるアジア系アメリカ人作家について概観する。 「アジア系アメリカ人」についてどういうイメージや知識を持っているのかを共有する。 著者のバイオグラフィーを読み、インドとアメリカの地理的關係を把握する。	
	第2回	Historical Context of The Namesake and Methodology of Textual Analysis アメリカにおける移民の歴史を学ぶ。（特にアジア系移民に注目する） 文学テキストの読み方（テキスト分析）の方法を確認する。（ワークシート・グループワーク） 次週からの担当セッション割り振りをする（ペアもしくはグループ）	
	第3回	Chapter 1 物語の背景・舞台を理解する（Chapter 1） このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 新移民法（1965）の与えた影響を理解する。 テキスト分析の実践をする。（Point-of-View分析を書いてみる）	
	第4回	Chapter 2 物語の背景・舞台を理解する（Chapter 2） このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 インド（Bengali）文化とアメリカ文化の比較を行う。 ディスカッションクエスチョンに対してグループで討論する。	
	第5回	Chapter 3 Chapter 3 -1971 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 3名の登場人物について、それぞれの生い立ちや文化観・価値観を比較する。（ワークショップ）	
	第6回	Chapter 4 Chapter 4 -1982 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 いくつかのエピソードについて、自分ならどうするかと置き換えてディスカッションする。 テキスト分析の実践をする。（Point-of-View分析を書く）	
	第7回	Chapter 5 Chapter 5 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 いくつかのエピソードについて、自分ならどうするかと置き換えてディスカッションする。 ディスカッションを基に、登場人物の分析（Character analysis）をする。	
	第8回	Chapter 6 Chapter 6 -1994 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 異文化接触（インドとアメリカ）がどのように起こっているのか、物語から読み取る。 アイデンティティの形成や世代間の摩擦などについて社会学的（理論的）な視点を導入する。	
	第9回	Chapter 7 Chapter 7 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 （主要テーマの分析①）名前とアイデンティティの形成についてディスカッションを行う（ワークショップ）	
	第10回	Chapter 8 Chapter 8 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 （主要テーマの分析②）特に移民家族における、親世代と子世代の関係、また言語的バリアについてディスカッションを行う（ワークショップ）	
	第11回	Chapter 9 Chapter 9 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 （主要テーマの分析③）どこにも属せない不安感（Alienation）について考える（ワークショップ）	
	第12回	Chapter 10 Chapter 10 -1999 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 3つの主要テーマについて、分析する。（グループワーク）	
	第13回	Chapter 11	

	Chapter 11 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 3つの主要テーマについて、分析する。（グループワーク） 第14回 Chapter 12 Chapter 12 - 2000 このチャプターで起こっている出来事、登場人物について担当ペアが発表する。 3つの主要テーマについて、分析する。（グループワーク） 第15回 まとめとOpen Discussion グループに分かれて、与えられた質問に対する議論を行い、発表する。 グループでの議論は期末エッセイに使うことができるが、人の意見の場合は「引用」することを確認する。 期末エッセイ（授業外で書いて提出する）
授業の概要	学期を通して、Jhumpa Lahiri（ジュンパ・ラヒリ）による小説、『The Namesake（その名にちなんで）』（2003）を読む。 授業前半に担当のある学生は口頭発表を行い、後半に講義形式、あるいはワークショップ形式の授業形態となる。 授業で取り組んだワークシートやリフレクション・ペーパーはその都度提出する。 講義で学んだ批評理論と方法論を援用した、文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。最終的には日本語によるエッセイ（2500～3000字程度）を提出する。
予習	一冊の文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、授業前のReading Assignment を必ず行うこと。
復習	講義や発表の内容、ディスカッションしたことや質問などをまとめ、Google+でシェアする。
テキスト	Jhumpa LahiriのThe Namesake（2003）
参考書	日本語訳 小川高義『その名にちなんで』（2000）新潮社。 映画DVD 『その名にちなんで』（2007）ミラー・ナーイル監督、20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン。
評価方法・評価基準	期末エッセイ：（30％） ワークシート・授業内リフレクションペーパー（30％） 受講生の発表：（30％） 積極的な議論への参加：（10％） 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	ディスカッションに積極的に参加する事。 「米文学史」もしくは「米国作品研究 I」 の単位取得済みの方が望ましい。
オフィスアワー	毎週月曜日 2限目 毎週火曜日 2限目 崎原研究室（西2-7）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは評価して（採点・評価後）返却する。 期末エッセイは、評価後、各自のメールアドレスへ返却する。

講義科目名称：英文学史

授業コード：

英文科目名称：History of British Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
	ナンバリング：LIT306		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。 【到達目標】 イギリス文学に見られるさまざまな英語表現にある程度親しみ理解できるようになる。イギリスの文学と歴史に関する入門的な知識を獲得する。イギリス史における代表的な作品の時期やテーマについて理解している。		
授業計画	第1回	オリエンテーション／教養とは何か（英文学史の意義） 近年、一般教養を学ぶ意味が問われるようになってきているが、世界史において近代をリードしたイギリスの歴史と文学への導入を通して、一般教養の意義をめぐる問題提起とする。	
	第2回	黎明期のイギリス——叙事詩 ケルト社会からはじまり、ローマによる支配、アングロ＝サクソン人たちの定住をへて、ノルマン・コンクエストにいたる歴史を概説する。文学作品については、『ベオウルフ』、『十字架の夢』の紹介を行う。	
	第3回	法の支配——チョーサー ヘンリー2世とカンタベリ大司教のトマス・ベケットの確執を通して、国家と宗教の間でいかなる問題がもちあがったのか、その結果どのようにイギリスにおいて「法の支配」が始まったのかを概観する。作品については、チョーサーの『カンタベリー物語』を中心に扱う。	
	第4回	ペストと反乱——バラッドや道徳劇 14世紀半ばにペストが大流行し、ワット・タイラの乱が起こるが、こうした社会変動を通して、イギリスにジェントリ階級が登場したいきさつを概観する。作品については、バラッドや道徳劇『エヴリマン』等を紹介する。	
	第5回	宗教改革——シェークスピア 16世紀にカトリックの国からプロテスタントの国へ様変わりしたイギリス——その激変を生き抜いたアン・ブーリン、メアリ・スチュアート、エリザベス女王という3人の女たちの生きざまを通して、イギリスの宗教改革を概観する。作品についてはシェークスピアのソネットや喜劇『お気に召すまま』を紹介する。	
	第6回	古代、中世、ルネッサンス期の文学 第1回から第5回の講義をふりかえり、チョーサー、スペンサー、シェークスピア等をふたたび取り上げ、とくにイギリス詩の形式や韻律の構造などを概説する。	
	第7回	ピューリタン革命——ジョン・ミルトン 清教徒（ピューリタン）革命から共和制をへて、王政復古にいたるまでの内乱の時期を概観する。作品については、ミルトンの『失楽園』やジョン・ダン、アンドルー・マーヴェルの詩を取り上げる。	
	第8回	名誉革命——ポーブとスィフト 共和制末期から、王政復古、そして名誉革命までの歴史を概観し、イギリスが18世紀後半から19世紀にかけて「大英帝国」として繁栄することになる基礎がこの17世紀後半につくられたことを説明する。文学については、ポーブのヒロイック・カブレットとスィフトの風刺作品を紹介する。	
	第9回	革命の時代——プレロマン アメリカ合衆国の独立、フランスとの戦争を通して、イギリスがいかに世界をリードしたかを概観する。文学としては、ジェイムズ・トムソンやウィリアム・ブレイク等を中心に紹介する。	
	第10回	ロマン主義文学（第1世代） ワーズワースとコールリッジの中心に、ロマン派第1世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第11回	ロマン主義文学（第2世代） シェリー、バイロン、キーツといったロマン派文学第2世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第12回	ロマン主義と沖縄 ロマン主義文学が花咲いていた1916年に琉球（沖縄）へやってきたバジル・ホルの『琉球・朝鮮航海記』を中心に、当時の沖縄がどのようにイギリスで紹介されていたのか詳説する。	
	第13回	パックス・ブリタニカ——アーノルド、他 アヘン戦争をへて万国博覧会の開催、インドの支配などを通して、ビクトリア朝のイギリスがいかに世界に君臨したかを概説する。文学については、マッシュュー・アーノルドを中心に紹介する。	
	第14回	ラファエロ前派とワイルド ラファエロ前派のロゼッティ兄妹とオスカー・ワイルドの人生と作風を概観し、とくにワイルドのウィットに富んだ警句を紹介する。	
	第15回	戦争の世紀——エリオット、ベケット、他 20世紀の前半に、世界がどのように大戦を2度も経験したのか概観する。文学については、T・S・エリオットやベケットの紹介を行う。	
	第16回	まとめと期末エッセイ イギリスの歴史と文学について学んだことを振り返りながら、一般教養の意義をめぐる問題を再考する。講義で学んだことをもとに期末テストとしてエッセイを書いてもらう。	
授業の概要	古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。		

予習	該当する章を読み、テキスト中の代表的作品の抜粋についても目を通しておく。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	講義とハンドアウトを参考に、とくに解説の加えられた作品を再読する。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）
参考書	ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。
評価方法・評価基準	学習メモ50%、期末エッセイ50% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文字・ビジュアル情報の多いクラスなので、集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（13：00～14：30）研究室 メールなどによる事前の予約が望ましい。 メールアドレス：hamagawah@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	学習メモは採点・評価後に毎回の授業内で返却し、期末エッセイは各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称：米文学史

授業コード：

英文科目名称：History of American Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
喜納 育江			
		ナンバリング：LIT308	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。 【到達目標】 1) 米文学の歴史的な流れを説明できるようになる。 2) 代表的な米文学の作家と作品について入門的な知識を獲得する。 3) 代表的な米文学の作品の重要箇所を原語の英語で読み、理解できるようになる。 4) アメリカ社会と自らの社会を比較する視点を獲得する。		
授業計画	第1回	アメリカ史のアウトライン そもそも「文学」がどのような学問であるか、「文学」を学ぶ意義について考える。その上で、「アメリカ文化」とはどんな文化か、またアメリカ文学を理解することがどのようにアメリカの文化や社会を理解することと関係するのかについて理解する。さらに、アメリカ文学にとってどのような時代や作品、作家が重要になるのか、そしてこの講義ではどのような時代、作品、作家に関する講義を行う予定なのかをシラバスで全体を概観しながら講義する。これにより、米文学史全体の流れを理解してもらいたい。また、本講義で読む教材は全て英語である。それぞれの時代の英語に親しめるようになるために、この講義ではどのような学習方法で学ぶべきかについても享受する。	
	第2回	アメリカ先住民とヨーロッパによる植民地化 初期アメリカ文学において理解すべきことは、アメリカ大陸とは、そもそもアメリカ先住民が住んでいた場所であり、そこに大航海時代でヨーロッパ人がやって来たことで、ヨーロッパの植民地主義による「文明」が大陸のダイナミズムを変容させることとなったということである。ヨーロッパ人はなぜアメリカ大陸に来ることとなったのか、ヨーロッパ人はアメリカ大陸をどのように眼差したのか、またそのようなヨーロッパ人をアメリカ先住民はどのように眼差したか、文字を持たないアメリカ先住民の声を聞くことはできるのか、という問題について、15世紀にスペイン王室の命を受けてインドを目指す航海の中で偶然にもバハマ諸島にたどり着いたChristopher Columbusの書簡とコロンブスの後に続く一連の「expedition(探検)」の団体としてアメリカ大陸に入るも先住民の「捕虜」となった16世紀のAlvar Nunez Cabeza de Bacaが、先住民の民族性や文化について詳細に記録した手記の英訳を読み、その時代性を理解する。	
	第3回	イギリス植民地の黎明期とピューリタンの思想 現在のアメリカ国家の基礎を築いたイギリスがどのようにアメリカ大陸の植民地事業に参入して来たのか、アメリカとイギリスの関係について理解する。アメリカへ最初に入植したJohn Smithとアメリカ先住民の関係、そしてその後アメリカへ渡ることとなるイギリスのピューリタン(清教徒)の物語について講義する。最初にイギリスに渡ったピューリタンのグループ(Pilgrim Fathers)の主導者であり、最初の定住型植民地となるプリマス植民地の初代総督となったWilliam Bradfordの「Of Plymouth Plantation」の記録から、ピューリタンとアメリカ大陸の関係、初期のピューリタンとアメリカ先住民の関係を考える。また、ピューリタンがどのような志を持ってアメリカ大陸に渡ったのかについて、メイフラワー盟約(Mayflower Compact)の文書、John Winthropの記述などを参考にしながら理解する。	
	第4回	イギリス植民地とピューリタン詩人 アメリカ大陸にはプリマス植民地に引き続き、マサチューセッツ湾岸植民地ができるなど、イギリスからピューリタンを中心とした移住者が増加する。その中に、Anne Bradstreetという詩人がいた。彼女はアメリカ文学史上で最初の詩集となる「The Tenth Muse」をイギリスで出版する。ピューリタン、そして女性としての感性が表現された詩を鑑賞しながら、ピューリタン文化、そしてピューリタンとしての女性としての意識について考える。	
	第5回	イギリスからの独立と建国の父たち イギリスの植民地だったアメリカが、啓蒙思想を背景とする「革命」を通して政治的独立を果たすまでの経緯についての講義である。アメリカの独立とは、単に宗主国のイギリスからの独立を果たすという意味だけでなく、「アメリカ人」および「アメリカ国家」の誕生も意味する。「アメリカ」とはどのような理想を持った社会なのか。Benjamin FranklinやThomas Jeffersonなど、アメリカ国家の黎明期に活躍したリーダーたちが書いた文章から読み解く。	
	第6回	超絶主義とは何か 政治的独立を果たしたアメリカが次に目指したものが、アメリカの文化的独立(知的独立)であった。その中心となった知識人にRalph Waldo Emersonがいる。この回では、ヨーロッパのロマン主義思想の影響を受けながらも、そのロマン主義をアメリカの風土に根ざした思想へと発展させ、アメリカのルネサンスなる時代を築いたEmersonの人物像と共に、彼が提唱した「超絶主義」という思想について、 &quot;Nature,&quot; &quot;Self-Reliance,&quot; &quot;Poet&quot; などEmersonのエッセイを読み解きながら理解する。アメリカ東部のエスタブリッシュメントを歴史的に理解することにより、19世紀アメリカが今日のアメリカにおいても政治、文化、思想のあらゆる面での基礎を築いた時代であることを理解する。	
	第7回	超絶主義と19世紀アメリカの詩 エマソン「超絶主義」は、ニューイングランドを中心とするアメリカ東部で19世紀に興隆した文学の思想的なバックボーンとなったが、その例として、この回では、Walt WhitmanとEmily Dickinsonという二人の(非常に対照的な)詩人を取り上げる。Whitmanは、拡大する国土や国家として成長するアメリカを讃え、従来の伝統を打破する勢いのある自由律の詩で国民的詩人とし	

	て知られた。一方、Dickinsonは、ほとんど家から出ることもなく、公には全く無名のまま一生を終えた詩人だが、死後に出版された作品によって、モダニズムを先取りしたとも言える自由かつ前衛的な詩によって評価された詩人である。詩風においても両者はほとんど似ても似つかぬ印象を与えるが、実は両者とも「自己 (self)」を堅持している点で確実にエマソンの超絶主義に共鳴していた。この点を、二人の詩を原文で読み、鑑賞することによって学ぶ。 超絶主義から考えるアメリカの自然と文明 エマソンの書生として「超絶主義」から多大な影響を受け、実際に文明から距離を置いた自然の中でその思想をした人物に Henry David Thoreauがいる。自然を礼讃し、人間の文明を批判した『Walden, the Life in the Woods (『森の生活』)』で知られるThoreauはまた、19世紀アメリカ社会の黒人奴隷制度や、領土拡張のための米墨戦争など、国家の政策を痛烈に批判した。この回では、主にThoreauの人物像と共に、彼のエッセイ &quot;Civil Disobedience&quot;を読み、Thoreauの言葉や行動に超絶主義がどのようにに影響していたかについて考察する。 第 8 回 アメリカ南北戦争、奴隷制度廃止運動と文学 アメリカ社会において最も重要な記憶として奴隷制度がある。南北戦争前には奴隷廃止論をめぐり、国家が二分されていた時期であるが、その時代の言論に少なからず影響を与えた文学作品であるHarriet Beecher Stoweの小説『Uncle Tom's Cabin』を中心に、映画なども参考にしながら、当時の奴隷制度の現実や冷酷さについて学ぶ。さらに、19世紀の奴隷制度がアメリカにとって何を意味していたのか、今日のアメリカにどのような影響を与えているのかについても考える。 第 9 回 写実主義 (Realism) の文学 大陸を東西に結ぶ大陸横断鉄道の完成により、西洋文明がアメリカ大陸全体を席卷していくようになる19世紀アメリカは、アメリカからヨーロッパへ出て行くコスモポリタンが出てくる一方、アメリカ国内の地域の特色に着目し、地域的多様性を描く文学が出てきた。地域の風土や言語、文化をあるがままに再現しようとする文学的手法は、「写実主義 (realism)」であるが、特に地域の特徴にこだわる文学は「地域主義」と呼ばれる。この回では、Mark Twainを取り上げ、彼がなぜコスモポリタンではなく「地域を描く」文学を志向したのか、また、地域を写実的に描くためにどのような工夫をしたのかについて学ぶ。 第 1 0 回 Adventures of Huckleberry Finnはなぜアメリカ文学の名作なのか Mark Twain の『Adventures of Huckleberry Finn』は、のちにノーベル文学賞作家 Ernest Hemingwayをして「全てのアメリカの小説はこの作品から出てきた」と言わしめたアメリカ文学を代表する小説である。この作品はなぜ「名作」と言われるのかについて、小説の文体や登場人物の人物像、当時のアメリカ社会のイデオロギーと小説の中で展開されている哲学などについて鑑賞する。 第 1 1 回 モダニズムの詩人たち 20世紀に入ると、世界は「東洋」と「西洋」という世界観と共に急速に国家間の距離を縮めていく。世界を巻き込んだ初めての世界大戦が起こり、労働者階級・エリート階級のどちらにおいても人の移動が加速していった。19世紀とは全く異なる世界システムのもと、「近代」という思想が人間の生のあり方を大きく変容させた時代でもある。Gertrude Stein、Ernest Hemingway、Scott Fitzgeraldなど、アメリカで真の知性を探求することが困難に感じた知識層や芸術家が洗練されたヨーロッパ文化を求めてヨーロッパへと流れていったのもこの時代である。特に詩壇では、Ezra Pound、T.S.Eliotが新しい時代を表現する詩的言語を求めて実験を重ねた。日本の「能」に影響を受けたEliotや、俳句を彷彿とさせる Imagism という表現技法で簡潔な表現の中に深遠な意味を表現しようとしたWilliam Carlos Williamsなど、「東洋」と「西洋」の邂逅が新しい文学表現を生み出した時代の、特に「詩」について考察する。 第 1 2 回 移民とアメリカ文学 アメリカの国家的未来像は、常に移民によって創造されると言っても過言ではない。その意味で、アメリカ文学は、それぞれの時代の「移民」たちによって創造された文学でもあった。19世紀から20世紀にかけて産業革命や奴隷労働に支えられ、経済的な成長を遂げたアメリカでの生き直しを夢見てアメリカへ渡った移民も、その経験を文学に表現した。この回はアメリカへの移民を迎え入れる象徴としての自由の女神を表現した Emma Lazarusの『New Colossus』という詩と、アジア系アメリカ人の中でも初期の書き手だったフィリピン系アメリカ人作家の Carlos Bulosan の短編小説『Be American』を読みながら、アメリカにおける移民の問題について歴史的に概観する。 第 1 3 回 アメリカ公民権運動と黒人文学 南北戦争以後、黒人奴隷制度が廃止されてもなお、黒人に対する差別がなくなることはなかった。20世紀になると、Zora Neal Hurstonや、Richard Wrightなど優れた黒人作家が出てくるものの、黒人の作家や詩人が評価されるまでには、1960年代の公民権運動を経なくてはならなかった。この回ではRalph Ellisonの『Invisible Man』の第1章に描かれた黒人差別の過酷な現実について学ぶ。また、アメリカの国家的大義でもある民主主義にとって公民権運動が何を意味したのか、また今日のアメリカはその大義に沿った国家となっているのかについても考察する。 第 1 4 回 第二次世界大戦の記憶と日系アメリカ人文学 公民権運動は、異なるエスニック集団のアメリカにおける歴史的歩みを可視化し、それぞれの民族の声が語る物語を再構築しようとするポストモダニズムの思想をバックボーンとして、多文化主義文学 (multicultural literature) というアメリカ文学観を生じさせることとなった。この回では、黒人、アジア系、ヒスパニック系 (チカーノ)、アメリカ先住民など、アメリカ社会における多層的な声の中から、特に日系アメリカ人のあゆみと文学に着目する。日系アメリカ人の文学は、日系アメリカ人が第二次世界大戦で日本がアメリカの敵国となったために強制収容所へ送られた経験と深く関わる。この強制収容のトラウマの歴史経験が、日系アメリカ人の文学やアイデンティティにどのように影響したのかについて、Janice Mirikitaniの詩や、Jane Wakatsuki Houston と James Houstonが執筆した『Farewell to Manzanar』に記録された強制収容経験の物語を通して学ぶ。また、この回の次の回は定期試験であることから、定期試験の形式や復習の方法についても指導する。 第 1 5 回 定期試験 第1回から第15回までの授業を網羅した内容の定期試験を実施する。 第 1 6 回
授業の概要	この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテクストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。

予習	事前に配布する教材（英文）に目を通して、どのような作家や作品かある程度認識しておくこと。
復習	初回の授業で配布するシラバスに沿って、各回の授業内容について教員が説明した文学作品の英語本文や、「重要ポイント」として強調した内容を思い出しながら各回の講義の要点を自分なりにまとめる。
テキスト	授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。
参考書	亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年
評価方法・評価基準	定期試験50%、コメントシート40%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。
オフィスアワー	1) 授業開始前および授業終了後に質問を受付けます。 2) メールで質問に答えます。メールアドレスは初回の講義で配布するシラバスに記載します。
課題に対するフィードバック方法	毎回の講義で書くコメントシートはA, B, C, D, F で評価して期末試験前に返却する。

講義科目名称：コミュニケーション入門

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：CMS133		

授業のテーマ及び到達目標	到達目標： 1) コミュニケーションは、人間が社会的なつながりの中で、生きていく上での基本的な現象であり、機能であることを理解できるようになる。 2) コミュニケーションによって社会が成立することを学び、集団が存在するとき、そこには様々な形でコミュニケーションが成立していることを理解できるようになる。 3) コミュニケーション現象について理解を深め、特に、心理学、言語学、ビジネス学の観点からコミュニケーション現象を捉えることができる。 テーマ： 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、コミュニケーションの心理、ビジネスとコミュニケーション		
授業計画	第1回	オリエンテーション（コミュニケーションの基礎） なぜわれわれはコミュニケーションするのだろうか？そもそもコミュニケーションとは何だろうか？なぜわれわれはコミュニケーションを学ぶ必要があるのだろうか？このような疑問に答えようとするのが本講義の目的である。人間の社会活動としてのコミュニケーションの基本的な概念について学ぶ。	
	第2回	ありのままの自分を知らせるコミュニケーション（自己開示） 他者とのコミュニケーションの第1歩は、自分を相手にさらけ出すことである。自分をみせれば、相手も自分をみせるであろうし、それによって相手との関係は親密度を増し、コミュニケーションが活発になってさらにお互いの関係は深まるだろう。本講義では、対人関係の始まりと進展や深まりに影響を及ぼす、自己開示のメカニズムを学ぶ。	
	第3回	自分を演出するコミュニケーション（自己呈示） 他者とのコミュニケーションには、相手により印象を与えたり、悪い印象をもたれることを避ける意図をもって、自分自身を「演出」することもある。このような行為が自己呈示である。自己呈示にはどのようなものがあるのか、それらはどのように機能するのか、本講義では、社会的行動の研究で最近注目を集めている自己呈示について学ぶ。	
	第4回	対人交渉のコミュニケーション（要請と承諾） 冷静に判断すれば騙されようもないことに引っかかったりした経験を持つ人もいよう。騙しではなくとも、対人交渉の過程で生ずる要請や説得など、人に何か影響を与えようとするとき、効果が高いやり方というのはあるのだろうか。またどのような方法を使って影響を高めているのだろうか。本講義では、対人交渉の1つとしての要請と承諾のメカニズムについて考える。	
	第5回	言葉によらないコミュニケーション（非言語コミュニケーション） コミュニケーションにおいて、言語以外に人が利用している手がかりには様々なものがある。これらを用いたコミュニケーションを総称して、非言語コミュニケーションと呼んでいる。本講義では、数ある手がかりの中から主に「目」（視線）を例として取り上げ、視線が対人コミュニケーションの中で果たす機能や特徴を紹介することで、非言語コミュニケーションの問題について考える。	
	第6回	DVD鑑賞（『HAFU』） 新しい世代の日本人とは？また、国籍とは、人種とは、文化とは何なのか？毎年、日本では2万人以上、49人に1人の子どもがハーフとして生まれている。しかし、彼らが自分の生まれた国、日本でどのように感じ、悩み、生きているかを知っている人は多くない。ドキュメンタリー映画『ハーフ』は、異なった背景を持つ5人のハーフ達の本音を1年以上かけて取材した作品。彼らの中には日本しか知らない人たちもいれば、日本で生活は全くの未知の世界という人たちもあり、またその二つの異なる世界の狭間で生きている人たちもいる。この映画を通して、「ハーフ」が直面している問題を理解し、ハーフとは？日本人とは？ウチナンチュとは？というアイデンティティの問題について考える。	
	第7回	ディスカッション（前回の授業のDVDについて） この映画に登場する福西ソニア、矢野ディビッド、大井アレックス、エドワード・ユタカ・洲本、ミヤコフサエの5人のハーフが、ハーフとして直面した問題点（アイデンティティの揺れや分裂など）、これらの問題点をどのように解決していったか、彼らが携わっているNGO活動は、ハーフとして生きていく上で、どのような支えになっているか、などについて、グループでディスカッションをし、意見をまとめて、発表する。	
	第8回	中間テスト／コミュニケーションの4つの視点 これまでコミュニケーションの定義が無数にあり、その定義の違いはコミュニケーションを見る視点の違いを反映していることを学んできた。本講義では、コミュニケーションの主な4つの視点について学んでいく。	
	第9回	言語と思考 私たちはどうやって言語を身につけていくのだろうか？そしてその言語がないと、ものを考えることはできないのだろうか？だとすれば、言葉が違えば考え方も違ってくるのだろうか？本講義では言語と思考との関係を考える。	
	第10回	言語と社会 言語と社会との関係を考える時、大きく分けて2つの捉え方がある。1つは同じ言語を使う話し手と聞き手の間の具体的な対話に焦点を当てて考える場合である。もう1つは、広く民族や国家を対象として、異なる言語を巡る様々な問題を考える場合である。本講義では、双方の視点から、言語と社会の関係を考える。	
	第11回	言語と教育	

	昔から学校で教えることの基本は「読み・書き・ソロバン」と言われてきた。言葉を聞いたり話したりすることは学校でも習わなくてもできたので、これだけ勉強すれば、とりあえず生活で困ることはなかった。それでは、21世紀の日本人には、言葉についてどんな内容で、どんな方法で教えるべきなのだろうか。 第12回 言語と文化 広義の「文化」とは、「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容を含む」（広辞苑）などと定義されているが、ここでは言語の背後にある文化に絞って考える。つまり、お互いにそれを知っていないと相手の言語が十分理解できず、こちらの気持ちも十分伝えられないという文化、言い換えれば「ある集団が共有する価値観や規範の体系」と定義づけられるような文化について学ぶ。 第13回 DVD鑑賞（『バベルの学校』） 家庭の事情でやってきた子、辛い母国の生活から逃れ自由になるためにやってきた子、または単によりよい生活を求めてきた子など、移住してきた理由も様々。フランスに来たばかりの彼らが入ったのは、フランス語の集中トレーニングを受けるための「適応クラス」。国籍も宗教も家庭のバックグラウンドも異なる10代の彼らは、その違いに真正面から向き合い、時には大声で口論し、涙を流すことも。そんな彼らを驚くほどの辛抱強さで見守り、一人一人の夢を引き出し、導いていったのがブリジット・セルヴィニ先生だった。この映画を通して、移民の多いフランス、パリの現状を知ると同時に、異文化理解を促し、多文化共生社会をつくるために必要なことは何かを考えていく。 第14回 ディスカッション（前回の授業のDVDについて） 前回の授業で鑑賞した『バベルの学校』について、ディスカッションする。世界中からやって来た子供たち24人が、同じ「適応クラス」で一緒に学校生活を送る中で、彼らが直面している異文化コミュニケーションの問題を挙げ、その問題の原因などについて話し合う。また、異文化理解を促し、多文化共生社会をつくっていく上で、私たちに何が出来るのか、また何が必要なのか、話し合う。 第15回 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション 異文化とのコミュニケーションにおいては、自国文化との違いを認識し、異文化社会に通じる明確なコミュニケーションを行う能力が求められている。また、異文化間のディスコミュニケーションの発生原因の1つにコンテキストの違いがあるが、それが契約に対する考え方にも日本と外国の間に大きな差異をもたらしている。国際的な企業活動を円滑に行うためには、貿易相手国の立場や自然環境にも配慮することが必要とされ（利己⇒利他）、それが、国際的なビジネスの場における円滑なコミュニケーションにも資するものと考えられる。 第16回 期末テスト
授業の概要	本講義ではコミュニケーション現象を心理学、言語学、ビジネス学の観点から学ぶ。 1) 心理学の立場からは、心理学の中でも社会心理学、とくに対人行動論の観点からコミュニケーション現象を取り上げる。自己開示、自己提示、要請と承諾、非言語コミュニケーションなどのテーマを扱う。 2) 言語学の立場からは、言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化の持つ価値観、さらに言語教育、政策までを比較対照しながら考察する。 3) ビジネス学の立場からは、職場の活性化、人材育成、企業経営、国際ビジネスとの関連で、コミュニケーションの果たす機能と役割を学ぶ。
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること
テキスト	植村勝彦・松本青也・藤井正志『コミュニケーション学入門』（ナカニシヤ出版）
参考書	・末田清子・福田浩子『コミュニケーション学—その展望と視点』松柏社 ・松沢哲郎『進化の隣人ヒトとチンパンジー』岩波書店 ・松沢哲郎『チンパンジーはちんぱんじん』岩波書店 ・G. H. Mead『社会的自我』恒星社厚生閣 ・正高信男『考えないヒト—ケータイ依存で退化した日本人』中央公論新社 ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮社 ・志水彰 他『人はなぜ笑うのか—笑いの精神生理学』講談社
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、課題・プリント(30%)、中間・期末テスト(50%) 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	出席重視。最近は「コミュニケーション」という言葉がよく使われるが、本当の意味を理解している人は少ない。この授業では、「コミュニケーション」の意味について深く学び、次に、いろんな場でのコミュニケーションの特性を学んでほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週火曜日（4限目）仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：CMS134		

授業のテーマ及び到達目標	到達目標： 1) 異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解することができる。 3) 異文化を背景に持つ国・地域の歴史、社会、文化について理解することができる。 テーマ： コミュニケーションと文化、言語、非言語コミュニケーション、カルチャーショック、異文化適応、ステレオタイプと偏見、多文化共生		
授業計画	第1回 異文化コミュニケーションを学ぶということ グローバル化が進化する現在の世界で、なぜ異文化コミュニケーションを学ぶことが必要なのかについて考える。多文化化、グローバル・マインド、ローカル・アフェクト、コミュニケーションのコンテキスト、文化の共有と継承、パワー、メディアなどのキーワードを用いて、異文化コミュニケーションを学ぶ意義について学ぶ。 第2回 コミュニケーションとサイン コミュニケーションとは、人と人が線を引き直したり、線を越えようとすることにより、互いに理解し合うプロセス。これは主に言語、非言語メッセージの意識的・無意識的なやり取りを通して行う。このコミュニケーションのプロセスについて詳しく学ぶ。 第3回 文化について考える 文化とはあるコミュニティに属する人々が共有する言葉、行動様式、ものの感じ方やその表現の方法、考え方、価値観などを指す。それらは個人が成長し社会化していく過程で獲得し内面化するもので、コミュニティやグループが共有するパターンとして継承されていく。この文化の共有と継承のメカニズムを中心に考えていく。また、世界の文化の多様性についても考える。 第4回 言語によるコミュニケーション コミュニケーションを考える上で、具体的な言語使用上の問題を見ていく。つまり、どのように会話を始め、維持するか、議論や交渉を進めるかというようなコミュニケーション・スタイルの問題、言葉が持っている意味の範囲の違いや連想の違いなどについて考える。 第5回 非言語コミュニケーション 私たちは身振り、手振り、顔の表情、目線など言語以外の多くの手段を用いてコミュニケーションを行う。ジェスチャーには、文化により違うものもあれば、文化を超えて普遍的なものもある。また、結婚式など儀式的捉え方、参列する際の服装や決まりごとなども地域や文化によって異なる。このような非言語コミュニケーションの問題について考える。 第6回 アジアの国（フィリピン）の歴史、社会、文化を学ぶ 異文化を背景に持つ国・地域の歴史、社会、文化について理解するために、アジアの国、フィリピンの歴史、社会、文化について学ぶ。 第7回 ゲスト・スピーカー（在沖フィリピン人）のスピーチと交流 多様な文化的背景をもった人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解するために、沖縄在住のフィリピン人をゲストスピーカーとして招き、彼らの文化や価値観、生活、経験などについて語ってもらい、その後、交流をする。 第8回 アイデンティティとコミュニケーション 海外にルーツを持つ人の中には日本で生まれ育っても外国籍の人もいれば、アメリカで20年暮らして行動様式としてはアメリカ的であるのに日本国籍という人もいる。異文化間の移動の結果起こるアイデンティティの変容や揺れなど、その複雑さについて考えていくことが大事。アイデンティティの問題は、グローバル時代の文化やコミュニケーションを考える際の重要な視点を提供してくれる。 第9回 メディアでつくられる文化 メディアを通して知る世界は、すべて人を介してつくられた世界。しかし、しばしば私たちは、つくられた世界を信じてそのように現実の社会を見てしまう。メディアの中の表象が黒人や女性など、特定のグループに対するステレオタイプに結びつくことが多いので、メディアをチェックしながら、ステレオタイプや偏見のプロセスを考えていく必要がある。 第10回 グローバル化する世界の異文化接触 言葉や習慣が違う異文化での生活になじむには大変な努力を必要とし、その負担がストレスとなって心身にのしかかる。このような異文化への適応の困難に起因する心身の不調はカルチャーショックと呼ばれる。本講義ではカルチャーショックの特徴、異文化適応の一般的なプロセス、異文化適応に影響を及ぼす要因、人間的成長の過程としての異文化適応、そして異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化について考える。 第11回 コミュニケーションの阻害要因 多文化社会の中で日々生活していると誰もがちょっとあの人は苦手だなと思う時がある。ある程度の偏見は誰にでもあるものと考え、それが差別行為につながらないように考えることは重要。偏見は持つてはいけないと唱え学習するのではなく、誰の心にも単純に好き嫌いがあり、違和感があるものを避けようとする自分があることに気づく必要がある。そのメカニズムについて学ぶ。 第12回 欧米の国（アメリカ）の歴史、社会、文化を学ぶ 異文化を背景に持つ国・地域の歴史、社会、文化について理解するために、欧米の		

	第 1 3 回 国、アメリカの歴史、社会、文化を学ぶ。 ゲスト・スピーカー（在沖アメリカ人）のスピーチと交流 多様な文化的背景をもった人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解するために、沖縄在住のアメリカ人をゲストスピーカーとして招き、彼らの文化や価値観、生活、経験などについて語ってもらい、その後、交流をする。 第 1 4 回 異文化コミュニケーションの教育・訓練 異文化コミュニケーションの教育・訓練とは、異文化コミュニケーション能力を育て、高めることである。そもそも「異文化コミュニケーション能力」とはどのようなものだろうか。また、どうすればその能力を育成することができるのだろうか。本講義では、そうした疑問について考えていく。 第 1 5 回 多文化とうまくつきあうために グローバル・マインド、ローカル・アフェクトとしての異文化コンピテンスについて考える。多文化化に伴う状況の変化を察知し柔軟に対応できること、様々なコミュニケーション・スタイルを持った人に対して適切な反応ができること、自分の感情や行動を必要に応じて調整できること、相手の観点を理解しながら必要な自己主張ができることなど、世界の人々との出会い相互理解を進めよううえで必要となる基本的なコンピテンスとその訓練法を考える。 第 1 6 回 期末テスト
授業の概要	1) 講義形式とグループワーク形式で授業を行う。講義で、異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景及び異文化コミュニケーションの現状と課題を把握し、グループワークで、ディスカッションやアクティビティなどを通して、家庭、学校、職場、地域社会で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦についての認識を深め、多文化社会に生きる上での必須となる実践的な対話力・人間関係を学ぶ。 2) 異文化を背景に持つ国や地域の出身者をゲスト・スピーカーとして招き、その国の歴史、社会、文化について学び、彼らとの直接的な交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養う。
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること
テキスト	八島智子・久保田真弓『異文化コミュニケーション論』松柏社
参考書	・石井敏・他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書 ・鍋倉健悦『異文化コミュニケーション入門』丸善 ・古田暁（監修）『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、課題・プリント(30%)、中間・期末テスト(50%) 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	出席重視。異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因を学んでほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週水曜日（5限）仲里研究室（事前にメールでの要約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：異文化コミュニケーションⅡ

授業コード：

英文科目名称：Intercultural Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CMS135	

授業のテーマ及び到達目標	①異文化コミュニケーションの理論的枠組みを理解できる。 ②授業で学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけることができる ③今後直面するさまざまな場面における異文化コミュニケーションにおいて自分で考え、対応できる力を養うことができる。 テーマ： 空間・時間、通訳者、障がい者、言語選択、誤解、文化、コミュニケーション、地球都市、マスメディア、沖縄		
授業計画	第1回	異文化コミュニケーションを学ぶ意義 世界規模の国際化は、各国の相互依存化を急速に進め、様々な異文化摩擦を起こしている。このような国際的現状から、異文化コミュニケーションの研究・教育・実践に関する基本的な理解と考えることは、今後ますます重要になると考えられる。本講義では、異文化コミュニケーションの一般的な定義と概念、異文化コミュニケーションの過程とそれに付随する困難点、異文化コミュニケーション活動を展開する際に必要な基本的な考えを学び、異文化コミュニケーションを学ぶ意義について考える。	
	第2回	空間、時間、異文化コミュニケーション 本講義では、空間と時間の認識が、いかにコミュニケーションと深く関わっているのかを説いていく。コミュニケーション及び異文化コミュニケーション分野では、空間及び時間は非言語メッセージの一つとして扱われ、それほど重要視されてこなかった。ところが実際は、空間・時間は主要な文化構成要素であり、コミュニケーション現象を明らかにしていくうえで重要な意味を持つ。	
	第3回	異文化コミュニケーションとしての通訳者 通訳者は、話し手の発言を異なる言語に訳して伝える「コミュニケーションの仲介人」である。通訳者の個人的意見から情報操作をしたり、故意に発言の意図をゆがめるような編集をしてはならない。それでは、言われたことを文字通り訳せば、話し手の意図を正確に伝えることになるのだろうか。本講義では、通訳者は「言語の媒介人」という見方を再考し、通訳者の役割を異文化コミュニケーションの視点から考える。	
	第4回	異文化コミュニケーションと誤解の接点 コミュニケーション学の分野では、一般的に、誤解は異文化コミュニケーション上の問題として取り上げられることが多い。文化が違えばコミュニケーションのスタイルや習慣も異なるから、意思の疎通がうまくいかなくなるという捉え方である。なぜ、同一文化圏内での誤解はそれほど省みられず、異文化の文脈における誤解ばかりが取りざたされるのだろうか、なぜ、誤解は文化によって異なるコミュニケーション・スタイルがもとで発生するという視点が強調されるのだろうか。異文化コミュニケーションと誤解がどのような関わりや接点を持っているのかを考えていく。	
	第5回	異文化コミュニケーションにおける言語選択―「英語の普及」をどう捉えるか 異文化コミュニケーションにおいて「どこ」で「どの言語」で行うかで、誰が優位にコミュニケーションを進めるのかという「力関係」に影響が出ると考えられる。他の言語よりも英語を用いる機会が増えている今日では、英語を異文化理解の鍵とする風潮さえある。実際、英語はどれくらい普及しているのか、英語を用いることで力関係を解消し、異文化理解を促進できるのか。本講義では、「英語の普及」を問い直し、異文化コミュニケーションにおける言語の選択について考える。	
	第6回	障がい者、高齢者とのコミュニケーション 「異文化コミュニケーション」と聞いて、一般的にまず思い浮かぶのは、外国人とのコミュニケーションであろう。異文化コミュニケーションの一つの特徴として、文化の違う人々とコミュニケーションを図る際、ステレオタイプ、偏見、あるいは誤解が頻繁に起こると考えられている。しかし、この現象は外国人との間に起こるわけではない。障がい者や高齢者とのコミュニケーションにおいても、同様のケースが多くみられる。本講義では、身近な存在でありながら、「社会的弱者」として今まで援助、いたわりの対象と見られても、対等なコミュニケーションの相手とはあまり考えられてこなかった、障がい者や高齢者とのコミュニケーションを取り上げる。	
	第7回	DVD鑑賞（『最強のふたり』） 事故で全身麻痺となり車いす生活を送る富豪フィリップは、介護士面接にやってきて、開口一番「不採用のサインをくれ」と切り出した場違いな黒人青年ドリスに興味を持った。そこから始まった異文化二人のセット生活。クラシックとソウル、高級スーツとスウェット、文学的な会話と下ネタ。全てに渡り二人の生活は衝突し続けるが、やがて互いを受け入れ、とんでもなくユーモアに富んだ最強の友情が生まれ始める。その友情は周りの人々、さらには彼ら自身の運命も変えていく。この映画を通して、障がい者と健常者、または、黒人と白人、貧困層と富裕層の異文化におかれた人々とのコミュニケーションについて考える。	
	第8回	ディスカッション（前回の授業のDVDについて） 前回の授業でのDVD『最強のふたり』を鑑賞後、障がい者と健常者、人種の違う人々、社会階級の違う人々の間のコミュニケーションのあり方について、グループ・ディスカッションをし、グループで意見をまとめて発表する。	
	第9回	中間テスト／「文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」の語られ方 本講義では、「異文化コミュニケーション」をめぐる常識について考えてみたい。「文化」とは何だろう。「コミュニケーション」とは何だろう。そして、「異文化コミュニケーション」とは何だろう。「異文化コミュニケーション」を学ぶことは、本当に、異文化コミュニケーションや	

	第 1 0 回 異文化理解を促進することになるのだろうか。本講義では、「文化」「コミュニケーション」そして「異文化コミュニケーション」をめぐる常識にはらむ問題点を考えていく。 女性と異文化適応 本講義では、女性の異文化適応の特性を明らかにする。ビジネスや留学、また国際結婚によって、海外で生活する女性たちの数は年々増加している。異国に滞在するということは、今までとは異質の文化と対峙することを意味し、そこには様々な文化摩擦が生じる。本講義では、性差と異文化適応に関する一般的な考え方（「常識」）を検証し、次に、アメリカで生活した日本人企業駐在員の妻（または、母親）を例にとり、異文化受容と帰国後の適応問題をいくつか紹介する。 第 1 1 回 「地球都市」の出現とコミュニケーション グローバル化の負の側面 国際コミュニケーションによって世界は小さくなり、その結果今日「地球文化」というべき文化が出現している。「文化」とはそもそも人の価値観や行動などによって構成されるが、この「地球文化」とは、地球全体を「村」というよりも一つの「都市」とみなした「文化」である。本講義では、この「地球都市（コスモポリタン）」と呼ばれる「文化」の特徴を考察しながら、地球規模から見たコミュニケーションについて考える。 第 1 2 回 マスメディア（CM）と異文化コミュニケーション メディアの中には、旅行記、海外訪問記のドキュメンタリーのようなテレビプログラムからテレビのCMに至るまで異文化が頻繁に現れている。なかでもCMには外国人が登場することが多く、私たちの日常生活の中で見られる異文化の大きな部分を担っている。本講義では、CMの登場人物、さらに日本における外国人を使ったCMに焦点を当て、それらのCMがどんなことを伝えているのか、そこから読み取れる意味とは何かを、記号学的アプローチを使って見ていく。 第 1 3 回 沖縄における異文化コミュニケーション 本講義では、沖縄に滞在する日系人、外国人、アメラジアンとの異文化コミュニケーションについて考える。アメラジアンに関しては、基地外で暮らすアメラジアンの貧困の問題、アメラジアンのアイデンティティ、いじめ、言葉、米軍基地の問題について学ぶ。また、NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワが取り組んでいる教育についても述べる。沖縄に住む外国人に関しては、沖縄在住台湾人やフィリピン人の特徴、国際結婚夫婦間のコミュニケーションの問題や、日系人に関しては、日系ブラジル人・ペルー人の特徴、彼らが抱える問題について取り上げる。 第 1 4 回 DVD鑑賞（『奇跡の教室』） 様々な人種の生徒たちが集められた問題児ばかりの落ちこぼれクラスに、厳格な歴史教師アンヌ・ゲゲンが赴任してくる。情熱的な彼女は、生徒たちを全国歴史コンクールに参加するように促すが、「アウシュビッツ」という難しいテーマに彼らは反発する。ある日、アンヌ先生は、強制収容所の生存者レオン・ズィゲル氏を授業に招待する。大量虐殺が行われた強制収容所から逃げ出すことができた数少ない生き証人の悲惨な状況を知った生徒たちは、この日を境に変わっていく。この映画を通して、様々な人種、宗教、文化を背景に持つ人々が、意見をぶつけ合いながら、一つの目標に向かって、協働していく過程を考え、異文化理解の重要性を学ぶ。 第 1 5 回 ディスカッション（前回の授業のDVDについて） 前回の授業で鑑賞した『奇跡の教室』について、以下の3点のテーマのもと、グループ・ディスカッションをし、グループで意見をまとめて、発表する。 1. 『奇跡の教室』のストーリーの中で、異文化の違いで摩擦・齟齬・誤解が起きている問題点を挙げる。 2. 落ちこぼれの生徒達が、様々な壁を乗り越えながら、一つにまとまっていく過程を説明する。 3. 落ちこぼれの生徒達が、コンクールに出場し、優勝することができた要因を考える。 第 1 6 回 期末テスト
授業の概要	本講義では、コミュニケーションが行なわれている場を中心に、現在行なわれている異文化コミュニケーションの問題について考察する。通訳者や語学教師が直面する問題、ビジネスマンや留学生の海外での適応問題、マスメディアと異文化コミュニケーション、空間、時間と異文化コミュニケーションなどについて学ぶ。また、グローバル化社会における「異」文化コミュニケーションの状況を理解し、グローバル化とアイデンティティについて考える。また、沖縄における異文化コミュニケーションの問題も扱う。
予習	テキストを事前に読んでくこと
復習	授業で配付した資料を読みながら、テキストを再度読み、内容を理解すること
テキスト	伊佐雅子監修『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社
参考書	・池田理知子・E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 ・小坂貴志『異文化コミュニケーションのA to Z』研究社 ・石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けてー』 ・青木保『異文化理解』岩波新書
評価方法・評価基準	・授業への参加度(20%)、課題・プリント(30%)、中間・期末テスト(50%) ・異文化コミュニケーションⅠを履修済みであることが好ましい。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	学生のみなさんには、「あたりまえ」のことを常識とせず、どのようにしてその「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養ってほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週火曜日（4限目）仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：異文化交渉演習

授業コード：

英文科目名称：Intercultural Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：CMS337		

授業のテーマ及び到達目標	到達目標： 1) 異なる人々、異なる意見に対処する際に必要不可欠な「コンフリクト・マネジメント」の手法を身につけることができる。 2) 表面的な利害対立に目をやるばかりでなく、相手との人間関係に配慮し、お互いの利益、ニーズを満たすために創造的に問題を解決する分析視点を持つことができる。 3) 異文化交渉に役立つ「協調的交渉術」を身につけることができる。 テーマ： 論理的思考、交渉の諸要素、コンフリクトと文化的諸要因、パワー（権力構造）、怒り		
授業計画	第1回 今の時代なぜ異文化交渉能力が必要か 日本人はコンフリクトに対して否定的な感情を持ち、なるべくコンフリクトを回避しようとする傾向がある。しかし、グローバル化した多様な社会にあって、コンフリクトは避けられない。コンフリクトを理解や成長を促すきっかけとみなし、コンフリクトとポジティブに向き合いマネジメントしていく方法を学ぶ必要がある。本講義では、コンフリクト・マネジメントの技法として「協調的交渉術」を取り上げる。「協調的交渉術」とは自分の潜在的欲求を知ると同時に、相手の潜在的欲求を探り、その結果、双方に満足いく（win-win）解決を目指す方法で、交渉当事者双方の自己発見のプロセスである。 第2回 コンフリクトとは何だろう／なぜコンフリクトが多発してるのか 子どものけんか、家族間のいさかい、職場内やビジネス上のトラブル、民族紛争や戦争に至るまで、コンフリクトには様々なレベルがある。本講義では、コンフリクトとは何か、ということについて議論する。また、多様化する日本社会での異文化の衝突、差別意識や偏見、二極化する社会の閉塞感、これらがコンフリクトを頻発させる。こうした要因について見ていく。 第3回 競合的アプローチと協調的アプローチ／コンフリクトの対処方法 競合的アプローチでは一時的に目的を達成しても、長期的には弊害も生じる。交渉は協調的アプローチに基づいて考えることが大切である。また、コンフリクトの対処方法として、①闘争、②訴訟、③仲裁、④メディエーション、⑤交渉について解説する。 第4回 目指すのは妥協ではなくウィン・ウィン ウィン・ウィンとは、自分も相手も双方が勝者（満足する）になることである。単なる妥協とは異なり、予想以上の結果が生まれることがある。5つのコンフリクト解決ストラテジーの特徴について述べ、コンフリクトに協調的アプローチで取り組むことの重要性を考える。 第5回 コンフリクトの6つの分析ポイント コンフリクトの6つの分析ポイント、1) 世界観、2) 立脚点、3) ニーズ、4) 問題の再焦点化、5) 建設的提案、6) 破壊的提案について解説し、実際に事例を通して、コンフリクトを6つのポイントで分析していく。 第6回 複雑なコンフリクトを整理する／当事者が複数いる場合の整理 複雑なコンフリクトを整理するため、双方の表層に潜むニーズを洗い出し解決課題を設定し、ブレーン・ストーミングで解決策のアイデアを創出する方法を学ぶ。当事者が複数いる場合の整理は、当事者間の関係性を踏まえて表層に隠れた潜在的ニーズを探し出し、共通のニーズを中心に解決課題を設定することが重要。 第7回 協調的交渉のプロセス／交渉前の準備と場の雰囲気の演出 交渉の前に協調的交渉の一連の流れを段階を追って理解し、それぞれの段階のポイントを押さえることが重要であることを学ぶ。また、交渉前の準備と場の雰囲気の演出の重要性を理解する。なぜなら、相手の心理に影響を及ぼすのは、言語による交渉内容だけではなく、部屋、照明、温度などの空間環境や服装などがあるからである。 第8回 儀礼交換とグラウンドルール／合意できない場合の代替案 交渉前の会食や雑談などの儀礼交換は、互いの共通点を理解しポジティブな心理状態にしてくれるので重要である。また、交渉のルールは事前に決めておくこと。さらに、合意できない場合にどうするか代替案を持っていれば、交渉を打ちきる強さが持てるし不本意な妥協による合意は避けられる。 第9回 中間テスト／コミュニケーションとは何だろう コミュニケーション（関係性）は言葉だけでなく、五感を通じて行われる。言語、声の調子、表情、姿勢、動作といった全てが関わるものである。本講義では、交渉におけるコミュニケーションの重要性を学ぶ。 第10回 コミュニケーションと感情の関係 感情は交渉の行方に影響を与えるもの。ポジティブな行動はポジティブな感情から、ネガティブな行動はネガティブな感情から生まれる。そこで本講義では、非言語コミュニケーションが相手に及ぼす影響やコミュニケーション上の注意点、感情のコントロールなどについて解説していく。 第11回 コミュニケーション・トレーニング／相手や状況を観察する力／交渉前の関わり行動 コンフリクトをしっかりと分析して事前に入念に準備したとしても、実際の交渉には相手がいる。なかなか思い描いたようにはいかない場合もある。交渉では相手と実際に向き合い、観察し、相手のニーズを読み取ったり、自分のニーズを正確に伝えるなどのスキルが必要になる。そこで本講義では、現実使用できる様々な対人コミュニケーション・スキルについて、練習問題などを交えて解説していく。 第12回 基本的傾聴（聞く・訊く） 人の話をきかない、きけないのはコミュニケーションやビジネス上の致命的欠点。きくスキルが高いと、集まる情報量は格段に違ってくる。本講義では、相手の発言を促して情報を得る、聞き		

	第 1 3 回 手の理解を確認し自分の理解を表明する、質問することで情報量を増やす、など、きくスキルについて解説する。 第 1 4 回 積極的技法 相手の行動を促すには、いかに相手の感情を害さずに意見やニーズを伝えられるかがカギ。適切な自己開示は効果大。①自分の意見やニーズ、感情を相手の感情を害することなく伝えるスキル、②敵対する相手との協調関係を促進するために、共通点に言及する、提案する、より中立に表現する、など、積極的技法について解説する。 第 1 5 回 目標設定と行動計画／フィードバック／怒りへの対処とクレーム処理 会社や職場内にコンフリクトはつきものと言ってもよいが、近年多様化する社会の中でさらに増大している。本講義では、これまでに紹介したコミュニケーション・スキルを統合させて、職場でのコンフリクトマネジメントに関わるツール、「目標設定」「フィードバック」「怒りへの対処とクレーム処理」を紹介していく。 第 1 6 回 コーチング／ミディエーション／ファシリテーション 組織のメンバーのパフォーマンス向上のために、メンバーの潜在的能力を引き出し、能力開発のための長期的な目標を立てる手助けをするコーチング、意見の対立する者同士の交渉が暗礁に乗り上げ、当事者同士で解決できないときの第三者介入の問題解決法の1つであるミディエーション、人々の活動が容易にスムーズに運ぶために手助けをするファシリテーションについて学ぶ。
授業の概要	私たちが国の内外で異文化の人々とさまざまな目的で接触するとき、そこには必ずといってよいほど交渉の要素が含まれている。この場合、交渉とはディベートのように勝ち負けを決めるのではなく、さまざまなかけひきを駆使しながら合意にいたる複雑なコミュニケーション・プロセスである。本講義は、講義形式とグループワーク形式で行われる。講義では、「協調的交渉術」の理論を学び、グループワークで「協調的交渉術」の実践を学んでいく。
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	毎回、講義・ディスカッションの後、リアクション・ペーパーを提出する。
テキスト	鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』（自由国民社）
参考書	・船川淳志『思考力と対人力』日本経済新聞社 ・野沢聡子『協調的交渉術のすすめ』アルク ・足立行子他『ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション』同文館 ・トロンペナールス『異文化の波—グローバル社会：多様性の理解』白桃書房 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社
評価方法・評価基準	授業への参加度（20%）、課題・プリント（30%）、中間・期末テスト（50%）。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	交渉というスキル（技能）という狭い意味に取られがちであるが、交渉とはコミュニケーション活動であるということを学んでほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週水曜日（5限目）仲里研究室（事前に、メールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：プレゼンテーション概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
		ナンバリング：CMS224	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 プレゼンテーションについてのスキル習得と実践を通して「相手に届けるパフォーマンス」を磨く。 【到達目標】 プレゼンテーションについての基礎的な知識と効果的なプレゼンテーションの技法を習得する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション プレゼンと自己分析 プレゼンテーションの概略と現時点でのプレゼンについての自己分析を行う。 提供された「お題」についてマッピングと起承転結メモに基づき、プレゼンを行う。そのプレゼンに基づき、聴衆意識の視点と内容魅力の視点からの自己分析を行い、改善案を作成する。 課題：自己分析と改善案レポート作成。	
	第2回	インプロビゼーション（即興） 高度なパフォーマンスとしてのインプロビゼーションについて学ぶ。 その場につながり、共に何かを紡ぐ上げていくインプロ力を鍛えるための5つの修練を行う。 課題：講義内容のまとめと気づきについてのフィードバックレポート作成。	
	第3回	ショート・リポート ショート・リポートを通して、取材対象の切り口と、伝える相手と「驚き」を共有する、印象に残るリポートについて学ぶ。 グループになり、企業のロゴマークについてのショート・リポートを行う。 課題：ショート・リポートの自己分析と改善案作成。	
	第4回	ノンバーバルコミュニケーション（1） ボディランゲージ 非言語コミュニケーションの理論と実践について学ぶ。 ボディランゲージとポジショニングを通じた効果的なプレゼンテーションを行う。 課題：指定されたテキストの1場面について、3つのボディランゲージを駆使したパフォーマンスを作成。	
	第5回	ノンバーバルコミュニケーション（2） パラランゲージ 非言語コミュニケーションの理論と実践について学ぶ。 パラランゲージの分析を通して、効果的なプレゼンテーションを行う。 課題：パラランゲージの語彙リスト作成。	
	第6回	演じる（1） 対話劇 課題テキストの登場人物についての役柄分析を行い、対話劇を演じる。 課題：役柄分析レポート作成。	
	第7回	演じる（2） 朗読劇 朗読の基本要素として、発音・発声、間の取り方を学び、朗読劇を演じる。 課題：課題テキストの鑑賞レポート作成。	
	第8回	取材とプレゼンの基礎（1） 取材 プレゼンのための3つのステップ「取材」「切り口のひらめき」「説得・納得へ導く工夫」について学ぶ。 課題：プレゼンのための3つのステップシート作成。	
	第9回	取材とプレゼン（2） 構成 オリジナルな視点からのプレゼンのための3つのステップシートに基づいたプレゼン構成について学ぶ。 課題：オリジナルプレゼン構成作成。	
	第10回	「私達の大学らしさ」レポートとプレゼン 「私達の大学らしさ」について、写真とキャッチコピーを作成し、説得力のあるプレゼンを行う。 課題：プレゼン原稿と分析、改善案作成。	
	第11回	「Happy Campus Guide」プロジェクト（1）担当分担と取材計画 パワーポイントを使用した「「Happy Campus Guide」を段階的に作成する。 効果的なプレゼンについて、キャッチコピー作成の視点から学ぶ。 課題：取材計画と役割分担、キャッチコピー、コンセプトを作成する。	
	第12回	「Happy Campus Guide」プロジェクト（2）取材 パワーポイントを使用した「「Happy Campus Guide」を段階的に作成する。 「キャンパス風景」「授業」「紹介したい大学関係者」についての取材を行う。 課題：取材内容のまとめレポート作成。	
	第13回	「Happy Campus Guide」プロジェクト（3）構成 パワーポイントを使用した「「Happy Campus Guide」を段階的に作成する。 プレゼン企画書を作成し、中間報告プレゼンを行い、アドバイスを受ける。 課題：アドバイスに基づいたプレゼン企画書の改善案作成。	
	第14回	「Happy Campus Guide」プロジェクト（4）プレゼン パワーポイントを使用した「「Happy Campus Guide」のプレゼンを行う。 課題：プレゼンの分析についてのフィードバックレポート作成。	
	第15回	「Happy Campus Guide」プロジェクト（5）個人報告・レポート提出 プロジェクトを通しての学びについて、プレゼンテーションを行う。 課題：個人報告書とレポート作成。	

授業の概要	自己認識と他者理解という、対話的思考を基軸としたプレゼンテーションについて学ぶ。即興やボディランゲージ、朗読劇の理論とスキルを活用したプレゼン力の向上を目指す。最終課題として、Happy Campus Guideプロジェクトを通して、情報の選定方法、キャッチコピー作成、パワーポイントを使ったプレゼンを行う。
予習	授業指定のタスクへの取り組み（約2時間要す）
復習	授業内容の整理とフィードバックレポート作成（約2時間要す）
テキスト	講義担当者作成資料配付
参考書	講義にて適宜紹介
評価方法・評価基準	フィードバックレポート（分析と改善点）30% パフォーマンスへの取り組み 20% Happy Campus Guideプロジェクトへの取り組み 30% 最終レポートとプロジェクト報告書 20% 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること … 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	プレゼンテーションの実践へ積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	毎週水曜日（11：00～12：30）研究室
課題に対するフィードバック方法	授業にて返還。最終レポートは個人メールボックスへ返還。

講義科目名称：情報機器利用プレゼンテーション演習

授業コード：

英文科目名称：IT Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
	ナンバリング：CMS226		

授業のテーマ及び到達目標	情報機器を活用して効果的なプレゼンテーションができるようになる。		
授業計画	第1回	授業の概要説明。効果的なプレゼンテーション（1）。 授業の進め方、評価の基準についての説明。効果的なプレゼンの事例研究。	
	第2回	効果的なプレゼン（2）。Microsoft Worldの基礎演習（1）。 効果的なプレゼンの事例研究。入力、ブラインドタッチ他。	
	第3回	Microsoft Worldの基礎演習（2） ワードの上手な使い方。	
	第4回	PowerPointの基礎演習（1）。 入力、フォント調整等。	
	第5回	PowerPointの基礎演習（2）。 様々なレイアウトなど。	
	第6回	PowerPointの基礎演習（3）。 効果的な見せ方など。	
	第7回	自己アピール資料の作成。 既習得の技能を用いて自己アピール資料を作成する。	
	第8回	Microsoft Excelの基礎演習（1）。 表の作成、表計算。	
	第9回	Microsoft Excelの基礎演習（2）。 関数の入力など。	
	第10回	PowerPointの応用（1）。 図形の挿入、図形の変形、グループ化など。	
	第11回	PowerPointの応用（2）。 画像・動画の挿入など。	
	第12回	PowerPointの応用（3）。 表の挿入など。	
	第13回	プレゼンテーションレジメの作成。 プレゼンテーション資料（課題）のレジメを設計する。	
	第14回	プレゼンテーション資料の作成（1）。 既習得の技能を用いて、プレゼンテーション資料を作成する。	
	第15回	プレゼンテーション資料の作成（2）。 既習得の技能を用いて、プレゼンテーション資料を作成する。	
	授業の概要	先ず、効果的なプレゼンテーションには何が必要であるかを理解するため事例研究を行う。次に、効果的なプレゼンテーションを実現するために活用できる情報機器やアプリケーションの操作技能を習得し、上手なプレゼンテーションができるようになる。	
予習	しっかりテキストを読みこんでおくこと。		
復習	授業で学んだことを逐次実践に活かすこと。		
テキスト	『はじめてのPowerPoint2016』 高橋慈子/富永敦子著、秀和システム。		
参考書	マイクロソフト社ワード・エクセルの使用マニュアルなど。		
評価方法・評価基準	課題の提出80%。授業の参加度・発表20%。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		
履修上の注意	効果的なプレゼンテーションのための情報機器の活用方法を習得するプロセスは、毎回の実技演習の蓄積である。欠席しないよう努めること。		
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 （仮）毎週**曜日 **限目 武村研究室		
課題に対する	授業中、逐次フィードバックいたします。		

フィードバック方 法	
---------------	--

講義科目名称：英日翻訳技法 I

授業コード：

英文科目名称：English—Japanese Translation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			
		ナンバリング：INT310	

授業のテーマ及び到達目標	英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン with 『翻訳の極意』 第2回 翻訳デモンstrEシヨン 第1回の講座で学習した『翻訳の極意』のポイントを活用して、実際にクラスでサンプルを翻訳してみる。オンライン辞書の使い方や、ウェブの活用法、毎週の翻訳課題への取り組み方などを学習する。 第3回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §1, §2／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§1, §2, §3, §6, §7, §8) §1 語順——原文の流れを乱すな §2 名詞の中に文を読め 第4回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §3／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§4A, §4B, §4C) §3 主語を表す所有格 第5回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §4／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§5A) §4 目的語を表す所有格 第6回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §5, §6／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§4D, §5B) §5 of+名詞——主語を表す場合 §6 of+名詞——目的語を表す場合 第7回 まとめと小テスト 第8回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §7, §8／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§9, §9A, §9B, §9C, §10) §7 無生物主語の構文 §8 “A Good Swimmer”の型 第9回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §9, §10／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§11, §12) §9 人称代名詞、指示代名詞 §10 反復を避けるためのThat, One 第10回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §11A／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§13, §14) §11A 関係代名詞 (1) ——接続詞を補う 第11回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §11B／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§15, §16) §11B 関係代名詞 (2) ——分解する 第12回 まとめと小テスト 第13回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §12／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§17A, §17B, §17C, §17D) §12 形容詞・副詞を述語に——Many, Some 第14回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §13／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§18) §13 文修飾の副詞 第15回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §14／『英文翻訳術』該当セクシヨン (§19A, §19B, §19C, §19D) §14 形容詞を副詞に——All, Every, Each 第16回 まとめと小テスト		
授業の概要	翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。		
予習	課題を翻訳しタイピングしておく。		
復習	返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。		
テキスト	テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。		
参考書	・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス）		

	・ その他
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 崎原研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：英日翻訳技法 II

授業コード：

英文科目名称：English—Japanese Translation II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
	ナンバリング：INT311		

授業のテーマ及び到達目標	英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回	インTRODakション / DEMONSTRATION インTRODakション with 『翻訳の極意』 翻訳DEMONSTRATION 第1回の講座で学習した『翻訳の極意』のポイントを活用して、実際にクラスでサンプルを翻訳してみる。オンライン辞書の使い方や、ウェブの活用法、毎週の翻訳課題への取り組み方などを学習する。	
	第2回	語順、名詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 1, 2／『英文翻訳術』SECTIONS 1, 2, 3, 6, 7, 8 SECTION 1 語順——原文の流れを乱すな SECTION 2 名詞の中に文を読み	
	第3回	所有格 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 3／『英文翻訳術』SECTIONS 4A, 4B, 4C SECTION 3 主語を表す所有格 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 4／『英文翻訳術』SECTION 5A SECTION 4 目的語を表す所有格	
	第4回	of + 名詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 5, 6／『英文翻訳術』SECTIONS 4D, 5B SECTION 5 of+名詞——主語を表す場合 SECTION 6 of+名詞——目的語を表す場合	
	第5回	無生物主語など 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 7, 8／『英文翻訳術』SECTIONS 9, 9A, 9B, 9C, 10 SECTION 7 無生物主語の構文 SECTION 8 “A Good Swimmer” の型	
	第6回	まとめと小テスト①	
	第7回	代名詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 9, 10／『英文翻訳術』SECTIONS 11, 12 SECTION 9 人称代名詞、指示代名詞 SECTION 10 反復を避けるためのThat, One	
	第8回	関係代名詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 11A／『英文翻訳術』SECTIONS 13, 14 SECTION 11A 関係代名詞 (1) ——接続詞を補う 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 11B／『英文翻訳術』SECTIONS 15, 16 SECTION 11B 関係代名詞 (2) ——分解する	
	第9回	形容詞、副詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 12／『英文翻訳術』SECTIONS 17A, 17B, 17C, 17D SECTION 12 形容詞・副詞を述語に——Many, Some 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 13／『英文翻訳術』SECTION 18 SECTION 13 文修飾の副詞 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 14／『英文翻訳術』SECTIONS 19A, 19B, 19C, 19D SECTION 14 形容詞を副詞に——All, Every, Each	
	第10回	比較 第3回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 15A, 15B／『英文翻訳術』SECTIONS 20A, 20B SECTION 15A 比較級・最上級 SECTION 15B 否定のからんだ比較表現 第4回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 15C／『英文翻訳術』SECTION 20C SECTION 15C as ... as の構文	
	第11回	まとめと小テスト②	
	第12回	受動態 第5回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 16A, 16B／『英文翻訳術』SECTIONS 25A, 25B	

	SECTION 16A 受動態 (1) 自動詞を使って能動態に SECTION 16B 受動態 (2) by を主語にして能動態に 第 6 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 16C, 17／『英文翻訳術』SECTIONS 25C, 26A, 26B SECTION 16C 受動態 (3) 暗示された by を主語にして SECTION 17 受動態 (4) 受動態のまま 仮定法 第 8 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 18A／『英文翻訳術』SECTION 29 SECTION 18A 仮定法 (1) 主語に仮定の含まれている場合 第 9 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 18B／『英文翻訳術』SECTION 30 SECTION 18B 仮定法 (2) 副詞句に仮定の含まれている場合 第 10 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 18C／『英文翻訳術』SECTIONS 31, 32 SECTION 18C 仮定法 (3) 発想を転換する 話法 第 12 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 19A／『英文翻訳術』SECTIONS 33, 34, 35 SECTION 19A 話法 (1) 直接話法を生かす 第 13 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTION 19B／『英文翻訳術』SECTIONS 36, 37, 38 SECTION 19B 話法 (2) 直接話法を掘り起こす 強調構文、省略構文、接続詞 第 14 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 20, 21／『英文翻訳術』SECTIONS 39, 40 SECTION 20 強調構文 SECTION 21 省略 (共通) 構文 第 15 回『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』SECTIONS 22, 23／『英文翻訳術』SECTIONS 41D, 41A, 41B SECTION 22 接続詞 (1) Except, Without SECTION 23 接続詞 (2) Until, Before 第 16 回 まとめと小テスト③
授業の概要	翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。
予習	課題を翻訳しタイピングしておく。 各回、約3時間の事前学習を要する。
復習	返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。 各回、約1時間の事後学習を要する。
テキスト	テキスト (演習課題) は、クラスで配布する。
参考書	・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄 (バベル・プレス) ・『翻訳英文法』安西徹雄 (バベル・プレス) ・『翻訳の極意』小林淳夫 (南雲フェニックス) ・その他
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	毎週月曜日 (13:00～14:30) 研究室 メールなどによる事前の予約が望ましい。 メールアドレス: hamagawah@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	毎回の課題は、採点したあとクラスで返却する。

講義科目名称：日英翻訳技法I

授業コード：

英文科目名称：Japanese→English Translation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：INT417		

授業のテーマ及び到達目標	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回	和文英訳技法の基本ーその1	
	第2回	和文英訳技法の基本ーその2	
	第3回	日本文の主語→英文の主語ーその1	
	第4回	日本文の主語→英文の主語ーその2	
	第5回	日本文の主語→英文の主語ーその3	
	第6回	英語的な主語ーその1	
	第7回	英語的な主語ーその2	
	第8回	まとめ（中間）	
	第9回	動詞の選択ーその1	
	第10回	動詞の選択ーその2	
	第11回	使役動詞と態の用法ーその1	
	第12回	使役動詞と態の用法ーその2	
	第13回	和文英訳と英語の時制ーその1	
	第14回	和文英訳と英語の時制ーその2	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末テスト	
授業の概要	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。		
予習	Students must download and prepare the exercises before each class.		
復習	Students should review after each class to gain a better understanding of the translation techniques. This preparation is essential for success on the exams.		
テキスト	演習課題（プリント）を、Coursebaseで配布する。		
参考書	和英と英和辞典（例文の多いの）、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database. グググル翻訳は好ましくないの、ご注意ください。		
評価方法・評価基準	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project（12.5%）を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること. 宿題を完成した上、受講してください。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：日英翻訳技法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Japanese→English Translation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：INT418		

授業のテーマ及び到達目標	日英翻訳技法Iの上級講義。日英翻訳の際に留意すべき応用技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回	和文英訳技法の基本	
	第2回	日本文の主語→英文の主語：復習と応用	
	第3回	和文英訳と英語の時制：復習と応用	
	第4回	動詞の選び方：復習と応用	
	第5回	使役動詞と態の用法：復習と応用	
	第6回	直接話法と間接話法	
	第7回	日本語と英語の比較構文	
	第8回	上記の復習、中間試験の準備	
	第9回	まとめ（中間）	
	第10回	名詞と名詞構文の生かし方	
	第11回	否定の構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	長文演習	
	第14回	長文演習	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末テスト	
授業の概要	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。		
予習	Students must download and prepare the exercises before each class.		
復習	Students should review after each class to gain a better understanding of the translation techniques. This preparation is essential for success on the exams.		
テキスト	演習課題（プリント）を、Coursebaseで配布する。		
参考書	和英と英和辞典（例文の多いの）、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database. グーグル翻訳は好ましくないなので、ご注意ください。		
評価方法・評価基準	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project（12.5%）を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		
履修上の注意	英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。		

	宿題を完成した上、受講してください。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：比較文化

授業コード：

英文科目名称：Comparative Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：CUL141		

授業のテーマ及び到達目標	到達目標： 1) 「文化」（ある集団に属する人たちが共有する信念や価値観の体系）の定義を理解できる。 2) 日米の文化変形規則（Cultural Transformation Rule）（松本（2014）を参照）を理解することができる。 3) 日米の文化変形規則を学ぶことにより、日本文化とアメリカ文化の共通点と相違点を理解することができる。 テーマ： 文化変形規則（Cultural Transformation Rule）、集団志向、個人志向、依存志向、自立志向、自然志向、人為志向など。		
授業計画	第1回	授業のオリエンテーション／日米の比較文化①『謙遜志向』対『対等志向』 日本文化には、〈へりくだり〉を美徳とする『謙遜志向』のCTRがある。お辞儀をするのも、〈タテ〉に並べて上にいる相手への〈畏敬〉を表す手段である。一方、アメリカ文化には、相手と親しく対等であると考えようとする『対等志向』のCTRがある。自分に〈自尊心〉を持ち、相手とは常に〈ヨコ〉に並んで対等なので、〈親しさ〉を強調して握手をする。	
	第2回	日米の比較文化②『集団志向』対『個人志向』 日本人の特性として、和を尊重する集団性があるが、日本文化には、『集団志向』のCTRがあり、〈皆と一緒に〉いると安心する。一方、アメリカ文化には、私〈ひとり〉でという『個人志向』のCTRがある。開拓時代の孤立無援な環境が生み出したアメリカ人の〈自律〉的な個人主義が、今も彼らの気質の中に生き続けている。	
	第3回	企業—異文化理解の落とし穴 中国に進出した日本企業の中には、現地で従業員との間に、日常的問題から会社の運営方針まで紛争の火種が絶えず、トラブルにまで発展するケースが少ないくない。日本と中国の文化は違うのだから、ビジネストラブルは生じて当たり前、という異文化論もあるが、本当にそうだろうか。本講義では、企業組織を論じる際に見られる異文化理解の問題点について考える。	
	第4回	日米の比較文化③『依存志向』対『自立志向』 日本文化には、周りの人に〈甘え〉ようとする『依存志向』のCTRがある。そこでの人間関係は、〈人〉という字で表されるように、お互いに寄りかかり、〈優しさ〉重視で〈可愛がる〉依存型になる。一方アメリカ文化には、自分1人で自立しようとする『自立志向』のCTRがあるので、人間関係は〈H〉という字が表すように、〈自助〉の精神が重視される自立型になる。	
	第5回	日米の比較文化④『形式志向』対『自由志向』 日本文化には、〈型〉通りにしようとする『形式志向』のCTRがある。〈標準〉的な〈定型〉通り、〈画一〉的なことをするのが集団の〈規律〉になっている。一方、アメリカ文化には、〈自由〉にしようとする『自由志向』のCTRがある。〈個性〉の〈多様性〉を尊重し、型よりも〈中身〉を重視する。	
	第6回	宗教（日米比較） 日本で暮らしているとあまり実感できないが、生活の中で宗教が大きな意味を持っているという人は世界中にたくさんいる。宗教は多くの人にとって、日本人の想像以上に大きな影響力を持っている。宗教について、日米の文化比較から考える。	
	第7回	日米の比較文化⑤『調和志向』対『主張志向』 日本文化には、相手や周りの人たちに合わせようとする『調和志向』のCTRがある。暖かい人間関係を保つために、可能な限り対立を避けて、自分の主張を伝えるときも〈婉曲〉な表現で〈曖昧にする〉。一方、アメリカ文化には相手と対立してでも自分を主張しようとする『主張思考』のCTRがある。異質なものが混在しているアメリカでは、常に周りに向かって自分の〈本音〉を〈はっきりさせる〉ことが大切である。	
	第8回	日米の比較文化⑥『自然志向』対『人為志向』 日本文化には、自然の流れに任そうとする『自然志向』のCTRがある。稲作文化の長い歴史を持つ日本人は、いくら急いでも〈なる〉ようにしかならず、人生は、〈静〉かに〈待つ〉〈エスカレーター〉だと考える。一方アメリカ文化には主体的に流れを変えようとする『人為志向』のCTRがある。新大陸に渡り、〈自然に手を加える〉開拓によって新しい国家を築いたアメリカ人は、自然でも社会でも、必ずよりよいものに〈する〉ことができると考える。	
	第9回	中間テスト／研究対象としてのCTR ある国家、ある文化に属する人たちがどんな価値観を持っているかは、正確にとらえようとすればするほどつかみどころのないものに思えてくる。本講義では、CTRを研究対象とした場合に直面する困難点と、それを踏まえた研究のための条件を挙げたあと、CTRを研究することの意義を考える。	
	第10回	教育—ニッポンは学歴社会か？ 日本は学歴社会だといわれる。学歴社会とは、人々の地位を決める上で学歴の影響が強い社会である。しかし、日本は本当に学歴社会なのか。あるいは、どの程度学歴社会なのか。本講義では、国際比較によってこの問題を検証する。また、学歴社会論の日米比較を通じて、日本版学歴社会論の特徴を明らかにする。	
	第11回	日米の比較文化⑦『悲観志向』対『楽観志向』 日本文化には、ものごとを悲観的に考えようとする『悲観志向』のCTRがある。すべてが無常で、突然の不幸や別れや苦労は人生につきものなのだと悲観的に、〈否定〉的に考える。一方アメリカ文化には、逆に楽観的に考えようとする『楽観志向』のCTRがある。アメリカ人は「お会いできてうれしいです」などと、まだ会ったばかりなのに、出会ってうれしいと決めつけてしまうほど楽観的である。	

	第 1 2 回 日米の比較文化⑧『緊張志向』対『弛緩志向』 日本文化には、体に力を入れて頑張ろうとする『緊張志向』のCTRがあり、大切な時には緊張して（頑張る）のがいいこととされる。一方アメリカ文化には逆に力を抜こうとする『弛緩志向』のCTRがある。努力よりも（能力）重視の〈合理主義〉である。 第 1 3 回 価値観—フェアって何？ 日本は階級のない平等で公平な社会だと言われることがある。他方、日本はアンフェア（不公正）で身勝手な国だと非難されたり、日本人はフェア（公正）という理念すら理解できないとまでと言われることがある。往々にして前者は「国内常識」で、後者が「国際常識」であり、両者は逆転している。どうしてこのようなことが起こるのか、日米のフェアの価値観の比較を通して考える。 第 1 4 回 Cultural Transformational Rule (CTR) これまでの講義で取り上げた日米それぞれのCTRは、全体として各々が有機的なつながりを持ったシステムを形成している。本講義では、日米それぞれのCTRシステムについて、その有機的なつながりと形成過程を考える。 第 1 5 回 日英語の衝突とCTR 文化の衝突はほとんどの場合、言語の衝突とも複雑にからんでいる。本講義では、日本語と英語の衝突をめぐって、そこで浮かび上がる様々な問題と将来への課題を考えてみたい。 第 1 6 回 期末テスト
授業の概要	日本とアメリカの基本的な文化の違いを、日米の文化変形規則 (Cultural Transformation Rule)を通して考える。本講義では、日本とアメリカの8つの文化変形規則 (CTR)の違いを様々な角度から浮き彫りにし、CTRをめぐる諸問題を考える。グループワークでは、8つのCTRの異文化衝突の事例を分析し、ディスカッションを通して、その衝突の様々な要因を考え話し合う。
予習	英語のテキストを読んでくること
復習	毎回、講義・ディスカッションのあと、リアクション・ペーパーを提出する。
テキスト	松本青也『日米文化の特質』（研究社）
参考書	・有賀貞『概説アメリカ史』有斐閣 ・荻谷剛彦『比較社会・入門』有斐閣 ・エスターワニング『アメリカ人』河出書房 ・Kumi Inoue Ads Speak American Culture（広告からみたアメリカ文化）成美堂
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、課題・プリント(30%)、中間・期末テスト(50%) 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文化比較をおこなう場合、とにかく違いが強調されやすい。しかし、文化の違いと同時に、文化の共通性も理解してほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週水曜日（5限目）仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称：異文化理解

授業コード：

英文科目名称：Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：CUL150		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。 態度：他者の声を聴く態度を持つ。 到達目標：他者や異文化に対する正しい理解ができるようになる
授業計画	第1回 「文化」とは？「異文化理解」とは？ 「文化」の概念について考える。「異文化」を「理解」という行為について議論し、理解を深める。「理解」と「共感」など、他者との共生において重要となる概念について学ぶ。 第2回 大航海時代と異民族・異文化接触 人類にとっての「異文化接触」の歴史は暴力に満ちており、現在私たちが国際交流などで描くポジティブなイメージからは程遠かった。ヨーロッパにおける大航海時代を例に、植民地支配など民族間接触と暴力的支配の歴史を学ぶ。 第3回 アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度 北米を例に取り上げ「奴隷制度」の歴史を学ぶ。北アメリカにおけるプランテーションの成り立ちや奴隷としての「黒人」の扱いについて理解を深める。現在のアメリカにおける人種間の対立や差別の歴史的背景について学ぶ。 第4回 奴隷解放とブルースの誕生 「奴隷制度」という過酷な社会環境の中で、黒人たちがどのような文化を生み出していったのか、音楽に焦点を当て探る。労働歌からブルースが誕生した社会背景について学ぶ。ミシシッピー・デルタスタイル（カントリーブルース）を例に取り上げ、エスノミュージコロジーの視点からその音楽に込められた精神世界を学ぶ。ブルースを「理解」することについて議論し考える。 第5回 黒人社会とキリスト教～ゴスペルと黒人の精神世界～ 宗教音楽ゴスペルの世界について学ぶ。黒人社会にとってのキリスト教の存在意義と、アイデンティティに与えた影響について考える。ジムクロウ法やアメリカ南部に存在した様々な人種差別の現実について理解する。KKKなど白人至上主義と人種差別についての理解を深める。ゴスペルの世界に触れることで、当時の黒人の状況をどのようにして「理解」できるのか、議論する。 第6回 北部都市シカゴとリズムアンドブルース～カントリーブルースからシティブルースへ～ アメリカの工業化に伴い、南部から北部へと人口移動が始まった歴史を学ぶ。シカゴにおいて新たな展開をみせたブルースについて理解する。北部の都市で、新たな社会環境に置かれた黒人たちの生活と文化について学ぶ。シカゴブルースとして新たなジャンルとなった音楽から、当時の黒人たちの精神文化を「理解」する。 第7回 ゴスペルからソウルへ～アメリカ主流社会への同化主義と黒人音楽～ それまで黒人教会のものであったゴスペルが、ソウルという商業的音楽へと新たな展開をみせた社会状況について学ぶ。キング牧師の登場と公民権運動を迎えた1960年代、黒人たちの中にあった「いつかは白人のようになれる」と信じたオプティミズムとその挫折を、ソウルという音楽の中から読み取っていく。モータウンレコードに代表される同化主義的運動の背景にあったもののや、人種差別によって形成された低い自己肯定感やアイデンティティについて理解を深める。 第8回 ソウルからファンクへ～「ブラック・イズ・ビューティフル」と黒人アイデンティティの変化 同化主義を体現したモータウン・ソウルからファンクという新たな音楽の誕生について学ぶ。キング牧師やマルコムXの暗殺を通して、これまで抱かれていた人種平等の理想が崩れると共に、アメリカ黒人社会をリアルに反映した音楽の必要性の出現について考える。アフロヘアーや黒人特有のファッションに代表されるアイデンティティの変遷について理解する。 第9回 キング牧師と公民権運動 キング牧師の足跡に焦点を当て、激動の60年代を理解する。人種差別の歴史のみならず抵抗を続けた人々の歴史、音楽やアートを通してアメリカ社会の人種差別を変えようとした活動について学ぶ。 第10回 抵抗の音楽～レゲエ カリブ海に目を移し、ジャマイカの歴史に焦点を当てる。アメリカと同じような奴隷制の歴史やマルーンの抵抗、宗教運動ラスタファリについて学ぶ。レゲエという音楽の歌詞に込められた政治的意味について、ボブ・マーリーの作品をひもときながら考える。東西冷戦の中にあって、資本主義と社会主義の代理戦争のような暴力が存在したジャマイカで、レゲエの果たした政治的役割や民衆の心情について理解を深める。 第11回 文化は再びストリートへ～ヒップホップとR&B 急速に商業化していった音楽にリアリティを感じきれず、新たな黒人文化としてストリートから誕生したヒップホップに注目する。今日にいたってもまだ続くアメリカ社会の黒人差別をヒップホップ文化の中に学ぶ。黒人社会が抱える様々な課題（ギャングバイオレンス、ドラッグ、ティーンエイジ妊娠・出産、DV、貧困など）について学び、ヒップホップ文化がアメリカ社会で告発する問題意識と向き合う。 第12回 ヒップホップの世界的展開 ネパールやフィリピン、台湾などアジアで展開するヒップホップ文化に注目する。フィリピンのスラム街でブレイクダンスが踊られたり、ネパール語のラップが作られたりする背景に、アメリカ黒人が経験した社会的抑圧と差別の構造があることを理解する。似通った社会経験が共感を生み出し、人々をつなぐ現象について考え議論する。 第13回 共感がつなぐもの～沖縄とハワイ～

	島嶼社会としての沖縄とハワイの共通点に着目し、2つの島で行われる文化的交流について学ぶ。開発や観光、自然破壊や共同体の崩壊など、共通した歴史的体験が、音楽の中にどのように反映されるのか理解する。言語や文化の違いを超えて共感が生み出すつながりについて考える。 第14回 現代アメリカ社会における白人至上主義と人種差別 「オルタナ・ライト」など、トランプ政権誕生とともに台頭した新たな保守系白人至上主義とマイノリティーや移民をターゲットにした人種差別について学ぶ。白人警察官による黒人への暴力や、それらの事件にまつわる世論や抵抗運動などについて理解を深める。「異文化理解」よりも分断へと向かうアメリカ社会から、新たな共生の可能性について考える。 第15回 「異文化理解」の概念再考 文化的他者を「理解」することの限界と、その問題点について改めて考える。認識論的立場から「理解」を捉え直し、代替可能な概念についても考える。「共感」や「つながる」など、音楽という文化形態の持つ可能性について議論し、これからの文化共生社会へ向けて、どのような「異文化理解」が望ましいのか、考える。
授業の概要	新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたものは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。 「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史、事実関連を調べること。
復習	次回の内容との関連性を考え、概念などの再確認をおこなうこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加度（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができていますか評価します。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。「異文化理解」の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも異文化理解の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは採点后に希望に応じて返却します。

講義科目名称：Okinawan Studies

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：CUL348		

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this class is for students to use English to acquire a more proficient understanding of Okinawa through a variety of contemporary subjects and to improve their language skills and knowledge of the subject matter.		
授業計画	第1回	Orientation; geology, and geography, the constituent islands, population and units of local government	
	第2回	Outline of Ryukyuan history to 1879; quiz	
	第3回	Outline of Okinawan history, 1879 to 2000; quiz	
	第4回	Iha Fuyu, the origins of Ryukyuan・Okinawan Studies, and Iha's critics, quiz	
	第5回	Karate; quiz	
	第6回	Lacquer; quiz	
	第7回	Ceramics and the mingei undo; the Dialect Controversy; quiz	
	第8回	Textiles; mid-term summary quiz	
	第9回	Classical music and dance; quiz	
	第10回	Architecture and masonry; quiz	
	第11回	Okinawa's UNESCO World Heritage Sites; quiz	
	第12回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第13回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第14回	Okinawan cuisine, awamori, longevity and health foods; quiz	
	第15回	Student choice: women's history or education in Okinawa	
	第16回	Final summary quiz	
授業の概要	沖縄について、特に琉球王国の近代日本への吸収から今日までの歴史的経過や文化の概要の紹介を目的とする。王国時代についても必要事項について言及しつつ、米国や日本からの外圧、王国内の社会的、政治的関係や発展に焦点を当てる。英語のアーカイブ現代資料を利用し戦後沖縄の状況についての紹介をすると同時にG. H. カーやChalmers Johnson、大田昌秀などの研究者の様々な見解を紹介検討する。琉球・沖縄の驚嘆すべき文化の興隆から数項目を選び検討する。講義ではパワーポイントを使用する。日本語のキーワードを紹介しつつ英語で講義を行うことにより期せずして学生の英語聴解力、会話力、読解力の向上を促す。		
予習	Students should prepare for each class and gather data about the topic in order to make the class more fruitful.		
復習	Students should review what they learn in each class as that information will be discussed as part of future topics.		
テキスト	n/a		
参考書	講義にて紹介する。		
評価方法・評価基準	1) 質疑応答を通じての積極的姿勢、時間厳守（重視する）、授業への参加度、意識・関心度 2) 講義内容についての事前学習 3) 復習クイズ、プレゼンテーション、レポート、中間及び期末試験 【DP 1～4との関連】 ○ 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことが		

	できること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：国際関係論

授業コード：

英文科目名称：International Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS250		

授業のテーマ及び到達目標	グローバル化と地域社会、自己との関連を理解する。 知識理解：時事問題を説明できる。 思考判断：国際社会と自己との関連を指摘できる。 到達目標：国際社会と自分の生活との関連を理解し地球市民として考え行動できるようになる 関心意欲：国際社会に興味を持てる。 態度：国際情勢を持つ。		
授業計画	第1回	近代国家と国際社会－国際関係とは？ 「インターナショナル」の概念や、大戦後の国際社会の形成など国際関係の基礎について学ぶ。	
	第2回	グローバリゼーションの功罪 「インターナショナル」と比較しての「グローバリゼーション」について考える。政治、経済、文化、軍事などのグローバリゼーションがもたらした新たな可能性と問題点について学ぶ。	
	第3回	私たちの生活とグローバリゼーション グローバリゼーションという概念を把握した上で、私たちの生活と実際にどのような関係を持っているのか、「ファストファッション」を例に学ぶ。最新のファッションが私たちの日常生活で低価格で提供されている一方で、途上国の生産者がどのような生活・労働環境に置かれているのか、ドキュメンタリー映画を参考に理解する。	
	第4回	多国籍企業と途上国の労働力搾取 バングラデシュやホンジュラスでおこなわれている多国籍企業による労働力搾取や児童労働の現状を学ぶ。日系企業によるグローバルな展開についても学び、搾取の問題が私たちの生活に密接に関わっている現実について理解を深める。	
	第5回	グローバル資本主義とフェアトレード 世界の貧富を拡大させ、搾取や人権侵害の経済活動を展開する多国籍企業とその背後にあるグローバル資本主義について学ぶ。過去の大戦からブロック経済への反省、自由貿易への移行に至った歴史的背景について学ぶ。環境や人権問題が深刻化する中、フェアトレードという新しい貿易の形も生まれた。その現在と課題、限界と可能性について理解を深める。またフェアトレードの手法の是非について議論する。	
	第6回	WTO, IMF, WBとグローバル資本主義、南北問題、経済格差、投機マネーとトービン税 様々な国際機関による自由貿易の推進について学ぶ。ジョセフ・スティグリッツのグローバル資本主義批判について理解した上で、新たな経済の仕組みが可能か、議論する。	
	第7回	先進国による食料廃棄と途上国の飢餓問題 先進国による飽食や世界的な食料廃棄が加速する中で、途上国における食糧価格の高騰や食糧危機が起こる現状について学ぶ。日本で起こった米不足が、最終的にはアフリカの小国にまで影響が及ぶようなグローバル経済の仕組みについて理解する。	
	第8回	食糧危機とNGOの取り組み ドキュメンタリー映画 “Taste the waste” から食料廃棄の現状を理解する。また国際的NGOや国連組織が、食糧危機の問題解決に向けてどのような活動を展開しているのか学ぶ。子どもの貧困やフードバンクなど、地域社会の身近な問題や活動についても紹介し、地域社会と地球社会のつながりについて理解を深める。	
	第9回	紛争と難民 20世紀は紛争とともに多くの難民を生み出した。シリア難民や東南アジア少数民族の難民を例に、難民問題と支援の現状を学ぶ。日本の難民政策についても紹介し、難民問題を自分たちの問題として理解する。	
	第10回	国際テロリズム 同時多発テロで幕開けた21世紀。連日のように報じられるテロのニュース。なぜテロリズムは起きるのか、その原因について考える。ヨーロッパやアメリカにおける移民への対応の歴史を学び、現在の難民問題とテロリズムの関連についても理解を深める。	
	第11回	人種差別とヘイトスピーチ アメリカの新たな移民政策や台頭する白人至上主義、それに伴うヘイトスピーチの問題について考える。日本における在日コリアン差別やヘイトスピーチの問題も合わせて学ぶ。ゼノフォビアやポピュリズム、ファシズムなど人々の不安やそれを利用した政治のあり方などについても議論し理解を深める。	
	第12回	多様性と多文化共生社会 人種差別や性差別など、様々な差別を超えて多様性を受け入れ社会の強みとしていく多文化共生社会の可能性について議論する。現状の課題を把握しつつ、問題解決に向けてどのような政策や活動が必要なのか議論する。	
	第13回	子どもの権利条約 国際的に子どもをめぐる人権問題について学ぶ。児童労働や人身売買、性的搾取など子どもに対する深刻な人権侵害について理解する。国際的NGO活動の現状を通して、問題解決の可能性について議論する。	
	第14回	ナショナリズムと軍事主義 愛国主義的教育など、現在の政治状況が軍事主義とどのような関わりを持っているか理解する。大学における軍事技術の研究や開発、デュアル・ユースや軍産複合体の問題など、現在日本も抱える問題について議論する。	
	第15回	アメリカの世界的軍事戦略と沖縄 アメリカの世界的軍事戦略と追従する日本政府に翻弄され続ける沖縄の現状について学ぶ。沖縄における平和運動の歴史や本学の建学の精神になっている世界平和への希求についても理解を深	

	める。 第16回 総括
授業の概要	新しい国際秩序に向けてどのような取り組みが国際社会においてなされているかを理解する。既存の理論のみならず、現状分析に基づいた新たな国際関係論を理解する。異文化間の相互理解や、世界的視野で様々な社会問題を考える重要性について認識する。複雑化する国際関係現象を的確に把握する上で国際関係論の習得は重要であり、そのためには、国際関係論の根幹を支える伝統的学問分野の諸原則を理解することが不可欠である。本講義では、学際的かつ実践的手法を採用し、国家関係および人間生活を取り巻く様々な領域に、横断的かつ総合的にアプローチする。特に第二次世界大戦以降の国際関係史の変遷と国際社会における諸原則の発展に重点をおいて本講義をすすめる。本講義では、受講生が国際関係史や国際問題をより身近に感じ、国際関係論の基本を理解することを目指す。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な専門用語などを調べておくこと。
復習	回りの講義との連続性を意識しながら、事実関連の再確認をおこなうこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当が毎回準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加度（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。全ての人への配慮とリスペクトを希望します。私語などの授業妨害行為は禁止します。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や世界の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。国際平和学を履修していること。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：国際人権論

授業コード：

英文科目名称：International Human Rights

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS357	

授業のテーマ及び到達目標	国際社会における人権の役割、現状を理解する能力を養うことができるようになる 知識理解：国際人権とは何かという知識を持つことができる 関心意欲：国際人権問題に対する基本的な理解をし、興味関心を持つことができる 思考判断：国際社会における人権問題に対する判断力を養うようになる 態度：地域社会の出来事と、人権問題に対する探求心を持つようになる		
授業計画	第1回	国際人権を何故学ぶのか（イントロダクション、講義） 授業イントロダクション ・授業を通して何を学ぶのか知る 国際人権の始まりを映像で見る ・私たちの身の回りの人権問題について気づく ・国際人権の概念がつけられてきた歴史に触れる	
	第2回	世界人権宣言に始まる、人権とは何か？ （2）世界人権宣言、和訳、口語訳を通して知る ・そもそも「人権」とは何かを考え、議論し合う ・私なりの世界人権宣言訳文を作成	
	第3回	いじめ、ヘイトスピーチ、ポピュリズム政治にみる人権問題 （3）いじめ、ヘイトスピーチ、ポピュリズムについて ・メディア、私たちの身の回りに存在しているこれらの事象について気づく ・対立から対話へ、どのように乗り越えて行くのか考える	
	第4回	世界の難民、移民問題を学ぶ（講義・WS） （4）世界の難民、移民問題を学ぶ ・主に近年のシリア難民について知る。 日本の難民を受け入れしない姿勢、ヨーロッパ各地の難民、移民政策を知り、世界的に広がる難民、移民について知る。※この日に課題を出します	
	第5回	世界の難民、移民問題を学ぶ（ディベート） （5）世界の難民、移民問題を学ぶ その2 上記の課題をより深く学び合うために、事前課題を通して、ディベートを実施する。 ディベートのやり方を学び、個人としての意見表明を出来るようにする。	
	第6回	国内課題：ワーキングプア、ブラックバイト、ブラック企業の現実1 ワーキングプア、ブラックバイト、ブラック、これらの定義が何故生まれてきたのか？ 授業参加者自身の日常生活、アルバイトと学業、奨学金の状況を振り返りながら、ブラックバイト、ブラックな環境とは何かを学ぶ。	
	第7回	国内課題：ワーキングプア、ブラックバイト、ブラック企業の現実2 上記で学んだことを活かして、ではどうやったら巻き込まれないのか、アルバイト、就職活動に当たっての心構えを知る。	
	第8回	社会派映画に観る人権問題 受講生と相談をしながら、この年に一番関心のある「人権問題」に関係する社会派映画の映像を通して学ぶ人権問題。	
	第9回	沖縄：琉球から沖縄にみる人権問題 琉球～沖縄～日本、それぞれの世替わり、環境の中で生まれた沖縄における人権問題を知る。 写真、史実を通して人権を学ぶ。	
	第10回	女性、性的マイノリティ、子ども、障害者にみる人権問題 性的マイノリティ、LGBT、女性、障害者が関係する人権問題とは何だろうか？ 身近にある出来事を掘り下げ、日本や世界の取り組みを学び合う。	
	第11回	人権問題に向き合う：ソーシャルネットワーク・NGO取り組み 社会の中に存在する人権問題を、ソーシャルネットワーク、NGO等様々なアプローチが進んでいる。国内で、海外でどんな取り組みがあるのか知る。	
	第12回	人権問題に向き合う：世界各国の取り組み 日本ではあまり存在していない人権問題、もしくは日本特有の問題、国が異なると人権問題、意識は異なる。それを学び、日本の立ち位置を知る。	
	第13回	人権侵害をなくすための仕組み（参加型プレゼンテーション）その1 上記で学んできたことを活かし、グループで掘り下げたいトピックを取り上げ、全体共有を行う。参加型のミニワークショップを行う。（各グループ15分程度の発表）	
	第14回	人権侵害をなくすための仕組み（参加型プレゼンテーション）その2 上記で学んできたことを活かし、グループで掘り下げたいトピックを取り上げ、全体共有を行う。参加型のミニワークショップを行う。（各グループ15分程度の発表）	
	第15回	まとめ～国際人権を学んだことを日常にどう役立てるのか～ 前授業を振り返り、講義を振り返る。一番印象に残ったことは何だったのか、個人として、これから社会に出ていく若者として何を活かして行くことができるのか、対話する。	
授業の概要	国際連合憲章（1945年）は、前文において「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女……の同権とに関する信念をあらためて確認」とし、第1条で「人種、性、言語または宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励すること」を国際連合設立の目的の一つとした。しかし、私たちの日常生活では、基本的人権の尊重が行われているだろうか、世界の現状はどうだろうか、現状の把握から始まり、国際人権の果たす役割、問題となっている人権問題とは一体何であるのか、そこに携わる人や団体はどう		

	なっているのか学ぶ時間とする。
予習	社会的な問題に関心を寄せ、ニュース記事を収集、レビュー記事を書く
復習	授業で取り上げた課題をさらに深め、定着を図り、課題やプレゼンに備える
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（30%）、課題（レポート）（30%）プレゼンテーション（30%）授業への貢献・積極的発言（10%） ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	第13、14回目のプレゼンテーションはグループ発表を行って頂きます
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：NGO・NPO論

授業コード：

英文科目名称：NGO・NPO

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2単位 (2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：GLS367		

授業のテーマ及び到達目標	・ NGO・NPOの活動および取り巻く環境を学ぶ ・ NGO・NPO活動に何らかの形でと直接触れる ・ 本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで調査研究を行い発表・共有する		
授業計画	第1回	NGO・NPOのつくる社会（始めるにあたって大事にしたいこと、講義） （1）NGO・NPOのつくる社会 ・ 授業の進め方、評価方法、受講生に求めること ・ そもそもNGO・NPOってなんだろう？歴史から現在までの形まで	
	第2回	地域を見る 私の町の課題発見 （2）地域を見る 私の町の課題発見 それぞれ住んでいる地域に分かれ、地域をフィールドワークしてもらう、地域の良さ、課題、それに取り組む団体発見	
	第3回	地域を見る 私の町の課題共有 （3）地域を見る 私の町の課題共有 上記でまとめた内容を全体共有を行う。特に地域の課題に取り組む団体を発見し、それについて調べ、まとめ、共有を行う。プレゼンテーション方式	
	第4回	NGO・NPO・ボランティア行政、企業、NGO・NPOの役割 （4）社会を構成する、行政、企業、NGO・NPOの役割とそれぞれの違いを知る 前回で調べた地域で活動する団体も含めて、私たちの社会を構成する団体、市民活動を知る	
	第5回	社会企業家とNPO その1 （5）NPO・NGOと社会起業家・ソーシャルベンチャー等、新たな試みが生まれていることを紹介取り上げながら、活動に興味関心を持ってもらう。フィールドワークを予定している。2コマ連続使用予定。	
	第6回	社会企業家とNPO その2 （6）NPO・NGOと社会起業家・ソーシャルベンチャー等、新たな試みが生まれていることを紹介取り上げながら、活動に興味関心を持ってもらう。上記の続きのフィールドワーク2コマ連続使用予定	
	第7回	NGO/NPOケーススタディ 学生NGO・NPO 学生だからこそやれること、沖縄県内、県外のNGO／NPO、ソーシャルベンチャーで活動する人物および活動を紹介	
	第8回	社会派映画にみるNGO・NPO活動 NGO／NPOに関係する社会派映画の映像を通して学ぶ時間とする。	
	第9回	NGO/NPOケーススタディ 環境問題 沖縄の環境問題、それに取り組んできたグループの活動。	
	第10回	NGO/NPOケーススタディ 子どもと貧困 近年、沖縄の中で社会問題として取り上げられるようになった「子どもと貧困」問題について、それに取り組む団体の活動紹介	
	第11回	NGO/NPOケーススタディ 国際協力活動 国境を越えて活動を行うことの意味、海外活動、国際協力・交流活動の紹介	
	第12回	NPO/NGO学んだこと 成果発表に向けての準備 公開で成果発表を行うために各グループに分かれて準備を行う。 テーマ、対象、中身の準備を行う。過去の事例共有。	
	第13回	NPO/NGO学んだこと 学生自らの発表 社会的な活動に取り組むNPO/NGOからの学びの成果、公開発表（学んだ要素を通して地域の親子に対する成果提供）	
	第14回	NPO/NGO学んだこと 学生自らの発表 社会的な活動に取り組むNPO/NGOからの学びの成果、公開発表（学んだ要素を通して地域の親子に対する成果提供）上記と併せて2コマ使用	
	第15回	まとめ 全授業を振り返り、講義を振り返る。一番印象に残ったことは何だったのか、個人として、これから社会に出ていく若者として何を活かして行くことが出来るのか、対話する。	
授業の概要	NGO（非政府組織）そしてNPO（非営利組織）と呼ばれる市民グループの社会的役割が現在注目されている。社会のひずみの中で、小さな穴に落ちてしまう弱者、もしくは私だってその一人かもしれない。活動内容、分野、経済的な効果や影響等、新しい分野でありよく分からない点もあるその一つひとつ、授業者と皆さんとの協働でこの疑問を解決していく予定。 特に、私たち沖縄県内に存在するNGO・NPOをケーススタディとしてライフスタイルのあり方を見つめる時間とする		
予習	県内外で活動しているNGO・NPO活動 に関心を持ち、事前に出された題材のことを自ら調べる		
復習	実際に授業中に取り上げた活動を行う団体への訪問、調査やボランティア活動等を行う。		
テキスト	特になし		

参考書	日々の新聞およびニュース等
評価方法・評価基準	レポート、期末テスト、グループ研究発表、出席と授業への積極的参加 その他フィールドワーク60% 受講者の発表20% 授業態度・授業への参加度10% 演習10% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	第5・6回目は学外へのフィールドワークを予定しています。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：国際ボランティア論

授業コード：

英文科目名称：International Volunteer Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：GLS362		

授業のテーマ及び到達目標	国際ボランティア活動の意味と意義を理解することができる。 知識理解：国際ボランティア活動の中身や流れを理解する 関心意欲：地域社会で行われている活動に関心を寄せることができる 思考判断：国際ボランティア活動の抱える課題や取り組みに対し個人的な判断を持つことが出来る 態度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み		
授業計画	第1回	国際ボランティアの意義と必要性（WS，講義） 授業イントロダクション ・流れ、学生に求められること、評価等 ・これまで国際ボランティアを行った経験をもっているのか？ ・国際ボランティアとは何か？	
	第2回	マザーテレサにみる国際ボランティア活動について マザーテレサとは誰か？ ・彼女が行ってきた活動に触れる ・最も重大な人を助けるべきか、それとも援助した後に助かりそうな人を助けるべきか？ 国際ボランティアの中で出てくる疑問に答える。 マザーテレサの活動にみる国際ボランティア	
	第3回	民間の活動にみる国際ボランティア活動① 国際ボランティア活動の紹介その1 NGO、ボランティア団体の活動（アジア）	
	第4回	民間の活動にみる国際ボランティア活動② 国際ボランティア活動の紹介その2 NGO、ボランティア団体の活動（アフリカ）	
	第5回	国境を超える感染症、国際ボランティアの活動 日本の医療機関にみる国際ボランティア活動を学ぶ ・感染とは何か？ ・つくられるパニック ・適切に対応する感染症対策について	
	第6回	社会派映画にみる国際ボランティア活動 社会派映画を通して、国際ボランティアのテーマに触れる 視聴後、ディスカッションを行う	
	第7回	教育と国際ボランティア活動 教育分野の活動紹介 国際ボランティア活動を行っているゲストを招いて活動紹介を予定している（ゲストによって分野変更の可能性あり）	
	第8回	JICAボランティアにみるボランティア活動 青年海外協力隊、シニアボランティアとはどんな活動であるのか？ ・活動の職種 ・活動内容 ・応募の仕組み等学ぶ	
	第9回	在住外国人との多文化共生～沖縄のNGOの取り組み～ ・沖縄県で実施されてきた多文化共生調査、在住外国人の抱える災害における悩みに対して沖縄のNGOが取り組んでいる支援活動に触れる。 ・多文化共生という言葉は聞くようになってきたが、実際に外国人と共に防災に取り組んでいる活動紹介を行う。	
	第10回	大震災にみる国際ボランティア活動① 国際ボランティアの先進国日本が、海外援助を受け入れるきっかけになった3・11の東日本大震災について学ぶ ・この時に外国人はどのように過ごしたのか？ ・国際ボランティアの前に、あなた自身、災害の備えがありますか？	
	第11回	大震災にみる国際ボランティア活動② 実際に地域の中でボランティア活動を展開するために、本学において防災訓練の取り組みを授業中に行う ・大学の防災の備えについて知る（Mapping） ・多文化拠点になるために（昨年の授業の振り返りを知る） ・防災訓練計画	
	第12回	大震災にみる国際ボランティア③ 上記続き	
	第13回	フィールドワーク活動：地域在住外国人、住民のたの避難訓練① 地域の方々の方々と共に防災訓練を実施する 西原町の課題の一つ、大型MICE施設整備に向けて防災施設、取り組みが重要になってくるが大学として地域の課題に向き合う。	
	第14回	フィールドワーク活動：地域在住外国人のたの避難訓練② 上記続き	
	第15回	講義まとめ（震災に備えるために、大学としてできること発表）	

	講義後半を通じて学んだ西原町の災害への備えのために、大学としてできること、調査、研究を深めた結果を発表（発表会を地域の方々を招聘して行うことが出来るように調整する予定）
授業の概要	国内のボランティアに加え、なぜ人は国境を超えて活動するのだろうか？ ボランティアの意義、特性、これまでの歴史や活動内容を分野ごとに整理して学んでいく。国境を越えて、または国内の中で行えるボランティア活動について学び合い、人と人が出会い、様々な価値観が触れ合い、互いに学び合う豊かな経験の可能性を持つことについて学ぶ。 今回は、授業の後半において、実際に本学の拠点である西原町との連携プログラムとして、大学における防災拠点づくりに向けて実践活動を行っていく予定である。
予習	本授業の中で一度はどちらかの組織・団体でボランティア活動を行うこと。日々のニュースの中でのボランティア活動に関心を持つこと。
復習	授業で取り上げた課題に関して、より深い学びにつながるようにその課題を探究する努力を行うこと。
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業内レポート30% その他校外学習等への参加度30% 授業態度・授業への参加度20% 受講者の発表20% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	校外学習に参加できない場合、別途課題提出を行うので自ら申し出ること
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：海外ボランティア演習

授業コード：

英文科目名称：Overseas Volunteer Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS155		

授業のテーマ及び到達目標	海外ボランティアの実践的手法を学ぶ。 知識理解：海外ボランティアの活動紹介ができる 関心意欲：海外ボランティア活動に興味を持つ 思考判断：活動の取り組みについて指摘できる 態度：参加活動できるようになる 到達目標：自らボランティアに関心を持ち、自分に合ったボランティア活動を行えるようになる		
授業計画	第1回	イントロダクション 「ボランティア」とは 未だ日本語にならない「ボランティア」。その概念はどのように日本社会で受け入れられてきたのか。ボランティアの歴史を学ぶとともに、その定義を巡ってディスカッションをおこなう。	
	第2回	ボランティア活動と国際協力 先進国における国際協力の歴史と方法論の変遷について学ぶ。様々な国際協力のスキームと、海外ボランティア活動を比較することで「ボランティア」に対する理解を深める。	
	第3回	「慈善型」国際協力 募金活動や物資を送るボランティア活動について考える。歴史的にも古い宗教をベースとした慈善型ボランティア活動のあり方について学ぶ。その利点と問題点について議論する。	
	第4回	「技術移転型」国際協力 農業や工業など様々な分野における先進国の先進技術やビジネススキルを伝授・指導することで現地の生活向上を目指す技術移転型のボランティア活動について学ぶ。失敗例などを通して、その問題点について議論する。	
	第5回	「住民参加型」国際協力 慈善型、技術移転型国際協力の反省を受けて誕生した「住民参加型」国際協力のあり方とその実践について学ぶ。ワークショップを通してその手法を実践してみる。	
	第6回	フィリピンの社会と文化、歴史 海外ボランティアの実習先であるフィリピン社会について学ぶ。現在フィリピン社会が抱えている問題、特に都市貧困の現状について学び、それに対してどのようなボランティア活動が可能なのか考える。	
	第7回	フィリピンと日本との歴史的関係 太平洋戦争中の日比の関係、特に日本軍による占領や住民虐殺などの歴史に対する認識を深め、現地のボランティア活動をおこなう際に、人々との関係構築に役立てる。	
	第8回	フィリピン社会と海外への出稼ぎ フィリピン国内の経済状況の悪化に伴って増加してきた海外での出稼ぎ。日本へもエンターテイナーとしての就労や国際結婚を目的に多くのフィリピン人が在住した。その結果、「ジャッピーノ」と呼ばれる日比の混血の子ども達も多く誕生した。出稼ぎがもたらす家族の離散や国籍の問題などについて理解を深める。	
	第9回	フィリピン社会と家族 「家族」をキーワードにフィリピン社会や文化的価値観を理解する。家族や親戚の絆を大切にしているフィリピン社会が、貧困や様々な社会問題に対してどのように家族関係を活かしているか学ぶ。	
	第10回	都市貧困の現状 特にフィリピンにおける都市貧困の問題を理解する。その現状と原因について学ぶ。どのような対応が必要なのか、グループ・ディスカッションを通して議論する。	
	第11回	フィリピンにおける社会福祉とボランティア活動 社会福祉先進国としてのフィリピンから、社会福祉とボランティア活動の意義について学ぶ。特に「国際社会福祉」のあり方について議論し、現場でのボランティア活動へ活かすための学びをおこなう。	
	第12回	幸福論～豊かさとは、幸せとは～ 「援助」を再考する。私たちが持っている価値観をもとに「豊かさ」や「幸福」について改めて考える。途上国のカウンターパートと関わる上で、援助のそもそもの目的は何なのか、議論し理解を深める。	
	第13回	援助と自立 インドの子ども達で作る組合の例から、援助と自立について学ぶ。NGOの支援の方法や、受益者との関わり方などについて議論を深める。	
	第14回	ボランティア活動計画の作成 海外ボランティア実習の活動計画を練る。現場の紹介と可能なボランティア活動の種類などについても学ぶ。	
	第15回	実習へ向けてのオリエンテーション 現地でのボランティア活動計画をもとに、治安状況や危機管理について学ぶ。現地コーディネーターへの質問や、訪問施設の詳細についても理解を深める。	
	第16回		
授業の概要	海外ボランティアならびに国際協力の基礎を学ぶ。「ボランティア」の意義や目的など根本的な問いをワークショップやディスカッションを交えながら考える。国際ボランティアがなぜ必要なのか、世界の現状を学ぶとともに、私たちにできることを考える。具体的な国際ボランティアの例をもとに、国際ボランティアが目指す		

	ものについて議論する。本授業は「海外ボランティア実習」を履修する上での必修科目となっており、実習参加希望者は、この演習を履修しなければならない。実習に参加しない学生も履修することは可能である。
予習	次回の内容について与えられた事項を調べておくこと
復習	次回の内容との連続性について考え、事実関連を再確認すること。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業でのワークショップなどへの参加度を重視します。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。 授業態度40% 小テスト・授業内レポート30% 受講者の発表30% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。他人へのリスペクトと配慮を常に心がけて下さい。私語などの授業妨害行為はそもそもボランティアの精神と相反するものです。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：メディア情報などを活用し最新の国際情勢やボランティアをおこなう地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。本プログラムの履修に合わせて、国際ボランティア論も同時履修であると更に学びが深くなるのでお勧めです。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題は採点後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：海外ボランティア実習

授業コード：

英文科目名称：Overseas Volunteer Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS156		

授業のテーマ及び到達目標	ボランティアの実践を体験する。 知識理解：ボランティアのノウハウを説明できる。 関心意欲：実践に興味を持てる。 思考判断：理想的な実践手法を指摘できる。 態 度：ボランティア活動に慣れる。 到達目標：海外ボランティアの必要性を説明できるようになる。海外ボランティアに自ら積極的に関わられるようになる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 実習に先立ち、現地でのスケジュール、必要な携行品、危機管理に関する注意事項の確認を行う。保護者を含めた2回のオリエンテーションを行う。	
	第2回	現地視察と観察研究 演習で学んだ現場を実際に訪れ、参与観察を行うとともに、与えられた課題に対する調査を行う。	
	第3回	現地聞き取り調査とディスカッション 参与観察に加え、現地コーディネーターや関係者に対する聞き取り調査を行い、その情報をもとにディスカッションを行う。	
	第4回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション① スモーカー・マウンテンと呼ばれるフィリピン最大のゴミ山を訪問する。パラダイス・ハイツやハッピーランドなど、ゴミ山で生計を立てている住民の地域を訪れ、参与観察を行うとともに、ボランティア活動を行う。ゴミ山の周辺で活動している国際NGOのオフィスを訪問し、その支援について学ぶ。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第5回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション② 第二のスモーカー・マウンテンと呼ばれるパヤタスのゴミ山を訪問する。ジャンクショップなどを訪れ、実際に拾ってきたゴミをどうリサイクルして商品に変えているのか、ゴミ山で生計を立てている住民の地域を訪れ、参与観察を行うとともに、ボランティア活動を行う。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第6回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション③ マザーテレサの施設(Missionaries of Charity)を訪問する。身寄りのない高齢者の施設であるホスピスで奉仕活動を行う。また児童養護施設においてもボランティアを行う。シスターたちへの聞き取りを行い、施設の活動内容についても詳しく学ぶ。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第7回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション④ JRED (Joint Resettlement for Economic Development) と呼ばれる移住コミュニティーへホームステイを行なう。JREDがあるサンマテオ市の市役所を訪問し、市長や副市長への表敬を行なうとともに、社会福祉課の職員にJREDに関する聞き取りを行い、現状を把握する。JREDでは、各家庭における現状を観察し、ホストファミリーへの聞き取りを行うとともに、コミュニティー活動へボランティアとして参加する。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第8回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑤ JREDにおける2日目は、引き続き参与観察と聞き取り調査を行うとともに、炊き出しなどのボランティア活動を行う。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第9回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑥ フィリピンマニラ最大のスラム街、トンド地区を訪問する。JICAや日本のODAがどのようなプロジェクトを現地で進めているかを学ぶとともに、現地での聞き取り調査をもとにして、その功罪について考える。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第10回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑦ マニラ郊外のナボタスにある海上コミュニティーを訪問する。日本の高潮対策プロジェクトの現地コミュニティーへの影響を学び、参与観察を行うとともに、国際協力のあり方について考える。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第11回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑧ マニラ郊外にあるCaloocan Universityを訪問する。貧困家庭出身の通う学生が大半をしめる大学で、交流を行う。学生に対する聞き取りを行ったり、ともにイベントに参加し同年代の若者たちが直面している様々な課題について共有する。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第12回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑨ マニラのビジネス地区であり富裕層が暮らすマカティ地区を訪問する。地区における人種構成や経済格差の現状を参与観察するとともに、スラム街との差異について観察・調査する。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第13回	ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑩ フィリピン最古の児童擁護施設であるAsilo de San Vicente De Paulを訪問する。ボランティア活動を行うとともに、子どもたちとの交流を通してフィリピンにおける貧困の問題について考える。また施設の運営について学び、日本との比較をおこなう。またその内容について振り返りと学びを深めるためのディスカッションを持つ。	
	第14回	実習の総括 帰国前そして帰国後、実習の総括となるディスカッションをおこなう。	

	第15回 最終報告セッション 講義やオリエンテーションなどにおいて、実習の成果を報告する。 第16回
授業の概要	海外ボランティア演習は、実学であり活学である。そうであるからこそ、この真髄は、文献ではなく、ボランティア活動の現場の中に見いだされる。本実習において、受講生は実際に海外でボランティア活動を体験し、個人やグループの経験をつうじて、ボランティア活動の意義を実感することとなる。例えば、ボランティアの現場における異文化コミュニケーション、カウンターパートとの関係構築、政府関係機関やNGOとの調整といった様々な問題を受講生が認識し、その克服法を受講生自身が提唱するとともに、実行する。
予習	翌日のスケジュールを事前によく読み、授業との関連についてよく考えること。
復習	一日の体験を振り返り、日記をつけておくこと。
テキスト	現地や事前オリエンテーションにて資料を配付する。
参考書	マルチメディアを活用し、現地の政治状況などを常に把握するように努めること。そのための資料の紹介は、オリエンテーションの際におこなう。
評価方法・評価基準	実習日誌、実習レポート、現場評価等により総合的に評価する。 日誌・レポート50% 実習態度30% 事後活動20% 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	事前オリエンテーション（2回）に必ず出席し、積極的に参加すること。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題は採点後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：マーケティング

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Business Marketing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
上地 恵龍			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 マーケティングの基礎について理解を深める。 【到達目標】 ケース・スタディをもとにマーケティングの機能、役割、戦略などの全体像を理解するとともに、その基礎的な用語や考え方を習得すること。指導教員より与えられたテーマについて調査し、調べられてきたことを発表したり、議論することができるようになる。		
授業計画	第1回	マーケティングとは 製品やサービスの生産・流通・消費を通じて企業と消費者の取引システムの構築と維持ための活動であることを理解する。	
	第2回	マーケティング・ミックスの概要 企業はターゲットとする客層のニーズを満たすためにさまざまなマーケティングの手段を持ち、最適な組み合わせがマーケティング・ミックスである。その手段並びに流れについて学習する。	
	第3回	マーケティング戦略の重要性 マーケティング手段を決定した後、市場を把握、分析し、標的市場に対するアプローチの戦略を立て、多様なマーケティング活動を行う上での指針となるのがマーケティング戦略の重要性を確認する。	
	第4回	消費者の行動分析 消費者行動分析を通じて製品やサービスのマーケティング戦略を決定する事が重要になる。消費者が特定の製品やサービスを購入するにいたった経緯やプロセスと消費者の行動や生活様式などと関連付けながら分析するについて考察する。	
	第5回	製品ライフ・サイクルと製品戦略 人類に寿命があるように、製品にも誕生から死滅までの一生がある。製品ライフサイクル理論を活用すればビジネスの寿命を予測できるようになる事例から見るその違いを学び。	
	第6回	ブランディングとは（区別性の明確化） ブランディングは重要なマーケティング戦略であり、ブランディング戦略を理解するために必要な要素と環境を理解する。	
	第7回	ブランド戦略（商標化の対応策） ブランドの生命力を持続させるために、顧客によりイメージを与える事において、ブランド戦略に欠かせないのが商標権です。その基本的な内容について理解する。	
	第8回	広告メディア戦略（4大メディアとは） 日本において、商品やサービスの認知度アップや購買促進等を目的とした広告には、多種多様のメディアが存在し、商品やサービスによってその活用方法を異なることを理解し、日常生活に触れる広告メディアの戦略について分析する。	
	第9回	ソーシャルメディアについて（SNSのメリット・デメリットとは） インターネット広告の登場により、総広告費の各メディアが占める割合も変化し、広告主はより効果的な広告を配信するようになった。ソーシャルメディアとSNSの特徴や長所・短所について整理する。	
	第10回	顧客価値と顧客満足（LTVとCSの認識） 人口減少、顧客ニーズ多様化を背景に、マスマーケティングから個人対応マーケティングへの転換が図られている。そのためには、顧客を知り、顧客を満足させ、顧客に必要とされる関係を作り維持しなければならない。マーケティングに必要な顧客価値の考え方について学ぶ。	
	第11回	顧客満足戦略（CSSの展開） 「顧客＝お客様 第一主義」「消費者主義」、経営の基本であり、マーケティング戦略の基本である。98%のリピード率を誇る東京ディズニーの運営について解説する。	
	第12回	インターナル・マーケティングの実践 企業内のコラボレーションから市場開発力にいかにつなげ、企業活動における部門間コラボレーションの必要性について理解する。	
	第13回	業種別マーケティングの事例紹介 その1 最新の事例を紹介し、受講者の感想を確認する。	
	第14回	業種別マーケティングの事例紹介 その1 最新の事例を紹介し、受講者の感想を確認する。	
	第15回	業種別マーケティングの事例紹介 その1 最新の事例を紹介し、受講者の感想を確認する。	
	第16回	まとめと期末試験	
授業の概要	マーケティングは単なる企業の営業活動ではなく、自社（商品）の顧客にとって価値のある商品を創造し、伝達し、提供していく企業の機能である。本講義では、マーケティングの活動を企業の持続的成果を実現するためにはどのような意思決定を行う必要があるについて具体的な事例を交えながら講義		

	をする。 予習：講義計画の内容に合わせて新聞や雑誌などから関連した記事を探し、読むこと。 復習：講義時に紹介された事例などをキーワードから検索し、理解を深めること。
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること
テキスト	相原修（著） 「ベーシック マーケティング入門」 （日経文庫） 2007年
参考書	安田貴志（著） 「マーケティングのしくみ」 日本能率協会 2007年 安田貴志（著） 「マーケティングのしくみ」 日本能率協会 2007年
評価方法・評価基準	課題の提出：60パーセント（計3回） 最終レポート：40パーセント（計1回） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。携帯電話の電源はOFF、講義中の私語は慎まれない。講義する側のみならず、講義を聞いている他の学生にとっても迷惑になる。
オフィスアワー	月曜日・火曜日・水曜日 12：00－13：30 上地研究室 その他の時間については事前にアポを取り、対応する。
課題に対するフィードバック方法	・与えられたテーマについてマーケティング企画書を提出し、授業時に発表する。内容についてその都度評価する。 ・最終報告書については教員が評価して各自のメールアドレスへ返却する。 ・また毎回の授業の内容については理解を深めるように討議の時間を設ける。

講義科目名称：インターンシップ

授業コード：

英文科目名称：Internship Program

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
		ナンバリング：BUS460	

授業のテーマ及び到達目標	知識理科：職業・業務に関する情報を把握・研究するとともに就業体験により見識を高める。 自己理解：実際の就業体験により自身の能力やスキルの理解や自己分析の機会を得ることができる。 関心意欲：就業に対する関心を強く持つ。 思考判断：仕事の概要・内容等に関する意味・働きを理解し、理論と実践の隔たりや社会に対する理解をする。		
授業計画	第 1 回	インターンシップの心構え インターンシップは、受け入れ企業の協力がなくては成り立ちません。企業側は、多忙な務の中で、インターンシップ生を受け入れるための準備、人員配置など、コスト負担をしていることを理解し、大学の代表としてその企業に行く、ということを心構えの重要性を説明する。	
	第 2 回	事前指導、行動日程、希望先選定 学生の興味・関心・学習意欲の向上、多様化する学問分野への対応のため、多様な業種・職種の受入先の開拓・確保。適切な受入先を学生に提示し、受入先の業種・業務内容と専攻分野との関係をそれぞれの学生と整理していく上。希望先を手引きの日程に合わせて選定する。	
	第 3 回	先輩の話 昨年度インターンシップ授業を履修した先輩たちから業種別の実習先の体験や後輩たちへのアドバイスを講話の時間を設け、理解を深める。	
	第 4 回	希望先企業の選定 教職員のネットワーク、卒業生のいる企業、受入実績のある企業、就職実績のある企業の案内をする。また、学生が関心を示す教育効果高い企業の開拓も協力する。	
	第 5 回	履歴書の作成 項目別の書き方や注意事項を説明する。	
	第 6 回	履歴書の作成 完成した履歴書を確認し、必要あれば再度作成を指導する。	
	第 7 回	希望先企業の調査・研究 志望動機を書く前の準備段階として、まずはインターン先の企業のことをしっかり理解する必要があることを説明する。その理解するための参考すべき情報源について紹介する。	
	第 8 回	希望先企業の研究レポートの作成 事前に指導教員が用意した調査項目に各自が志望先企業の情報を整理し、レポートとして提出する。	
	第 9 回	希望先企業の研究レポート発表 受講者全員の前で整理した情報を発表し、互いの成果を確認しながら、良い点を参考して学習する。	
	第 1 0 回	志望理由書の作成 なぜその会社のインターンでなければダメなのか、自分が今興味を持って取り組んでいることや、将来身につけたいスキルなどがあり、それをもっと深く学べるから魅力に感じているなどのことを伝える書き方を練習する。	
	第 1 1 回	企業実習の心得 インターンはあくまでも練習。その先には就職活動の本番が待っているわけですから、まずは積極的にチャレンジして、自分自身の経験値のために全力を臨む姿勢の心得を説明する。	
	第 1 2 回	申請書類の確認 効率的インターンシップ依頼手続きを進行するため各種の書類の最終確認をする。	
	第 1 3 回	職場のマナー（１） 事前学習として基本的なビジネスマナー、業務上の基礎知識等を学習し、学生に動機付ける機会を提供する。	
	第 1 4 回	職場のマナー（２） 個別の学生に業種別のビジネスマナーの注意点、業務上の基礎知識を学習の機会を与え、学生に職場環境の適応能力を高める。	
	第 1 5 回	まとめ 実習前の最終確認や受講生それぞれの質疑に対して答える	
授業の概要	インターンシップの目的は、「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」と、（平成 9 年教育専攻プログラム）となっており、基準を満たしたものに対しては単位が与えられる。夏期休暇中の 2 週間程度、企業において就業体験を積む。事前指導では、テキスト、学外から講師を招いての講習を予定している。インターンシップの実施にあたっては、学生の仕事に対する意識向上だけではなく、配属先の活性化にも大きな効果をもたらすことを目標とする。		
予習	インターンシップ先企業研究や実習における必要な知識を事前に習得しておく事。		
復習	事後復習では、各自で研修報告をまとめることでキャリアデザインに資するものとし、併せて当該業種の現状や課題に関する情報を提供することで本科目の効果をいっそう高めることとする。 また、実習実施後にお世話になった相手先に御礼の葉書または文章を送付する事。 報告会でのプレゼンテーションの準備および報告書の作成		
テキスト	プリント資料を逐次配布する		

参考書	JOB HUNTING GUIDE BOOK 2017/ 沖縄キリスト教学院大学
評価方法・評価基準	学生のインターンシップに関する評価は ①各種提出資料の期限遵守20% ②研修先による評価50% ③個別報告書の内容30%を参考に決められる。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	事後報告書（A 4 サイズ 2 枚）は必ず提出すること。また、派遣先での実習風景を撮った写真も提出すること。なお、本学のインターンシップは、自分が働きたい分野での企業や機関に自ら研修を依頼する方式をとっているため、自主性と独立心が求められることを強調したい。
オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日・金曜日 11:30より13:00 上地研究室
課題に対するフィードバック方法	授業時随時質問受け付ける。事前アポにより個別指導を行う。

講義科目名称：キャリア・ガイダンス

授業コード：

英文科目名称：Career Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：BUS295		

授業のテーマ及び到達目標	・自分の特徴や能力を知り、それらを文章や言葉で表現することができる。 ・将来に向けて具体的な目標を立てる等、自らのキャリアをデザインすることができる。 ・職業観の形成に向けて、必要な情報を収集する力、情報を吟味する力が身につく。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（講義の目的） 大学4年間のステージとサイクル 第2回 キャリアデザインって何だろう？ 第3回 自分を発見しよう 第4回 自分のPOPを作ろう 第5回 ロジカルライティング① 第6回 ロジカルライティング② 第7回 働くとは①身近な人をインタビュー 第8回 働くとは②身近な人のキャリアを分析 第9回 未来予想図を作ろう 第10回 今、求められている人材とは？① 第11回 今、求められている人材とは？② 第12回 今、求められている人材とは？③ 一般常識模擬試験を振り返り 第13回 表現力を高める① 第14回 表現力を高める② 第15回 まとめ 第16回 期末試験		
授業の概要	「自分らしい生き方」を発見するために、①自分を知る、②他人を知る、③社会を知る、の3つをキーワードに授業を展開します。特に、自分を知るために様々なワーク等を用いることで、自分の将来について内外から考える契機とします。 本講義を受講することで、未来を構想する力、計画・実行に移す力、社会人に求められる基礎力、就活に必要なテクニック等を習得することができます。		
予習	与えられた課題に取り組んだうえで、授業に臨む		
復習	授業での学びを深めるために、日頃から関連する記事や書物に触れることを習慣化する		
テキスト	「わたしの適性・適職発見」川合雅子（学文社）		
参考書	「7つの習慣」ショーン・コヴィー著など講義にて紹介		
評価方法・評価基準	中間・期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること … 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。毎回授業のため、予習・復習してください。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior ThesisⅠ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing.
授業計画	Although every student will follow a slightly different timeline, the rough outline is as follows: 4th year April: Topic selection, background reading and planning May - July: preparation and carrying out of research work (further reading, interviewing, preparing experiments, surveys etc.) Summer Vacation: begin writing up results. October - December: complete 1st draft with advisor's guidance January: make corrections according to advisor's instructions. February: submit final thesis
授業の概要	Having chosen a suitable topic for research, students will design and carry out research in order to answer a research question or prove/disprove a hypothesis relating to that topic. Although the advisor's area is English Language Teaching, each student's topic is not limited. Students will begin by reflecting on suitable topics for research, including considering issues of scope, academic relevance, and researchability. Students then select one appropriate topic. Students will then do background reading and research on the topic in order to develop a deep understanding of the wider topic, and to help develop a research question or hypothesis for research. Students then consider the various ways that research can be carried out, and apply the most suitable method(s) to their own topic. After carrying out the research and collecting data, students analyse the data and look for patterns and findings of interest.
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	This will depend on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
参考書	The advisor will provide instruction on this.
評価方法・評価基準	The advisor assigns a grade based on the final submitted thesis and the preparatory work that went into writing it. The scoring is determined as follows: Quality and amount of research: 30% Structure of thesis: 20% Quality of writing: 30% Participation: 20% An incomplete thesis will not receive a final grade, and therefore no credit. 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	It is important to maintain regular contact with the advisor, so that he can give appropriate guidance throughout the year.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：自主研究

授業コード：

英文科目名称：Independent Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
認定科目	1～4年	2単位	大学共通科目
担当教員			
沖縄キリスト教学院大学			
	ナンバリング：THE392		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 このコースは卒業論文とは別に興味を持った研究テーマをピックアップし深くリサーチするものです。このコースを通して、学生はアカデミックライティングのスキルを磨くことができます。 【達成目標】 (1) 自身でテーマを設定し主体的に探究することができる。(2) 調査、議論、論文作成、発表の各能力を高める。
授業計画	1. 学生は、指導を希望する専任教員に対して下記の事項を含む提案書を提出し相談する。 1) 日英両語による研究テーマ名 2) 研究の目的 3) 自主研究を行う理由 4) 指導教諭との面談日ならびに面談回数・時間 5) 学習・研究活動計画書／リーディング・リスト 6) 学習・研究の評価方法について 2. 下記の者の承認が得られた場合にかぎり、自由研究による履修が受理される。 1) 指導教諭 2) 学部長 3) 教学支援部長
授業の概要	カリキュラムに設置されていない科目（分野）について研究を深めたい学生、または設置されている科目について更に高度の知識・技能を身につけたい学生、を対象にした科目である。個々の学生が、適切な指導教員のもとで自主的に学習・研究し、その成果に対して単位が与えられる。
予習	基本的に学期を通して課題が出されます。詳しくは担当教員より説明します。
復習	基本的に学期を通して課題が出されます。詳しくは担当教員より説明します。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	学習・研究内容による評価が決定される。 成績簿には、「自主研究（…テーマ…）」と記される。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	強い意志と、自主性を持って履修すること。
オフィスアワー	(仮) 水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業中にコメントを付し返却する。また、発言、発表、プレゼンに関しては口頭で評価・助言を与える。

講義科目名称：海外研修

授業コード：

英文科目名称：Overseas Field Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
研修	1～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
未定			
	ナンバリング：CUL153		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：研修先の歴史・社会を説明できる。 関心意欲：異文化に興味を持てる。 思考判断：社会構造の違いを指摘できる。 態度：他者に対して寛容な態度を持つ。										
授業計画	1. 海外研修（国際交流）※研修内容検討中 ミシガン州立大学（もしくはポートランド・コミュニティ・カレッジ）研修 （8月下旬～9月中旬 約3週間） 語学強化訓練のみならず、正規授業への参加を通して学術的な力をつける。また大学における諸行事に参加し、参与観察を通しての研究体験もおこなう。諸施設見学やホームステイ等を通し、地域に触れ異文化体験をより深める。 2. 海外研修（国際交流） 台湾長栄大学研修 （8月中旬～下旬 約2週間） 博物館や文化施設の見学、大学の諸行事に参加することで、台湾文化に触れる。現地の大学生と、中国語の講義や、正規の講義（英語）に参加することで異文化交流を深める。また台湾訪問前に、長栄大学からの研修生と沖縄で交流をおこない、異文化に対するより深い理解を得る。 3. 海外研修（国際協力） フィリピン（現地の状況により研修先の変更あり）研修 （8月下旬～9月上旬 約10日間） フィリピン大学やフィリピン女子大学の交流を通し、日本と関係の深いフィリピンの現状を知る。マニラ近郊の福祉施設やスラム街で活動するN G Oの活動を視察、地域開発や国際協力の課題について理解を深める。また、発展途上国の様々な問題について直接調査し、考える機会とする。研修出発前に、沖縄県内での事前学習、ワークショップ、各種講習会に参加することが義務づけられている。 4. 海外研修（多文化共生） ハワイ・コミュニティ・カレッジ研修 （2月中旬～3月上旬 約3週間） 最初の2週間はカウアイ島のカウアイ・コミュニティ・カレッジにおいて異文化学習を英語で行う。その後オアフ島に移動、最後の1週間は現地でのフィールドワークをとおり、ハワイの歴史・文化・社会について学習を行う。										
授業の概要	本学の協定締結校において2～3週間の研修を行う。異文化を直接体験し、異文化に対する寛容さを養い、国際社会で活躍できる人間の資質を身につける。受講生はレポートを提出することが要求される。国際的視野をもつてものごとを認識、把握することで、意識を高め、地球市民としての自覚を養う。参加する学生は、事前に「異文化理解」の講義を通して海外研修に必要な基本的知識として沖縄・日本・米国の歴史、社会、文化について学ぶことが望ましい。 この講義とフィールドワークに参加することによって、学生たちは語学の学習のみならずグローバルなものの考え方、価値観、習慣、宗教等について体験的に学び、国際理解を深め、より寛容で広い視点を持つ人間に成長し、平和を志向して国際社会に貢献し得る人材となることが期待される。										
予習	-										
復習	-										
テキスト	特になし										
参考書	特になし										
評価方法・評価基準	-受講者のプレゼンテーション（発表）40％ -研修態度 40％ -課題提出 20％ 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること										
履修上の注意	[海外研修・・・実施前・後の日程] <table> <tr> <td>1. 研修説明会</td><td>6. 研修費振込</td></tr> <tr> <td>2. 研修参加希望者申込み・誓約書等提出</td><td>7. 保護者説明会</td></tr> <tr> <td>3. 研修オリエンテーション</td><td>8. 結団式（出発直前、空港にて）</td></tr> <tr> <td>4. 海外研修奨励奨学金説明会</td><td>9. レポート提出（帰国後）</td></tr> <tr> <td>5. 海外研修事前学習発表会・決定</td><td>10. 海外研修報告会（帰国後）</td></tr> </table>	1. 研修説明会	6. 研修費振込	2. 研修参加希望者申込み・誓約書等提出	7. 保護者説明会	3. 研修オリエンテーション	8. 結団式（出発直前、空港にて）	4. 海外研修奨励奨学金説明会	9. レポート提出（帰国後）	5. 海外研修事前学習発表会・決定	10. 海外研修報告会（帰国後）
1. 研修説明会	6. 研修費振込										
2. 研修参加希望者申込み・誓約書等提出	7. 保護者説明会										
3. 研修オリエンテーション	8. 結団式（出発直前、空港にて）										
4. 海外研修奨励奨学金説明会	9. レポート提出（帰国後）										
5. 海外研修事前学習発表会・決定	10. 海外研修報告会（帰国後）										
オフィスアワー	.										
課題に対するフィードバック方法	.										

講義科目名称：国際平和学

授業コード：

英文科目名称：International Peace Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS150		

授業のテーマ及び到達目標	21世紀における平和構築の可能性を考える。 知識理解：世界の現状を説明できる。 関心意欲：発展途上国の課題に興味を持てる。 思考判断：「グローバリゼーション」とその問題を指摘できる。 態度：地球市民としての意識を持つ。 到達目標：自らのライフスタイルと世界情勢のつながりを理解し自己変革できるようになる。
授業計画	第1回 「平和」と「暴力」 「平和」という概念を再考する。平和はなぜ必要なのか、平和である必要はあるのか、など根本的な問いに改めて答える。 第2回 世界における紛争の現状（1） アフリカ・シエラレオネ共和国の内紛を例に、「子ども兵士」や「植民地支配」、「人種差別」や「武器輸出入」など、多くの紛争地帯に共通する問題を考え理解する。 第3回 世界における紛争の現状（2） 引き続き、世界（特にアフリカ）を取り巻く歴史や政治をもとに、紛争が起きる原因を考える。レアアースなどの天然資源・鉱物資源の輸入を例に、私たちの生活と紛争の関連性、日本国と紛争地域の関わりについて考える。 第4回 人種差別と多文化共生（1） アメリカ合衆国における人種差別・民族対立の問題を例に、共生共存の課題と可能性について考える。 第5回 人種差別と多文化共生（2） 引き続き、民族間・宗教間の対立と共生の可能性を探る。また日本におけるマイノリティの現状や「ヘイトスピーチ」の問題についても考える。 第6回 ジェンダー・ジャスティス（1） 世界になお根強く存在する性差別の問題について考える。紛争地帯におけるジェンダー・ジャスティスの問題やネパールの人身売買の例を通して「ジェンダー」と平和について考える。 第7回 ジェンダー・ジャスティス（2） 日本におけるジェンダー規範と差別の問題を考える。またセクシャル・マイノリティの課題についても理解する。アメリカ合衆国におけるLGBTを取り巻く現状や人権の課題などについても考える。 第8回 国際テロリズムとは ―9.11以降の世界 「テロリズム」とは何かを理解する。「イスラム国」を例に、アメリカの中東政策の歴史やパレスチナ・イスラエル問題などを通して、テロリズムを深く考える。 第9回 グローバル化する難民問題 シリア難民を始めとする多くの難民の直面する問題について考える。難民が生まれる背景や、各国の受け入れに対する考え方なども理解する。日本国の難民政策についても考える。 第10回 軍事主義と軍産複合体（1） 軍事主義と人権について考える。また経済的側面から世界の紛争を考える。特に国連安全保障理事会メンバー国における軍産複合体の現状を理解する。軍事費が拡大の一途をたどる日本国の軍事主義と軍産複合体についても考える。 第11回 軍事主義と軍産複合体（2） アメリカにおける軍産複合体の歴史と愛国主義、戦争がビジネスとして成り立つ理由について考える。またその犠牲となる兵士たちの現状についても理解する。アメリカ海兵隊のブートキャンプ（新兵訓練場）の例を通して、どのようにして一兵士が愛国心と軍事主義的価値観を内面化し、戦場へと向かうのか、理解する。 第12回 アメリカの世界的軍事戦略と在日米軍基地 アメリカの世界的軍事戦略と日米同盟、そして在日特に在沖米軍基地の問題について考える。第二次世界大戦終結から現在に至るまで、沖縄における平和運動の歴史や日米の軍事主義に対する様々な抵抗のあり方について議論を深める。 第13回 キリスト教と平和 カトリックの聖人マザーテレサやキング牧師の活動を通して、信仰と平和のあり方を学ぶ。 第14回 地球市民社会の創造 地球社会と地域社会を結び、平和を実現するために必要なことについて議論を深める。平和な社会を実現するためにどのような社会の仕組みや法律、文化などが有効なのかについて考える。 第15回 地球市民の一人として（総括にかえて） Think globally and locally, act globally and locally, change personallyというスローガンを通して、今の時代に生きる私たちに必要な意識や行動について考える。一人ひとりにできること、やるべきことをあげ、平和を作る社会の一員としての自己を振り返る機会を持つ。 第16回
授業の概要	21世紀を迎えた最初の年、私たちが直面した現実はこの世界が平和ではないこと、政治経済のグローバリゼーションに伴う新たな宗教間の対立や国際的テロリズムの蔓延など、平和をめぐる問題の構造の急激な変化であった。 これらの新たな紛争の原因を明らかにすること、現状に基づいた新たな平和研究の取り組みが今、必要とされ

	ている。「平和」や「暴力」など、根本的な概念を理論的レベルで再考すると同時に、それらが私たちの日常生活でどのような意味を持つのか、様々な側面から「平和」を考える。その一環として沖縄の米軍基地問題から身近に存在する暴力と平和についても学習する。またキリスト教の視点から世界平和について考えてみる。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史的事実などについて調べておくこと。
復習	回りの講義との関連性において重要だと思う点を再確認しておくこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加度（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。平和の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも平和の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や授業で取り扱う地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：簿記論

授業コード：

英文科目名称：Bookkeeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	・決算書が作成できるようになること。 ・日商簿記3級合格レベルの力をつけること
授業計画	第1回 オリエンテーション・簿記とは？ 第2回 商品売買 第3回 現金預金 第4回 手形 第5回 有価証券と固定資産 第6回 棚卸資産 第7回 その他取引(その1) 第8回 その他取引(その2) 第9回 帳簿組織その1 第10回 帳簿組織その2 第11回 試算表 第12回 決算手続きその1 第13回 決算手続きその2 第14回 決算手続きその3 第15回 伝票 第16回 期末試験
授業の概要	現代の経済社会において、営利企業は成績表(財務諸表といいます)を作成し、問題点を把握し次年度以降の経営活動に活かしています。また各種利害関係者にも自社の成績を公表しています。企業の経営成績の作成プロセスが複式簿記であり、本講義ではこの複式簿記のプロセスを学びます。
予習	今回のテーマの箇所を事前に読んで講義に参加してください。
復習	毎回講義の終了時に復習問題を出します。次の講義で提出してもらいます。
テキスト	みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税)
参考書	みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税)
評価方法・評価基準	特になし 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	毎回出席を取ります。出席しましょう！簿記に電卓は必須です。電卓を持参しましょう！テキストの方は受講者は全員購入してください。参考書の方は、日商簿記3級を受験してみようという学生は必ず購入してください。

オフィスアワー	.
課題に対する フィードバック方 法	.

講義科目名称：沖縄経済論

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
友利 廣			
	ナンバリング：BUS267		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 足元の沖縄経済の動向を知ることが就職を控えた学生にとって必須の要件です。また、大学を巣立ち社会人としての振る舞いの中でも沖縄経済に対する素養は大切になります。本講義では転換期にある沖縄経済をホットの情報を交えながら解説し、受講生の沖縄経済を見る目を磨きたいと思います。具体的な到達目標は、新聞や雑誌、TVなどの経済報道の内容を理解できるようにすることです。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回 ガイダンス：講義の狙いと、受講の心構え、成績評価等について説明する 第2回 日本経済のフロントランナー：沖縄経済の変遷を戦後史の観点から解説 第3回 日本経済のフロントランナー：基地経済の実態を多角的に解説 第4回 日本経済のフロントランナー：国際物流から沖縄経済の躍進を解説 第5回 日本経済のフロントランナー：情報特区から沖縄経済の躍進を解説 第6回 日本経済のフロントランナー：経済特区の総括的解説 第7回 グループ討論：2回～5回の議題を各グループ討論 第8回 グループ報告：6回目の討論を踏まえ各グループ報告 第9回 島嶼経済としての沖縄経済の特徴： 第10回 沖縄経済を牽引する観光産業の可能性と課題 第11回 第6次産業は沖縄経済の牽引役になれるか 第12回 沖縄振興開発計画の功罪を考える 第13回 海外の事例研究：マルタ共和国の戦後史 第14回 海外の事例研究：マルタ共和国の全方位外交 第15回 海外の事例研究：マルタ共和国の発展戦略 第16回 期末試験		
授業の概要	どのような職業に就くにしても沖縄経済の基礎を理解することは社会人として大切な要件と言えます。授業計画に示すように、講義の前半は沖縄経済を躍進させている経済特区に絞り解説します。後半では前半で学んだ事例を交えながら沖縄経済の更なる発展を阻害している要因を海外事例を通して考えます。尚、講義はパワーポイントや動画、新聞記事を活用して理解し易い工夫を講じます。又、出席カードに記入した受講生の質問に解答をまとめて資料として毎回配布し、双方向の講義を行います。		
予習	配布資料の専門用語は講義で説明することはありません。配布した資料を読み込み専門用語についても予め調べた上で講義に臨んでください。講義に臨むに際しては予習時間に少なくとも2時間程度を確保して関連資料も調べて下さい。		
復習	受講生が出席カードに記入した質問を解答したプリントを毎回配ります。同プリントを必ず読み直して次回講義に臨んでください。		
テキスト	テキストは使用しません。講義はレジュメを事前に配布して予習、復習ができるように配慮します。		
参考書	講義毎に関連する文献を紹介します。		
評価方法・評価基準	期末試験70% 小テスト・授業内レポート15% 受講者の発表10% 授業態度・授業への参加度5% 【DP 1～4との関連】		

	○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・ 毎回出席カードを配り出欠の確認用に使用すると同時に、カードに記載した質問、意見、感想で受講態度を評価します。 尚、3回の遅刻は1回の欠席としてカウントします。又、三分の一以上の欠席は不可とします。 ・ 受講中の退室、私語、スマホは厳禁とします。これは受講の基本マナーですので守れない受講生には厳しく対応します。 ・ 理由あって欠席する際は前日迄に事情を記してメールで連絡してください。
オフィスアワー	毎週火曜日 4 限目 友利研究室 その他の対応は学長秘書と時間を調整すれば適宜対応する
課題に対するフィードバック方法	?定期的に求める課題（レポート）提出は原則メール添付で行い添削結果もメールで送り返す。尚、PDFファイルは添削ができないため遠慮ください。 ?期末試験は採点し模範解答とともに返却する。返却時には問題の解説も行う。 ?不定期に実施する小テストは翌週に開設する。

講義科目名称：同時通訳Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous InterpretationⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT250		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 基礎レベルの同時通訳に親しむ。 【到達目標】 同時通訳に必要な訓練について理解し、実践できるようになる。基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素について知識を獲得する。
授業計画	第1回 「通訳とは」、「同時通訳と他の通訳の違い」、「通訳のための訓練とは」 同時通訳とその訓練法の基礎を学ぶにあたって留意すべき点を理解する。さまざまな形の通訳がある中で、同時通訳が持つ特徴について理解する。 第2回 シャドウイング（発音、イントネーションの練習） 通訳の基礎訓練の一つであるシャドーイングについて、その意義と訓練法を学び、実践する。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第3回 語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第4回 予測練習 動詞、構文、背景知識を駆使して話しの流れを予測する練習を行う。 第5回 リテンション・リプロダクション リテンションの訓練では、短文を聴き、リピートする訓練を繰り返すことで、短期記憶を向上させる訓練を行う。様々な難度・長さの文を使ったり、記憶力により負荷をかける方法を使ってバラエティ豊かなリテンション訓練を行う。 リプロダクションの訓練では、一定の長さのある音声データを聴き、その内容を伝える練習を行う。内容を的確に伝えられることを目指す。 第6回 サイト・トランスレーション 英語をその通りの語順で理解し、的確な訳出を行うための訓練法を学び、実践する。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。内容を正しく理解した通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第9回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1 日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。内容を正しく理解した正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第10回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2 日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 第11回 通訳者としての立ち振る舞い（マナー） コミュニケーションの仲介者として心得おくべき通訳者の立ち居振る舞いについて学ぶ。 第12回 メモ取り 逐次通訳に必要なメモ取りについて基本的必要事項を学ぶ。取ったメモを元に、伝わりやすい言葉や表現ができるように練習を重ねる。 第13回 逐次通訳（日→英） 日英の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。前回のメモ取りに関する訓練も併せて行う。 第14回 逐次通訳（英→日） 英日の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。メモ取りに関する訓練も併せて行う。 第15回 同時通訳の総合演習 これまで学んだ事柄を総動員し、効果的な同時通訳を目指して最終練習をする。
授業の概要	同時通訳者は特別な人だけがなれると思っていませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、クイック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。
予習	以下を毎日15～20分程度

	・配布資料について、単語や表現などを調べておく ・シャドーイングの自主トレーニング
復習	以下を毎日15～20分程度 ・授業内容の反復と応用 ・シャドーイングの自主トレーニング
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業中のパフォーマンス 100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドーイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp 毎週火曜日 4 時限目 城間研究室
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称：同時通訳Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT251		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 同時通訳の訓練に親しみ、初級レベルの同時通訳ができるようになる。 【到達目標】 ・同時通訳に必要な訓練をこなすことができるようになる。 ・基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解し、効果的に実践できるようになる。		
授業計画	第1回	「通訳とは」、「同時通訳と他の通訳の違い」、「通訳のための訓練とは」 同時通訳とその訓練法の基礎を学ぶにあたって留意すべき点を理解する。さまざまな形の通訳がある中で、同時通訳が持つ特徴について理解する。	
	第2回	シャドウイング（発音、イントネーションの練習） 通訳の基礎訓練の一つであるシャドウイングについて、その意義と訓練法を学び、実践する。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第3回	語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第4回	予測練習 動詞、構文、背景知識を駆使して話しの流れを予測する練習を行う。	
	第5回	リテンション・リプロダクション リテンションの訓練では、短文を聴き、リピートする訓練を繰り返すことで、短期記憶を向上させる訓練を行う。様々な難度・長さの文を使ったり、記憶力により負荷をかける方法を使ってバラエティ豊かなリテンション訓練を行う。 リプロダクションの訓練では、一定の長さのある音声データを聴き、その内容を伝える練習を行う。内容を的確に伝えられることを目指す。	
	第6回	サイト・トランスレーション 英語をその通りの語順で理解し、的確な訳出を行うための訓練法を学び、実践する。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第7回	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。内容を正しく理解した通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第8回	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第9回	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1 日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。内容を正しく理解した正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第10回	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2 日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第11回	通訳者としての立ち振る舞い（マナー） コミュニケーションの仲介者として心得ておくべき通訳者の立ち居振る舞いについて学ぶ。	
	第12回	メモ取り 逐次通訳に必要なメモ取りについて基本的必要事項を学ぶ。取ったメモを元に、伝わりやすい言葉や表現ができるように練習を重ねる。	
	第13回	逐次通訳（日→英） 日英の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。前回のメモ取りに関する訓練も併せて行う。	
	第14回	逐次通訳（英→日） 英日の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。メモ取りに関する訓練も併せて行う。	
	第15回	同時通訳の総合演習 これまで学んだ事柄を総動員し、効果的な同時通訳を目指して最終練習をする。	
授業の概要	同時通訳者は特別な人だけがなれると思っていませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、クイック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。		
予習	以下を毎日15～20分程度		

	・配布資料について、単語や表現などを調べておく ・シャドーイングの自主トレーニング
復習	以下を毎日15～20分程度 ・授業内容の反復と応用 ・シャドーイングの自主トレーニング
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業中のパフォーマンス 100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドーイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp 毎週火曜日 4 時限目 城間研究室
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称：同時通訳初級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation, Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～4年	2単位(1-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT360		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 初級レベルの同時通訳に必要な知識を学び、訓練を行う。 【到達目標】 英語ニュースのシャドウイングや、ショート・スピーチの同時通訳ができるようになる。	
授業計画	第1回	通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について 通訳における双方向のコミュニケーションの大切さについて学ぶ。コミュニケーションスペシャリストとしての通訳者を目指すために何が必要かを学ぶ。
	第2回	シャドーイング 通訳の基礎訓練の一つであるシャドーイングについて、その意義と訓練法を学び、実践する。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第3回	語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第4回	サイト・トランスレーション 英語をその通りの語順で理解し、的確な訳出を行うための訓練法を学び、実践する。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第5回	日・英両語の原稿を用いた同時通訳 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第6回	日・英両語の新聞記事読解 日本語、英語の新聞記事を読解する。伝わりやすい言葉や表現を選びながら説明ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第7回	日・英両語のニュース同時通訳 日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第8回	日・英両語の翻訳 日本語、英語の原稿をもとに通訳のための翻訳を考える。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。
	第9回	日・英両語のショートスピーチ トータル・パフォーマンスの向上を目的として、パブリック・スピーキングの訓練をする。同時にクラスメートのスピーチを通訳する。
	第10回	メモ取り 逐次通訳に必要なメモ取りについて基本的必要事項を学ぶ。取ったメモを元に、伝わりやすい言葉や表現ができるように練習を重ねる。
	第11回	逐次通訳1 逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。前回のメモ取りに関する訓練も併せて行う。
	第12回	逐次通訳2 引き続き、逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。
	第13回	トータル・パフォーマンス1 トータル・パフォーマンスを意識して、効果的な逐次通訳ができるように訓練する。通訳パフォーマンスをビデオカメラで撮影し、向上につなげる。
	第14回	トータル・パフォーマンス2 トータル・パフォーマンスを意識して、効果的な逐次通訳ができるように訓練する。通訳パフォーマンスをビデオカメラで撮影し、向上につなげる。
	第15回	同時通訳専用ブースでの同時通訳実践1 同時通訳用のブースを備えた会場（1）で本格的な同時通訳を実践する。
	第16回	同時通訳専用ブースでの同時通訳実践2 同時通訳用のブースを備えた会場（2）で本格的な同時通訳を実践する。
授業の概要	目安として、英検2級程度の英語力を有する方を対象とする。 初歩レベルの同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学びます。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験する。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。	

予習	事前に配布される資料を充分に研究しておくこと。
復習	修得した内容・技術の応用に努めること。
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿などを活用した資料を配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	ラボ内での個人的なパフォーマンス、トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。 授業態度・受講者の発表・演習：100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	USBメモリを持参してください。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp (仮) 毎週**曜日 **限目 城間研究室
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称：同時通訳上級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation , Advanced

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～4年	2単位(1-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT404		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中～上級レベルの同時通訳に必要な知識を学び、訓練を行う。 【到達目標】 ニュース、講演、スピーチ等を、英語⇄日本語で同時通訳が出来るようになることを目標とする。		
授業計画	第1回	通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について 通訳における双方向のコミュニケーションの大切さについて学ぶ。コミュニケーションスペシャリストとしての通訳者を目指すために何が必要かを学ぶ。	
	第2回	通訳理論と背景知識 より効果的な通訳訓練と実践のために必要な通訳理論と背景知識を学ぶ。スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第3回	シャドウイング 通訳の基礎訓練の一つであるシャドーイングについて、その意義と訓練法を学び、実践する。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第4回	語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第5回	サイト・トランスレーション 英語をその通りの語順で理解し、的確な訳出を行うための訓練法を学び、実践する。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第6回	日本語→英語。原稿を用いた同時通訳 日本語の原稿をもとに日英通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第7回	英語→日本語。原稿を用いた同時通訳 英語の原稿をもとに英日通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第8回	日本語→英語。新聞記事の訳 日本語の新聞記事等を読解する。伝わりやすい言葉や表現を選びながら説明ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第9回	英語→日本語。新聞記事の訳 英語の新聞記事等を読解する。伝わりやすい言葉や表現を選びながら説明ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第10回	日本語→英語。ニュース同時通訳 日本語のニュースを日英同時通訳する。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第11回	英語→日本語。ニュース同時通訳 英語のニュースを英日同時通訳する。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。	
	第12回	メモ取り 逐次通訳に必要なメモ取りについて基本的必要事項を学ぶ。取ったメモを元に、伝わりやすい言葉や表現ができるように練習を重ねる。	
	第13回	逐次通訳 逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。前回のメモ取りに関する訓練も併せて行う。	
	第14回	法廷通訳 架空のシナリオを使用して、法廷通訳特有の単語や表現を学びながら、裁判の流れに沿った通訳訓練を行う。	
	第15回	トータル・パフォーマンス トータル・パフォーマンスを意識して、効果的な逐次通訳ができるように訓練する。通訳パフォーマンスをビデオカメラで撮影し、向上につなげる。	
	第16回	同時通訳専用ブースでの同時通訳実演 同時通訳用のブースを備えた会場で本格的な同時通訳を実践する。	
授業の概要	英検準1級程度の英語力を有する者を対象とする。 学内外で行われる会議、講演等で同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としての		

	トータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験させる。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。
予習	事前に配布される資料を十分に研究しておくこと。
復習	修得した内容・技術の応用に努めること。
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿などを活用した資料を配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	ラボで毎回個人をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。 授業態度・受講者の発表・演習：100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	USBメモリを持参してください。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp （仮）毎週**曜日 **限目 城間研究室
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称 : Current Issues Online

授業コード :

英文科目名称 : Current Issues Online

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : ERE227	

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally. Successful students will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.		
授業計画	第1回	The what, why and how of online learning Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Topic: "Greetings and Introductions" DIRECTIONS: Post a brief introduction of yourself that tells: - where you are from - what your major study is - what you want to learn from this course - what you plan to do after graduation - what your favorite food is	
	第2回	Reproduction issues Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Topic: "Reproduction Right and Responsibilities" DIRECTIONS: Please watch the YouTube videos to develop and express your opinion about the issue of Japan's declining population. A text of the YouTube video "Japan's Biggest Challenge", has also been added. Discuss what you feel is the primary problem with Japan's declining population, and what you think can be done to fix the growing problem.	
	第3回	Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. The class materials for this week are two YouTube videos and a website dedicated to stopping bullying. Please watch the videos and look through the website to learn how you can prevent or stop bullying. - Share your memory of an experience that you have personal knowledge of that involved bullying. - Discuss why you think it happened and how it could have been prevented or stopped. - What do you think Albert Einstein was referring to in the quote from him?	
	第4回	Hikikomori Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Please read the article from the New York Times (attached as a PDF below), which is a little long but quite good, and the Youtube videos. Reflect on the article and the videos and then answer the questions below. After you finish, submit your responses. - Why do you think hikikomori occurs? - What can be done to help people who are suffering from hikikomori? - Is hikikomori an emotional or psychological condition - or both?	
	第5回	Feedback, editing and rewriting. Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Please watch the video "Every 15 Minutes a Teenager Dies from Drunk Driving" made by the California Highway Patrol. The "15 minutes" is a statistic indicating how often someone dies due to drunk driving.	

	Also, visit the &quot;Every 15 Minutes&quot; website to learn more about this program and watch videos ... of the reenactments at various schools. Then, check out the article about drunk driving in Japan, such as the accident in Fukuoka where three children were killed, and another where a passenger was ordered to pay 53 million yen for not preventing the driver from driving drunk. Discuss and share your thoughts on the following questions: a. Why do you think that people still drink and drive despite all of the evidence about how dangerous it is? b. What is a just punishment for those who are caught driving drunk? Bullying in schools and the workplace Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Watch the video that describes Japan's present efforts to stimulate economic growth as well as the perceived effectiveness of this effort. Consider the efforts now being put forward and the difficulties of living in the present economic situation, and answer the following two questions below: a. Discuss your opinion about the government's present effort to create economic growth. b. What do you think is a way to grow the local economy in Okinawa, despite what is happening throughout the rest of Japan? Globalization Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. This week's topic is globalization, also spelled as globalisation. This topic has various levels of difficulty and is one of the major issues facing countries around the world. In order to learn about and understand this topic, please watch the introduction to globalization video, then see the BBC slide show for information about different areas of globalization. There is also a video about the bad side of globalization. Finally, there is a link to Wikipedia to help you understand this difficult topic. (If you like, you can search for the Japanese version of the Wikipedia page.) Then, answer the following questions: a. Briefly discuss two positive effects of globalization. b. Briefly discuss two negative effects of globalization. c. Do you think the positive effects of globalization make it more acceptable in spite of the negative effects? Why or why not? Smoking and Smokers' Rights Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. The topic this week is about the increasing bans on smoking in public implemented around the world due to growing concerns about the public health from second-hand smoke. To learn more about this movement to ban smoking in public places, see generally the following Wikipedia page (you may also access the Japanese language version) Last, discuss the three following questions: a. Do these bans on smoking in public infringe on the rights of smokers? b. Tobacco is not an illegal drug, so is it okay to ban its use so extensively? c. What can be said about your freedom to make choices today in this democratic society? Consumerism in Today's World Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Watch all 4 parts of &quot;The Story of Stuff&quot; and answer the following questions. a. Does the documentary cause you to think critically about yourself, how you define yourself as a member of society? b. If yes, what important lesson did you learn from the documentary? c. What do you personally think is the major problem with consumer societies? d. What can you do to help solve the problem? Understanding and Defeating Racism Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. 1. Read about indigenous peoples in Japan in the following link: Caste, Ethnicity, and Nationality in Japan 2. Watch the video on race as a concept: Race: Are We So Different? (YouTube) 3. Watch this video, too, race as a mythology: The Myth of Race (YouTube) DIRECTIONS: Reflect on what you have learned and answer the following questions: a. What interesting new thing have you learned about the idea of race?
第 6 回	
第 7 回	
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	

第 1 1 回	b. Have you ever been affected by (or witnessed) racism? c. If yes, briefly describe what happened. d. What do you feel is the best way to defeat racism in the world today? Slavery in Today's World Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Please read the BBC article and, then, watch the Santa's Workshop documentary on YouTube. Afterward, answer the following questions. a. This is a sweatshop where the girls are being worked almost as slaves. Why do you think they choose to work there? b. Why does the owner not pay his workers more? c. Why don't foreign companies investigate these places in greater depth? d. Why do you suppose the country (society) allows this situation to continue?
第 1 2 回	Explaining the Exam Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. There is no issue to discuss this week. Instead, you have a chance to think about an issue you might want to do your exam on, and perhaps start doing some more research. I want you to look at the following explanation of the exam provided below as a PowerPoint presentation. You can click on the attached presentation below for guidance.
第 1 3 回	Post below the topic you are interested in doing a presentation on and tell us why it is interesting to you. Deciding then Researching Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Last week you told me about the topic you have chosen (remember, you can choose any topic from this course). This week, tell me roughly what you are going to say about that topic. I want you to do some research and post some links that are relevant to your topic. For this assignment, you can number the answers like I have done in the following example: ##### EXAMPLE: 1. Topic: Internet Privacy 2. Content: I am going to make a presentation that tries to persuade people to quit sites like Google, Facebook, Yahoo and Skype, and to switch to open-source alternatives. I am going to explain why i think they should quit, and then I am going to give an introduction to several alternatives. 3. Research: This site has lots of information on alternatives to the mainstream sites:
第 1 4 回	prism ? break Last Minute Issues Last minute questions? If you have any remaining questions about the presentation, please ask me. Even if you do not have any questions and everything is okay, then please indicate by responding.
第 1 5 回	Submissions Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions. Over the next two weeks you should finalise your video and post it by the deadline on the 22nd of January by 23:59. Since you have two weeks to post your work and have had two weeks to think about it and research the topic, you should have no problem in submitting your work on time. Be sure also, to complete this work. If you have still have some concerns or questions, please send me an email &lt;broudy@ocjc.ac.jp> or call me at 090.7586.0534 If you have difficulty attaching your presentation, simply email it to me. Finally, please be sure to visit the Kyomuka to fill out a course evaluation for Current Issues Online. Enter your video or video link below.

授業の概要	This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites to participate. By the end of this course, students should be more comfortable working and learning in an online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking, and writing about these issues. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
予習	Review all academic writing that you have done. Take note of your strong points and of areas that you need to improve.
復習	It is essential to review and make sure you understand each week's lesson.
テキスト	None
参考書	Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.
評価方法・評価基準	Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Preferably, students should have completed English Composition I and/or II.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称: Investigative Reporting

授業コード:

英文科目名称: Investigative Reporting

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング: EWR320	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.		
授業計画	第1回	Introductions / Investigation / Social inquiry - Introduce Others - Introduce the Text - Review Syllabus - Introduce and discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) HOMEWORK: - read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting - think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it	
	第2回	Review readings 1 - Review Talk, Topic, and Thesis, and discuss Useful New Words - Do Unit 1, Exercise 1 (in class), p. 5 - Do Unit 1, Exercise 2 (in class), p. 7 HOMEWORK: - read Authority, chapter 4, p. 9 - do Unit 1, Exercise 3, p. 10 - do Unit 1, Exercise 4, p. 11 - read DIY Interview, chapter 4, p. 12 - do Unit 1, Exercise 5, p. 12 - be prepared by Day 3 to talk about your results	
	第3回	Review readings 2 - Review Authority, chapter 4, p. 9 - Discuss results of Unit 1, Exercise 3, p. 10 - Discuss results of Unit 1, Exercise 4, p. 11 - Discuss results of Unit 1, Exercise 5, p. 12 - Read and discuss Introduction in Chapter 5, p. 13 - Take notes to understand the short discussion for the next meeting - Do Unit 2, Exercise 1 (in class), p. 14 HOMEWORK - read Body, chapter 6, p. 16 - do Unit 2, Exercise 2, p. 17 - read Conclusion, chapter 7, p. 19 - do Unit 2, Exercise 3, p. 20 - prepare first draft of Assignment #1 for next meeting	
	第4回	Peer Editing 1 - Peer Editing Workshop for Assignment #1 HOMEWORK - finalize Assignment #1 for next meeting	
	第5回	Submissions and Readings - Submit Assignment #1 - Review Unit 2, Exercise 2, p. 17 - Review Unit 2, Exercise 3, p. 20 HOMEWORK - read Citing in Chapter 8, p. 22 - do Unit 3, Exercise 1, p. 23	
	第6回	national social issues / selected readings / discussions / HW review readings - Discuss Assignment #2 (see page 5 of the syllabus for details) - Review Citing, chapter 8, p. 22 - Discuss results of Unit 3, Exercise 1, p. 23 - Read and discuss Connecting, chapter 2, p. 24 - Do Unit 3, Exercise 2 (in class) - Do Unit 3, Exercise 3 (in class), p. 27 HOMEWORK - read Contextualizing, chapter 10, p. 28	
	第7回	Review Readings 3 - Review Contextualizing, chapter 10, p. 28	

	- Do Unit 3, Exercise 4 (in class), p. 30 - Do Unit 3, Exercise 5 (in class), p. 31 HOMEWORK - read Ideas on Ethics, chapter 11, p. 34 第 8 回 Discuss Assignments - Discuss Assignment #3 (see page 6 of the syllabus for details) - Discuss Ideas on Ethics, chapter 11, p. 34 - Do Unit 4, Exercise 1 (in class), p. 35 HOMEWORK - read Applied Ethics, chapter 12, p. 37 第 9 回 Review readings 4 - Discuss Applied Ethics, chapter 12, p. 37 - Do Unit 4, Exercise 2 (in class), p. 38 HOMEWORK - prepare first draft of Assignment #2 for next meeting 第 10 回 Peer Editing 2 - Peer Editing Workshop HOMEWORK - finish Assignment #2 for next meeting - read Unit 5, Case 1, p. 40 第 11 回 Review readings 5 - Submit Assignment #2, Co-authored Article - Discuss Assignment #4 (see page 7 of the syllabus for details) - Discuss Unit 5, Case 1, p. 40 HOMEWORK - read Unit 5, Case 2, p. ? - prepare for Workshop during Day 12 第 12 回 Review readings 6 - Discuss Unit 5, Case 2, p. ? - Workshop HOMEWORK - finalize Assignment #3 for next meeting 第 13 回 - Submit assignment #3, Co-authored - Textual Interview HOMEWORK - prepare for Workshop during Day 14 第 14 回 Workshop - Workshop HOMEWORK - read Unit 5, Case 3, p. ? 第 15 回 Finalize Workshop - Finish Workshop - Discuss Unit 5, Case 3, p. ? HOMEWORK - finalize presentations for next meeting 第 16 回 Presentations - Presentation of video interviews - Submit summary of interviews
授業の概要	Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalistic writing. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Facing Truth: New Ways for Writers to Confront Diverging Realities (text provided by the instructor)
参考書	Students are expected to conduct interviews, take notes, and use notes in the development of article.
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation. Assignments = 70% Participation = 30% Article #1 Local Economic, Social or Political (Single authored) 250 words 5 pts. Article #2 Local Economic, Social or Political (Co-authored) 400 words 15 pts. Textual Interview #3 Local Economic, Social or Political Issue (Co-authored)

	1000 words 25 pts. Video Project #4 National or Global Economic, Social, or Political Issue (Research Team) 12-15 mins. 25 pts. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称: Creative Writing

授業コード:

英文科目名称: Creative Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング: EWR370	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course asks you to use your imagination and to express yourself creatively with the central view of publishing and/or presenting the various creative works developed throughout the course.		
授業計画	第1回	Introductions / literary themes / HW review readings introductions H0 Tone and Style H01 Tone in Poetry H O M E W O R K: -reading: chapter on Tone and Style (pages 113-132)	
	第2回	Setting discussions of Tone and Style H02 Critical Reflection on Tone in-class reading: "The Last Moon" Andre Dubus H03 Tone in The Last Moon H O M E W O R K: -reading: chapter on Description (pages 139-167)	
	第3回	Tone discussion of Description H04 Critical Reflection on Description in-class readings and discussions Seamus Heaney's "Digging" (pages 151-152) Cynthia Ozick's "The Shawl" (pages 158-164) H O M E W O R K: -writing: choose any two of the following assignments to be discussed in a writers' workshop on Day 5 1. Write a poem about a special person or special place. Use carefully chosen words. 2. Write a poem that describes a nightmare, real or fictitious, in vivid detail. 3. Write a poem that describes some of your earliest childhood memories or impressions of people and/or places. Focus on specific details of sights, sounds, or other sensations that are fixed in your memory. 4. Closely observe the behavior of someone and write a poem that captures in words the details of that behavior and what you feel to be its possible meanings. Use vivid language. 5. Write a poem that expresses any one of the tones we have talked about.	
	第4回	Exercise in Poetics phrase play exercise H O M E W O R K: -reading: chapter on Images and Sounds (pages 245-267) -writing: finish poems for workshop	
	第5回	Workshop 1 writers' workshop H O M E W O R K: -reading: finish reading chapter on Images and Sounds	
	第6回	Images and Sounds discussion of Images and Sounds H05 Images in Poetry H05.1 Critical Reflections on Imagery H06 Sounds in Poetry H06.1 Critical Reflections on Sounds in-class writing: choose any one of the following assignments to be discussed and developed in a writers' workshop on Day 7 1. Write a poem on any theme that uses alliteration. 2. Write a poem on any theme that uses personification. 3. Write a poem on any theme that uses any kind of rhyme scheme discussed in the chapter. 4. Write a poem on any theme that experiments with rhythm. H O M E W O R K: -writing: finish poem -reading: chapter on The Performance Factor: Plays and Films Scripts (pages 304-354)	
	第7回	Workshop 2 writers' workshop (poems) H O M E W O R K: -selecting: choose two of the poems you have already written for performances on Days 8 & 9	
	第8回	Dramatic Performance 1 poetry performance	

	第 9 回 H O M E W O R K: -reading: finish reading chapter on The Performance Factor (pages 304-354) Dramatic Performance 2 poetry performance H O M E W O R K: H07 Character Sketches 第 1 0 回 Character Development discussion of results of H07 H08 Setting in-class writing: choose any one of the following assignments to be discussed and developed in a writers' workshop on Days 11 & 12 1. Write a one-act play that is loosely based on a Japanese or Okinawan folktale. 2. Write a one-act play that reinterprets one of the stories or plays we have already discussed. 3. Write a one-act play in which all the characters are teenagers. Limit the cast to two to three characters, and use only one set and a single time frame. 4. Write a one-act play in which a man and a woman are discussing their romantic relationship, which, at the moment involves a serious problem. 5. Write a one-act play, humorous or serious, in which two or three people are in a lifeboat drifting in somewhere in the Pacific Ocean. Each passenger in the lifeboat is of a different ethnic background. They believe that they will either be rescued or will be washed ashore on 第 1 1 回 Workshop 3 writers' workshop (plays) H O M E W O R K: - reading: 第 1 2 回 Workshop 4 writers' workshop 第 1 3 回 Practice practice session 第 1 4 回 Dramatic Performance 3 Prose performance 第 1 5 回 Dramatic Performance 4 prose performance finalized 第 1 6 回 Final exam
授業の概要	This is an upper-level course in creative writing that surveys key areas of creative writing: poetry, short story, and/or drama. Emphasis is on close reading and critical thinking from a writer's perspective as a way to better understand the art. Students examine poetry, prose and/or drama, and discuss the elements of creative writing and put new knowledge into practice with the production of creative output in genres of the professor's choosing.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HOMEWORK
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes and review their notes.
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on writings, presentations, and participation. EVALUATION: Your final grade is determined on the following percentage basis. Performance Poetry 20% Performance Drama 20% Portfolio 40% Participation 20% 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	.
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称: Visual Rhetoric

授業コード:

英文科目名称: Visual Rhetoric

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング: EWR375	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Since it is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding and interpretation of the visual world of signs, symbols and images, in this course, students will: 1. Develop an understanding of the concepts and methods used to rhetorically analyze and interpret images and artifacts; and 2. Demonstrate ability to critically engage in rhetorical analysis of visual images and artifacts through essays and presentations.		
授業計画	第1回	Introductions / Lecture 1 Focus Group >> H01 What is Visual Rhetoric? >> Aristotle Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第2回	Lecture 2 Color Psychology in Mass Persuasion >> Psychological Properties of Colours H02 Color Psychology Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第3回	Lecture 3 Reinforcing Gender Stereotypes & Roles >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第4回	Lecture 4 Green-washing Techniques >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第5回	Lecture 5 Hyper-sexualizing >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第6回	Lecture 6 Agenda Setting >> Max McCombs & Donald Shaw Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第7回	Workshop 1 Workshop for Presentations Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第8回	Presentations 1 Presentations Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第9回	Lecture 7 Propagandizing Techniques >> Noam Chomsky Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第10回	Lecture 8 Cultivation Theory >> George Gerbner, Brainstorming session for presentations Visit Coursebase for Readings	
	第11回	Lecture 9 Subliminal Techniques >> Edward Bernays Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第12回	Lecture 10 Semiotics >> Roland Barthes Homework: Prepare copies of essay for Workshops to be held over next 2 weeks	
	第13回	Lecture 11 Definitional Control >> Herbert Schiller Homework: Visit Coursebase for Readings	
	第14回	Workshop 2 Workshop for Presentations Homework: Finish preparing for presentations in the following meeting(s).	
	第15回	Presentation 2 Presentations	
授業の概要	Visual Rhetoric is an upper-level course in critical analysis that fulfills part of the advanced communication studies requirement. Advances in communication technology have resulted in new and more accessible means for creating and distributing visual images and artifacts. At the same time, the rhetorical impact of these images and artifacts is not yet well documented or understood. It is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding, use and interpretation, of visual images. This course examines social and political media and the visual aspects of mass persuasion. Students are introduced to theories of communication and contemporary methods of persuasion used in civil, commercial, and military media.		
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings and viewings of videos within the Coursebase marked as Homework.		

復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period to reinforce knowledge of theories and their applications.																		
テキスト	Handouts are provided for students in each class.																		
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.																		
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation. The grading scale, based on 1000 points, is as follows: A = 900-1000 points B = 800-899 points C = 700-799 points D = 600-699 points F = 0-599 points Your final grade for the course will be determined as follows: * <table><tr><td>Midterm Creative Presentation</td><td>200 points</td><td>20%</td></tr><tr><td>Final Creative Presentation</td><td>200 points</td><td>20%</td></tr><tr><td>Quiz 1 Cultivation Theory</td><td>100 points</td><td>10%</td></tr><tr><td>Quiz 2 Semiotics</td><td>100 points</td><td>10%</td></tr><tr><td>Essay 1 Critical Analysis</td><td>200 points</td><td>20%</td></tr><tr><td>Essay 2 Critical Analysis</td><td>200 points</td><td>20%</td></tr></table> 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること	Midterm Creative Presentation	200 points	20%	Final Creative Presentation	200 points	20%	Quiz 1 Cultivation Theory	100 points	10%	Quiz 2 Semiotics	100 points	10%	Essay 1 Critical Analysis	200 points	20%	Essay 2 Critical Analysis	200 points	20%
Midterm Creative Presentation	200 points	20%																	
Final Creative Presentation	200 points	20%																	
Quiz 1 Cultivation Theory	100 points	10%																	
Quiz 2 Semiotics	100 points	10%																	
Essay 1 Critical Analysis	200 points	20%																	
Essay 2 Critical Analysis	200 points	20%																	
履修上の注意	All course materials and readings are provided by the professor.																		
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室																		
課題に対するフィードバック方法	.																		

講義科目名称：沖縄の歴史と現在

授業コード：

英文科目名称：Okinawa modern history

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新城 俊昭			
	ナンバリング：CUL240		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 明治政府による琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解する。 【到達目標】 現在の沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。		
授業計画	第1回 授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.207～219—琉球王国はどのようにして解体されたのか 第2回 旧慣温存策と沖縄県政 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.222～233—沖縄民衆は世替わりをどのように受け止めたのか 第3回 謝花昇の民権運動と頭懸（人頭税）廃止運動 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.234～256—沖縄県民は諸権利をどのようにして獲得したのか 第4回 ソテツ地獄と海外移民・本土への出稼ぎ 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.257～273—ソテツ地獄とはどのような社会状況なのか 第5回 軍国主義の台頭と沖縄の状況 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.274～281—15年に及ぶ戦争はどのようにして始まったのか 第6回 戦時体制と県民の暮らし 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.283～289—標準語励行運動がもたらしたものは何か 第7回 アジア太平洋戦争と沖縄 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.290～299—米国との戦争は沖縄にどのような影響を与えたのか 第8回 沖縄戦①—沖縄戦はなぜ起こったか 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.299～312—沖縄戦の特徴と問題点から見えるものは何か 第9回 沖縄戦②—沖縄戦の実相 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.313～324—沖縄戦から何を学び、何を継承すべきなのか 第10回 米軍支配下の沖縄 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.326～337—戦後の焼け跡から沖縄住民はどのように立ち上がったのか 第11回 米軍による土地の強制収用と沖縄住民の抵抗 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.338～349—島ぐるみ闘争はなぜ起こったのか 第12回 「祖国復帰運動」と沖縄返還の実態 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.350～370—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだのか 第13回 新生沖縄県のあつみ 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.371～385—日本復帰で何が変わり、何が問題となったのか 第14回 復帰後の沖縄県政 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.386～401—復帰による本土並みの政策は実現したのか 第15回 現代沖縄の課題—基地問題を考える 『教養講座 琉球・沖縄史』 p.402～415—なぜ沖縄に基地が集中しているのか 第16回 期末試験		
授業の概要	1 現代沖縄の諸問題の根源を、明治政府による琉球併合から現在までの沖縄の歴史を学ぶことで考察する。 2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。 3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(ウチナーンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。		
予習	事前に配布されたプリントの内容をテキストで調べ、授業に臨むこと		
復習	授業での問題点・課題をテキスト等で調べてまとめること		
テキスト	新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行。その他、必要に応じて資料を配布。		
参考書	新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版発行。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行。その他		
評価方法・評価基準	評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。 配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えたプリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること		

	.. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。
オフィスアワー	授業終了後 メールアドレス： 初回の講義にてお知らせします。
課題に対するフィードバック方法	課題は評価後に授業内で返却します。

講義科目名称：通訳とプレゼンテーション

授業コード：

英文科目名称：Interpretation and Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT302		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 逐次通訳とは何かを理解し、方法論を学ぶ。 【到達目標】 日本語⇄英語の逐次通訳に必要なプレゼンテーションの力を習得する。		
授業計画	第1回	通訳とは：通訳と翻訳の違い、同時通訳と逐次通訳との違い 様々な通訳の形があることを学び、それぞれの特徴を理解する。特に、逐次通訳に必要な要素を理解する。	
	第2回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに必要なのは？ オーディエンスの前で行うことが多い逐次通訳に必要な、パブリック・スピーキングの要素を理解し、学ぶ。	
	第3回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに挑戦 前回学んだパブリック・スピーキングの要素を考えながら、効果的なスピーチに挑戦する。	
	第4回	リテンション・・・短文を再生する練習 短文を聴き、リピートする訓練を繰り返すことで、短期記憶を向上させる訓練を行う。	
	第5回	リテンション・・・様々なリテンションを行う 短文を聴き、リピートする訓練を繰り返すことで、短期記憶を向上させる訓練を行う。様々な難度・長さの文を使ったり、記憶力により負荷をかける方法を使ってバラエティ豊かなリテンション訓練を行う。	
	第6回	リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習 一定の長さのある音声データを聴き、その内容を伝える練習を行う。内容を的確に伝えられることを目指す。	
	第7回	リプロダクション・・・効果的なリプロダクションを目指す 一定の長さのある音声データを聴き、その内容を伝える練習を行う。内容の要点を適切・的確な表現で伝えられることを目指す。	
	第8回	発音・イントネーションとは 英語、日本語の発音について学ぶ。より「伝わる」通訳をするためにどのような発音の訓練が必要なのかを学ぶ。	
	第9回	発音・イントネーションを磨く 前回確認した事項について訓練の実践をする。自分で継続して訓練できるように方法論を確認する。	
	第10回	通訳のためのメモ取り練習とは 逐次通訳に必要なメモ取りについて学ぶ。メモ取りをする際に留意しておくべきことを理解する。	
	第11回	通訳のためのメモ取り実践 1 前回の授業内容をもとに、メモ取りの実践をする。内容の把握を邪魔しない、且つ内容の再現に役立つメモを取り、訳出につなげる練習をする。	
	第12回	通訳のためのメモ取り実践 2 前回の授業内容をもとに、メモ取りの実践をする。内容の把握を邪魔しない、且つ内容の再現に役立つメモを取り、訳出につなげる練習をする。	
	第13回	逐次通訳の総合実践 1 これまでの授業で学んだ事柄を総動員して、効果的な逐次通訳を目指して実践する。	
	第14回	逐次通訳の総合実践 2 これまでの授業で学んだ事柄を総動員して、効果的な逐次通訳を目指して実践する。	
	第15回	逐次通訳の総合実践 3 これまでの授業で学んだ事柄を総動員して、効果的な逐次通訳を目指して実践する。	
授業の概要	「通訳」には大きく分けて同時通訳と逐次通訳がありますが、この授業では逐次通訳に必要なプレゼンテーションの能力を向上させるために様々な演習をします。スピーチをする人のメッセージの内容はもちろんのこと、心に届く気持ちまでも失わずに聴衆に伝えるにはどうすればよいのか。スピーチの実践練習や種々の技能の訓練に加えて、「共感力」や「信頼」といった高度なコンセプトも学んでいただきます。人と人とが通じ合う喜びをサポートする意義深さも感じてください。		
予習	事前に配布する資料について、単語や表現などを調べて準備すること。（毎日15～20分程度）		
復習	授業で学んだ内容の応用に努めること。（毎日15～20分程度）		
テキスト	講師作成資料を配布します。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	クラス内での課題への取り組みとパフォーマンス 100% 【DP 1～4との関連】		

	.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	毎回持参するもの：英和辞書、和英辞書、ノート、筆記用具
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp 毎週火曜日 4 時限目 城間研究室
課題に対するフィードバック方法	課題のフィードバックは、授業ごとに行う。

講義科目名称：Public Speaking I

授業コード：

英文科目名称：Public Speaking I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona・Simon Robinson・Michelle Higaonna・Jonathan Hatcher			
	ナンバリング：EOC225		

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to learn to make engaging presentations in English		
授業計画	第1回	Class orientation, students make basic self-introductions. Past presentation examples shown.	
	第2回	Basic self-introductions with pictures + show past presentation example	
	第3回	Introduction to Powerpoint, students begin preparing their 'past' presentations	
	第4回	'Past' presentations (1)	
	第5回	'Past' presentations (2)	
	第6回	'Past' presentations 3	
	第7回	Free presentations Round 1 (1)	
	第8回	Free presentations Round 1 (2)	
	第9回	Free presentations Round 1 (3)	
	第10回	Free presentations Round 2 (1)	
	第11回	Free presentations Round 2 (2)	
	第12回	Free presentations Round 2 (3)	
	第13回	Exam presentations (1)	
	第14回	Exam presentations (2)	
	第15回	Exam presentations (3)	
授業の概要	This course will introduce the key elements of public speaking through practical experience: students will make presentations on a topic of their choice, and after each presentation we will have a feedback session to assess both the good points and what could be better next time. Over the semester these points will gradually build up a clear picture of how to make an effective presentation in English - this will form a checklist that we will use to assess the final exam presentations. As necessary throughout the semester we will also do group practice activities focusing on particular aspects of presentation.		
予習	students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities		
復習	techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.		
参考書	Preparing for the presentations is an important part of this course, and will mostly be done outside of class.		
評価方法・評価基準	Participation 25%、Free Presentations 25%、Exam Presentations 50%		
	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	My aim for this course is for students to gain as much practical experience of presenting as is possible, so that they go into the exam presentation feeling confident of their ability to make a presentation in English.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対する フィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：Public Speaking II

授業コード：

英文科目名称：Public Speaking II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson・Peter Wodarz			
	ナンバリング：EOC226		

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to learn to make engaging presentations in English	
授業計画	第1回	Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A
	第2回	Self-introductions with Q&A
	第3回	Free Presentations Round 1 (1)
	第4回	Free Presentations Round 1 (2)
	第5回	Free Presentations Round 1 (3)
	第6回	Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)
	第7回	Free Presentations Round 2 (1)
	第8回	Free Presentations Round 2 (2)
	第9回	Free Presentations Round 2 (3)
	第10回	Free Presentations Round 3 (1)
	第11回	Free Presentations Round 3 (2)
	第12回	Free Presentations Round 3 (3)
	第13回	Exam presentations (1)
	第14回	Exam presentations (2)
	第15回	Exam presentations (3)
授業の概要	This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses.	
予習	students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities	
復習	techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class	
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.	
参考書	Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.	
評価方法・評価基準	Participation30%、Free Presentations30%、Exam Presentations40%	
	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること	

履修上の注意	Public Speaking & Oral Presentation I（2単位）を履修済みのこと。 My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対する フィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称 : Accessing Digital Media I

授業コード :

英文科目名称 : Accessing Digital Media I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
	ナンバリング : EOC222		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回 Introductions / Lecture 1 Introductions / performance poetry HOMEWORK: review transcripts and answers 第2回 Lecture 2 Commercial advertising (Contemporary) HOMEWORK: review transcripts and answers 第3回 Lecture 3 Contemporary pop songs (Themes of romantic love) HOMEWORK: review transcripts and answers 第4回 Lecture 4 Political speeches (Themes of antiwar) HOMEWORK: review transcripts and answers 第5回 Lecture 5 Political songs (Themes of antiwar) HOMEWORK: review transcripts and answers 第6回 Lecture 6 Film (Political themes) HOMEWORK: review transcripts and answers 第7回 Lecture 7 Cartoons (Political satire) HOMEWORK: review transcripts from Day 1 to Day 7 for Midterm exam 第8回 Exam 1 Midterm exam 第9回 Lecture 8 Film (Social themes) HOMEWORK: review transcripts and answers 第10回 Lecture 9 Commercial advertising (1990s) HOMEWORK: review transcripts and answers 第11回 Lecture 10 Songs (1990s Pop culture) HOMEWORK: review transcripts and answers 第12回 Lecture 11 Film (Fantasy and science fiction)HOMEWORK: review transcripts and answers 第13回 Lecture 12 Political Speeches (Social justice) HOMEWORK: review transcripts and answers 第14回 Lecture 12 Performance Poetry HOMEWORK: review transcripts and answers 第15回 Lecture 13 and Exam Cartoons (Consumerism satire) HOMEWORK: review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam 第16回 Final exam / HW review transcripts and answers Final exam		
授業の概要	This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register.		
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW		

復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation. Participation = 40% Exams = 40% Exercises = 20% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称 : Accessing Digital Media II

授業コード :

英文科目名称 : Accessing Digital Media II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
	ナンバリング : EOC223		

授業のテーマ及び到達目標	本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。		
授業計画	第1回	Introductions / Lecture 1 Introductions / Classic Rap (1970s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第2回	Lecture 2 Film Noir (1960s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第3回	Lecture 3 Political Speeches (Civil Rights) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第4回	Lecture 4 Cartoons (Social Satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第5回	Lecture 5 Folk Songs (Social Justice) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第6回	Lecture 6 Situation Comedy (Racism and Bigotry) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第7回	Lecture 7 Performance Poetry (Gender Equality) HOMEWORK: review transcripts from Day 1 to Day 7 for exam	
	第8回	Exam 1 Midterm exam	
	第9回	Lecture 8 Commercial advertising (1950s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第10回	Lecture 9 Cartoons (Deviant behavior satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第11回	Lecture 10 Songs (2000s Popular Culture) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第12回	Lecture 11 Film (Science Fiction Satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第13回	Lecture 12 Contemporary Hip Hop (Themes of social justice) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第14回	Lecture 13 Political Speeches (Antiwar themes) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第15回	Lecture 14 Commercial advertising (1990s) HOMEWORK: review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam	
	第16回	Exam 2 Final exam	
授業の概要	This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register.		
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW		
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.		
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.		

参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation. Participation = 40% Exams = 40% Exercises = 20% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：アクションリサーチ

授業コード：

英文科目名称：Action Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位 (0-2)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：GLS252		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ 知識理解：調査の有効性、方法の知識を得る 関心意欲：アクションリサーチや調査活動に関心を持つ 思考判断：課題を見つけ、深める 態度：アクションリサーチの活動への参加 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	授業の進め方、アクションリサーチに関する講義 (1) アクションリサーチの授業の流れ ・流れ、学生に求められること、評価等 ・これまで何かを調査した経験をもっているのか？人は何故調査するのか？（ワークショップ）	
	第2回	ワークショップ、ファシリテーションとは その1 (2) ワークショップ、ファシリテーションとは ・ワークショップが何故大事か ・教師ではなく、ファシリテーターとしての学び合い ・基本的なワークの流れ	
	第3回	ワークショップ、ファシリテーションとは その2 (3) ワークショップ、ファシリテーションとは ・基本的なワークの流れ（上記続き） ・ファシリテーターとしての姿勢 ・社会を変える仕組みづくり	
	第4回	ワークショップ、ファシリテーションとは その3 (4) ワークショップ、ファシリテーションとは ・公園ウォーキング、西原の公園を歩いてみよう。 ・あなたの悩みが自然の力で解決させてくれる不思議体験。 ・「Q」ワークショップ	
	第5回	マインドマップ 私の頭の整理の方法を学ぶ (5) マインドマップ 私の頭を整理する。考えていることの整理方法 ・理論と直感（右脳と左脳） ・色で表す世界感、整理法	
	第6回	ワールドカフェ 体験 (6) ワールドカフェ ・ワールド・カフェは、参加者が本当に話し合いたいテーマについて、自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的と刷る体験です。実際に体験してみよう。	
	第7回	アクションリサーチ デモ（校内リサーチ1） (7) アクションリサーチ 校内をあるきながら見えてくる、課題、素敵な場所発見、マッピング どこか一つでもよくなることを提案できることをイメージして歩く学び	
	第8回	アクションリサーチ デモ（校内リサーチ2） (7) アクションリサーチ 校内をあるきながら見えてくる、課題、素敵な場所発見、マッピング マッピングした結果、課題を整理して皆の前で発表を行う。大学関係者の前で公開プレゼン	
	第9回	校外学習に備えてデータ分析その1 (9) 西原町の町を分析 ・アクションリサーチの手法を通じて西原町を見て行く	
	第10回	校外学習に備えて インタビュー訓練 (10) 西原町を歩く、聞く、見て、考える ・ウォーキングから課題発見、提案につながるための学び合い	
	第11回	アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク（校外学習）その1 (11) 西原町を歩く、聞く、見て、考える ・ウォーキングから課題発見、提案につながるための学び合い 上記からの続き、2コマ連続	
	第12回	アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク（校外学習）その2 (12) デモウォークを形にする ・西原町から学んだこと、解決したい課題に取り組む ・想いを形にするためには、計画、実行まで	
	第13回	アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク（校外学習）その3 (13) デモウォークを形にする ・西原町から学んだこと、解決したい課題に取り組む ・想いを形にするためには、計画、実行まで 上記の続き	
	第14回	アクションリサーチの手法まとめ (14) 成果の発表	

	第15回 アクションリサーチ、アクションを大事にする成果を発表 アクションリサーチの手法まとめ (15) まとめ 上記の時間の予備としても活用する。 リサーチからアクション、発表を経験しての学びについて振り返る
授業の概要	アクションリサーチという研究方法を用いて、物事を深く調査する手続きを学ぶ。授業の流れは①問題の発掘、②調査、③課題の絞込み、④取り組み方針の設定、⑤手立ての明確化、⑥評価、⑧改善案の設定、という取り組み方法を学ぶ。調査方法、ワークショップ、ファシリテーションも併せて学び、様々な場面で有効活用可能な技術の習得も目指す。
予習	社会の課題や変化に対して意識すること。ニュースを見る、地域歩きなどを推奨する。
復習	実際に授業で学んだ手法を友人、アルバイト、学生間の人間関係において活用することを推奨する。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。フィールドワーク等への参加も評価の大事な要素である。 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	アクションリサーチ活動への参加は授業外、校外活動となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表を重視している。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：NGO・NPO実習

授業コード：

英文科目名称：NGO-NPO

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：GLS368		

授業のテーマ及び到達目標	・ NGO・NP0、県内国際機関でコミュニケーションの実践を学ぶ ・ NGO・NP0、県内国際機関を自らで実習先として選定し、直接実習等を行いなう ・ 自ら計画し、実践した活動の報告を行い、活動のPDCAサイクルの実施を行うことができる		
授業計画	第1回	NGO・NP0の作る社会（NGO・NP0論復習） （1）NGO・NP0のつくる社会 ・ 授業の進め方、評価方法、受講生に求めること ・ 前期授業の振り返り、前期から後期に至ってどこまで学ぶのか	
	第2回	沖縄のNGO・NP0情報、課題共有（NGO・NP0論復習） NP0白書に読み解く、沖縄のNG0、NP0の抱える課題について 沖縄の社会問題の連動とは何か、特徴と取り組み事例について 社会問題に取り組むNGO・NP0活動	
	第3回	NP0・NG0の活動場所訪問（授業フィールドワーク） 沖縄でNGO、NP0活動に取り組む活動先へ訪問、実際に活動、お話しに触れる ・ 団体のミッション、活動内容、そこに携わる人に触れる	
	第4回	NP0・NG0の活動場所訪問（授業フィールドワーク） 上記続き、2コマ連続で行う予定	
	第5回	NP0、NGOで働くゲストを招き、活動に触れる ・ NP0で働くことになったきっかけ ・ NP0と他の職場の違い、やりがい、大変なこと ・ 求めるボランティア像	
	第6回	活動場所を決める、マッチング 活動場所は、先日のゲストおよびマッチングリスト先より選定し、自らコンタクトを取り活動に加わる計画を立てる。	
	第7回	フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ① 自分自身で選んだNP0へ参加し、活動に触れる。 ・ スタッフより活動内容を聞き、何が出来るのか考え、参加してみる ・ 活動日誌の作成、次回ボランティアや参加の日程を決める	
	第8回	フィールドワーク共有（授業）：中間発表 フィールド先活動内容、個人の活動テーマ発表 参加して感じたこと、学んだことをまとめ、全体共有 ・ 課題の共有、次回の活動に活かすための計画づくり	
	第9回	フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ② NP0スタッフと話し合い、自分なりにテーマを持ってNP0・NG0活動に参加する やってみたいこと、実際にやってみて、感じたことを活動の終わりに共有 （併せて団体の課題を探る） ・ 団体の取り組む活動に対する社会の関心度 ・ 活動のミッションの達成具合 ・ 市民としてどう参加できるのか？	
	第10回	フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ③ 上記の活動の続き	
	第11回	フィールドワーク共有（授業）：中間発表 フィールド先活動内容振り返り、団体の抱える課題共有 実際に学んだことをまとめて、全体共有	
	第12回	学内授業：NGO、NP0の抱える課題 人材不足、資金不足をどう乗り越えられるのか？ ・ 資金集めの挑戦 ・ 世論、社会の流れを変える方法の新たな可能性	
	第13回	学内授業：NGO、NP0、ソーシャルベンチャー、様々な形の活動 NGO、NP0に加え、ソーシャルベンチャー、等、様々な活動家が存在している。 生き方、活動範囲、お金の回し方も様々であり、その仕組みやそれぞれの考え方を知る	
	第14回	フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ④ それぞれが活動している団体の活動報告を映像としてまとめる（15分程度） ・ 映像として活動記録を知らせる ・ 団体によっては映像ではなく、書類かもしれないため、団体との相談による	
	第15回	NGO・NP0フィールドワーク（実習）で学んだ結果発表・共有 団体の活動を映像に撮ったものの共有 全体共有、学んだこと、自身の生き方へ与えた影響のあったことの有無について議論する	
授業の概要	海外ボランティア、留学を目指す学生にとっては行く前に語学を実践の場で活用する場面を自らで開拓し、キャリア形成のためのボランティア経験を積む。また学内外の奨学金プログラムへの積極的活用に向けての目標設定、学びの計画作りにつながることを期待する。 海外ボランティア、留学を経験した後の学生の受講に関しては自己の経験を地域で活かし、語学や学びの継続を地域の国際的な場面において学生の経験を活かす場面を自らで開拓し、さらにキャリア形成を積む。		
予習	自らで計画を立て、フィールドワーク先等の調整を常に行っておくこと。当科目にお		

	いて必要となるコミュニケーションスキルを身につけておくこと。
復習	アクションプランの計画から実施、結果、振り返りを自らで管理するため、スケジュールの管理、臨機応変の対応を復習する時間を活用し行うこと。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	学生自ら実習先を見つけて、NGO・NPO団体への参加をしながら学んでいくプログラムである。時間管理、地域団体への貢献を最も大事にし、評価をする。 授業への参加（30％）、フィールドワークへの参加（40％）、NGO・NPO団体への貢献（20％）、プレゼンテーション（10％） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	学外でのフィールドワーク参加があります。
オフィスアワー	毎週金曜日 3 限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：Global Issues

授業コード：

英文科目名称：Global Issues

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
	ナンバリング：GLS250360		

授業のテーマ及び到達目標	グローバル・イシューと社会責任について英語で学ぶ 知識理解：グローバル・イシューを理解する 関心意欲：グローバル・イシューに取り組む意欲をもつ 思考判断：グローバル・イシューに対する自己見解を持つ 態度：グローバル・イシューに対する地球市民としての社会責任を認識することが出来る		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 地球規模の課題とは 第3回 「ミレニアム開発目標」と国連 第4回 人間の安全保障その1（貧困） 第5回 人間の安全保障その2（紛争） 第6回 途上国とキャパシティー・ディベロップメント 第7回 開発と資源、富の分配 第8回 食料とエネルギー問題 第9回 AIDS、パンデミックと国際保健 第10回 国際テロリズム 第11回 地球環境問題その1 第12回 地球環境問題その2 第13回 NGOと国連 第14回 教育、人権、ジェンダーWID 第15回 まとめ 第16回 総括		
授業の概要	グローバル化が進むなか、国際社会がともに取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）は、年々増加・多様化している。環境問題や紛争、難民など国境を越えて連携しなければ解決しない問題について理解を深める。		
予習	毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。		
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。		
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。		
参考書	講義においてそのつど提示する。		
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業への参加度を重視する。学生のプレゼンテーションなども評価対象です。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること		

	○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	調査活動への参加は授業外、校外活動も必要です。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：地域と国際開発論

授業コード：

英文科目名称：Regional & International Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS352	

授業のテーマ及び到達目標	開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶことが出来る 知識理解：開発とは何かという知識を持つ 思考判断：開発に対する自己見解を持つ 関心意欲：地域社会の開発を探究する意欲をもつ 態 度：深く調査することが出来る		
授業計画	第1回	地域と国際開発の目指すこと、「開発」の概念理解 授業イントロダクション ・流れ、学生に求められること、評価等 ・「開発」という言葉を聞いてイメージすること ・地域と国際開発、この開発という言葉の持つ意味について	
	第2回	沖縄線、沖縄移民にみる沖縄の世代わり 沖縄と世界のつながり、「沖縄移民」の始まり ・写真を通してみる世替わり ・沖縄移民の歴史、それぞれの生き方 ・移民が沖縄のグローバル化のパイオニアだった！	
	第3回	沖縄の戦後復帰を振り返る 沖縄戦から米軍占領下の沖縄社会を振り返る 沖縄にとって、沖縄県民にとって「日本本土」復帰とは何だったのか 復帰に当たって沖縄社会が期待したこと、裏切られたこと、沖縄の立ち位置について学ぶ	
	第4回	沖縄21世紀ビジョンにみる沖縄の開発問題 沖縄県が策定している21世紀ビジョンについて知る。 沖縄21世紀ビジョンは、県民の参画と協働のもとに、将来（概ね2030年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と県民や行政の役割などを明らかにする基本構想。沖縄県として初めて策定した長期構想で、沖縄の将来像の実現を図る取り組みや、これからの県政運営の基本的な指針。 そのビジョンにみる現代の私たちの暮らしをみる	
	第5回	私・あなたの地域の歴史に触れる① グループ学習。地域の素材（地域紙、地域の新聞記事等持参） あなたの地域「地域の宝」「地域の課題」「地域の未来」この三つをテーマに地域分析を行う	
	第6回	沖縄の社会課題「講義でテーマ決定」を学ぶ（フィールドワーク予定） 上記3つのテーマを元に、地域をフィールドワークし、映像・画像に収める条件 ・誰かにインタビュー ・「地域の宝」「地域の課題」「地域の未来」この3つのコンテンツを入れる ・自分たちの編集する画像、映像を基本とし、誰かの作成したものを使用しない ・15分程度の映像にまとめる	
	第7回	沖縄の社会課題「講義でテーマ決定」を学ぶ（フィールドワーク予定）② 上記の続き 2コマ予定	
	第8回	フィールドワーク振り返りその1 映像を通して発表 ・フィールドワークを通して作成した映像を活用して発表を行う	
	第9回	フィールドワーク振り返り 上記続き	
	第10回	社会派映画にみる社会開発とは 社会派映画にみる「沖縄の地域開発」もしくは「アジアの開発」の映像を見て、テーマを決めてディスカッションする	
	第11回	アジアの地域開発の歴史① アジアがもし100人の村だったら（シュミレーションゲームを行う） ・アジア経済の成長 ・アジアの発展と日本の発展 ・沖縄としての立ち位置、アジアとどう手をつなげるのか	
	第12回	アジアの地域開発の歴史② アジア地域で活躍する県系人もしくは日系の方をゲストに迎え、アジアに生きることをスピーチして頂く ・世界のウチナーンチュとしてアジアに生きる ・今、アジアが面白い ・これから沖縄はどう生きればよいのか、アイディア共有	
	第13回	地域開発と政治 その① 社会を変える一つの方法として選挙、政治がある 今年は数々の選挙が存在している。18歳選挙になった現在、どのように選挙に対して備えているのか？ 政治的に翻弄されてきた沖縄に住む私たちが政治に向き合うための方法を学ぶ	
	第14回	地域開発と政治 その② ゲストを招へいし、選挙討論会を開催予定。年によっては時期が合わない可能性もある。 ・どんな人が選挙に立候補するのか？ ・政策を若者の視点で批判的に読み解く	

	第15回 ・選挙に向き合う姿勢を学ぶ 授業まとめ 沖縄の未来を私たちはどう作るのか？ グループ活動…授業全体を振り返り、沖縄の社会開発の可能性を探る (全体共有)
授業の概要	「開発」とは何であるのかを学ぶ時間であり、開発は誰のためのものか？一人ひとりの役割について考えていく時間とする。沖縄の地域開発の歴史に触れ、アジア地域の開発の歴史も併せて学んでいくなかで、沖縄とアジア地域の社会開発を併せて学ぶ。昨年より、沖縄県における「子どもと貧困」の話題が大きく取り上げられているため、本科目においても原因、これからの社会形成にとって何が重要であるのかを、本テーマを通して沖縄社会の開発の課題を学ぶ。
予習	社会の課題に関心を持ち、ニュースに目を通す。本テーマは特に社会ニュースの今が非常に重要であり、関心をもつことが推奨する。
復習	書く課題を自分自身でも学び、地域の課題をフィールドワークし、研究する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示するが特定のものを定めない
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（20%）、課題（レポート）（25%）、フィールドワークへの参加（20%）、プレゼンテーション（25%）授業への貢献・積極的発言（10%） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 本授業は、上記評価にあるように、授業レポート、プレゼンテーション、フィールドワーク等を重視する。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：国際協力論

授業コード：

英文科目名称：International Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：GLS255		

授業のテーマ及び到達目標	国際協力の実践的手法を学ぶことができるようになる 知識理解：国際協力を説明できるようになる 思考判断：援助の仕組みを理解できる 関心意欲：世界情勢に興味を持つようになる 態 度：行動できるようになる		
授業計画	第1回	国際協力とは、イメージと実際（講義） ねらい：国際協力の本科目についての共有理解、授業の始まりにむけてお互いの期待を共有 ・本授業のシラバス内容確認 ・評価、出席、テストの有無等確認 ・担当教員の国際協力における専門について解説 ・グループワーク①：「あなたがこれまで体験・受講してきた国際協力」共有	
	第2回	世界がもし100人の村だったら（WS） 世界には約70億もの人がいますが、それを100人に縮めてみたらどうなるでしょう？ メールメッセージで広がった「世界がもし100人の村だったら」を使い、実際に身体を使いながら世界の格差や多様性を体感する	
	第3回	地球の食卓に見る世界の現状（WS・講義） 世界24カ国30家族を訪問し、それぞれの家族と1週間分の食料をならべて撮影した写真集を活用。 世界の食卓から見る食の分配、世界の食料は本当に足りていないのか？検証していく。	
	第4回	国際協力のアクター 国連・NGO・ボランティア 国際人道支援に関わるアクターの数が増加し多様化している。 主要なアクターとしては政府（中央・地方）、国連機関、赤十字、国際/国内NGO、ボランティア、等、それぞれの活動の強みについて触れながら同分野で活動するアクターを学ぶ。	
	第5回	沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA沖縄訪問予定（下合わせて2コマ使用） 国際協力分野の進路開拓セミナー J I C A 沖縄を訪問予定（予定） ・J I C A ボランティアを知る ・J I C A ボランティア体験者の話を学ぶ ・沖縄発国際協力を学ぶ	
	第6回	沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA沖縄訪問予定（上合わせて2コマ使用） 国際協力分野の進路開拓セミナー 上記続き	
	第7回	貿易ゲーム（WS） 貧困は何故なくならないのか 貿易ゲームとは、近代国家の形成を理解する上で資本主義のイメージを掴むことが出来る。先進国と途上国の生産性の相違を中心に、構造的暴力を経験的に認識する。	
	第8回	貿易ゲーム（講義） 振り返り 上記のゲームを通じて見えてきた構造を分析する ・貧困は怠け者の国に起こることなのか？ ・貿易と貧困の相関性 ・格差の広がる社会の中で私たちが目指すものとは	
	第9回	貿易と貧困その1 ～社会派映画に観る～ 社会派の映画で国際協力、国際ボランティアをテーマとすることを視聴し、議論、レポートの作成を行う	
	第10回	バナナやコーヒー、紅茶を通して世界とつながる（ワークショップ、講義） フェアトレードという仕組みの広がりを知る ・格差の広がる社会、貿易によって広がる貧困問題に対して生まれてきたフェアトレードを学ぶためのワークショップ、私たちの食するバナナ、コーヒー、紅茶はどこから運ばれてくるのか知る	
	第11回	開発援助を考えるその1 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～ 開発援助を考えるためのワークショップ 自分たちでプロジェクトを作って国際協力を体験してみる 課題分析から活動、評価まで グループ活動～発表まで	
	第12回	開発援助を考えるその2 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～ 上記続き	
	第13回	開発援助を考えるその3 ～最終プレゼン～ 上記まで考えてきたことをプレゼンテーションする 各グループ15分のプロジェクト発表（最終評価）	
	第14回	プロジェクト発表 プレゼン2 最終振り返り 各グループのプロジェクトを振り返る ・課題は解決されたのか？ ・SDGs、本当に変わるべきは先進国	
	第15回	全授業 最終振り返り SDGs、先進国が取り組まなければならないこと 全授業の振り返り	

授業の概要	私たちの足元で起こっている出来事は、世界とつながり、世界のどこかで起こっている出来事も私たちの生活と密接に関係している。しかし何から理解していけばよいのか。よく日本はお金持ちの国だから、貧しいかわいそうな国や人びとに支援、協力しなければならない、したいということを聞くが、果たしてそうだろうか。この授業では、国際協力、世界や足元の開発の問題を参加型学習（ワークショップ）や、フィールドワーク、実際の現場体験を通して一人ひとり考える時間としたい。一つの答えではなく、それぞれの答えや考えを重視する。
予習	ニュース、インターネット等を通じて発信される国際協力活動、課題について関心を寄せる。
復習	実際に訪問する場所、イベントを自ら見つけてボランティア、イベント参加することを推奨します。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（20%）、課題（レポート）（30%）プレゼンテーション（30%）、フィールドワーク（10%）、授業への貢献・積極的発言（10%） 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	※基本は、講義と参加型学習（ワークショップ）。時によりフィールドワークや現場体験への参加の機会提供有り。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：沖縄からみるグローバル化

授業コード：

英文科目名称：Globalization and Okinawa

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	グローバル化が沖縄にもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「グローバル化」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ 思考判断：グローバル化に対する自己見解を持つ 態 度：国際社会の事象を地域の問題として考えることが出来る		
授業計画	第1回 インTRODakション 生活の中の「グローバル化」 第2回 「グローバル化」の功罪 第3回 「文化帝国主義」とグローバル化 第4回 経済格差と人口移動その1 ～沖縄沖縄移民を事例として～ 第5回 経済格差と人口移動その2 ～戦後沖縄の出稼ぎから～ 第6回 経済のグローバル化と市場原理 第7回 国家（政府）、市場（企業）、民間（NGO）の役割 第8回 島嶼経済とグローバル化その1 ～世界の島社会と沖縄の比較～ 第9回 島嶼経済とグローバル化その2 ～アジア・ミクロネシアの島社会～ 第10回 沖縄と食料自給率その1 第11回 沖縄と食料自給率その2 第12回 軍事のグローバル化と沖縄その1 第13回 軍事のグローバル化と沖縄その2 第14回 グローバル化と「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」その1 第15回 グローバル化と「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」その2 第16回 総括		
授業の概要	概念や理論としての「グローバリゼーション」を理解するだけではなく、実際に沖縄という地域において、どのような政治的、経済的、文化的変化が生じているかについて学ぶ。経済格差に伴う人口移動など、沖縄の過去や現在に照らし合わせながら、グローバル化を理解する。島嶼であるが故の沖縄の課題について学び、地域の将来を予測し、積極的に関わるための知識と考察力を養う。		
予習	毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。		
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。		
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。		
参考書	講義においてそのつど提示する。		
評価方法・評価基準	レポート、課題、授業やワークショップへの参加度によって評価する。 【D P 1～4との関連】		

	○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	国際関係論を履修していること。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対する フィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：メディア・リテラシー

授業コード：

英文科目名称：Media Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS152		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 メディアの使い方・読み取り方について学ぶ 知識理解：メディア・リテラシーを理解する 関心意欲：メディアのあり方に対して疑う意欲をもつ 思考判断：メディアを批判的に捉える自己見解能力を持つ 態度：メディアを読み取り、活用する方法を身につける。 【到達目標】メディアを倫理的に活用できるようになる。メディア・リテラシーの基礎的知識を身につけ、自ら応用できるようになる。メディアを批判的に捉え、自分なりの理解と解釈ができるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション メディアと私たち 私たちの生活に溢れるメディアの種類は、かつての新聞やテレビが中心であった時代から劇的な変化を迎えた。多様化するメディアとどう向き合うか。私たちを取り巻くメディアの現状について学ぶ。	
	第2回	メディア・リテラシーとは 「ザックリまとめると」などの表現がネットニュースを中心に使用され、かつてないほど多量の情報が深みを持たないまま私たちの周辺に溢れている。「フェイクニュース」といった表現に見られるように、どの情報が「真実」なのか不確定な時代を迎えている。多様化する価値観と視点の時代に、情報を批判的に読み取り、深く理解するとはどういうことか。また情報を扱う上で必要な倫理観とは何か。メディア・リテラシーの基礎を学ぶ。	
	第3回	コンピューター・リテラシーとデジタルデバイド（情報格差） 一部の先進国ではIoTや人工知能など、高度なデジタル技術が生活に応用されて便利な暮らしを支えている。情報は資源であり、生活や仕事、経済や軍事の大きな武器となる。一方、途上国では私たちが当たり前前にアクセスしている情報に手が届かず、ハンディキャップを負う現状がある。IT時代の南北問題を学ぶ。	
	第4回	マスメディアの歴史 活版印刷の発明からタイプライター、ラジオ、新聞そしてテレビの誕生は、人類と情報の関係を大きく変えてきた。マスメディアの誕生とその発展の歴史を学ぶ。	
	第5回	ソーシャルネットワークサービスとリタラシー 今や「ソーシャルネットワークサービス」は私たちの生活に欠かせないものとなりつつある。その存在は、私たちと情報の関係のみならず、私たちの社会関係までも変化させてしまった。ソーシャルネットワークサービスを通しての様々なトラブルも顕在化してきた現在、どのようにソーシャルネットワークサービスを活用すべきなのか、その基礎を学ぶ。	
	第6回	CNNとアルジャジーラ アメリカの政治的立場を強く反映したCNNと中東発信のアルジャジーラを例に、同じ「事実」をどうメディアが構成し伝達するか学ぶ。	
	第7回	沖縄とメディア 近年、地元沖縄のメディアと日本本土のメディアの違いがクローズアップされている。沖縄のメディアは「中立性」を欠いているのか。メディアと客観性、ジャーナリズムの役割について学ぶ。	
	第8回	戦争とメディア メディアは戦争と常に密接な関係にある。メディアと戦争の共犯関係について学ぶ。また反対に、メディアを通して戦争への異議を唱え、戦争に対する国民の世論を大きく動かした戦争ジャーナリズムの歴史についても学ぶ。	
	第9回	ジャーナリズムと報道 そもそもニュースや新聞記事は中立か。情報を中立に伝えることがメディアの役割か。ジャーナリズムの精神とその目的について学ぶ。	
	第10回	メディアと認知心理学 私たちが情報を受け取る時、私たちの脳内ではどのような回路が働いているのか。認知心理学から私たちとメディアの関係について理解する。	
	第11回	情報・印象操作と表現 視点や角度、明暗など様々な環境操作や表現方法により、私たちの情報に他する印象もコントロールされている。実際に行われている操作の技術を学ぶことで、それらの操作に左右されない情報の読み取り方を学ぶ。	
	第12回	ステルスマーケティングとサブリミナル・メッセージ サブリミナル・メッセージやステルスマーケティングなど、メディアを通して活用されている印象操作について学ぶ。	
	第13回	メディア・リテラシーと情報倫理 メディアを悪用した人権侵害や犯罪など、メディアが身近なものになるに伴って社会的課題も山積してきた。メディアを正しく活用する方法と倫理について学ぶ。	
	第14回	メディアと欲望 歴史を通してメディアは消費社会の基盤を作るとともに、消費者としての私たちの欲望と深く関わってきた。経済活動やダイエットなど、私たちのセルフ・イメージにメディアがどう関わってきたのか、経済学や消費行動学、心理学をもとに考える。	
	第15回	これからのメディアのあり方 人工知能の発達やIoT、コンピューターテクノロジーの進化とともに、私たちが「メディア」と呼	

	ぶ情報の媒体も様々な変遷を遂げている。これからのメディアのあり方を予測するとともに、次世代のメディアリテラシーを考える。 第16回
授業の概要	情報の流通が多量・高速化する現在、その媒体（メディア）を読み解き使いこなす能力（メディア・リテラシー）が重要となっている。メディアの特性を理解し、その内容を批判的に捉え、単に情報を受け取るだけでなく、あらゆるソーシャルメディアを活用し、発信していく力を身につける。
予習	次回の内容予告を受け、専門用語や概念などを調べておくこと。
復習	回次の授業の連続性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	レポートやエッセイを課す。授業への参加のみならず、積極的なワークショップ等への参加も評価へ加味する。 期末レポート50% ディスカッションなど授業への参加度20% その他課題査20% 授業態度10% 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文化人類学を履修していること
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは成績評価確定後、希望に応じて返却します。

講義科目名称：近代沖縄とアイデンティティ

授業コード：

英文科目名称：Modern Okinawa & Identity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：GLS363		

授業のテーマ及び到達目標	沖縄の近代化がそのアイデンティティにもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「近代性」や「アイデンティティ」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ思考判断：近代化や多様性に対する自己見解を持つ 態 度：国際社会と地域の事象を比較して考える ことが出来る 到達目標：沖縄のアイデンティティについて自らの見地を持てるようになる。世代や政治観を超えて沖縄のアイデンティティの根底にあるものを理解できるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション 「うちなーんちゅ」とは誰？ 日頃よく使う「ウチナーンチュ」とは誰を指すのか？その定義について改めて考え、アイデンティティを考える上での基礎を学ぶ。	
	第2回	「近代」という時代 近代という時代性について学ぶ。近代性の中で構成されるアイデンティティとはいかなるものか、理解する。	
	第3回	近代国民国家と日本 近代国家とは何かを学び、日本の近代を考えるとともに、その沖縄への影響について学ぶ。	
	第4回	「アイデンティティ」とは アイデンティティを社会構築物として捉え、心理学やポストコロニアル理論など多角的なアプローチでアイデンティティを考える。	
	第5回	日本における少数民族の歴史と現状 在日コリアンやアイヌなど、日本における少数民族の歴史を学び、沖縄と比較することで近代国家におけるマイノリティの課題を考える。	
	第6回	沖縄の近代化と日本への同化と沖縄戦 沖縄が日本へと取り込まれ、「日本人」への同化がどのような社会的結果をもたらしたのか、沖縄戦や多民族との関わりの中から考える。	
	第7回	沖縄の労働移民と沖縄救済活動 焦土と化した戦後の沖縄を復興させるのに、海外移民コミュニティからの援助は不可欠だった。貧困と労働移民、そして海外移民コミュニティと沖縄のつながりを戦後の沖縄救済運動から学ぶ。	
	第8回	第二次世界大戦と日系アメリカ人、沖縄系アメリカ人 敵国人となった日系および沖縄系アメリカ人の戦前戦後の歴史を辿ることで、アイデンティティと国家の関係を考える。	
	第9回	米軍占領下における宣撫工作と沖縄のアイデンティティ 戦後沖縄における米軍の占領政策は、沖縄のアイデンティティにも大きく影響することになる。戦後の沖縄におけるアイデンティティ形成を考える。	
	第10回	「日本復帰」、沖縄の経済開発とアイデンティティ 米軍の占領下で、沖縄では平和憲法のもとへの「日本復帰運動」がおこる。再び日本の一部となり経済開発を迎えた沖縄における社会問題とアイデンティティの関係について考える。	
	第11回	帰国県系人のアイデンティティ 多くの海外移民を排出した沖縄では、海外沖縄系コミュニティとの関係が強い。そのような関係性の中で形成されるアイデンティティと沖縄へ「帰国」した県系人のアイデンティティを考える。	
	第12回	「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」とディアスポラ 「世界のウチナーンチュ大会」など海外沖縄系コミュニティと沖縄の交流は拡大してきた。離散共同体（ディアスポラ）としての海外ネットワークを基盤としたアイデンティティについて学ぶ。	
	第13回	観光のなかのイメージとしての沖縄文化 毎年成長を続ける沖縄観光の中で構築・再構築される「沖縄」のイメージについて考える。そのイメージが構築される歴史的・社会的背景について学ぶ。	
	第14回	地域言語と沖縄の文化的アイデンティティ 「しまくとぅば」もしくは琉球語を通して沖縄のアイデンティティを考える。	
	第15回	沖縄アイデンティティのゆくへ 激しく変貌する時代の中で、沖縄のアイデンティティはこれからどのような変遷をみせるのか。その未来について議論する。	
	第16回		
授業の概要	近代国民国家日本の形成と沖縄の近代化が、沖縄のアイデンティティにどのような影響を及ぼしてきたのか、その歴史的背景と現状について学ぶ。アイヌ民族や在日コリアン、混血児や労働移民、難民など近代国家の狭間にあって、様々な課題を抱える人々と沖縄を照らし合わせながら、アイデンティティについて考える。異質なものを排除する近代システムの暴力と、多様性の強みを理解し、多文化共生社会に積極的に関わるための知識と考察力を養う。		
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な用語、歴史、事実関連を調べておくこと。		

復習	次回の授業との関連性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	レポート、課題及び授業内のワークショップへの参加度で評価する。 小テスト・授業内レポート80% 授業態度20% 【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文化人類学を履修していること。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは採点後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：多読

授業コード：

英文科目名称：Extensive Reading I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1単位 (0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona・武村 朝吉			
	ナンバリング：ERE100		

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this class is to provide students with a designated time to sit and read English books. Students will read graded readers appropriate for their own individual level. Through this process students can progress in three key areas: 1. Students' reading speed will increase. 2. Students' vocabulary will increase. 3. Students will develop an appreciation for the joy of reading. Of course, by reading a lot students will also learn a lot. They might learn about classic literature, about other cultures, or indeed about any of the great many themes within the graded reader literature.		
授業計画	第1回 多読とは何か 第2回 Reading 第3回 Reading 第4回 Reading 第5回 Reading 第6回 Reading 第7回 Reading 第8回 Reading 第9回 Reading 第10回 Reading 第11回 Reading 第12回 Reading 第13回 Reading 第14回 Reading 第15回 Reading		
授業の概要	At the beginning of the course, students will be shown the extensive reading library, and the graded reader grading system will be explained to them. Students will look at the different books and decide for themselves what level is appropriate. This is not rigid, and students can later choose books of a lower or higher level (in fact, students should later move up a level or two as they become more comfortable with the concept of reading for pleasure.) After that, students will simply begin reading. When they finish a book, they will log the details of the book, including the number of words. They will also write a short report about the book. When they have finished the report, they choose another book and begin reading. They will keep a log throughout the course, which will include a running total of the words they have read. This is submitted with their book reports at the end of the semester for the purposes of assessment.		
予習	多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要事項を記入する。iKnowは一日10～20分学習する。		
復習	多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要事項を記入する。iKnowは一日10～20分学習する。		
テキスト	iKnow! (語彙力強化eラーニング)		
参考書	多読用テキスト (図書館多読コーナー)、iKnow アカウント		

評価方法・評価基準	単語数（累計）60%、課題（iKnow）40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	多読には、①辞書は引かない、②分からないところは飛ばす、③つまらなくなったら後回しという3原則がある。自分の英語力と興味に合わせて、辞書はできるだけ見ないで読破できるような本の中から面白そうなものを多読コーナー（図書館）で選んで、どんどん読み進めて欲しい。なお、それぞれが異なるテキストを読んでいるので、担当教員への質問等は静かに行うこと。
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：Advanced Communication I

授業コード：

英文科目名称：Advanced Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
	ナンバリング：EOC317		

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at intermediate level, or higher. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials and teaching. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level. Through the course materials, instruction, and assignments, students will practice and progress in all four skills (reading, writing, listening, and speaking) to a higher level.		
授業計画	第1回 Shopping 第2回 What do we need? 第3回 Consumption will fill the void 第4回 Minimalism 第5回 Tiny Houses 第6回 Advertising 第7回 Media 第8回 Social Media 第9回 The Age of Miracles 第10回 Transportation 第11回 Energy Slaves 第12回 Work 第13回 Money and debt 第14回 The Alternatives 第15回 Your life plan 第16回 Speaking test		
授業の概要	This is a class for students who have already passed basic and intermediate reading, writing (grammar), and communication classes. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who opt to take this class, and students who are not yet quite comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class. This class is about taking student's communication (both written and verbal) skills to the next level: taking difficult topics and learning how to express your thoughts on them in a clear way. In this way, one key uniting theme is critical thinking, since it is only through critical thinking that we will find the complexity that we need to really stretch our communicative abilities. For each theme we will critically examine our assumptions about how society should operate in order to develop our ideas about how a fair and just society would function.		
予習	As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class.		
復習	Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.		
テキスト	There is no textbook for this course. All the content will come from our conversations.		
参考書	A dictionary (paper or electronic).		

評価方法・評価基準	Class attendance and participation, presentations, and an end-of-semester speaking test. Grades will be based upon the school grading policy 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：Advanced Communication II

授業コード：

英文科目名称：Advanced Communication II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
	ナンバリング：EOC318		

授業のテーマ及び到達目標	This class will follow on from the skills and topics learned and practiced in Advanced Communication I. The fundamentals of communication will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials and teaching. Instead, students will continue to learn about more complex elements of communication, to a deeper level. Through the course materials, instruction, and assignments, students will practice and progress in all four skills (reading, writing, listening, and speaking) to a higher level.		
授業計画	第1回 Tact 第2回 Diplomacy 第3回 Euphemisms 第4回 Political Correctness 第5回 Persuasion 第6回 Advertising 第7回 Rhyme, alliteration, assonance 第8回 Advertising (practical) 第9回 Mid-term assignment (pres.) 第10回 Humour 第11回 Humour (cont'd) 第12回 Accents 第13回 Conversational strategies 第14回 Negotiation 第15回 Negotiation (cont'd) 第16回 Final Test		
授業の概要	This is a class for students who have already passed basic and intermediate reading, writing (grammar), and communication classes, and also Advanced Communication I. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class. The classes will focus on specific higher-level elements of English communication, both verbal and written. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.		
予習	As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class.		
復習	Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.		
テキスト	Materials are provided by the teacher		
参考書	Good paper or electronic dictionary		

評価方法・評価基準	Class participation, presentations and group projects, short tests (quizzes), end-of-semester assignment, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：同時通訳実践演習Ⅰ（Chapel Service）

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service InterpretationⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	1単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT290		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。 【到達目標】 建学の精神を理解しながら、効果的な日英・英日同時通訳ができるようになる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、月曜礼拝通訳の実践1 この授業の意義を理解する。また、月曜礼拝の場で通訳の実践をさせていただくにあたり留意すべき事項、またチームとして受講生それぞれが授業の運営に参加する必要性を理解する。 第2回 月曜礼拝通訳の実践2 自分の担当箇所を中心に、全体を見て準備する。 第3回 月曜礼拝通訳の実践3 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第4回 キリスト教講演会通訳 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第5回 月曜礼拝通訳の実践4 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第6回 月曜礼拝通訳の実践5 声のトーンを意識する。 第7回 月曜礼拝通訳の実践6 自分の担当箇所を中心に、全体を見て準備する。 第8回 月曜礼拝通訳の実践7 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第9回 月曜礼拝通訳の実践8 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第10回 月曜礼拝通訳の実践9 声のトーンを意識する。 第11回 月曜礼拝通訳の実践10 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第12回 月曜礼拝通訳の実践11 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第13回 月曜礼拝通訳の実践12 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第14回 月曜礼拝通訳の実践13 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第15回 まとめとフィードバック		
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。		
予習	配布された資料を研究し、同時通訳に備える。（毎回、約2時間以上の事前学習を必要とする）		
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って良かった点、要改善点などを分析する。（毎回、約2時間以上の事後学習を必要とする）		
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）		
参考書	聖書（日本語、英語）、キリスト教関連資料、その他内容に応じた資料（その都度指定します）		
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」、および「通訳とプレゼンテーション」を履修中または履修済みであることが望ましい。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp 毎週火曜日 4 時限目 城間研究室
課題に対する フィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称：同時通訳実践演習Ⅱ（Chapel Service）

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	1単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
	ナンバリング：INT291		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。 【到達目標】 建学の精神を理解しながら、効果的な日英・英日同時通訳ができるようになる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、月曜礼拝通訳の実践1 この授業の意義を理解する。また、月曜礼拝の場で通訳の実践をさせていただくにあたり留意すべき事項、またチームとして受講生それぞれが授業の運営に参加する必要性を理解する。 第2回 月曜礼拝通訳の実践2 自分の担当箇所を中心に、全体を見て準備する。 第3回 月曜礼拝通訳の実践3 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第4回 キリスト教講演会通訳 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第5回 月曜礼拝通訳の実践4 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第6回 月曜礼拝通訳の実践5 声のトーンを意識する。 第7回 月曜礼拝通訳の実践6 自分の担当箇所を中心に、全体を見て準備する。 第8回 月曜礼拝通訳の実践7 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第9回 月曜礼拝通訳の実践8 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第10回 月曜礼拝通訳の実践9 声のトーンを意識する。 第11回 月曜礼拝通訳の実践10 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第12回 月曜礼拝通訳の実践11 あらためて、建学の精神を念頭に置きながら通訳することに努める。 第13回 月曜礼拝通訳の実践12 伝わりやすい表現、伝わりにくい表現について考慮する。 第14回 月曜礼拝通訳の実践13 クラスメートのパフォーマンスを聞き、参考にする。 第15回 まとめとフィードバック		
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。		
予習	配布された資料を研究し、同時通訳に備える。（毎回、約2時間以上の事前学習を必要とする）		
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って良かった点、要改善点などを分析する。（毎回、約2時間以上の事後学習を必要とする）		
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）		
参考書	聖書（日本語、英語）、キリスト教関連資料、その他内容に応じた資料（その都度指定します）		
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」、および「通訳とプレゼンテーション」を履修中または履修済みであることが望ましい。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@ocjc.ac.jp 毎週火曜日 4 時限目 城間研究室
課題に対する フィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称：卒業基礎研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	1単位(0-2)	大学必修科目
担当教員			
未定			
	ナンバリング：THE390・391		

授業のテーマ及び到達目標	「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」は3年次の学生が履修する科目である。4年次に卒業論文を作成する前段階として、学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得する。各ゼミ担当者の方針により具体的な達成目標に違いはあるものの、例えば、自主的にテーマを定め、先行研究の検討などを行い、ゼミ内で発表・ディスカッションを行う。卒業論文のコアとなるレポートを作成することを達成目標としたい。テーマの選定に関しては、学生の主体性に任せる。ただし、担当教員の指導可能なテーマにすること。
授業計画	卒業基礎研究（演習）の流れ 〔2年次後期〕 ①1月中旬…所属ゼミに関する希望調査 ②3月中旬…所属ゼミの決定 〔3年次前期〕 ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。 基本文献を輪読しつつ、全学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。 〔3年次後期〕 3年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、卒業論文を作成するための基礎的な能力を習得する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。また授業は隔週で行われ、各学期8回である。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文のコアとなるレポートを作成することを目標としたい。
予習	指定された論文を熟読すること
復習	指定された論文を、自身の論文に活かすつもりで再読すること
テキスト	各担当教員が提示する。
参考書	『非暴力思想の研究』、『バルメン宣言研究』等
評価方法・評価基準	授業態度：30% 受講者の発表：40% 演習：30% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	(仮) 時間：担当教員のオフィスアワーを確認してください。 場所：各研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：社会言語学

授業コード：

英文科目名称：Sociolinguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：ENG135		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 英語を社会との関連の中で多面的に理解する。社会に実際に存在する具体的な問題やその背景を把握し、矛盾や問題を認識・解決する姿勢を養う。 【到達目標】 英語や他言語の事例を多面的に理解し、その知識を自らの問題として捉え解決に向けて思考・発案することが出来る。		
授業計画	第1回	第1章 社会言語学とは何か p. 1-14	言語学と社会言語学（社会言語学は言語学になりうるか、チョムスキー革命、社会と言語） どうして今社会言語学か（日本の社会言語学、社会言語学の「はやり」） 2つの社会言語学（静的アプローチ、動的アプローチ）
	第2回	第2章 言語の選択1-4 p. 15-26	多言語社会、 ダイグロッシア（アラビア語のケース、ポリグロッシア） ドメイン（ドメインの種類、ドメインの限界） 二言語話者とコードスイッチング（外来語とコードウイッチング、日英語のコードスイッチング）
	第3回	第2章 言語の選択5-6 p. 27-46	スイッチングの理由（コードスイッチングしないといけない場合、話の内容が変わる、デュアル・アイデンティティ、利害関係の交渉、どちらの言語にすべきか） 言語規則（Equivalence Constraint, Equivalence Constraintの矛盾, Free Morpheme Constraint, Free Morpheme Constraintの矛盾、文産出からのアプローチ、フレーム／コンテンツ仮説、統語論からのアプローチ）
	第4回	第2章 言語の選択7-8 p. 47-58	言語の死（オーストラリアでのハンガリー語、アメリカ・インディアン語、スコットランドでのゲール語） 言語の誕生（ハワイのピジン、バイオプログラム） 琉球の言葉の場合
	第5回	第3章 言語のバリエーション1-3 p. 59-74	ウィリアム・ラボフの古典的研究（マーサーズビンヤード島、ニューヨーク市内のデパート） 地域方言（アメリカ英語のケース、米英語だけが英語か） 社会方言（発音と社会方言、三単現s、マッチトガイズ・テクニク、標準英語とスペイン語なまりの英語）
	第6回	第3章 言語のバリエーション4-5 p. 75-90	黒人英語（thatがdatになる、be動詞の規則、多重否定とは？） ジェンダー（男言葉、女言葉、男女の会話のスタイル、どうして女性は丁寧に話すのか）
	第7回	第3章 言語のバリエーション6 p. 91-100	年齢と言語（若者は社会的に低いバリエーションを好む、ジョックスとバーンアウト、スラングと若者）
	第8回	第4章 言語とコンテキスト1-2 p. 101-120	オーディエンスデザイン（同じアナウンサーなのに？プレイボーイ誌のインタビュー、聞き手よりも傍聴人？） スピーチアコモデーション（旅行代理店での会話、スピーチ・アコモデーションの種類、ダイバージェンス、アコモデーションの失敗）
	第9回	第4章 言語とコンテキスト3 p. 121-135	ポライトネス・ストラテジー（2つのフェイス、非人称化のストラテジー、どの程度丁寧であるべきか、アドナイスをすることは失礼か、アメリカ人にとっての「ていねい」とは？）
	第10回	第4章 言語とコンテキスト4 p. 136-144	

	第 1 1 回 力と仲間意識 (tuとvous、力と仲間意識の関係、沖縄語における代名詞) 第5章 社会言語学とその周辺 1-2 p. 145-161 第 1 2 回 法律と言葉(社会階級と被告人、ノンネイティブの被告人、売春婦に話しかける言葉、よくわからないお役所文書) 精神療法の英語 (文法を相手と同じにする、2人で1つの文を作り上げる、相手の言ったことを繰り返す) 第5章 社会言語学とその周辺 3 p. 161-171 第 1 3 回 セクシスト・ランゲージ(男性が主語出、女性は目的語?、男性ガリードし、女性がしたがう?、男女のステレオタイプ、アメリカ言語学会のガイドライン、言語学の「伝統」) 第5章 社会言語学とその周辺 4 p. 172-195 第 1 4 回 異文化コミュニケーション (コンテクストの型、「気がきく」は高コンテクスト?、世界の文化とコンテクストの型、行政指導、沈黙は美德?、アサバスカ族のコミュニケーション・スタイル、リダクション原理、エスキモー語には雪を表す言葉が400もある?) 第5章 社会言語学とその周辺 5 p. 195-206 第 1 5 回 言語政策: アメリカでの公用語運動(国語と公用語、アメリカの公用語はなに?、プロポジション63、英語オンリーか、英語プラスか) まとめ これまで学んできた社会言語学の知識を用いて、琉球諸語復興のためにできること。 第 1 6 回 期末試験
授業の概要	言語構造としての英語ではなく、英語をとりまく地域、世代、性別、職業、民族性など様々な背景と英語との相関関係を社会言語学的な観点から概観する。国際化とともに変移する英語の社会的立場や他の言語との関係など、英語に特化したテーマに加えて、言語の多様性や言語権など言語と社会をどう捉えるか学際的研究の動向を学ぶ。
予習	決められた範囲を熟読し、要点や質問事項をノートにまとめてくる。約2時間の事前学習を要する。
復習	返却された理解チェックプリントの確認。約1時間の事後学習を要する。
テキスト	『社会言語学入門』(2009 改訂版) 東照二 著 研究社
参考書	なし
評価方法・評価基準	期末試験: 90%、授業態度(または提出物)10%、 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・積極的に臨む意志がある人のみ受講すること。(私語・居眠り厳禁。) ・必ず宿題を済ませて授業にのぞむこと。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	(仮) 毎週火曜日 1,2限目 新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業内で採点・回収し、評価後、授業内で返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

講義科目名称：教育英文法

授業コード：

英文科目名称：Pedagogical Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	学科選択科目
担当教員			
大城 直人			
	ナンバリング：ENG230		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 英文法の文法規則についての理解を深め、その知識を基に文法指導力を身につけることが、本講義の到達目標である。確かな文法知識を習得し、文法規則を分かりやすく伝える説明力を養い、さらに、効果的な言語活動を計画・実践する授業運営力の獲得を目指す。 【到達目標】 1) 英語の正確な文法知識を身につけている。2) 英文法の効果的な指導方法について理解している。3) 英文法の習得を図るための効果的な言語活動を計画・実践することができる。		
授業計画	第1回	講義概要説明／なぜ文法を教えるのかー文法指導の目的と意義 全15回の授業計画について概要を確認した後、課題や評価方法等についても説明を行う。第1回目ということで、文法指導の目的と意義について、学習者の技能的側面や情意的側面に着目し、先行研究の知見も紹介しながら確認する。	
	第2回	学校英文法（1）－中学校で学習する基礎的文法項目 中学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。	
	第3回	学校英文法（2）－高等学校で学習する基礎的文法項目 高等学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。	
	第4回	文法指導における教材研究－場面設定・身近な素材の活用・視覚教材の開発 文法指導においては、自然な文脈の中で意味や機能について触れることが肝要である。また、身近な素材を活用することで学習者の興味・関心を高めることができる。また視覚教材を効果的に活用することで学習効果を高めることも可能になる。	
	第5回	文法指導の流れと留意点－文法指導における4つのステージの目的と意義 代表的な文法指導は4つのステージ（導入・説明・練習・活動）から構成される。その目的と意義について、各ステージの特徴を紹介しながら、確認する。	
	第6回	文法指導における導入の実際－帰納的でインタラクティブな導入 4つのステージの最初のステージである「導入」では、帰納的でインタラクティブなアプローチが効果的である。その理由についても確認しながら、具体的な指導例について紹介し、理解を深める。	
	第7回	マイクロティーチング（1）－導入の実践 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「導入」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。	
	第8回	文法指導における説明の実際－形式・意味・用法を分かりやすく提示 4つのステージの2番目のステージである「説明」では、形式・意味・用法の3点について、分かりやすく簡潔に説明・提示することが求められる。具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。	
	第9回	マイクロティーチング（2）－説明の実践 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「説明」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。	
	第10回	文法指導における練習の実際－話し言葉中心の練習と書き言葉中心の練習 4つのステージの3番目のステージである「練習」では、話し言葉と書き言葉の特性の違いにも触れながら、それぞれの具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。	
	第11回	マイクロティーチング（3）－練習の実践 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「練習」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。	
	第12回	文法指導における活動の実際－インプット重視の活動とアウトプット重視の活動 4つのステージの最終ステージである「活動」では、実際に文法知識を活用し、コミュニケーション活動を行わせる。活動には、インプットを重視したものと、アウトプットを重視したものがあるが、具体例を示しながらそれぞれの特性について理解を深める。	
	第13回	マイクロティーチング（4）－活動の実践（インプット重視の活動） 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にインプット重視の活動を計画し、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。	
	第14回	マイクロティーチング（5）－活動の実践（アウトプット重視の活動） 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にアウトプット重視の活動を計画し、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。	
	第15回	様々な文法指導－TBLT、フォーカス・オン・フォーム 昨今注目を集めている文法の指導方法について具体例を示しながら概要を説明する。また、文法指導の留意点についてこれまで学んだポイントを総括する。	
授業の概要	外国語として英語を学ぶ環境（EFL環境）においては、英文法の学習は不可欠であり、効果的な文法指導力が教師には求められる。本講義では、中学・高校で扱う文法項目から主要なものを取り上げ、宣言的知識の獲得を		

	視野に入れ、文法規則についての理解を深める。また、帰納的な導入の仕方や、分かりやすい説明の仕方についても実例を交えながら考究する。さらに、文法形式の定着を図るエクササイズや文法事項の活用を図るタスクの計画及び実施のあり方についても、実践的な演習やマイクロティーチングを通して理解を深め、指導技術を高める。
予習	テキストに事前に目をとおす（課題がある場合は、課題に取り組む）
復習	授業ハンドアウトの見直しやテキストの再読（課題がある場合は、課題に取り組む）
テキスト	「英語教師のための文法指導デザイン」（田中武夫・田中知聡著、大修館書店、2014年）
参考書	「英語で教える英文法―場面で導入、活動で理解」（卯城祐司編著、研究社、2014年） 「英文法指導アイデアブック 中学1年～3年」（瀧沢広人著、明治図書、2015年） 「中学の英文法―アクティビティ・アイデア集」（瀧沢広人著、明治図書、2013年） 「徹底例解ロイヤル英文法」（綿貫陽著、旺文社、2000年）
評価方法・評価基準	マイクロティーチング（40%）、文法小テスト（30%）、振り返りシート（20%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 遅刻： ①遅刻3回は1回の欠席となる。 ②20分以上の遅刻は、欠席となる。 2. 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。 3. 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。 4. 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をとおす。
オフィスアワー	（仮）毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	1）マイクロティーチングに続く検討会で良かった点や改善点を指摘する。2）課題や小テストは評価（採点）をして返却する。

講義科目名称：英語講読演習 I

授業コード：

英文科目名称：English Reading I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
崎原 千尋			
	ナンバリング：ERE110		

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 Mysteries Reading A Have Aliens Visited Us? Reading Skill A: Scanning Vocabulary Building A: Usage: research	
	第2回	Unit 1 Mysteries Reading A Have Aliens Visited Us? B The Lost City of Atlantis Reading Skill A: Scanning B: Skimming Vocabulary Building A: Usage: research B: Usage: solid	
	第3回	Unit 1 Mysteries Reading B The Lost City of Atlantis Reading Skill B: Skimming Vocabulary Building B: Usage: solid	
	第4回	Unit 2 Favorite Foods Reading A The History of Pizza Reading Skill A: Identifying the Parts of a Passage Vocabulary Building A: Word Partnership: basic	
	第5回	Unit 2 Favorite Foods Reading A The History of Pizza B The Hottest Chilies Reading Skill A: Identifying the Parts of a Passage B: Pronoun Reference Vocabulary Building A: Word Partnership: basic B: Word Partnership: painful	
	第6回	Unit 2 Favorite Foods Reading B The Hottest Chilies Reading Skill B: Pronoun Reference Vocabulary Building B: Word Partnership: painful	
	第7回	Unit 3 Cool Jobs Reading A Training Grizzlies Reading Skill A: Finding the Correct Definition of a Word in a Dictionary	

	第 8 回	Vocabulary Building A: Thesaurus: difficult Unit 3 Cool Jobs Reading A Training Grizzlies B Getting the Shot Reading Skill A: Finding the Correct Definition of a Word in a Dictionary B: Understanding the Use of Commas
	第 9 回	Vocabulary Building A: Thesaurus: difficult B: Word Partnership: spend Unit 3 Cool Jobs Reading B Getting the Shot Reading Skill B: Understanding the Use of Commas
	第 10 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: spend Unit 4 Shipwrecks Reading A I've Found the Titanic! Reading Skill A: Identifying a Paragraph's Main Idea
	第 11 回	Vocabulary Building A: Usage: agree Unit 4 Shipwrecks Reading A I've Found the Titanic! B Treasure Ship Reading Skill A: Identifying a Paragraph's Main Idea B: Recognizing Compound Subjects and Objects
	第 12 回	Vocabulary Building A: Usage: agree B: Usage: coast/beach Unit 4 Shipwrecks Reading B Treasure Ship Reading Skill B: Recognizing Compound Subjects and Objects
	第 13 回	Vocabulary Building B: Usage: coast/beach まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4
	第 14 回	Unit 5 Science Investigators Reading A At the Scene of a Crime Reading Skill A: Inferring Meaning
	第 15 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: space Unit 5 Science Investigators Reading B The Disease Detective Reading Skill B: Identifying the Purpose of a Paragraph
	第 16 回	Vocabulary Building B: Word Link: -ous Unit 6 Explorers and Pinoneers Reading A Who Was Sacagawea? Reading Skill A: Creating a Timeline of Events

	第 1 7 回	Vocabulary Building A: Usage: village/town/city Unit 6 Explorers and Pinoneers Reading B Polar Pioneer Reading Skill B: Understanding Compound Nouns
	第 1 8 回	Vocabulary Building B: Usage: drive/ride Unit 7 Mind's Eye Reading A The Meaning of Dreams Reading Skill A: Creating a Concept Map
	第 1 9 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: problem Unit 7 Mind's Eye Reading B Seeing the Impossible Reading Skill B: Understanding Compound Sentences
	第 2 0 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: mistake Unit 8 Animal Wonders Reading A A Penguin Family Reading Skill A: Paraphrasing
	第 2 1 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: enter Unit 8 Animal Wonders Reading B Do Animals Laugh? Reading Skill B: Identifying Supporting Details
	第 2 2 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: similar まとめと小テスト Unit 5 ～ Unit 8
	第 2 3 回	Unit 9 Incredible Domes Reading A A Love Poem in Stone Reading Skill A: Understanding Complex Sentences
	第 2 4 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: promise Unit 9 Incredible Domes Reading B The Great Dome of Florence Reading Skill B: Recognizing Prepositions
	第 2 5 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: material Unit 10 Wild Weather Reading A A Warming World Reading Skill A: Identifying Text Types
	第 2 6 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: temperature Unit 10 Wild Weather Reading B Freaky Forces of Nature

	Reading Skill B: Identifying Cause and Effect Vocabulary Building B: Usage: drop vs. fall Unit 11 Giants of the Past Reading A The Mammoth's Tale Reading Skill A: Recognizing Active and Passive Sentences Vocabulary Building A: Usage: further/farther Unit 11 Giants of the Past Reading B Sea Monsters Reading Skill B: Organizing Information in a Chart Vocabulary Building B: Usage: probably/definitely/possibly Unit 12 Technology Reading A The Robots Are Coming! Reading Skill A: Supporting Ideas with Examples Vocabulary Building A: Word Partnership: operate Unit 12 Technology Reading B How Will We Live in 2035? Reading Skill B: Understanding Prefixes and Suffixes Vocabulary Building B: Word Partnership: future まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカーの感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準2級、TOEIC ~290
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内課題等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約4時間の事後学習を要する。
テキスト	Nancy Douglas. Reading Explorer Foundations. Second Edition. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【DP 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	講読の中ではもっともベーシックな内容なので、しっかり理解に努めよう。
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英語講読演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
砂川真紀・レイフィールド典子			
	ナンバリング：ERE111		

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 Amazing Animals Reading A The Incredible Dolphin Reading Skill A: Understanding the Gist Vocabulary Building A: Word Link: -ance / -ence	
	第2回	Unit 1 Amazing Animals Reading A The Incredible Dolphin B Musical Elephant Reading Skill A: Understanding the Gist B: Identifying Main Ideas in Paragraphs Vocabulary Building A: Word Link: -ance / -ence B: Word Link: -ist	
	第3回	Unit 1 Amazing Animals Reading B Musical Elephant Reading Skill B: Identifying Main Ideas in Paragraphs Vocabulary Building B: Word Link: -ist	
	第4回	Unit 2 Travel and Adventure Reading A The Trip of a Lifetime Reading Skill A: Understanding Maps Vocabulary Building A: Usage: record	
	第5回	Unit 2 Travel and Adventure Reading A The Trip of a Lifetime B Adventure Island Reading Skill A: Understanding Maps B: Finding Key Details Vocabulary Building A: Usage: record B: Word Partnership: native	
	第6回	Unit 2 Travel and Adventure Reading B Adventure Island Reading Skill B: Finding Key Details Vocabulary Building B: Word Partnership: native	
	第7回	Unit 3 The Power of Music Reading A Hip-Hop Planet Reading Skill A: Classifying Information	

	第 8 回	Vocabulary Building A: Usage: female Unit 3 The Power of Music Reading A Hip-Hop Planet B A Musical Boost Reading Skill A: Classifying Information B: Identifying Reasons (1)
	第 9 回	Vocabulary Building A: Usage: female B: Word Link: -ation / -ion Unit 3 The Power of Music Reading B A Musical Boost Reading Skill B: Identifying Reasons (1)
	第 1 0 回	Vocabulary Building B: Word Link: -ation / -ion Unit 4 Into Space Reading A Life beyond Earth? Reading Skill A: Summarizing Using a Concept Map
	第 1 1 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: message Unit 4 Into Space Reading A Life beyond Earth? B Living in Space Reading Skill A: Summarizing Using a Concept Map B: Identifying Reasons (2)
	第 1 2 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: message B: Word Link: in- / im- Unit 4 Into Space Reading B Living in Space Reading Skill B: Identifying Reasons (2)
	第 1 3 回	Vocabulary Building B: Word Link: in- / im- まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4
	第 1 4 回	Unit 5 City Life Reading A Global Cities Reading Skill A: Understanding Charts and Graphs
	第 1 5 回	Vocabulary Building A: Word Link: inter Unit 5 City Life Reading B Rio Reborn Reading Skill B: Understanding a Writer' s Use of Quotes
	第 1 6 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: separate Unit 6 Small Worlds Reading A In One Cubic Foot Reading Skill A: Understanding Sequence

	第 1 7 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: environment Unit 6 Small Worlds Reading B A World within Us Reading Skill B: Understanding Pros and Cons
	第 1 8 回	Vocabulary Building B: Word Link: -ful / -less Unit 7 When Dinosaurs Ruled Reading A The Truth about Dinosaurs Reading Skill A: Supporting Ideas with Examples
	第 1 9 回	Vocabulary Building A: Word Link: -er / -or Unit 7 When Dinosaurs Ruled Reading B Mystery of the Terrible Hand Reading Skill B: Using Definitions to Find Meaning
	第 2 0 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: opinion Unit 8 Stories and Storytellers Reading A The Brothers Grimm Reading Skill A: Annotating Text
	第 2 1 回	Vocabulary Building A: Word Link: en Unit 8 Stories and Storytellers Reading B The Tale of the Seven Ravens Reading Skill B: Understanding Pronoun Reference
	第 2 2 回	Vocabulary Building B: Usage: effect / affect まとめと小テスト Unit 5 ～ Unit 8
	第 2 3 回	Unit 9 Unusual Jobs Reading A Meet the Meteorite Hunter Reading Skill A: Identifying Exact vs. Approximate Numbers
	第 2 4 回	Vocabulary Building A: Word Link: il- / ir Unit 9 Unusual Jobs Reading B Smokejumpers Reading Skill B: Paraphrasing Sentences
	第 2 5 回	Vocabulary Building B: Word Link: -ment Unit 10 Uncovering the Past Reading A The Army' s True Colors Reading Skill A: Identifying Homonyms
	第 2 6 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: reveal Unit 10 Uncovering the Past Reading B Wonders of Egypt

	Reading Skill B: Creating an Outline Summary Vocabulary Building B: Word Partnership: task Unit 11 Legends of the Sea Reading A Pirates: Romance and Reality Reading Skill A: Finding Similarities and Differences Vocabulary Building A: Word Link: -dom Unit 11 Legends of the Sea Reading B Women of the Waves Reading Skill B: Using Context to Guess the Meaning of Words Vocabulary Building B: Word Link: trans- Unit 12 Vanished! Reading A Mystery on Everest Reading Skill A: Arguing For and Against a Topic Vocabulary Building A: Word Link: -ever Unit 12 Vanished! Reading B The Missing Pilot Reading Skill B: Identifying Transition Words Vocabulary Building B: Word Link: dis- まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカーの感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。英語検定試験（STEP）準2級～2級、TOEIC 290～380
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内課題等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約4時間の事後学習を要する。
テキスト	Nancy Douglas. Reading Explorer 1. Second Edition. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	講読の中では基本的な内容なので、しっかり理解に努めよう。
オフィスアワー	(仮) 砂川：授業終了後に質問を受け付けます。 (仮) レイフィールド：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英語講読演習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
大城直人・南有規子・比嘉麻莉奈			
	ナンバリング：ERE112		

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 A Food and Health Reading A: Sweet Love Reading Skill A: Skimming for the Main Idea of Paragraphs Vocabulary Building A: Word Partnership: cut down on	
	第2回	Unit 1 Food and Health A&B Reading A: Sweet Love B: Food for the Future Reading Skill A: Skimming for the Main Idea of Paragraphs B: Identifying the Purpose of Paragraphs Vocabulary Building A: Word Partnership: cut down on B: Word Link: -ance	
	第3回	Unit 1 Food and Health Reading B: Food for the Future Reading Skill B: Identifying the Purpose of Paragraphs Vocabulary Building B: Word Link: -ance	
	第4回	Unit 2 Our Bond with Animals Reading A: Song of the Humpback Reading Skill A: Understanding Pronoun Reference Vocabulary Building A: Thesaurus: leap	
	第5回	Unit 2 Our Bond with Animals Reading A: Song of the Humpback B: Dogs in a Human World Reading Skill A: Understanding Pronoun Reference B: Scanning for Details Vocabulary Building A: Thesaurus: leap B: Thesaurus: talent	
	第6回	Unit 2 Our Bond with Animals Reading B: Dogs in a Human World Reading Skill B: Scanning for Details Vocabulary Building B: Thesaurus: talent	
	第7回	Unit 3 History Detectives Reading A: Was King Tut Murdered? Reading Skill A: Creating a Timeline of Events	

	第 8 回	Vocabulary Building A: Word Link: teen Unit 3 History Detectives Reading A: Was King Tut Murdered? B: Who Killed the Iceman? Reading Skill A: Creating a Timeline of Events B: Distinguishing Facts from Theories
	第 9 回	Vocabulary Building A: Word Link: teen B: Word Partnership: debate Unit 3 History Detectives Reading B: Who Killed the Iceman? Reading Skill B: Distinguishing Facts from Theories
	第 1 0 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: debate Unit 4 Traditions and Rituals Reading A: Bride of the Sahara Reading Skill A: Dealing with Unfamiliar Vocabulary
	第 1 1 回	Vocabulary Building A: Word Link: re Unit 4 Traditions and Rituals Reading A: Bride of the Sahara B: The Changing Face of King Fu Reading Skill A: Dealing with Unfamiliar Vocabulary B: Differentiating between Main Ideas and Supporting Details
	第 1 2 回	Vocabulary Building A: Word Link: re B: Word Link: en- Unit 4 Traditions and Rituals Reading B: The Changing Face of King Fu Reading Skill B: Differentiating between Main Ideas and Supporting Details
	第 1 3 回	Vocabulary Building B: Word Link: en- まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4
	第 1 4 回	Unit 5 Urban Underworlds Reading A: Under Paris Reading Skill A: Understanding the Functions of Prepositional Phrases
	第 1 5 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: trend Unit 5 Urban Underworlds Reading B: New York' s Underside Reading Skill B: Breaking Down Long Sentences
	第 1 6 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: awful Unit 6 Reef Encounters Reading A: Cities Beneath the Sea Reading Skill A: Understanding Cause and Effect Relationships

	第 1 7 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: negative Unit 6 Reef Encounters Reading B: The Truth about Great Whites Reading Skill B: Recognizing Contrastive Relationships
	第 1 8 回	Vocabulary Building B: Word Link: in- Unit 7 Sweet Scents Reading A: The Flower Trade Reading Skill A: Determining Similarities and Differences
	第 1 9 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: handle Unit 7 Sweet Scents Reading B: The Power of Perfume Reading Skill B: Understanding Synonyms
	第 2 0 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: obtain Unit 8 Great Explorers Reading A: Marco Polo in China Reading Skill A: Understanding Time Clauses/Time Relationships
	第 2 1 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: undertake Unit 8 Great Explorers Reading B: The Travels of Ibn Battuta Reading Skill B: Recognizing Participle Clauses
	第 2 2 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: remote まとめと小テスト Unit 5 ～ Unit 8
	第 2 3 回	Unit 9 Who We Are Reading A: The Teenage Brain Reading Skill A: Evaluating Claims
	第 2 4 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: reward Unit 9 Who We Are Reading B: Seeing Double Reading Skill B: Understanding Inference
	第 2 5 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: severe Unit 10 Global Warming Reading A: The Big Thaw Reading Skill A: Identifying Types of Supporting Details
	第 2 6 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: host Unit 10 Global Warming Reading B: Last Days of the Ice Hunters

	Reading Skill B: Identifying an Author' s Tone or Point of View Vocabulary Building B: Usage: I' m starving! Unit 11 Incredible Insects Reading A: Army Ants Reading Skill A: Understanding Prefixes and Suffixes Vocabulary Building A: Word Link: co Unit 11 Incredible Insects Reading B: Unexpected Beauty Reading Skill B: Summarizing a Text Vocabulary Building B: Word Partnership: reaction Unit 12 Going to Extremes Reading A: The Dream of Flight Reading Skill A: Recognizing Similes Vocabulary Building A: Word Partnership: thrill Unit 12 Going to Extremes Reading B: Dark Descent Reading Skill B: Synthesizing Information from Multiple Sources Vocabulary Building B: Word Partnership: necessity まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準2級～2級、TOEIC 380～460
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内課題等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約4時間の事後学習を要する。
テキスト	Paul MacIntyre. Reading Explorer 2. Second Edition. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	初めての単語やすこし長めのセンテンスなど、繰り返し学習し定着を図ろう。
オフィスアワー	(仮) 大城：毎週○曜日 **限目 大城研究室 (仮) 南：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) 比嘉：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英語講読演習Ⅳ

授業コード：

英文科目名称：English Reading IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
山内淳・崎原千尋・宮平勝行			

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run READING SKILL: Connecting Visual Materials to a Text	
	第2回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run READING SKILL: Connecting Visual Materials to a Text	
	第3回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run READING SKILL: Connecting Visual Materials to a Text	
	第4回	Reading 2 The Runner's High READING SKILL: Connecting Ideas with Signal Words: this, these, and such Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 2 The Runner's High READING SKILL: Connecting Ideas with Signal Words: this, these, and such	
	第5回	Unit 2 TIME Reading 1 Spring Forward, Fall Back READING SKILL: Understanding the Writer's Perspective	
	第6回	Unit 2 TIME Reading 1 Spring Forward, Fall Back READING SKILL: Understanding the Writer's Perspective	
	第7回	Reading 2 In Search of an Accurate Calendar READING SKILL: Creating Time Lines Unit 2 TIME Reading 2 In Search of an Accurate Calendar READING SKILL: Creating Time Lines	
	第8回	Unit 3 WATER Reading 1 Drinking Water READING SKILL: Recognizing Implicit Conditions	
	第9回	Unit 3 WATER Reading 1 Drinking Water READING SKILL: Recognizing Implicit Conditions	
	第10回	Reading 2 The Bottled-Water Debate READING SKILL: Supporting Details in a Persuasive Text Unit 3 WATER	
	第11回	Reading 2 The Bottled-Water Debate READING SKILL: Supporting Details in a Persuasive Text まとめと小テスト Unit 1～Unit 3	
	第12回	Unit 4 TRAVEL Reading 1 Extreme Diving READING SKILL: Finding Out Why	
	第13回	Unit 4 TRAVEL Reading 1 Extreme Diving READING SKILL: Finding Out Why	
	第14回	Reading 2 Disaster Tourism READING SKILL: Understanding Connectors of Contrast Unit 4 TRAVEL	
	第15回	Reading 2 Disaster Tourism READING SKILL: Understanding Connectors of Contrast Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS	
	第16回	Reading 1 Humans and Cattle: A Shared History READING SKILL: Inferring Meaning from the Text Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS Reading 1 Humans and Cattle: A Shared History READING SKILL: Inferring Meaning from the Text	
		Reading 2 Taming the Wild	

	第17回 READING SKILL: Understanding Processes Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS Reading 2 Taming the Wild READING SKILL: Understanding Processes 第18回 Unit 6 ARCHITECTURE Reading 1 Safer Homes in Earthquake Zones READING SKILL: Understanding Information in Tables 第19回 Unit 6 ARCHITECTURE Reading 1 Safer Homes in Earthquake Zones READING SKILL: Understanding Information in Tables 第20回 Reading 2 Urban Architecture in the 21st century READING SKILL: Taking Notes Unit 6 ARCHITECTURE Reading 2 Urban Architecture in the 21st century READING SKILL: Taking Notes 第21回 まとめと小テスト Unit 4 ~ Unit 6 第22回 Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 1 Sibling Personalities READING SKILL: Analyzing Sentence Purpose 第23回 Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 1 Sibling Personalities READING SKILL: Analyzing Sentence Purpose 第24回 Reading 2 Epigenetics READING SKILL: Relating Supplementary Material to the Text Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 2 Epigenetics READING SKILL: Relating Supplementary Material to the Text 第25回 Unit 8 INVENTIONS Reading 1 The Golden Age of Islamic Invention READING SKILL: Scanning 第26回 Unit 8 INVENTIONS Reading 1 The Golden Age of Islamic Invention READING SKILL: Scanning 第27回 Reading 2 Origami: The Practical Applications of a Familiar Art READING SKILL: Cohesion: Following Topic Chains Unit 8 INVENTIONS Reading 2 Origami: The Practical Applications of a Familiar Art READING SKILL: Cohesion: Following Topic Chains 第28回 Unit 9 ROBOTICS Reading 1 Robots to the Rescue READING SKILL: Reading as Test Preparation 第29回 Unit 9 ROBOTICS Reading 1 Robots to the Rescue READING SKILL: Reading as Test Preparation 第30回 Reading 2 Humanoids READING SKILL: Active Reading Unit 9 ROBOTICS Reading 2 Humanoids READING SKILL: Active Reading 第31回 まとめと小テスト Unit 7 ~ Unit 9
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 2級～準1級、TOEIC 460～530
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内の演習を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	Jessica Williams. Reading and Vocabulary Focus 3. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること

	.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	耳慣れない単語や複雑なセンテンスなど、あきらめず学習し知識の定着を図ろう。
オフィスアワー	(仮) 崎原：毎週○曜日 **限目 崎原研究室 (仮) 山内：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) 宮平：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英語講読演習Ⅴ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅴ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
渡久山幸功・玉城要・スミス陽子・レイフィールド典子			
	ナンバリング：ERE214		

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	INTRODUCTION / Unit 1 CITY SPACES Reading 1 Above Manhattan READING SKILL: Determining Chronology	
	第2回	Unit 1 CITY SPACES Reading 1 Above Manhattan READING SKILL: Determining Chronology	
	第3回	Unit 1 CITY SPACES Reading 1 Above Manhattan READING SKILL: Determining Chronology	
	第4回	Reading 2 Under Paris READING SKILL: Annotating a Text Unit 1 CITY SPACES Reading 2 Under Paris READING SKILL: Annotating a Text	
	第5回	Unit 2 EXTREME JOBS Reading 1 The Snow Patrol READING SKILL: Dealing with Unknown Vocabulary	
	第6回	Unit 2 EXTREME JOBS Reading 1 The Snow Patrol READING SKILL: Dealing with Unknown Vocabulary	
	第7回	Reading 2 Into the Volcano READING SKILL: Recognizing Causes and Effects Unit 2 EXTREME JOBS Reading 2 Into the Volcano READING SKILL: Recognizing Causes and Effects	
	第8回	Unit 3 ANIMAL CONSERVATION Reading 1 Path of the Jaguar READING SKILL: Making Inferences	
	第9回	Unit 3 ANIMAL CONSERVATION Reading 1 Path of the Jaguar READING SKILL: Making Inferences	
	第10回	Reading 2 Champion of the Underdog READING SKILL: Choosing the Correct Definition Unit 3 ANIMAL CONSERVATION Reading 2 Champion of the Underdog READING SKILL: Choosing the Correct Definition	
	第11回	まとめと小テスト Unit 1 ～ Unit 3	
	第12回	Unit 4 NATURAL DISASTERS Reading 1 Sun Struck READING SKILL: Understanding In-Text Definitions	
	第13回	Unit 4 NATURAL DISASTERS Reading 1 Sun Struck READING SKILL: Understanding In-Text Definitions	
	第14回	Reading 2 Tracking Tsunamis READING SKILL: Connecting Visual Material to a Text Unit 4 NATURAL DISASTERS Reading 2 Tracking Tsunamis READING SKILL: Connecting Visual Material to a Text	
	第15回	Unit 5 ART DETECTIVES Reading 1 Finding Fakes READING SKILL: Assessing Problems and Solutions	
	第16回	Unit 5 ART DETECTIVES Reading 1 Finding Fakes READING SKILL: Assessing Problems and Solutions Reading 2 The Lost Leonardo	

	第 1 7 回 READING SKILL: Determining Certainty and Uncertainty in a Text Unit 5 ART DETECTIVES Reading 2 The Lost Leonardo READING SKILL: Determining Certainty and Uncertainty in a Text 第 1 8 回 Unit 6 SURVIVAL SKILLS Reading 1 Mind over Matter READING SKILL: Understanding Argument and Finding Support 第 1 9 回 Unit 6 SURVIVAL SKILLS Reading 1 Mind over Matter READING SKILL: Understanding Argument and Finding Support 第 2 0 回 Reading 2 Journey to the North Pole READING SKILL: Recognizing Contrasts Unit 6 SURVIVAL SKILLS Reading 2 Journey to the North Pole READING SKILL: Recognizing Contrasts 第 2 1 回 まとめと小テスト Unit 4 ~ Unit 6 第 2 2 回 Unit 7 NATURE'S MEDICINE Reading 1 Golden Worms READING SKILL: Understanding Pronoun Reference 第 2 3 回 Unit 7 NATURE'S MEDICINE Reading 1 Golden Worms READING SKILL: Understanding Pronoun Reference 第 2 4 回 Reading 2 The Bite that Heals READING SKILL: Categorizing Information Unit 7 NATURE'S MEDICINE Reading 2 The Bite that Heals READING SKILL: Categorizing Information 第 2 5 回 Unit 8 LOST AT SEA Reading 1 Treasures of the Titanic READING SKILL: Distinguishing Facts from Opinions 第 2 6 回 Unit 8 LOST AT SEA Reading 1 Treasures of the Titanic READING SKILL: Distinguishing Facts from Opinions 第 2 7 回 Reading 2 Shipwreck Discovery READING SKILL: Understanding Figurative Language Unit 8 LOST AT SEA Reading 2 Shipwreck Discovery READING SKILL: Understanding Figurative Language 第 2 8 回 Unit 9 CULTURE AND IDENTITY Reading 1 Kung Fu Battles READING SKILL: Analyzing the Pros and Cons of an Issue 第 2 9 回 Unit 9 CULTURE AND IDENTITY Reading 1 Kung Fu Battles READING SKILL: Analyzing the Pros and Cons of an Issue 第 3 0 回 Reading 2 Kwame Nyong'o: Film Animator READING SKILL: Recognizing Different Modes of Writing Unit 9 CULTURE AND IDENTITY Reading 2 Kwame Nyong'o: Film Animator READING SKILL: Recognizing Different Modes of Writing 第 3 1 回 まとめと小テスト Unit 7 ~ Unit 9
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 2級～準1級、TOEIC 460～530
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内の課題等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約4時間の事後学習を要する。
テキスト	Catherine Mazur-Jefferies. Reading and Vocabulary Focus 4. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること

	.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	耳慣れない単語や複雑なセンテンスなど、あきらめず学習し知識の定着を図ろう。
オフィスアワー	(仮) 渡久山：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) 玉 城：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) スミス：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) レイフィールド：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英語講読演習Ⅵ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅵ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
崎原千尋・レイフィールド典子・宜野座綾乃			
	ナンバリング：ERE215		

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 The Power of Image Reading A: The Visual Village Reading Skill A: Understanding Words with Multiple Meanings Vocabulary Building A: Word Partnership: profound	
	第2回	Unit 1 The Power of Image Reading A: The Visual Village B: My Journey in Photographs by Annie Griffiths Reading Skill A: Understanding Words with Multiple Meanings B: Scanning for Specific Details Vocabulary Building A: Word Partnership: profound B: Thesaurus: thus	
	第3回	Unit 1 The Power of Image Reading B: My Journey in Photographs by Annie Griffiths Reading Skill B: Scanning for Specific Details Vocabulary Building B: Thesaurus: thus	
	第4回	Unit 2 Love and Attraction Reading A: Love: A chemical Reaction? Reading Skill A: Distinguishing Facts from Theories Vocabulary Building A: Usage: chance	
	第5回	Unit 2 Love and Attraction Reading A: Love: A chemical Reaction? B: Feathers of Love Reading Skill A: Distinguishing Facts from Theories B: Recognizing Figurative Language Vocabulary Building A: Usage: chance B: Thesaurus: absurd	
	第6回	Unit 2 Love and Attraction Reading B: Feathers of Love Reading Skill B: Recognizing Figurative Language Vocabulary Building B: Thesaurus: absurd	
	第7回	Unit 3 Food and Health Reading A: How Safe is Our Food? Reading Skill A: Understanding Cause and Effect Relationships	

	第 8 回	Vocabulary Building A: Word Link: -wide Unit 3 Food and Health Reading A: How Safe is Our Food? B: Genetically Modified Foods Reading Skill A: Understanding Cause and Effect Relationships B: Understanding Arguments For and Against an Issue
	第 9 回	Vocabulary Building A: Word Link: -wide B: Thesaurus: diminish Unit 3 Food and Health Reading B: Genetically Modified Foods Reading Skill B: Understanding Arguments For and Against an Issue
	第 1 0 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: diminish Unit 4 Design and Engineering Reading A: Design by Nature; Biomimetics Reading Skill A: Recognizing Collocations
	第 1 1 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: vital Unit 4 Design and Engineering Reading A: Design by Nature; Biomimetics B: The Future of Fashion: Dreamweavers Reading Skill A: Recognizing Collocations B: Understanding Synonyms and Antonyms
	第 1 2 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: vital B: Word Link: fore- Unit 4 Design and Engineering Reading B: The Future of Fashion: Dreamweavers Reading Skill B: Understanding Synonyms and Antonyms
	第 1 3 回	Vocabulary Building B: Word Link: fore- まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4
	第 1 4 回	Unit 5 Human Journey Reading A: The DNA Trail Reading Skill A: Understanding Relative Clauses (I)
	第 1 5 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: proof Unit 5 Human Journey Reading B: Fantastic Voyage Reading Skill B: Synthesizing Information
	第 1 6 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: stubborn Unit 6 Conservation Challenges Reading A: Racing to Rescue Koalas Reading Skill A: Recognizing Conditional Relationships

	第 1 7 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: vibrant Unit 6 Conservation Challenges Reading B: For the Love of Elephants Reading Skill B: Sequencing Information
	第 1 8 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: chaos Unit 7 Ritual Lives Reading A: A Crowd in Harmony Reading Skill A: Understanding Words from Context
	第 1 9 回	Vocabulary Building A: Word Link: gress Unit 7 Ritual Lives Reading B: Why We Celebrate Reading Skill B: Understanding Word Roots and Affixes
	第 2 0 回	Vocabulary Building B: Thesaurus: striking Unit 8 Investigations Reading A: Who Killed the Emperor? Reading Skill A: Evaluating Theories
	第 2 1 回	Vocabulary Building A: Usage: grand Unit 8 Investigations Reading B: In the Lab with Marcella and Alphonse Reading Skill B: Understanding Idiomatic Expressions
	第 2 2 回	Vocabulary Building B: Word Link: leg まとめと小テスト Reading Unit 5 ~ Unit 8
	第 2 3 回	Unit 9 Rediscovering the Past Reading A: Virtually Immortal Reading Skill A: Recognizing the Use of Ellipsis
	第 2 4 回	Vocabulary Building A: Word Partnership: virtual Unit 9 Rediscovering the Past Reading B: In Search of Genghis Khan Reading Skill B: Understanding Relative Clauses (II)
	第 2 5 回	Vocabulary Building B: Word Partnership: exception Unit 10 Earth and Beyond Reading A: Black Holes Reading Skill A: Visualizing from an Author' s Description
	第 2 6 回	Vocabulary Building A: Thesaurus: preposterous Unit 10 Earth and Beyond Reading B: The Threat from Space

	Reading Skill B: Understanding References to Things Beyond the Text Vocabulary Building B: Word Link: di- Unit 11 Green Concerns Reading A: Water Worries Reading Skill A: Identifying Sources of Information Vocabulary Building A: Thesaurus: leak Unit 11 Green Concerns Reading B: Technology as Trash Reading Skill B: Understanding a Writer's Attitude and Bias Vocabulary Building B: Word Partnership: substance Unit 12 Living Longer Reading A: Genes, Health, and Lifespan Reading Skill A: Identifying Reasons Vocabulary Building A: Word Link: gen Unit 12 Living Longer Reading B: In Search of Longevity Reading Skill B: Understanding Quantitative and Qualitative Data Vocabulary Building B: Word Partnership: relief まとめと小テスト Reading Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準1級以上、TOEIC 640～
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 各回、約4時間の事前学習を要する。
復習	テキスト内課題等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。 各回、約4時間の事後学習を要する。
テキスト	Paul MacIntyre, D. Bohlke, B. Reading Explorer 4. Second Edition. National Geographic Learning, 2014.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	小テスト60%、課題40% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文章の難易度はかなり高く、学習量も非常に多い。予習を心がけよう。
オフィスアワー	(仮) 崎 原：毎週〇曜日 一限目 崎原研究室 (仮) 宜野座：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) レイフィールド：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称：英文法・英作文I

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Composition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
村田 典枝			
	ナンバリング：EWR110		

授業のテーマ及び到達目標	英文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。日常の事柄に関する情報交換、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝聞、報告、依頼、指示等の実践的な場面に必要とされる英文が書けるようになる。		
授業計画	第1回	Introduction&時制（現在）Unit 1-9 be動詞の肯定文、否定文、be動詞の疑問文、現在進行形、現在進行形の疑問文、単純現在形、単純現在形の否定文、単純現在形の疑問文、現在進行形と単純現在形、I have, I' ve got	
	第2回	時制（過去、現在完了）Unit10-21 be動詞の過去形、単純過去形、単純過去形の否定文と疑問文、過去進行形、過去進行形と単純過去形、used to+動詞の原形、現在完了形（現在までの経験、現在までの動作や状態の継続、for, since, ago, 現在完了形と単純過去1-3	
	第3回	受動態、動詞、時制（未来）Unit 22-29 受動態1(現在、過去)、受動態2(進行形、完了形)、現在形と過去形における助動詞、規則変化動詞と不規則変化動詞、未来を表すbe+ing, I' m going to +動詞の原形、will	
	第4回	助動詞、命令形 Unit 30-37 might, can, could, should, I have to+動詞の原形, Would you like…? I' d like…, I' d rather+動詞の原形, 命令文	
	第5回	There, it, 助動詞 Unit 38-44 there + be 動詞構文1（現在）、there + be 動詞構文2(過去、現在完了、未来)「それ」とものを指さないit, 校庭、否定における後に続く語句の省略、聞き返し疑問と付加疑問、too/either, so am I/ neither do I など、さまざまな否定文	
	第6回	疑問、話法 Unit 45-51 Yes-No疑問文、Wh疑問文、前置詞を伴うWH疑問文、How long does it take…? 間接疑問文、間接話法	
	第7回	準動詞 Go, get, do, make and have, Unit 52-59 動詞の原形と-ing, 動詞の後ろにくる「to+動詞の原形」と-ing, want/tell+人+to+動詞の原形、目的を表す不定詞、基本的な動詞を用いた表現（go, get, do, make and have）	
	第8回	Review 〈第1回～7回の復習・まとめ〉 Unit 1～Unit 59までの復習・まとめ・練習問題	
	第9回	代名詞、所有、冠詞 Unit60 -74 代名詞の主格と目的格、代名詞の所有格、代名詞の所有格と独立所有格、代名詞の格、再帰代名詞、-'s, 不定関し、単数形と複数形、」可算名詞と不可算名詞、不定冠詞と定冠詞、theのつく形とつかない形、the +場所の名前	
	第10回	限定詞、代名詞 Unit 75-85 this/that/these/those, one/ones, not+any+名詞/ の+名詞/none, not+anybody/, nobody, somebody, every とall, all, most, some, any, no / none, both, either, neither, a lot, much, many, (a) littleと(a)few	
	第11回	形容詞、副詞 Unit 86-93 形容詞、副詞、比較級、原級を用いた比較、最上級、enough, too	
	第12回	語順、接続詞と節 Unit 94-103 語順1（動詞 - 目的語、場所 - 時）、語順2（文中で動詞とともに生じる副詞）、still, yet, already, 「動詞+物+to人」、「動詞+人+物」の2つの語順、2つの文をつなぐ接続詞、時を表す節、起きるかもしれない出来事を仮定するif節、事実に反することを仮定するif 節、関係詞節	
	第13回	前置詞 Unit 104-111 時を表す前置詞、期間を表す前置詞、「前・後・間」を表す前置詞／接続詞、場所を表す前置詞、位置関係を表す前置詞、方向を表す前置詞	
	第14回	前置詞、句動詞 Unit 111-116 前置詞のその他の用法、動詞+前置詞、句動詞と動作の方向、句動詞と目的語	
	第15回	Review 〈第9回～14回の復習・まとめ〉 Unit 60～Unit 116までの復習・まとめ・練習問題	
	第16回	Final exam	
授業の概要	英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み、書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。		
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答まで済ませておく。各回、1時間以上の事前学習を要する。		
復習	授業でなされた文法事項の説明を振り返り、間違った問題を再度解いて確認する。各回、1時間以上の事後学習を要する。		
テキスト	Raymond Murphy (著) 渡辺雅仁、田島祐規子（訳）(2006)『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』Cambridge		
参考書	『総合英語Forest』 石黒昭博（監） 桐原書店		

評価方法・評価基準	中間・期末試験(80%)、小テスト(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。 ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・毎週小テストを行うので、復習を怠らぬこと。 ・積極的に授業に参加して質問すること。（私語、居眠り厳禁）
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テスト、定期テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却・説明を行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
赤嶺ゆかり・山内淳・村田典枝			
	ナンバリング：EWR111		

授業のテーマ及び到達目標	英文法の基礎を英語で習得し、短い英文を書く能力を養う。日常の事柄に関する情報交換、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝聞、報告、依頼、指示など実践的な場面に必要とされる英文が書けるようになる。		
授業計画	第1回	Introduction & Tense (Present), Unit 1-9 questions, present continuous, present continuous questions, simple present, simple present negative, simple present questions, present continuous and simple past, I have, I' ve got	
	第2回	Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21 simple past, simple past negative and questions, past continuous, past continuous and simple past, used to, present perfect, present perfect and simple past	
	第3回	Passive, Verb Forms & Tene (Future), Unit 22-29 passive 1 (present, past), passive 2 (continuous, perfect, future), regular and irregular verbs, be ?ing, be going to, will	
	第4回	Modals & Imperatives, Unit 30-37 might, can, could, must, should, I have to..., Would you like...?, I' d like..., I' d rather..., Do this!, Don' t do that!, Let' s do this!	
	第5回	There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44 there is, there are, there was/were, there has/have been, there will be, It..., I am, I don' t, You have? Have you? You are? Are you? too/either, so am I / neither do I, negative	
	第6回	Questions & Reported Speech, Unit 45-51 Yes-no questions, Wh-questions, Wh-questions with prepositions, Indirect questions, Indirect speech (She said that..., He told me that...)	
	第7回	-ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59 work/working, go/going, do/doing, I want to do and ?ing (I enjoy ?ing), I want you t..., go to..., go on..., go for..., go-ing, get, do and make, have	
	第8回	Review (Unit 1-59) Review & exercises (Unit 1-59)	
	第9回	Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74 I/me, he/him, they/them, my/his/their, mine/yours/hers, I/me/my/mine, myself/yourself/themselves, -' s, singular and plural, countable/uncountable, a/an and the, names of places	
	第10回	Determiners and Pronouns, Unit 75-85 this/that/these/those, one/ones, not+any+noun /none, not+anybody/, nobody, somebody, every, all, all, most, some, any, no / none, both, either, neither, a lot, much, many, (a) little, (a)few	
	第11回	Adjective & Adverbs, Unit 86-93 adjectives, adverbs, old/older, expensive/more expensive, not as...as, the oldest, the most expensive, enough, too	
	第12回	Word Order & Prepositions, Unit 94-103 word order 1 (verb-object), (place- time), still, yet, already, and, but, or, so, because, When..., If we go.., If I had..., relative clauses	
	第13回	Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-111 at 8:00, on Monday, in April, from... to , until, since, for, before, after, during, while, in, at, on (place). next to, between, under, etc.	
	第14回	Conjunctions & Clauses, Unit 111-116 up, over, throughout, on, at, by, with, about, prepositions + -ing, verb + preposition, phrasal verbs (go in, fall off, run away)	
	第15回	Review (Unit 60-116) Review & exercises (Unit 60 -116)	
	第16回	Final exam	
授業の概要	中学校・高等学校(または英文法・英作文Ⅰ)で学んだ事を基礎にして、英文法の基本的事項全般を復習する。正しい英文を書く能力を身につけるよう各文法項目に対する総合的な理解を深める。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。		
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答まで済ませておく。各回、1時間以上の事前学習を要する。		
復習	授業でなされた文法事項の説明を振り返り、間違った問題を再度解いて確認する。各回、1時間以上の事後学習を要する。		
テキスト	Raymond Murphy, "Basic Grammar in Use" with answers (Fourth edition) Cambridge University Press		

参考書	特になし
評価方法・評価基準	期末試験(80%)、小テスト・課題(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・積極的に授業に参加して質問すること。（私語・居眠り厳禁）
オフィスアワー	(仮) 赤嶺：授業終了後に質問を受け付けます。 (仮) 山内：授業終了後に質問を受け付けます。 (仮) 村田：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。

講義科目名称：英文法・英作文Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Composition Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣友子・赤嶺ゆかり・山内淳			
	ナンバリング：EWR112		

授業のテーマ及び到達目標	英文法の重要事項の再確認を行う。短い叙述文、説明文、要約等が書けるようになる。		
授業計画	第1回	Introduction、1-14 present continuous, present simple Introduction, am/is/are, I do/work/like	
	第2回	15-32 present continuous & present simple, past continuous & past simple I am doing, I do, have got, was/were, I worked/got/went, I was doing, I did	
	第3回	33-49 present & past, simple and continuous, present perfect, present perfect and past simple I do / I am doing, I did/ I was doing, I have done, How long have you ...? I have done, I did	
	第4回	50-60 present, present perfect & past, passive, verb forms I do/I have done/I did, is done/was done, is being done/has been done	
	第5回	61-74 future(present tenses, will/shall, future forms) future (will/shall, future forms), be/have/do, regular/irregular verbs, What are you doing tomorrow? I'm going to do, will/shall, I am doing/ I am going to do/ I'll do	
	第6回	75-85 Auxiliary verbs 1 might, can & could, must, mustn't, don't need to, should,	
	第7回	86-94 Auxiliary verbs 2 & Imperatives I have to, Do this! Don't do that!, Let's do this!, I used to, there & it	
	第8回	Review, 95-105 auxiliary verbs, questions Review (1-94), I do, do you?, so do I, I don't, is it...?, have you...? do they...?	
	第9回	106-120 indirect questions, doing, do, to do, causative verbs Do you know where...?, She said that..., He told me that..., doing, do, to do, do, make, have	
	第10回	121-136 pronouns & possessives, singular & plural I, me, my, mine, myself, Kate's camera, a/an, some, a/an, the	
	第11回	137-147 determiners some, any, no, none, someone, anything, nowhere, every, all, most	
	第12回	148-159 determiners, adjectives and adverbs, comparatives both, either, neither, a lot, much, many, (a) little, (a) few, old/nice/interesting quickly/ badly/badly/suddenly, older (than), the oldest, not as old as	
	第13回	160-171 word order, conjunctions, subjunctives enough, too, and, but, or, so, because, when..., if we go & if we went	
	第14回	172-183 relative clause, prepositions of time, preposition of place and movement, prepositions before and after verbs a person (who)... a thing (that/which)..., at, until, before, in, under, thorough, good at (doing), listen to	
	第15回	184-185 phrasal verbs phrasal verbs(go in, fall off, run away)	
	第16回	Final exam	
授業の概要	英文法・英作文Ⅱで学んだことを基礎にして、英文法の重要事項の再確認を行う。正しい英文を書く能力を定着させるよう徹底した文法演習を行う。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。		
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答まで済ませておく。各回、1時間以上の事前学習を要する。		
復習	授業でなされた文法事項の説明を振り返り、間違った問題を再度解いて確認する。各回、1時間以上の事後学習を要する。		
テキスト	Helen Naylor with Raymond Murphy "Essential Grammar in Use Supplementary Exercises" (Fourth edition) Cambridge		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、小テスト・課題(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること		

	.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・積極的に授業に参加して質問すること。 ・私語・居眠りは厳禁。
オフィスアワー	(仮) 新垣：毎週火曜日 3,4限目 新垣研究室 (仮) 赤嶺：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) 山内：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。

講義科目名称：英文法・英作文Ⅳ

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Writing IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣友子・山城莉乃・スミス陽子・赤嶺ゆかり			
	ナンバリング：EWR113		

授業のテーマ及び到達目標	英作文をとおして必要な文法事項を確認する。短い叙述文、説明文、要約等をスムーズに書けるようになることを目標とする。自分の書いた英文のミスや注意点を自分で判断できるようになる。
授業計画	第1回 インTRODクシヨ、Unit1 動詞 be動詞、一般動詞（現在）、一般動詞（過去） 第2回 Unit 2 進行形・未来形・助動詞 現在進行形、過去進行形、will, be going to, can, must, may, have to, will be able to, may have pp., should have pp. 第3回 Unit 3 名詞・冠詞・代名詞 可算名詞、不可算名詞、物質名詞、単数、複数、a, the, 人称代名詞、指示代名詞、疑問代名詞、不定代名詞 第4回 Unit 4 前置詞・接続詞（I） 時を表す前置詞、場所・運動・方向を表す前置詞、時・場所以外を表す前置詞、前置詞を含む連語、等位接続詞、従属接続詞 第5回 Unit 5 形容詞・副詞と比較 形容詞の付加的用法、叙述的用法、原級、比較級、最上級 第6回 Unit 6 命令文・感嘆文 命令形、打ち消しの命令、感嘆文（What+a(an)+形容詞+単数名詞+主語+動詞！/How+形容詞/副詞+主語+動詞！） 第7回 Unit 7 不定詞 不定詞の基本的用法（名詞、形容詞、副詞）、不定詞の他の用法（tell+人+to動詞の原形、ask+人+to, want+人+to, 疑問詞+to, too…to, enough to 第8回 Unit 8 動詞と分詞、Review（Unit1-8） 動名詞の基本的用法、現在分詞、過去分詞の位置・基本的用法、Review（Unit 1-8） 第9回 Unit 9 各種疑問文・Itの特別用法 付加疑問文、間接疑問文、天候、距離、明暗、時刻を表すit, 形式主語のit 第10回 Unit 10 受動態 能動態と受動態、現在・過去の受動態、受動態の疑問文・否定文、注意すべき受動態 第11回 Unit 11 完了形 継続を表す現在完了、完了・結果を表す現在完了、経験を表す現在完了、過去完了 第12回 Unit 12 接続詞（II） 接続詞that の用法、時制の一致、so～that…構文等 第13回 Unit 13 5つの基本文型 第1文型（S+V）と第2文型（S+V+C）、第3文型（S+V+O）と第4文型（S+V+O+O）、第5文型（S+V+O+C） 第14回 Unit 14 仮定法 仮定法過去、仮定法過去完了、その他の仮定法I wish…, It is time…, 第15回 Unit 15 関係代名詞、Review（Unit 9-15） 主格の関係代名詞、所有格の関係代名詞、目的格の関係代名詞、Review（Unit 9-15） 第16回 Final exam
授業の概要	英文法・英作文IIIで学んだことを基礎にして、文法事項の再確認及び徹底した作文演習を通して、正しい英文を書く能力を定着させる。作文能力の向上に加え、書くスピードも養う。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。
予習	決められた章の文法事項を確認し、英文法や英作文の問題を解いてくる。各回、1時間以上の事前学習を要する。
復習	授業で提示された解答を参考に、再度英文を作る。授業で解説した文法内容も再確認する。各回、1時間以上の事後学習を要する。
テキスト	“Primer for English Writing” Tetsuzo Sato, Yukari Aiko, Teruo Shindo NAN’ UN-DO
参考書	特になし。
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、小テスト(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること

	.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。 ・各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・積極的に授業に参加して質問すること。（私語・居眠り厳禁）
オフィスアワー	(仮) 新垣：毎週火曜日 3,4限目 新垣研究室 (仮) 山城：授業終了後に質問を受け付けます。 (仮) スミス：授業終了後に質問を受け付けます。 (仮) 赤嶺：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。

講義科目名称: English Composition I

授業コード:

英文科目名称: English Composition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
砂川真紀・小久保由紀・比嘉麻莉奈			
	ナンバリング: EWR201		

授業のテーマ及び到達目標	Composition instructors use a wide variety of approaches to help students raise their awareness and understanding of sentence-level grammar and meaning. The principal goals in this basic writing course are to encourage the development of explicit awareness of and skill in writing sentences and paragraphs, and how coherence and cohesion can be achieved within the paragraph. Liberal practice with grammatical structures aims to help students see and understand the relationship between meaning and syntax.		
授業計画	第1回	Introductions / syllabus / writing process / generating and organizing H0 and discuss copy of syllabus -discuss hyoka-ho-u ? percentages for grades -do my self-introduction H01 Interviewing Others -students pair up and interview each other in order to introduce his or her fellow student	
	第2回	Lecture 1 / exercises / mind-mapping / outlining -launch pptx 1 SEMANTICS -discuss differences among semantics, syntax, and mechanics. -discuss benefits of initially dispensing with these rules -discuss meaning and its embodiment in nouns and verbs H02 PHRASE FIND H O M E W O R K: H03 Day 3 Homework	
	第3回	Lecture 2 / identifying subjects-verbs / modifiers / phrase structures Small groups (pair work) H0 3.5 H O M E W O R K: -finish the homework. -look for connections among the phrases	
	第4回	Lecture 3 / exercises to reinforce Weeks 1-3 content /reviews -launch pptx 2 CHAOS H0 3.6 H O M E W O R K: -finish connecting the phrases at home and bring it to the next class.	
	第5回	Writers' workshop 1 H04 Sample Poem Workshop 1 for their poem (pair work) H O M E W O R K: -finish working on the poem	
	第6回	Peer editing 1 Collect their poems Small groups (pair work) H05 PHRASE EXERCISE H O M E W O R K: Finish connecting the phrases	
	第7回	Lecture 4 / relative clauses / conjunctions / connectors -launch pptx 3 SUPERQUEEN Small groups (pair work) H06 A POSSIBLE POEM from the phrase exercise H O M E W O R K: H07 BUILDING YOUR POEM	
	第8回	Paragraph coherence / in-class editing exercises Small groups (pair work) Workshop 2 for their poem (pair work) H O M E W O R K: Remind students of the upcoming Quiz	
	第9回	Quiz 1 QUIZ 1 Making Poetic Connections H O M E W O R K: Make a copy of your poem for each member of the group.	
	第10回	Exercises to reinforce Weeks 6-9 content / reviews / prepare for next week presentations Small groups (pair work) -H08 A POSSIBLE PIECE OF PROSE -launch pptx 4 Possible Prose H09 Developing the Story H O M E W O R K: Remind students of upcoming Quiz	

第11回	Bring two copies of your story to the next class for Workshop 3 Writers' workshop 2 return QUIZ 1 Workshop 3 in small groups Students compare their work to their classmates' and give peer feedback -Printout and submit your final version of your poem for grading H O M E W O R K: Practice delivering poems for the Performance Poetry Reading for the next class Continue expanding your writing into a more coherent story Be aware of the quiz "Making Prose Connections"
第12回	Performances 1 Performance Poetry Reading
第13回	Performances 2 Performance Poetry Reading H O M E W O R K: Continue to work on expanding your story
第14回	Exercises to reinforce Weeks 11-13 content /reviews / prepare for essay for next week Workshop 4 for stories Remind students of Quiz 2 H O M E W O R K: Practice developing your story to prepare for Quiz 2
第15回	Quiz 2 Collect and mark stories Quiz 2 Making Prose Connections
第16回	Student presentations of prose and/or poetics Give credit to students for their work Return marked stories Workshop 5 for stories H O M E W O R K: Continue to work on expanding your story
第17回	Writers' workshop 3 Return marked quizzes Workshop for stories H O M E W O R K: Bring a copy of your latest story to the next class for the Performance Readings
第18回	Paragraph cohesion / in-class editing exercises Discuss the different phrases Launch pptx 5 PHRASES H010 Vivid Phrase Exercise
第19回	Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week H011 Phrase Identification Exercise Launch pptx 6 PHRASE IDENTIFICATION ANSWERS Review concepts of vivid imagery ? put some examples on the board. Small group work H0 tabloid newsprint (bring to class) H O M E W O R K: Keep the story you' re working on and return with it and the new phrases for the next meeting Remind students of Exam
第20回	Exam 1 Exam
第21回	Writers' workshop 4 Workshop Weave new phrases into existing story
第22回	Writers' workshop 5 Workshop Weave new phrases into existing story
第23回	Small-groups Performances Small-group performance readings for prose H011.5 Peer Review Feedback Give peer feedback
第24回	Peer editing Small-group performance readings for prose H011.6 Group Performance Grading Give peer feedback
第25回	Lecture 6 / exercises launch pptx 7 ExpandingMeaningwithModifiers H012 Expanding Meaning with Modifiers H O M E W O R K: H013 Expanding Meaning
第26回	Lecture 7 launch pptx 8 DescriptionExercise H014 Description Exercise Small groups
第27回	Writers' workshop 6

	-in-class final editing for Poems or Stories to be performed 第28回 Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week -Performance Readings 第29回 Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week -Performance Readings 第30回 Reviews / Exam HO Term Review HO EC1 Semester Review (in Japanese and English) -HO Term Review (summary of PowerPoint presentation) -launch pptx 9 SEM REVIEW Exam
授業の概要	This is an elementary course providing an introduction to the basic principles of developing meaning in sentences and longer passages. Students are introduced to techniques for generating and arranging phrases or other grammatical structures to create sentence-level meaning. Students may be required to practice in class with various structures to develop skills in sentence-level drafting. Students will develop the necessary knowledge and skills in revising and editing which they can use in more advanced writing courses.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation. Poem 20% Quizzes 20% Participation 20% Story 20% Exams 20% 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class?on time?and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 砂 川：授業終了後に質問を受付ます。 (仮) 小久保：授業終了後に質問を受付ます。 (仮) 比 嘉：授業終了後に質問を受付ます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称: English Composition II

授業コード:

英文科目名称: English Composition II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	4単位 (0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy・Robert Duckworth・Peter Wodarz			
	ナンバリング: EWR202		

授業のテーマ及び到達目標	Composition instructors use a variety of methods to help students develop as practitioners and editors of their own writing. Central goals in this writing course are to develop explicit awareness of and skill in writing essays, to sustain an argument, to describe and/or define a problem, and to integrate the perspectives of others into the argument as support for the writer's main points. Liberal practice in the development of introductions and conclusions, of topics within body paragraphs, and paragraph cohesion across a full essay is also stressed.		
授業計画	第1回	Introductions / syllabus / writing process / generating and organizing introductions review syllabus H0 Interviewing Others HOMEWORK: read H01 Potential Topics	
	第2回	Small-group discussion think of one subject or current issue that really interests you small group discussions of issues H02 Spotting && Defining Keywords HOMEWORK H03 Defining Key Terms read the chapter for discussion during the next meeting	
	第3回	Lecture 1 -launch definition.ppt small group discussion of the chapter and exercises on pages 2-3 H04 Definition Essay Example HOMEWORK: read H05 An Outline of the Writing Process Begin drafting your definition essay, one page, for a writers' workshop on Day 6	
	第4回	Lecture 2 -launch word-image-brainstorm.ppt work in groups of two or three read H06 Pre-writing Exercise	
	第5回	Pre-writing small-group discussions of Pre-writing Exercise the members of each group will share with the class the results of their exercise HOMEWORK: read H07 Theses && Persuasion (be prepared to discuss chapter for Day 7)	
	第6回	Writers' workshop 1 writers' workshop for the Definition Essay HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting	
	第7回	Lecture 3 submit first draft of Definition Essay for assessment review H07 Theses && Persuasion small group discussions of exercises A and B on pages 9 - 10 -launch Thesis or Not.ppt HOMEWORK: read H08 Brainstorm to Essay	
	第8回	Brainstorming small group work discuss H08 Brainstorm to Essay discuss H09 Assertion && Thesis Exercise HOMEWORK: read H010 Guidance for Outline think of topic that interests you, brainstorm ideas, and create an outline for Day 9	
	第9回	Writers' workshop 2 return Definition Essay with comments small group work (in-class editing of outlines) HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting read H011 Pronoun Problems and do the exercise for Day 10	
	第10回	Lecture 4 review and discuss pronoun usage -launch Pronoun.ppt print out and submit your outlines for comments HOMEWORK:	

第 1 1 回	study for Quiz 1 on pronoun reference Quiz 1 Quiz return outlines with comments HOMEWORK: prepare for writers' workshop during next class
第 1 2 回	Writers' workshop 3 writers' workshop begin developing outlines into persuasive essays
第 1 3 回	Writers' workshop 4 return Quiz 1 writers' workshop continued HOMEWORK: read H012 Cleft Constructions and do the exercise for Day 14
第 1 4 回	Lecture 5 -launch Devising Theses.ppt H013 Devising Theses
第 1 5 回	Lecture 6 review and discuss chapter on H012 Cleft Constructions -launch Cleft.ppt HOMEWORK: study for Quiz 2 on cleft constructions
第 1 6 回	Quiz 2 Quiz submit final draft of Definition Essay for grading HOMEWORK: bring a first draft of your persuasive essay to the following class
第 17 回	Writers' workshop 5 in-class editing session for persuasive essays submit first draft of persuasive essay for grading
第 18 回	Lecture 7 return Quiz 2 -launch Misplaced Modifiers.ppt H014 Quick Check H014.5 Misplaced Modifiers HOMEWORK: H0 Outline of Presentations (prepare for presentations on Days 20 & 21)
第 19 回	Lecture 8 H016 Chapter Subject Verb Agreement -launch Subject Verb Agreement.ppt exercises in H017 Subject-Verb Agreement exercises in mechanics
第 20 回	Presentations 1 presentations of papers
第 21 回	Presentations 2 presentations of papers HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting
第 22 回	Writers' workshop 6 in-class drafting editing session submit first draft persuasive essay for assessment HOMEWORK: read H018 Passive & Active Voice and do the exercise for Day 23
第 23 回	Lecture 9 review and discuss chapter on Passive & Active Voice -launch Passiveactive.ppt HOMEWORK: do the chapter exercise
第 24 回	Exercises return persuasive draft essay with comments for students discussion of exercise H019 Passive or Active? HOMEWORK: study for quiz on active vs. passive
第 25 回	Quiz 3 Quiz HOMEWORK: prepare for writers' workshop during next class
第 26 回	Writers' workshop 7 writers' workshop
第 27 回	Writers' workshop 8 return Quiz 3 writers' workshop
第 28 回	Writers' workshop 9 writers' workshop
第 29 回	Review

	HO Grade Distribution HO Term Review Exercise -launch TermReview.ppt 第30回 Quiz 4 submit final draft of persuasive essay Quiz
授業の概要	This course expands on composition skills gained in English Composition I. Students practice exercises in finding and narrowing subjects, generating and organizing ideas as well as drafting, editing and revising essays. Students are introduced to a range of expository styles and the principles of argumentation. They practice developing thesis sentences and communicating their positions on certain topics discussed in class and in course readings. Students are also introduced to methods in researching and citing sources in essays.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation. 1 x first draft definition essay = 10 _____ 1 x final draft definition essay = 30 _____ 1 x first draft persuasive essay = 10 _____ 1 x final draft persuasive essay = 30 _____ Quiz #1 = 30 _____ Quiz #2 = 30 _____ Quiz #3 = 20 _____ Quiz #4 = 20 _____ Participation = 20 _____ Your total earned = _____ Total course points = 200 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class?on time?and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) Broudy : 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室 (仮) Robert Duckworth : 授業終了後に質問を受付けます。 (仮) Peter Wodarz : 授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：観光学概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Tourism studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
		ナンバリング：BUS180	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 受講者が観光について身近に感じられるような具体的な観光対象や観光地について事例研究を中心に学ぶ。オリエンテーションから始め、観光の歴史の紹介、観光と地域文化資源との関連性を学び、観光消費における地域経済活性化の重要性について認識し、成熟化社会に向けて観光と観光地の有り方について考える。 【到達目標】 .		
授業計画	第 1 回	世界の観光の動向と沖縄の観光の現状 世界の国際観光の歴史の変遷と沖縄の観光現状の外国人観光客誘致、受け入れ（インバウンド政策）などについて学習する。	
	第 2 回	観光の概念とニューツーリズムの定義 観光とは、日常生活圏を離れた環境での行動で、鑑賞・知識・体験・活動・休養・参加・精神の鼓舞などを目的とする生活に変化を求めるレクリエーションといえる。第2回では、世界的な社会経済の発展・変化に照応した新しいツーリズムの概念についても学習する。	
	第 3 回	文化と観光について 文化と観光の概念が時代とともに変化していることの理解からはじめ、観光と文化は、文化財保護の視点から対立関係にあるという立場があり、一方では、積極的に文化資源を地域活性化のために観光資源として活用しようという立場がある議論について考える。	
	第 4 回	産業と観光について 産業観光の概念について。現在、産業観光の範疇に入るものとして、「体験観光（伝統工芸体験、農林漁業体験等）」、「ヘリテージツーリズム（産業遺産観光）」、「テクニカルビジット（視察・工場見学）」などについて学習する	
	第 5 回	『和食』ユネスコの無形文化遺産について グローバル化の影響により産業的にも文化的にも和食の衰退が叫ばれる中で、UNESCOという権威ある機関によって和食の価値が認められたことにより、日本人自身の和食への評価も変わり、今や世界中から注目の的で、日本食の記事が取り上げられ、来日観光の大きな目的となっている。	
	第 6 回	観光と食文化・食習慣の対応 インバウンドの受入体制の中で多様な食文化・食習慣を有する外国人客への対応について考え、その受入体制について事例を通して学ぶ。	
	第 7 回	観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その1 事例紹介を通りしてより理解を深める。	
	第 8 回	観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その2 事例紹介を通りしてより理解を深める。	
	第 9 回	観光とリゾートウエディング 現在国内外に発信する有力な観光ブランドの一つとして沖縄リゾートウエディングの誘致を促進する取り組みについて考察する。	
	第10回	遊園地とテーマパークの歴史 遊園地とテーマパークの定義から理解し、日本国内の遊園地・テーマパーク産業の生成と発展の歴史について検証する。	
	第11回	テーマパークのインバウンド戦略 外国人観光客の旅行目的で最も多いのは「日本食を食べること」で2位。が「自然・景勝地観光」3位が「ショッピング」4位が「テーマパーク」。5位が「日本の歴史・伝統文化体験」となっている。今後も外国人観光客が増えることが予想される中、テーマパークのインバウンド戦略について解析する。	
	第12回	観光とスポーツ（スポーツツーリズム） スポーツツーリズムの最近の動向や、2020年に向けた取組についてご紹介し、その波及経済効果を学習する。	
	第13回	観光と映画（フィルムツーリズム） 映画やテレビ番組の舞台となった地域は多くの観光客を集めており、また、観光地化を視野に入れた自治体のロケ地誘致や、映画の撮影地を名所として残すといった動きや経済効果について分析する。	
	第14回	観光とMICE（ビジネスリゾート地の発信） ホテルなど民間事業者が積極的にMICE需要を取り込むことで経営の安定化につながる。メリットについて学習する。主催者等の質の高いニーズに、応じたコンテンツ開発など新たな顧客層を獲得する取組が結果として、沖縄観光の質の向、上につながることを理解する。	
	第15回	沖縄とハワイとの観光比較 「ハワイは世界的なリゾート地を目指す沖縄のお手本」。沖縄とハワイの歴史・文化の相違や観光政策の違いについて学習する。	
	第16回	まとめ・期末テスト	
授業の概要	観光学概論の授業をとおして観光とは何か、観光にかかわる様々な事柄など基本的な事項について説明しながら学生にとって身近な生活の中の観光の事例を示しながら解説することとする。		

予習	観光とは何をを目指すのか考えておき、日常観光についてメディアの報道に関心を持つこと
復習	毎回の授業を終了後、次回の授業まで内容について振り返え、不明な点について質問する。
テキスト	テキスト　：観光概論　共著　今井成男・大庭秀雄・捧富雄 編集・発行　（株）ジェイティービービ能力開発
参考書	観光ビジネスの新潮流 千葉千恵子　中央出版社　ISBN-13: 978-4761525057
評価方法・評価基準	授業内容の理解度について期中テスト20% 期末テスト40%、授業の取り組む姿勢20% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	沖縄観光の将来性に関心を持ち、問題意識と解決の意欲を持つ皆さんの受講を期待する。
オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日・金曜日　11：30～13：00　上地研究室
課題に対するフィードバック方法	授業についてのふり返し、思ったこと、疑問等を授業中に随時受けつけ、教員へアポを取り、直接説明することも対応する。

講義科目名称：ホテル経営論

授業コード：

英文科目名称：Hotel Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
	ナンバリング：BUS380		

授業のテーマ及び到達目標	1. ホテル経営に対する評価や価値観の変化を踏まえ、受講者が基礎的な知識として習得できるように設定する。 2. グローバルホテル経営から地域のホテル経営の視点について応用することができる。 3. 沖縄で進行中各種ホテルプロジェクトの事例を通して検証をすることができる。 4. ホテル経営者の事例を通して様々な現象を理解することができ、提案力を習得する。 5. 最後にホテル事業が地域密着の重要性を認識する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション ホテルとは何のために存在しているのか、ホテルの歴史にはどのような変遷があるのかなどの基本知識を体系的学ぶことについて説明する。	
	第2回	ホスピタリティ産業とホテル アメリカではホテルを宿泊施設とは「ホスピタリティ産業」と位置付けている。つまりホテルは、宿泊や飲食という基本機能を単に提供するのみならず、ホスピタリティ精神をともなったサービスが提供されてこそ、ホテルという産業の存在意義があると理解する。	
	第3回	ホテルの経営特性 ホテル業には、他の産業や業種と異なるいくつかの経営特性がある。第3回ではそれぞれのポイントについて説明し、その経営特性に関連してホテルはどのような機能を提供業種であるかを学習する。	
	第4回	ホテルの定義 ホテルの定義は時代によって変化するものであり、業態や経営形態、さらに各ホテルの経営理念や経営目的によって異なるものであることについて理解する。	
	第5回	ホテルの品質と評価 第5回では担当教員は世界及び国内の格付けや評価制度の現況を踏まえ、今後沖縄県が取り組むことを想定した宿泊施設の格付け制度を行うために公正性と独自性の確保が必要となることを主張する。これまでの調査及び整理した内容を踏まえながら、今後の沖縄県の宿泊施設の格付け制度の方向性を示していくことについて受講者と共有していく。	
	第6回	ホテルの分類 ホテルは立地、滞在期間、利用目的、資本形態、経営形態の要因別に分類され、その複雑な要素について学習し、理解する。	
	第7回	日本のホテルの歴史 ホテルの誕生は、古い文献からは紀元前の古代ギリシャや古代ローマにおける宿泊施設の様子をうかがい知ることができる。第7回では宿泊産業が発展をたどった歴史的背景や宿泊業の歴史におけるホテル史の位置付けについて考察する。	
	第8回	世界の主要なホテルチェーンとブランド さまざまな背景の中、世界市場ではホテルブランドが多様化し、さらにそのトレンドは着々と変化・進化をしている。第8回では多様化するホテルブランドの背景やそのトレンドについて紹介する。また、昨年から1年でさらに進化した日本に進出する主要グローバルチェーンのホテルブランドも紹介する。	
	第9回	ホテルにおける所有・経営・運営の概念 ホテルの経営形態。欧米からの輸入産業であるホテル業は、その経営形態において欧米式、特にアメリカの合理性を色濃く反映している。第9回では、米国におけるホテル経営形態の発展の過程を概観すると共に各種経営形態について学習する。	
	第10回	宿泊特化ホテルの展開 バブル崩壊と共に、ホテル業界ではローコストオペレーションでの経営と運営は、「宿泊特化型ホテル」というホテル形態で登場していたのである。第10回ではその時代背景と経済状況、を軸に、同事業の経営成立の条件と定義についての検証し、学習する。	
	第11回	宿泊特化ホテルの事例研究 宿泊特化型ホテル大手、(株)東横イン、(株)スーパーホテル、アパホテル(株)それぞれの運営方式について学習しながら今後沖縄の宿泊産業について考察する。	
	第12回	民泊と民宿の展開 民泊と民宿との違いやそれぞれのメリット・デメリットを知ること、民泊の良さをより深く理解することにも繋がる。また、なぜ民泊が注目されているのか、利用者はどのような点に魅力を感じているのかなどの整理や分析もできる。	
	第13回	県内ホテルの事例研究 第13回では沖縄県が目標に掲げている2021年度の入域観光客数1千万人、平均4泊が実現した場合、県内の宿泊施設が1日8500室足りなくなると県が試算している。深刻な客室不足に陥る恐れがあるとして、ホテルの新築や増築を進める必要があると分析している。近年県内に新規進出するホテルについて考察する	
	第14回	県外ホテルの事例研究 第14回では2020年の東京オリンピック・ハッパラリンピックに向けては、東京や大阪などの都市部を中心に、おそそ4.4万室が不足するとも言われており、客室不足が深刻化するとされている。近年国内に新規進出するホテルについて考察する。	
	第15回	まとめ・期末課題 国内・外の高級ホテルの運営事例を研究し、卓越したハードやソフトについてプレゼン資料を作	

	成する 第16回 期末課題・発表 作成したプレゼン資料を発表し、その場で評価する。
授業の概要	前半はホテル業に対する正しい知識の習得から始まり、ホテル組織や業務の特徴とは何かをといった基本知識を体系的に習得していく。後半はホテル全体の運営や、様々な経営資源の運用の在り方を実際の事例を交えて学習し、考察していく。
予習	適時資料を配布する。配布された資料・プリントを事前に読んでから授業に臨む必要がる。
復習	適時資料を配布する。配布された資料を事前に読んでから授業に臨むこと。
テキスト	「HOTEL BUSINESS BOOK」 仲谷秀一、杉原淳子、森重喜三雄著 中央経済社 ISBN 4502387002
参考書	新ホテル総論 発行（一財）日本ホテル教育センター 発売 （株）プラザ出版
評価方法・評価基準	期末課題の資料準備50% 課題の発表会内容50% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	授業での活発な意見交換が重要となります。
オフィスアワー	月曜日・火曜日・水曜日 12：00－13：30 上地研究室 また事前のアポを取り、対応することも可能。
課題に対するフィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内でその都度返却し解答する。

講義科目名称：持続可能観光論

授業コード：

英文科目名称：Sustainable Island Tourism

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 沖縄県は日本で唯一、大小40近くの有人島で構成されています。島嶼（島）とはなんですか。島嶼社会の特色は何ですか。沖縄の島々と本土、世界の島々とはどのような共通点があり、またどのような相違点があるのですか。島で生活するうえで、どのような課題があり、またどのように解決されていますか。島ではどのような産業が成立し、またそのための条件はなんですか。島の産業でもっとも成功しているのは観光産業です。何故ですか。この観光産業を島の資源や環境、貧困解決と両立させながら持続的に発展させるにはどうすればよいのですか。これらの疑問に真正面から向き合い、質疑応答を通して解答を見つけたのが本講の目標です。 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	授業方針・計画・講義の概要・評価・参考書などの説明島嶼（島）の定義とアプローチ 沖縄は島嶼学(Nissology)誕生の地だと言われています。沖縄で島嶼学はどのように誕生し、この学問がどのように世界に広がったかを紹介します。続いて「島嶼（島）」とは何か、その多様な定義をいろいろな文献を通して学習します。国によって、また地域によって島の定義は異なり、これが国際紛争の原因にもなっていることを事例を通して学習します。島を学習する方法も多様です。ここでは「学祭的アプローチ」を採用します。つまり、経済社会のみならず、島の地理、歴史、文化、政治などを含めた総合的な視点から「島とは何か」の疑問に挑みます。	
	第2回	島嶼の分類学 島の分類も多種多様です。本講では先ず世界の島々を「面積」と「人口」で分類し、その特徴を把握します。さらに「有人」、「無人」、地理的な「形状」、「海洋性」、「本土との距離」、「生態系」、「統治形態」、「経済自立度」、「産業立地形態」などの分類を試みます。この分類を通して、「島のイメージ」がかなり分かってくるはずです。	
	第3回	島嶼の分類学 前回に引き続き、島の分類を学習します。	
	第4回	島嶼経済社会の特性と可能性 「島の分類学」の学習を踏まえて、島の共通の特性を浮き彫りにし、島の持続可能な発展に向けた可能性を探ります。島の特性である「資源の少なさ」、「市場の狭さ」、「慢性的な貿易赤字」、「サービス産業への依存」、「脆弱（ぜいじゃく）な生態系」、「交通を含む高い生活コスト」、「観光産業への依存」、「移民・出稼ぎ」、「植民地の遺産」、「肥大化した政府」、「国境紛争」などのテーマを国際比較し、海洋資源を含むユニークな「島嶼資源」の活用のあり方を学習・討議します。	
	第5回	島嶼経済社会の特性と可能性 前回に引き続き、島の特性と可能性について学習します。	
	第6回	島嶼型持続可能発展モデルを求めて 島嶼の経済社会の発展を歴史的に展望します。特に「自給自足経済」からどのようにして「市場経済」に移行してきたかを南太平洋島嶼経済を中心に学習し、「モノカルチャー(monoculture)」ともよばれている植民地的な資源輸出型経済の脆弱性（デミリット）を概観し、持続可能な発展にむけた新たなアプローチを提案します。島の人びとが安心して暮らせる「最低安全性基準アプローチ」と「移輸入置換型アプローチ」、「島嶼資源活用型アプローチ」を学習・討議します。	
	第7回	島嶼型持続可能発展モデルを求めて 前回のテーマを継続して学習します。	
	第8回	島嶼型技術を求めて 沖縄には、世界の島嶼地域がうらやむほどの種々の「島嶼技術」があります。これらの技術は環境に優しく、「グリーンテクノロジー」とか、あるいは「人間の顔をした技術」などとよばれています。例えば、「環境にやさしいウリミバエ防除技術」、「赤土防除技術」、「地下ダム技術」、「ガラス瓶のリサイクル技術」、「再生可能エネルギー技術」、「海洋深層水技術」、「島嶼資源活用型技術」などです。これらの技術の開発・評価・応用について学習・討議します。	
	第9回	島嶼型技術を求めて 前回に続いて、島嶼型技術についての学習です。ここでは特に「沖縄発島嶼技術」の南太平洋島嶼地域などへの移転可能性について学習します。	
	第10回	島嶼社会のネットワーク 島嶼社会は古くから、移民、出稼ぎなどを通して国内および海外とのネットワークを形成してきました。このネットワークが島の経済を救ってきた反面、島からのとくに若年労働力の流出による経済社会の停滞も招いています。情報通信ネットワーク（ICT）の発達には「距離の暴虐」を克服手段になると同時に、「デジタルデバイド(digital divide)」という離島と本島間の新たな格差を生むおそれもあります。むろん、島社会のネットワーク化は、活用の仕方によっては、島の活性化につながります。ここでは特に沖縄の島々のネットワークを通して、「島々連携軸」の構築を提案し、議論します。	
	第11回	持続的な観光(Sustainable Tourism)の定義とアプローチ 持続的な島嶼発展モデルの一つとして、持続可能観光（ST）について学習・討議します。観光開発が持続するには、水、電気、道路、ホテル、ビーチなどの観光関連インフラが島の「受け入れ容量(carrying capacity)」を超えないことが大切です。環境容量の小さい島での観光開発は、大気・海洋汚染や水不足などの種々の環境、生活破壊につながります。ここでしっかりとSTについての理論的基礎を学習・討議します。	
	第12回	持続可能観光の事例	

	沖縄は「観光立県」を目指しています。観光客数は1千万人に近づきつつあり、常時8万人程度の観光客が沖縄に滞在していることになります。果たしてこの数は、沖縄の観光客受け入れ容量からして妥当でしょうか。また島によっては島の人口の100倍もの観光客を受け入れているところもあります。これは持続可能観光でしょうか。沖縄での事例を中心に観光客数と環境容量についての議論を行います。 第13回 持続可能な観光政策 すでに見たように、観光客を野放図に受け入れていると、島のキャリング・キャパシティを超え、深刻な環境破壊と島民の生活苦を招く恐れがあります。このような「悲劇」を未然に防ぐにはどうすればよいでしょうか。沖縄県内のいくつかの島で「環境税」、「入島税」などを実施したり、あるいはホテルの建設を制限したりして観光客数を制限する動きがあります。これらの政策が果たして意図した効果があるのかどうか、沖縄での事例をもとに検証・議論します。 第14回 島嶼文化と観光開発 文化遺産が観光資源として注目されるにつれて、「文化と観光」についての論議が高まってきています。伝統文化を商業目的の観光産業の目玉にしてよいのか、文化の墮落ではないかなどの議論と同時に、観光は島の伝統文化を海外に発信し、むしろ島の活性化につながるという考えもあります。文化観光の先輩であるバリ島のケースと「伝統芸能の宝庫」とよばれている竹富島のケースを比較しながら「文化の商業化」について学習・討議します。 第15回 講義の総括と討議 これまでの講義を総括し、学生諸君がどの程度講義を理解し、知的インパクト受けたかを知るために、自由闊達な締めくくりの討議を行います。 第16回 期末テスト 本講義と討議がどの程度諸君の知的水準を高めたかを知るために、エッセイテストを実施します。複数の課題から一つを選択して解答をお願いします。
授業の概要	「島嶼学」は沖縄で誕生した新しい学問です。その内容は、島の成り立ち、地形、産業、統治形態、歴史文化、地政学などを総合的に含み、アプローチも総合的、学祭的になります。本講義では、特に島の主産業であります観光産業に焦点をあて、その持続可能性について多面的な視点から学習・討議します。対象は島嶼県の沖縄が中心ですが、能う限り海外島嶼地域の事例にも触れます。観光産業の持続可能性といっても、島のありようによって多種多様です。したがって観光産業の持続的発展を理解するには島々の特性や歴史文化などを学習する必要があります。講義の前半では「島とは何か」に答えるべく、島のありようを、海外を含む島嶼間の比較を通して多方面から考察し、後半部分で持続可能観光産業に焦点をあて、その理論と実践（政策）を学習・討議します。
予習	.
復習	.
テキスト	指定教科書はありません。
参考書	参考図書は以下の4点です。図書間かネットを通して無料で閲覧可能です。 1. 嘉数啓 『島嶼学への誘い—沖縄から見る「島」の社会経済学』(岩波書店、2017年) 2. 嘉数啓編著『数量観光産業分析—観光学の新たな地平』(琉球書房、2014年) 3. Kakazu, H., "Sustainable Island Tourism" in Jack Carlsen & Richard Butler (ed.) Island Tourism: Sustainable Perspectives (London: CABI, 2011). 4. Kakazu, H., Okinawa: Japan's Front-Runner in the Asia-Pacific— Thriving Locally in a Globalized World (Indianapolis: Dog Ear Publishing, 2017)
評価方法・評価基準	学期末テスト：80点 クラス討議への参加：20点 合計：100点 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本講義は能う限り「双方向」、つまり受講生との「質疑応答」と通してすすめたいと思っています。とくに事前に準備する必要はありませんが、毎回「自らを向上させたい」とする熱意をもって参加していただきたいと思います。
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：経営学

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Business Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
多賀 寿史			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 経営や会社のしくみの基本から、経営学の変遷について学ぶ。具体的には経営学を、①「経営学」とは何か ②会社の仕組み③業界について④マーケティング⑤生産管理⑥ロジスティクス⑦財務・会計⑧組織・人事管理⑨情報管理⑩経営戦略⑪グローバル化時代の対応⑫企業のC R Sの取り組みなど各分野に分けて、その概要について理解し、身近な事例を用いて他人に説明できるようにする。 【到達目標】 企業の活動様々な活動について関心を持てるようになる。 企業行動に関する新聞記事が読めるようになる。 事業計画書を実際を書くことで、企業活動の理解を深める。		
授業計画	第1回 「経営学」とは何か 広い意味での経営学の体系について学ぶ。 第2回 会社の仕組み 現代の株式会社のしくみについて学ぶ。 第3回 業界について 小売業、金融業など、大まかな業界について簡潔に学ぶ。 第4回 マーケティング 企業のマーケティング活動の基本的な仕組みを学ぶ。 第5回 生産管理と価格戦略 企業の生産管理と価格戦略・販売戦略について学ぶ。 第6回 ロジスティクス・流通の仕組みについて（事例紹介） 流通の仕組みについて、実際の企業の事例を紹介しながら学ぶ。 第7回 財務・会計について 会社の経営活動の成果を記録公開するシステムである会計の話について学ぶ。 第8回 企業と金融機関の関係 企業は資金調達や資産管理で金融機関を利用する。そのかわりについて学ぶ。 第9回 組織・人事・労務管理について 企業内の組織・人事管理・労務管理について学ぶ。 第10回 企業の経営戦略 企業の経営戦略の基本的な考えを学ぶ。 第11回 グローバル化時代の対応 グローバル化する昨今、企業はどう向き合うべきかについて学ぶ。 第12回 企業内リスクマネジメントの重要性① 事例紹介 企業内リスクマネジメントの事例を紹介しながら理解を深めてもらう。 第13回 企業内リスクマネジメントの重要性② 事例紹介 第12回の続きを学ぶ。 第14回 企業内リスクマネジメントの重要性③ 事例紹介 第11回・12回の続きを学ぶ。 第15回 企業のC R Sの取り組み 企業のCSR活動の枠組みについて学ぶ。 第16回 まとめ・期末試験 これまでの講義を振り返った後で期末試験に挑戦してもらう。		
授業の概要	経営学の基本基礎知識をしっかりと吸収し、現在進行形のテーマ、そして、これからどんどん変化していく経営の将来像について理解を深める。さらにバブル崩壊、ビッグバン、IT革命などを経て、会社や会社経営に関する常識は大きく変わり、かつての常識は通用しなくなってきており競争原理の浸透、内部統制に見られる企業のコンプライアンス整備の必要性、企業防衛意識の高まりといった新たな社会要請についても知ることにより、企業の経営活動を管理する必要性について学ぶ。		
予習	次のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと		
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること		
テキスト	・守屋貴司/近藤広一編著「はじめの一步 経営学―入門のウォミングアップ―第2版 ミネルヴァ書房 ・必要に応じてプリント資料を配布		
参考書	加護野 忠男、吉村 典久著「1からの経営学」碩学舎、第2版 安田貴志（著）「マーケティングのしくみ」日本能率協会 2007年		
評価方法・評価基準	ケース課題の提出：60パーセント（3回） 期末課題：40パーセント（1回）		

	【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。 ・携帯電話の電源はOFF、講義中の私語は慎まれない。講義する側のみならず、講義を聞いている他の学生にとっても迷惑になる。
オフィスアワー	授業の終了後対応します。メールでも対応します。htaga@tm.u-ryukyu.ac.jpです。
課題に対するフィードバック方法	・レポートのフィードバックは最終授業時に行う。 ・授業内の小テストは次の授業内でその都度返却し解答する。 ・提出物は、各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称：基礎ゼミナール

授業コード：

英文科目名称：Introductory Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位 (0-2)	大学必修科目
担当教員			
Chris Valvona・新垣誠・上地恵龍・David Ulvog・新垣友子・Daniel Broudy			
	ナンバリング：CMS131		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】フレッシュマン・セミナーI で学んだ「読む・書く」などのアカデミックなスキルに加え、フレッシュマン・セミナーII では、ディベートやプレゼンテーション、グループ・プロジェクトなどを通して、社会に対応し適応する力としてのコンピテンシーを身につける。また、これらの社会適応能力を英語を通して取得することを目的とする。 【到達目標】.		
授業計画	第1回	批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション 現象を「知る」、「理解する」とはどういうことか。哲学における認識論の歴史を通して「思考する」ことについて学ぶ。また学術的思考法や調査法の基礎を学ぶ。	
	第2回	ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備 グループでテーマを設定し、関連する参考資料を収集する方法について学ぶ。	
	第3回	ディスカッションと評価(個人とグループ) 収集した参考資料をもとに各自意見を交わし合いディスカッションを行う。お互いの意見に傾聴し、議論を深める。	
	第4回	調査研究①のテーマ設定と研究計画 興味のある調査テーマを設定し、より詳細な計画に基づいた研究の準備を行う。	
	第5回	調査研究①の実施 研究計画に沿った調査を実施する。	
	第6回	調査研究①の結果発表準備 調査に基づきデータの整理と考察を行い、調査研究をまとめる。	
	第7回	調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価) 各自、テーマに沿った調査研究の発表を行い、クラス全体で共有する。	
	第8回	調査研究結果①に関するディスカッションとディベート 各テーマに基づいた研究発表に関する議論を交わす。お互いの意見を述べることでより深い理解と新たな発見を見出す。	
	第9回	ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画 1回目に設定したテーマから派生した新たな興味をもとに、2回目のテーマを模索し研究計画を立てる。	
	第10回	テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ) グループで新たなテーマの調査に取り組む。	
	第11回	少人数グループ研究 フィールドや文献など調査を深める。	
	第12回	少人数グループ研究 各自調査してきた結果を共有し、追加の調査を行う。	
	第13回	少人数グループ研究 各自調査したデータを持ち寄り、グループ全体で考察を始める。	
	第14回	少人数グループ研究 考察に基づき研究報告をまとめてプレゼンテーションの準備をする。	
	第15回	最終発表(個人評価とグループ評価) 研究報告を行い、クラス全体でディスカッションを行う。	
	第16回		
授業の概要	個人よりもグループでの作業を中心とする。グループ・ディスカッションやプロジェクト、プレゼンテーションを通して、表現力、理論的思考力、主体性／積極性、社会への関心や、他者と協働するためのスキルを身につける。		
予習	グループで参加する授業のため、お互いの信頼関係が大切になってきます。そのためグループのメンバーとして課題をこなしていく事が必須となり、それが出来ない学生は他のメンバーの迷惑になるため、責任を持って授業にとりくむこと。		
復習	グループで参加する授業のため、お互いの信頼関係が大切になってきます。そのためグループのメンバーとして課題をこなしていく事が必須となり、それが出来ない学生は他のメンバーの迷惑になるため、責任を持って授業にとりくむこと。		
テキスト	担当教員が逐次配付する		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	授業への参加度・授業態度(50%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。		

	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・ 授業の目的をきちんと理解し、知的好奇心、探究心をもって積極的に授業にかかわること。 ・ 教室外の活動もあるので、各自責任をもって授業の進行・過程を確認すること。 ・ 個人作業の責任を果たすとともに、他者との協働を怠らないこと。
オフィスアワー	(仮) Valvona：毎週**曜日 **限目 Valvona研究室 (仮) 新垣誠：毎週**曜日 **限目 新垣誠研究室 (仮) 上地：毎週**曜日 **限目 上地研究室 (仮) Ulvog：毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室 (仮) 新垣友子：毎週**曜日 **限目 新垣友子研究室 (仮) Broudy：毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対する フィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：The Post-American World

授業コード：

英文科目名称：The Post-American World

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 The objective of this course is to have students develop a better understanding of and discuss how principles, movements and events, which have been taken place in the United States, have influenced and been influenced by other countries economically, industrially and culturally. 【到達目標】		
授業計画	第1回 Orientation 第2回 Rights in the U.S. 第3回 Women' s suffrage 第4回 Slavery' s legacy & Civil Rights 第5回 2nd Amendment and Social Realities 第6回 Student Presentations: Mid-Term 第7回 Religion in America 第8回 McDonalds & Commodification 第9回 Radio, Television and the Internet 第10回 Immigration and Ethnic Groups 第11回 Economics and Social Status 第12回 U.S. Exports & Imports (Case Studies) 第13回 Abortion: Pro-Life v. Pro-Choice 第14回 Education 第15回 Future Relations: US and the World 第16回 Student Presentations: End of Term		
授業の概要	This is a high-level content-based class for students who have successfully completed intermediate classes and are ready to study subjects in English. The classes will be conducted in the form of lectures and class discussions. There will also be group workshops in which students discuss, analyze and present their ideas in English. Students will learn about various aspects of the United States, and choose topics to investigate further and give presentations on as their mid-term and final assignments. There will also be written assignments and short reports, which will be submitted for grade.		
予習	・		
復習	・		
テキスト	Materials provided by the instructor		
参考書	The Post-American World by Fareed Zakaria Students will also benefit from regular readings of newspapers and periodicals.		
評価方法・評価基準	1) Individual and/or group presentations 60% 2) Quizzes and reports 25% 3) Class participation 15%		

	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・
オフィスアワー	・
課題に対する フィードバック方法	・

講義科目名称：British Cultural Studies

授業コード：

英文科目名称：British Cultural Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			

授業のテーマ及び到達目標	This class offers an introduction to elements of British culture. The goal of the class is to learn about a culture outside of Asia or North America, using English as the principal medium of instruction. Students will broaden their knowledge while increasing their listening and critical thinking skills, as well as their ability to work with classmates to share knowledge, information, and understanding. Presentation skills will also be improved as students have to process information and present it to the class.		
授業計画	第1回 Introduction to British Culture. What is the UK? 第2回 History: After 1066, Henry VIII and The Reformation 第3回 Modern identity 第4回 Language: Accent, Dialect and Identity 第5回 Music: From Beatles to Punk to Britpop to modern day 第6回 Royal family, aristocracy and class 第7回 TV 第8回 Mid-term assignment (group pres.) 第9回 Movies 第10回 Iconic Figures 第11回 Literature (Shakespeare, Conan Doyle, contemporary fiction etc.) 第12回 Manners, etiquette 第13回 Art 第14回 Current Issues and Problems 第15回 Final assignment (individual pres.)		
授業の概要	This is a high-level content-based class for students who have taken intermediate classes and who have already raised their English level sufficiently to deal with content in English. Instruction is given in the form of lectures followed by group-based workshops in which students share their understanding and critically analyse the information provided. The contents cover core elements of past and present factors that have contributed to “Britain” and “British Culture”, as these terms are understood today. Students will learn about various aspects of British Culture and pick two topics to investigate further, giving a presentation about those topics as their mid-term and final assignments.		
予習	In advance of each class, students should refer to the topic for the upcoming class and reflect on what they already know about that topic. Students should also perform their own basic background research about each topic in advance, in order to be able to process the new information more easily.		
復習	Though the topics will change each week, information provided in previous weeks will feed into future topics, so it is vital that students review their notes from previous classes before each new class.		
テキスト	Materials provided by the instructor		
参考書	Before and after each class there will be recommendations for reading and watching to understand the topics more deeply		
評価方法・評価基準	Class participation, participation in workshops and presentations, final report and other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.		

	定期試験40%、小テスト／授業内レポート20%、授業態度20%、授業への参加度20% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	.
オフィスアワー	.
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：英国文学作品研究

授業コード：

英文科目名称：Readings in British Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			

授業のテーマ及び到達目標	19世紀イギリスの政治・社会状況を把握しつつ、イギリス文学への造詣を深める。作家及び作品の研究、精読の仕方、時代背景の読み解き方についての基礎を学び、基本的な文学研究論考やエッセイが執筆できるようにする。Jane Eyre（1857）に見られるさまざまな英語表現に親しみ理解している。		
授業計画	第1回	イントロダクション 『概説イギリス史』より「19世紀の光と影」	
	第2回	I-III（1～3）， p. 9-32 孤児ジェーンのリード家（ゲイツヘッド）での境遇 『はじめての構造主義』より橋爪、『現代思想の冒険』より竹田	
	第3回	IV-VII（4～7）， p. 33-80 ミセス・リードに立ち向かう幼いジェーン／ヘレン・バーンズとの出会い（ローウッド）	
	第4回	VIII-XI（8～11）， p. 81-127 ヘレン・バーンズとミセス・リードの死／ソーンフィールドへ到着 「中心と終焉の消滅」大橋	
	第5回	XII-XV（12～15）， p. 128-177 ロチェスターとの親交と館の謎	
	第6回	XVI-XVII（16～17）， p. 178-210 ミス・イングラム登場 「フェミニズムからの呼びかけ」大橋	
	第7回	アヘン交易とユートピア幻想 18世紀後半から19世紀前半にかけてのカントン貿易システムとイギリスの三角貿易のなりたちを概説する。	
	第8回	アヘン交易とユートピア幻想 1816年に那覇を訪れたライラ号とアルセスト号がどのように琉球を表象したのか、同じアジアの国でありながら清朝中国の描写とはいかに異なっていたのか、時代背景とロマン主義文学との関係で解き明かす。	
	第9回	XVIII-XX（18～20）， p. 211-253 何者かに襲われるロチェスター 『フロイトの精神分析』より鈴木	
	第10回	XXI-XXIII（21～23）， p. 254-296 ミセス・リードの死／柵の木のそばのシーン	
	第11回	XXIV-XXVI（24～26）， p. 297-342 結婚式の中止とバーサ・メイスン 「無意識の発見」大橋	
	第12回	XXVII-XXVIII（27～28）， p. 343-388 ソーンフィールドからの脱出	
	第13回	XXIX-XXXII（29～32）， p. 389-434 リバーズ家での暮らし／セント・ジョンとの関係 「悲しきシェイクスピア」中尾	
	第14回	XXXIII-XXXIV（33～34）， 435-472 セント・ジョンの求婚	
	第15回	XXXV-XXXVIII（35～38）， p. 473-521 ソーンフィールドへ帰る	
	第16回	まとめ&期末テスト	
授業の概要	Charlotte Bronte の Jane Eyre（1857）を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題及び概要発表並びに課題箇所についての討論を行う。Jane Eyreの作家、作品、時代背景などについての小論文を各自でひとつ完成させる。		
予習	該当するチャプターについて重要箇所に目を通しておく。		
復習	小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。		
テキスト	Bronte, Charlotte. Jane Eyre. New York: Penguin		
参考書	『新版 概説イギリス史 伝統的理解をこえて』青山吉信、今井宏 編 有斐閣 1996年 『ユリイカ』 9月号 第34巻第11号 青土社 2002年9月 英文 J. サザランド 『イギリス小説の謎』 編注者 藤原浩一、高谷修 英宝社 2004年 『新英文学入門-T・イーグルトン「文学とは何か」を読む』 大橋洋一著 岩波書店 2004年 『知の教科書 批評理論』 丹治 愛編 講談社 2006年		
評価方法・評価基準	試 験 30% 学習ノート 40%（8回分をカウントする）		

	小論文 30%（期末テスト） *学習ノートには、講義の概要に加えて、自分のコメントや感想、考察を記入する（A4、1枚程度）。 *授業日数の3分の1を超えて欠席しないこと。 *3回の遅刻は1回の欠席と見なす。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	『英文学史』（History of British Literature）を履修しているほうが望ましい。
オフィスアワー	毎週月曜日（13：00～14：30）研究室 できれば、事前にメール予約をお取りください。 メールアドレス：hamagawah@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	学習ノートは毎回、採点したのちクラス内で返却し、試験は採点したあとでメールボックスに返却する。

講義科目名称：米国文学作品研究

授業コード：

英文科目名称：Readings in American Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			

授業のテーマ及び到達目標	(技能・表現) 文学作品を読む作業を通してtextual analysis (テキスト分析) ができる。 (思考・判断) (1) テキストを米国の(マイノリティーの女性を主体とした) 文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせることができる。 (2) race, gender, class, sexualityの基礎概念を理解して、文学作品の分析に応用できる。 (3) アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人、ネイティブ・アメリカンの女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や大衆文化・社会に影響してきたのかを考察し、発表することができる。 (関心・意欲) 作品と沖縄の歴史、文化を比較する視点から議論することができる。		
授業計画	第1回	イントロダクション：アメリカ文学と有色女性たち (Women of Color) 授業の目的や評価の仕方、課題の確認を行う。 なぜ、Women of Colorの作品を読むのか： アメリカ文学における有色女性作家の作品の潮流について概観する。	
	第2回	Zora Neale Hurston, "Their Eyes Were Watching God" Hurstonのバイオグラフィと彼女の生きた時代背景 (1901-1960) を把握する。 特に1930年代初頭のHarlem Renaissance運動について、アメリカにおける文学と社会・政治との関わりについて学ぶ。	
	第3回	Hurston (2) Chapters 1-4 / 5-6 / 7-11 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第4回	Hurston (3) Chapters 12-15 / 16-18 / 19-20 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第5回	Toni Morrison, From "The Bluest Eye" (1) Morrisonのバイオグラフィと時代背景 (1931-)、特にHurstonからの繋がり、影響を把握する。 1960年代の公民権運動について、アメリカにおける文学と社会・政治との関わりについて学ぶ。	
	第6回	Morrison (2) chapter 5-7 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第7回	Morrison (3) Chapter 8-10 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第8回	African American Women:まとめとディスカッション 二つの作品に共通しているテーマについて(黒人女性の自己実現、自立、アイデンティティ) グループディスカッションを行い、小クイズ(授業内リアクションペーパー)を行う。	
	第9回	Leslie Marmon Silko, "Yellow Woman and a Beauty of the Spirit: Essays on Native American Life Today" (1) Silkoのバイオグラフィと作品に共通するテーマについて導入する。 自伝的な短いエッセイを読む。	
	第10回	Silko (2) Short Stories 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第11回	Native American Women:まとめとディスカッション ネイティブ・アメリカンの歴史や文学的な介入について確認し、グループディスカッションを行う。 その後小テスト(リアクションペーパー)を授業内で書く。	
	第12回	Jhumpa Lahiri, "Interpreter of Maladies" (1) Lahiriのバイオグラフィ及び作品の特徴について概観する。 アジア系アメリカ人と移民の歴史についての基本的知識を身につける。	
	第13回	Lahiri (2) Short Stories 割り当てられたグループで各セクションを読み(抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード(事前に提供)について発表する。 その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。	
	第14回	Lahiri (3) Main Themes, Culture Clash Analysis それぞれの短編の中で、共通するテーマを見出し、ディスカッションを行う。	
	第15回	Asian American Women:まとめとディスカッション 登場人物を比較したり、自分に置き換えて考えたりするワークショップを行い、リアクションペーパーを書く。	

授業の概要	(概要) 4名の米国女性作家の作品(短編、エッセイまたは抜粋)を、グループで割り当てられたチャプターを担当して、概要や感想をシェアしながら読み進める。 (授業方法) その流れの中で ①作者やと文学作品に関する時代背景、②race, gender, class, sexualityの概念と文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義もしくはグループワークを盛り込む。 Google+のコミュニティを利用してコメントをシェアし、担当セクションでは、ディスカッションリーダーをつとめる。 各セクションではReaction Paperを提出する。 期末は課題として日本語の小論文(2500～3000字程度)を提出する。
予習	文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、必ず毎週の割り当て分のチャプターを読んだから授業に臨むこと。
復習	Google+にコメントや質問をシェアしたり、わかりにくかった箇所は和訳を参照したりして理解を深めること。
テキスト	Zora Neale Hurston, Their Eyes Were Watching God (1937) Tony Morrison, The Bluest Eye (New York: Pocket Books, 1970) Leslie Marmon Silko, Yellow Woman and a Beauty of the Spirit: Essays on Native American Life Today (A Touchstone Book, 1996) Jhumpa Lahiri, Interpreter of Maladies, (Mariner Books, 1999)
参考書	ゾラ・ニール・ハーストン著、松本昇訳『彼らの目は神を見ていた』(新宿書房) トニ・モリスン著、大社淑子訳『青い眼がほしい』(早川書房) ジュンパ・ラヒリ著、小川高義訳『停電の夜に』(新潮文庫) クラスで適宜、資料を配布またはGoogle+のコミュニティに投稿する。
評価方法・評価基準	期末エッセイ(課題) 30% リアクションペーパー・授業内レポート30% 受講者の発表30% 授業態度10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「米文学史」を履修していることが望ましい(必須ではない)。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 崎原研究室
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは評価して(採点・評価後)返却する。 期末エッセイは、評価後、各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称：コンピュータ演習

授業コード：

英文科目名称：Basic Computing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年次	2単位 (0-2)	大学共通科目
担当教員			
新垣誠・金城豪			
		ナンバリング：	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 PCの基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法、基礎的なデータベースソフトの活用方法などを実践的に修得すること 【到達目標】大学生生活また社会人として仕事をする上で必要とされるPCの基本的操作ができるようになる		
授業計画	第1回	オリエンテーション：（1）パソコンの概念 （2）使用登録・パスワードの設定（3）電子メールの設定 PCの開発の歴史とその基本的な構造について学ぶ。また大学生活を送る上で必須である基本的な設定について学ぶ。	
	第2回	（1）Windowsの基本操作 （2）OSの基本操作 （3）インターネット OSの基礎について学ぶ。UIとしてのOSの発達とアプリケーションとの関連性について学ぶ。またインターネットの仕組みやPCとの関係性を理解し、使用方法を学ぶ。	
	第3回	Word2007（1）：Wordの基本操作、文章の作成保存 初歩的な文章作成をワードで行い、その基礎を身につける。	
	第4回	Word2007（2）：文章のレイアウト マージンやタブの設定など、文章作成において基礎となるレイアウトの構成を学ぶ。	
	第5回	Word2007（3）：書式の応用 ワードに備わった様々な書式の活用方法について学ぶ。	
	第6回	Word2007（4）：表示能力を高める、オブジェクトの挿入 単なる文章だけでなく他のメディアを導入したワードの活用方法を取得する。	
	第7回	Excel2007（1）：基本操作、一覧表の作成 エクセルの基本的検索方法について学ぶ。初歩的な表の作成を通してエクセルの仕組みを理解する。	
	第8回	Excel2007（2）：グラフの作成、グラフのデザインおよびレイアウト グラフの作成を通してエクセルのデザインやレイアウトの活用方法を学ぶ。	
	第9回	Excel2007（3）：グラフのデザインとレイアウト 課題を通して実際に自分なりのグラフを作成し、個性を生かした作品作りを計画する。	
	第10回	Excel2007：①グラフのレイアウト グラフ作成を完成させ、課題として提出する。	
	第11回	PowerPoint（1）：プレゼンテーションとは パワーポイントの基礎を学ぶ。またプレゼンテーションにおいて大切なことを理解する。	
	第12回	PowerPoint（2）：プレゼンテーション資料の作成 プレゼンテーションの課題を通して活用方法を取得する。	
	第13回	PowerPoint（3）：プレゼンテーションの実践 作成したプレゼンテーションを実行することで、パワーポイントの操作のみならず、効果的なプレゼンテーションの技を取得する。	
	第14回	Word2007（5）：様々な活用法 文書作成を超えたワードの様々な活用方法について学ぶ。	
	第15回	メディアリテラシー PCを利用する上で必要な情報倫理について学ぶ。	
授業の概要	コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。		
予習	次回の内容予告を受け、知識を整えておくこと		
復習	授業でおこなった技法を自ら応用してみること		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	課題の提出70% 授業でのプレゼンテーションなどへの参加度及び授業に臨む姿勢30% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること		

	.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	USBメモリーを準備すること
オフィスアワー	新垣誠： 毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp 金城豪：（仮）授業終了後、教室で質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	課題は評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：金融論

授業コード：

英文科目名称：Finance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	金融の基礎知識から国際金融市場の動向まで学び、国際金融のメカニズムを修得する。		
授業計画	第1回	グローバル化する経済と金融	
	第2回	金融とは	
	第3回	金融市場の仕組み	
	第4回	金融機関の種類と業務	
	第5回	金融商品の特徴Ⅰ	
	第6回	金融商品の特徴Ⅱ	
	第7回	国際金融の基礎知識	
	第8回	国際金融取引の構造	
	第9回	外国為替市場と為替レート	
	第10回	グローバル化と金融新時代	
	第11回	主要な国際金融市場の特色	
	第12回	グローバル化と金融リスク	
	第13回	事例研究～アイルランドの国際金融センター	
	第14回	事例研究～沖縄金融特区	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末試験	
授業の概要	国際金融論は、世界の経済情勢・金融動向を常に把握していく、極めて現実的かつチャレンジングな分野です。本講義は、金融基礎知識の理解・国際金融取引・外国為替・国際金融市場等を学び、国際金融の理論・分析手法の習得を目指します。講義では、長年国際ビジネスに携わってきた実務経験を活かし、具体的な事例を中心に分かりやすく解説します。また、日々報道されている国際金融関連のトピックスについての解説も行います。		
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと		
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること		
テキスト	逐次プリント資料を配布する。		
参考書	1. 上川孝夫 『現代国際金融論』 有斐閣アルマ 2003年 2. 有吉章編 『図説国際金融論』 財経詳報社 2003年 3. 小川英治 『国際金融入門』 日本経済新聞社 2002年		
評価方法・評価基準	期末試験60% 授業態度30% 小テスト・授業内レポート10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		

履修上の注意	本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。 配布資料は必ずファイルしておくこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：フレッシュマン・セミナー

授業コード：

英文科目名称：Freshman Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1単位 (0-2)	大学必修科目
担当教員			
照屋信治・近藤功行・城間仙子・仲里和花・玉城直美・武村朝吉・大城直人			
	ナンバリング：CMS130		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】アドバイザーや学友との豊かな関係の中で、本学の理念やカリキュラムを理解し、大学生に必要な最低限のアカデミックスキルを獲得する。 【達成目標】（１）本学について理解を深める。（２）学友と共同して学ぶことができる。（３）基本的なアカデミックスキルを身につける。		
授業計画	第１回	講義の概要説明。図書館利用説明。 講義の概要説明、評価の方法、図書館ツアーと図書館の利用説明を行う。	
	第２回	本学のカリキュラムの説明 本学のカリキュラムの説明と各学期の履修への指導・助言。本学の３本柱の説明。それをふまえた履修指導。（自校教育）	
	第３回	本学の歴史を学ぶ① 金城重明『「集団自決」を心に刻んで』の抜粋を読み、沖縄の歴史と本学の歴史を学ぶ。平和教育。	
	第４回	本学の歴史を学ぶ② DVD『軍隊がいた島～慶良間島の証言～』（2009年）を視聴し、意見交換を行う。また渡嘉敷島オリエンテーションキャンプで金城重明氏とお会いする際の質問を検討する。	
	第５回	大学生活へのオリエンテーション 薬物講話を開催する。大麻などの薬物が合法の国や地域に留学する学生も多いが、その予防教育を行う。	
	第６回	学習等達成度記録簿の作成 大学在学中の目標や将来の目標を明確にし、短期的・中期的な目標を設定する。ゼミ内での意見のシェアなどを行いつつ、目標設定を行う。	
	第７回	要約文の作成① 要約文に関する３０分の解説ののち、短い論文を読み（６０分）、４００字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。	
	第８回	論評文の作成① 論評文に関する３０分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する（６０分）、６００字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。	
	第９回	要約文の作成② 要約文に関する３０分の解説ののち、短い論文を読み（６０分）、４００字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。	
	第１０回	論評文の作成② 論評文に関する３０分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する（６０分）、６００字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。	
	第１１回	要約文の作成③ 要約文に関する３０分の解説ののち、短い論文を読み（６０分）、４００字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。	
	第１２回	論評文の作成③ 論評文に関する３０分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する（６０分）、６００字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。	
	第１３回	ディベート ディベートの仕方について学ぶ。立論、反論、批判などの方法を確認し、論理的思考力、表現力を身につける。	
	第１４回	ディベート② 要約文・論評文で用いた課題文のテーマについて賛否に分かれて議論する。	
	第１５回	ブックリポートの提出、まとめ ブックリポートの作成方法を学ぶ。また、本学のレポート提出の形式を確認する。	
授業の概要	１）自校教育。キリ学に学ぶ意義を理解し、本学学生としての自覚を高める。図書館利用案内・カリキュラム解説・大学生活での目標の相談・渡嘉敷キャンプに向けての平和教育。 ２）アカデミックスキルズ（読み・書き・調査・発表・議論など）。テキストで目標とされている「精読」「要約文」「論評文」「ブックリポート」まで。引用・注釈・参考文献一覧などを備えたレポートが書けるようにする。 ３）少人数のアドバイザーグループでの授業の中で、充実した学びの基礎となる人間関係を形成する。		
予習	指定された課題文を熟読すること		
復習	授業内容を、議論、ディベート、レポートに活かせるように復習すること		
テキスト	沖縄キリスト教学院大学著『論述・作文』2011年 金城重明『「集団自決」を心に刻んで』高文研、1995年		

参考書	授業中に提示、あるいは提供する。
評価方法・評価基準	授業への参加度・授業態度（50％）、レポート（50％）によって総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 初年次の必修科目である。 2 積極的に発言すること。
オフィスアワー	(仮) 照屋：水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室 (仮) 近藤：毎週**曜日 **限目 近藤研究室 (仮) 城間：毎週**曜日 **限目 城間研究室 (仮) 仲里：毎週**曜日 **限目 仲里研究室 (仮) 玉城：毎週**曜日 **限目 玉城研究室 (仮) 武村：毎週**曜日 **限目 武村研究室 (仮) 大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称: English Communication I

授業コード:

英文科目名称: English Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	4単位 (0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Terre/Nieuburt			
	ナンバリング: EOC110		

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this class is to help students whose English is not yet developed enough. It will help improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. Students will be shown the very basics of English communication, starting with basic communication and pronunciation skills. By the end of the course, students will be able to speak more naturally, and express themselves with more confidence, using a wider range of vocabulary. Pronunciation will also start to sound more natural. The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand short conversations about familiar topics. I can catch concrete information on familiar topics encountered in everyday life. I can respond simply in basic, everyday interactions. I can exchange simple opinions about very familiar topics. I can express simple opinions related to limited, familiar topics. I can give simple descriptions."		
授業計画	第1週	Ice breaker communicative activities In the first week students will perform various communicative activities to get to know each other and the teacher. Also, basic English will be introduced to allow students to communicate in English as much as possible.	
	第2週	Hello / Where are you from? Grammar: be verb Vocabulary: numbers and countries Pronunciation: word stress, sentence stress	
	第3週	We're Canadian / what's his number? Grammar: be verb and wh- questions Vocabulary: nationalities and personal info Pronunciation: word stress and saying phone numbers	
	第4週	What's in your bag? / Is that a hat? Grammar: a/an, sing and plural nouns, this/that/these/those Vocabulary: small things Pronunciation: plural endings	
	第5週	Family and friends / that's a cool car! Grammar: possessive adjectives Vocabulary: people and family Pronunciation: individual sounds	
	第6週	A bad hair day / What do you have for breakfast Grammar: simple present Vocabulary: common verbs, food and drink Pronunciation: linking	
	第7週	He speaks English at work / Do you like mornings? Grammar: adverbs of frequency Vocabulary: jobs Pronunciation: sentence stress	
	第8週	Life at the end of the world / You can't park here Grammar: word order, can/can't Vocabulary: common verbs Pronunciation: sentence rhythm	
	第9週	What are they doing? / Today is different Grammar: present continuous Vocabulary: weather Pronunciation: individual sounds	
	第10週	In the jungle in Guatemala / Before they were stars... Grammar: there is/there are Vocabulary: hotels Pronunciation: individual sounds	
	第11週	It changed my life / What did you do? Grammar: simple past Vocabulary: irregular verbs Pronunciation: sentence stress	
	第12週	What do you think of it? / Strangers on a train Grammar: Object pronouns Vocabulary: opinion words Pronunciation: silent consonants	
	第13週	Trip of a lifetime / from start to finish Grammar: future be going to Vocabulary: future time expressions	

	第14週 Pronunciation: sentence stress Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment. 第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.
授業の概要	This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. Students will develop their confidence to communicate and express themselves in English. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is "American English File Starter" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press).
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称: English Communication II

授業コード:

英文科目名称: English Communication II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1 年	4単位 (0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Arbogast/Higaonna・Wodarz/Fogel・East/Webb・Fogel/Praske			
	ナンバリング: EOC111		

授業のテーマ及び到達目標	The goal of these classes is to improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. The teacher will provide students with many opportunities to speak, and will also support students in terms of vocabulary, grammar, and pronunciation, where necessary. These classes will provide a framework for students to further develop their communicative skills. The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand phrases and expressions related to matters of immediate relevance. I can understand instructions and explanations necessary for simple transactions. I can ask and answer simple questions about familiar topics. I can make, accept and decline offers. I can express simple opinions. I can describe simple facts related to everyday life"		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	Meeting other people Grammar: be verb Vocabulary: numbers and greetings Pronunciation: vowel sounds, word stress	
	第3週	All over the World Grammar: be verb and possessive adjectives Vocabulary: the world, classroom language Pronunciation: sentence stress and the alphabet	
	第4週	A writer's room Grammar: this/that/these/those, adjectives Vocabulary: things, colors, modifiers Pronunciation: final -s and -es; the, long and short vowels	
	第5週	Stars and Stripes Grammar: imperatives, let's Vocabulary: feelings Pronunciation: connected speech and liaison	
	第6週	Work and Play Grammar: simple present Vocabulary: jobs and verb phrases Pronunciation: 3rd person -s	
	第7週	Meeting online Grammar: word order in questions Vocabulary: question words Pronunciation: sentences stress	
	第8週	What a life! Grammar: whose, possessive's Vocabulary: family Pronunciation: /~/	
	第9週	Short life, long life? Grammar: prepositions of time and place Vocabulary: everyday activities Pronunciation: linking and sentence stress	
	第10週	Love your neighbours Grammar: present continuous, can/can't Vocabulary: verb phrases Pronunciation: sentence stress	
	第11週	Sun and the City Grammar: simple present vs. present continuous Vocabulary: weather and seasons Pronunciation: -ng	
	第12週	Reading in English Grammar: Object pronouns Vocabulary: phone language Pronunciation: consonant clusters	
	第13週	Times we love Grammar: like + V-ing Vocabulary: music Pronunciation: /y/	
	第14週	Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the	

	method of final evaluation will once again be explained. Tie will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment. 第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.
授業の概要	This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills, in order to further develop communicative confidence. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 1st half of "American English File 1" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称: English Communication III

授業コード:

英文科目名称: English Communication III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Phillips/Praske・山城/小久保・Arbogast/Terre・Phillips/Nieuburt・Valvona/小久保			

授業のテーマ及び到達目標	The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students in this class will already have displayed a sound knowledge and development in their communication skills. By continuing to meaningfully practice speaking, listening and pronunciation as much as possible, students should feel more comfortable communicating smoothly in life-like situations. The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand short, simple announcements. I can understand the main points of straightforward factual messages. I can give simple directions from place to place. I can get across basic information and exchange simple opinions. I can introduce myself including my hobbies and abilities. I can give a brief talk about familiar topics (e.g. my school and my neighborhood) supported by visual aids."		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	Where are you from? Grammar: Word order in questions Vocabulary: common verb phrases Pronunciation: vowel sounds (review)	
	第3週	Charlotte's choice Grammar: simple present and present continuous (review) Vocabulary: describing people (appearance and personality) Pronunciation: final -s and -es	
	第4週	Right place, wrong person Grammar: simple past: regular and irregular verbs Vocabulary: vacations Pronunciation: regular verbs: -ed endings	
	第5週	The story behind the photo Grammar: past continuous, time sequencers and connectors Vocabulary: prepositions of time and place Pronunciation: word and sentence stress	
	第6週	Plans and dreams Grammar: be going to (plans, predictions and future arrangements) Vocabulary: airports, verbs + prepositions Pronunciation: sentence stress and fast speech	
	第7週	What's the word? Grammar: defining relative clauses Vocabulary: expressions for paraphrasing Pronunciation: sounding friendly, pronunciation in a dictionary	
	第8週	Parents and teenagers Grammar: present perfect + yet and already Vocabulary: housework, make or do? Pronunciation: pronouncing j	
	第9週	Lost weekend Grammar: something, anything, nothing Vocabulary: adjectives ending in -ed and -ing Pronunciation: c and ch	
	第10週	No time for anything Grammar: comparatives - as...as Vocabulary: time expressions Pronunciation: sentence stress	
	第11週	Superlative cities Grammar: superlatives Vocabulary: describing a town or city Pronunciation: word and sentence stress	
	第12週	Are you a pessimist? Grammar: will/won't (predictions) Vocabulary: opposite verbs Pronunciation: 'll, won't	
	第13週	The meaning of dreaming Grammar: review of verb forms - present, past and future Vocabulary: verb + back Pronunciation: the letters ow	

	第14週 Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment. 第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.
授業の概要	This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 1st half of "American English File 2" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections. 【DP 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	All students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称: English Communication IV

授業コード:

英文科目名称: English Communication IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Melley/Phillips・Wodarz/Latham・East/Arbogast・East/Gayler・Webb/Duckworth			

授業のテーマ及び到達目標	Students in this class will be starting to reach a level of confidence and fluency that allow for much more natural and lifelike communication in English, with each other and with the teacher. This class will continue to build on that progression by offering more opportunities to practice communicating in meaningful ways, while consolidating grammar, pronunciation, and presentation skills. The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand and follow a series of instructions for sports, cooking, etc. I can understand instructions about procedures (e.g. cooking, handicrafts). I can exchange opinions and feelings, express agreement and disagreement, and compare things and people. I can interact in predictable everyday situations using a wide range of words and expressions. I can make a short speech on topics directly related to my everyday life. I can give an opinion or explain a plan of action concisely giving reasons."		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	How to... Grammar: uses of the infinitive Vocabulary: verbs + infinitive Pronunciation: weak form of to	
	第3週	Being happy Grammar: uses of the gerund Vocabulary: verbs + gerund Pronunciation: the letter i	
	第4週	If something can go wrong... Grammar: should Vocabulary: get, confusing verbs Pronunciation: linking	
	第5週	You must be mine Grammar: first conditional Vocabulary: adverbs of manner Pronunciation: sentence rhythm	
	第6週	What would you do? Grammar: second conditional Vocabulary: animals Pronunciation: word stress	
	第7週	Born to sing Grammar: present perfect + for or since Vocabulary: phobias and fear Pronunciation: sentence stress	
	第8週	The mothers of invention Grammar: passive Vocabulary: school subjects Pronunciation: used to and didn't use to	
	第9週	Could do better Grammar: used to and might Vocabulary: noun formation Pronunciation: diphthongs	
	第10週	Bad losers Grammar: expressing movement Vocabulary: sports Pronunciation: linking	
	第11週	What a coincidence Grammar: so, neither + auxiliaries Vocabulary: similarities Pronunciation: sentence stress	
	第12週	Strange but true Grammar: past perfect Vocabulary: verb phrases Pronunciation: contractions	
	第13週	Gossip is good for you Grammar: reported speech Vocabulary: say vs tell Pronunciation: double consonants	

	第14週 Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment. 第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.
授業の概要	This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 2nd half of "American English File 2" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections. 【DP 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	All students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称: English Communication V

授業コード:

英文科目名称: English Communication V

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2 年	4単位 (0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Valvona/Praske・Duckworth/Niebuurt・Gayler/小久保・Valvona/Arbogast・Terre/Latham			
	ナンバリング: EOC214		

授業のテーマ及び到達目標	This is the highest level of English Communication. This means that students should be aiming to communicate (in both written and spoken assignments) solely in English, using language that is well-formed, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. The principal aim is, as with all other levels of English Communication, to actually *use* English and communicate a message, and to develop their communication in terms of all four skills (reading, writing, listening, speaking). Students should also aim to have found their own 'right way' to study in the future. By the end of English Communication V, students will be able to give and understand both written and spoken explanations of unfamiliar cultural practices and customs, and also understand main points of extended dialogues and texts. Students will be able to give opinions and exchange information, and also maintain a sustained interaction in English, without confusing the person with whom they interact.		
授業計画	第1週 Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher. 第2週 Cosmetic Surgery & Personal Relationships 第3週 Environment & Rules 第4週 Plagiarism & Household Chores 第5週 Abortion & Taboo Professions 第6週 Body Art & Adult Children 第7週 Workplace Relations & Culture Shock 第8週 Career Choice & Xenophobia 第9週 Technology & Female Liberation 第10週 Compromise & Peace-making 第11週 Stalking & Divorce 第12週 Review of topics and task-based project (1) 第13週 Task-based project (2) 第14週 Explanation of final assessment and preparation 第15週 Final assessment		
授業の概要	This class will provide a bridge to medium and higher-level English courses including Debate & Discussion, Advanced Writing and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand more complex, longer pieces of information, and then properly express themselves based on such information. Through numerous activities including writing and performing role-plays, debate and discussion, presentation, writing reports and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and so on. Rather than explicitly teaching grammar, vocabulary, etc., topics will be presented to students as starting points for the various communicative activities that follow, and students will receive guidance, instruction and feedback from the teacher. There will be a task-based project for students to practice both written and spoken English meaningfully.		
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons		

復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Impact Issues 3 (Day, Shaules, Yamanaka: Pearson Longman)
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections. 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称：沖縄の平和への道標

授業コード：

英文科目名称：Okinawa's Roadmap to Peace in Asia (class donated)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2018年後期	全学年	2	リベラルアーツ科目群（オキナワン・スタディーズ）
担当教員			
浜川 仁（連絡・調整）			

授業のテーマ及び到達目標	「国際的平和の島」とアジア共同体の連結軸を模索することをテーマにしたワンアジア財団による寄付講座である。アジア全体を見渡す視点から沖縄を捉え直し、批判的思考力をもって政治・社会の問題と向き合い、浮かび上がる課題に主体性をもって関わる姿勢を培うことを目標とする。		
授業計画	第1回	イントロダクション / 国際ボランティア活動から見た平和の基礎条件と地域間連携 新垣 誠（沖縄キリスト教学院大学）	
	第2回	日本外交史から見た平和構築の可能性とアジア共同体 宮城 大蔵（上智大学）	
	第3回	中国から考える東アジア緊張緩和への道程と地域共同体 劉 剛（沖縄大学）	
	第4回	台湾から考える東アジア緊張緩和への道程と地域共同体 林 泉忠（台湾中央研究所）	
	第5回	沖縄の発展とアジア 富川 盛武（沖縄県）	
	第6回	平和づくりの理論と実践—沖縄・長崎・広島からアジア・世界へ— 木村 朗（鹿児島大学）	
	第7回	キリスト教と沖縄の体験的平和論とアジア 平良 修（日本基督教団）	
	第8回	沖縄戦の教訓としての平和 金城 重明（沖縄キリスト教学院）	
	第9回	もう一つのアジア共同体構想を考える 緒方 修（東アジア共同体研究所 琉球・沖縄センター）	
	第10回	絶対的平和論から沖縄とアジアの平和を論ず ヨハン・ガルトゥング（マレーシア国際イスラーム大学）	
	第11回	比較島嶼論から考える平和のロジックとアジア共同体 友利 廣（沖縄キリスト教学院大学）	
	第12回	沖縄教育史から考える沖縄がアジアで歩むべき道標 新垣 俊昭（沖縄大学）	
	第13回	東アジア共同体の構築 鳩山 由紀夫（東アジア共同体研究所）	
	第14回	韓国から考える東アジア緊張緩和への道程と地域共同体 韓 洪九（聖公会大学）	
	第15回	まとめ / アジア共同体を考える 佐藤洋治（ワンアジア財団 理事長）	
授業の概要	紛争や差別のない共通の価値観の下で平和共存を標榜するアジア共同体創生に向けて、沖縄として何ができるか。あるいは、アジア共同体創生と本学院が掲げる建学の精神「国際的平和の島」の接点に万国津梁の精神をいかに注入するか。本学院創立60周年事業の一環として提供される本寄附講座を通して考える。		
予習	各週の講義タイトルを目安に、メディアやインターネット等を通してある程度目につく情報を整理しておく。		
復習	「学習シート」を読み返して講義内容を振り返り、次週以降の感想や意見、コメントとして反映させるため、情報の理解と整理に努める。		
テキスト	講義によっては、始めにレジュメ、シラバス等を配布する。		
参考書	各講義のレジュメ及びシラバスを参照のこと。		
評価方法・評価基準	学習シート評価 100%（高スコア6回分を算入する） 小論文評価（提出は任意であるが、テーマは講座内容からとし最高30ポイントを加算する） 学習シート及び小論文の評価ポイントは以下の通りである。 ○ 自分のことばで、講義内容をバランスよくまとめている。 ○ 固有名詞、年代、出来事の描写が具体的で正確である。 ○ 講義で取り上げられた問題について、自身の感想や意見、コメントを加えている。 ○ 内容が豊かで興味深い。 ○ 筆記用具を効果的に使用し、読みやすい字で書いてある。 （小論文は、ワード文書として作成する） 【D P 1～4との関連】 ○ 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことが		

	できること … 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本寄付講座は学外から著名人を招いて行う講義がほとんどであり、教養教育のための貴重なチャンスなので、各回のテーマについてあらかじめ自らできるだけ情報集収に努めて欲しい。
オフィスアワー	2018年度及び2019年度の開講を予定しているが、寄付講座という性格からワンアジア財団による選考結果によっては不開講となることもあり、担当講師の人選において変更・調整も考えられる。
課題に対するフィードバック方法	本寄付講座においては、「別途、学生奨学金+奨学証書 初年度75万円、次年度60万円」との定めが設けられている。

講義科目名称：ワーカーズコープ論

授業コード：

英文科目名称：Theory of Workers Co-operative

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ・学生自身の「働くこと」「生きること」とは何かを深め合う場にする。 ・「協同労働の協同組合」（ワーカーズコープ）の実践に触れながら、地域課題を地域住民が主体となって、解決していくことの意味や価値を学びます。 ・グループディスカッションを通じて、沖縄が抱える地域課題を焦点とした仕事おこし、地域づくりの担い手として、学生自らが社会や地域の現状を考えどのように行動をしていくのかを考える場にします。 【到達目標】 ・テーマ：協同労働という新しい働き方、生き方を学ぶことを通して、改めて「働くこと」「地域をつくる」ことの意味を深め考える。		
授業計画	第1回 ワーカーズコープとは、協同労働の働き方とは① 講義の意義や目的、目標を共有し確認する。 第2回 ワーカーズコープとは、協同労働の働き方とは② 全国のワーカーズコープの実践を通して社会的な課題を知り、自らの地域に引きつけて考え、話し合う。 第3回 九州、沖縄でのワーカーズコープ 九州沖縄の社会的活動（農福連携、子ども食堂など）を紹介しながら、「地域とは」「地域で暮らしつづけるとは」「働くとは・働き方」を考え、議論する。 第4回 沖縄のワーカーズコープの現場から（名護の現場の紹介、保育・若者就労） 沖縄の若者が置かれている現状（就労問題、生きづらさ抱えて暮らさざるを得ない等）を知り、また若者を支える制度政策を学び、なぜこの現状が生まれているのか議論しあう。 第5回 沖縄のワーカーズコープの現場から（那覇での障がい児の居場所、清掃現場） 障害者（児）の現状を知る。障害者総合支援法等の制度も学び、今自分たちができることから考え、議論する。 第6回 沖縄のワーカーズコープの現場から（高齢者生協の配食サービスの取り組み） 高齢者の現状（配食サービスを通して見えてきた）を知り、健康長寿の源と言われてきた沖縄の食文化の現状も考え、議論する。 第7回 法制化時代の協同労働の社会づくりの可能性 日本でワーカーズコープ法が成立する。その意義を学び、この法律を使って地域づくり、仕事をおこしていく構想・アクションプラン（原案）を作成する。 第8回 生活困窮者と協同労働の協同組合運動 ワーカーズコープが設立当初から掲げてきた「失業と貧乏をなくす」という思いと、社会を覆う生活困窮の現状と制度を通して知り、自分の問題として捉え議論する。第8回目以降から現状を知り・考え、構想を完成させるための議論をする。 第9回 沖縄の文化・財産から、若者が仕事をおこすこと（がちゆんの取り組み） 若者自身が仕事をおこし、社会貢献している実践から学び、自分たちにできることを議論する。 第10回 沖縄医療生協の実践から、地域をつくる主体をつくることを管あげる。 医療現場の実践を通して地域課題を知り、議論する。 第11回 沖縄物産企業連合の取り組みからみる、沖縄の財産から仕事をつくる。 沖縄のものづくり、産業の実態を知り、沖縄の良さを発見していく。発見したことを知らせる手段を考える。 第12回 若者の視点からみる協同労働の価値 ワーカーズコープで働いている若者の実践と活動を聞き、ワーカーズコープが大事にしている「いま、ここに、ともにいきる」をテーマにディスカッションする。 第13回 地域の課題から地域づくり、仕事おこしを創造する。（ディスカッション、グループ討議①） 各回で学んだ課題から地域づくり、仕事おこしの構想・アクションプランを作成する。グループ討議をする。 第14回 仕事おこし・地域づくりのアクションプラン発表（それぞれのグループ発表） 地域づくり、仕事おこしの構想・アクションプランを発表する。 第15回 まとめ（働くこととは、地域づくりとは） 最後のまとめを行う。「働くとは」「地域とは」「地域づくりとは」をグループ討議しまとめる。自分の事だけではなく、他人や地域者へ積極的な関わりが持てるようにしていく。		
授業の概要	地域で「住み続けたい」「働き続けたい」という持続可能な地域づくり、仕事づくり等を通じた社会づくりの実践を「協同労働」という働き方、働くことを通じて、実践的理論的に学ぶ中身になります。市民・住民が主体となって地域づくりをする主体形成のあり方や具体的に地域づくり、仕事おこしのあり方を考えます。講義全体として「『協同＝心と力をあわせて仕事をする』をキーワードにした生き方、働き方、地域づくりとの出会い」を焦点にして、学生の学びを中心に置きながら、講義を展開していきます。講義者はオムニバスで行い、ワーカーズコープ事務局が毎回コーディネートします。		
予習	授業の最後に次の講義でディスカッションするテーマを提示し、それについて調べてきてもらう。		
復習	第15回の授業で全ての授業の振り返りを行う。		
テキスト	適宜印刷物を配布予定		

参考書	『協同で仕事をおこす』（編集：広井良典、ワーカーズコープ連合会、出版：コモンズ）
評価方法・評価基準	・各回のミニレポート提出で総合評定する。 ・各回終了後に提出する感想ミニレポート(30%) - 問題解決に実効性のある創造プラン(70%) - レポートの提出(最終日)で総合評定する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	各講義中、講師が話したあと30分以上ディスカッションを設けるので、そこに積極的に参加してほしい。
オフィスアワー	各回のミニレポートに質問欄を設け、次回の講義の中で答える。
課題に対するフィードバック方法	レポートのフィードバックは最終授業に行う。

講義科目名称：体育一般

授業コード：

英文科目名称：・

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位(1-1)	大学共通科目
担当教員			
音野 太志			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 現代社会に生きる人々や自分自身の「からだと内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。 また、生活の質を高める1つの取り組みとして、スポーツの重要性や楽しみ方、心身への効果を実践を通して身に付ける事。 【到達目標】		
授業計画	第1回 コースオリエンテーション：健康とは？ 第2回 テーマの決定：グループワーク 第3回 グループワーク①：テーマに関する調査 第4回 グループワーク②：資料の作成 第5回 グループワーク③：資料の作成と発表に向けての役割分担 第6回 各グループによる発表 第7回 各グループによる発表・発表に対する総評 第8回 体力測定 第9回 ニューススポーツ体験：インディアカ 第10回 ニューススポーツ体験：インディアカ（ゲーム） 第11回 ニューススポーツ体験：ソフトバレーボール 第12回 ニューススポーツ体験：ソフトバレーボール（ゲーム） 第13回 ニューススポーツ体験：ドッジビー 第14回 ニューススポーツ体験：アルティメット 第15回 スポーツ体験：各グループ考案による 第16回 総括（テスト）		
授業の概要	授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。 前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を行い、各テーマに対しての学びを深める。 後半は、健康問題解決へ向けた取り組みとして、皆で楽しめる健康運動やスポーツの内容をグループ毎に考えてもらい、講義の中で実践し、その効果について検証を行う。また、生涯スポーツの体験も行う。		
予習	それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。		
復習	講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。		
テキスト	特になし		
参考書	九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他		
評価方法・評価基準	授業への参加度（〇〇％）、グループ発表に対する相互評価（〇〇％）、レポート（〇〇％）にて評価を行う。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことが		

	できること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・
オフィスアワー	・
課題に対する フィードバック方法	・

講義科目名称：教職の意義

授業コード：

英文科目名称：Principles of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
嘉納 英明			
	ナンバリング：TTC101		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。 【到達目標】 ○現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。 ○教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解することができる。 ○校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解することができる。		
授業計画	第1回	講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録） 登録調整をし、授業の目的や内容、進め方、テキストについて説明する。	
	第2回	現代社会における教職の意義 教職は子どもの生きる力を培い、充実した人生と社会生活をもたらすとともに、国家社会の次代の担い手を育成するという使命をもつ職業であることを解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第3回	教員の種類・役割と仕事の性格 現行の教育制度について学校教育法第1条（1条校）をもとに解説し、教員の種類と教科指導・教科外指導等について整理し、職場環境についても解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第4回	教員生活の1年間 4月から3月までの一年間を学級経営の視点や学年・学校行事から俯瞰し、教員生活のあり様について解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第5回	教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営） 子ども理解と学級経営は、担任と子どもとの関係性構築の上でも重要なことである。「子どもを理解するとはどのようなことか」「望ましい学級経営とはどのようなものか」について考える。＜講義・グループワーク＞	
	第6回	教員の仕事と専門性Ⅱ（教科指導） 教員の主たる仕事は、教科を指導することである。児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」を創るためには専門性に裏付けられた教材開発と授業展開、評価方法が求められる。授業事例を紹介しながら、「教科指導とは何か」について解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第7回	教員の仕事と専門性Ⅲ（特別活動・生徒指導） 特別活動とは学校生活の中で児童・生徒による集団的な取組みを総称し、生徒指導は児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。講義では、学生の経験を報告し合いながら、特別活動と生徒指導について整理する。＜講義・グループワーク＞	
	第8回	教員の仕事と専門性Ⅳ（進路指導・教育相談） キャリア教育の視点に立脚した進路指導や児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談等を包括した教育相談について解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第9回	教員の仕事と専門性Ⅴ（保護者・地域・関係機関との連携） 家庭教育支援が求められている昨今、保護者・地域・関係機関との協力と連携は益々重要視されている。事例を紹介しながら、成果と課題を解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第10回	学校における教職員の連携・協働 チーム学校とは、校長のリーダーシップのもとで、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして児童生徒に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のことである。事例を紹介しながら解説する。＜講義・グループワーク＞	
	第11回	教員の職場環境 校務分掌を含む学校の基本的な組織について概説し、教育機関としての学校のあり方について解説する。＜講義＞	
	第12回	教員の任用と服務 教員の服務・身分保障と研修について、主に、地方公務員法と教育公務員特例法の関連条文を紹介し、事例を紹介しながら解説する。＜講義＞	
	第13回	教員に求められる資質能力 教員に求められる資質能力（教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力）を文科省の関連資料をもとに議論し、整理する。＜講義・グループワーク＞	
	第14回	教員養成と教職課程 現行の日本の教員養成制度と教職課程について概説し、教職大学院の設置状況、これをめぐる諸問題についても解説する。＜講義＞	
	第15回	教員の採用選考 全国的な教員採用選考試験の動向、選考方法等について解説する。＜講義＞	
	第16回	定期試験 授業の評価として、定期試験を実施する。	
授業の概要	現代社会における教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の服務と身分保障などについて考察するとともに、教員養成のあり方や大学の教職課程について解説し、教職に関する理解を深める。また、将来の進路選択		

	に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。
予習	配布資料をよく読み、その回の学習内容（知識）を確認する。
復習	配布資料、学んだ内容を読み直し、整理する。
テキスト	特に、ありません。
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。
評価方法・評価基準	授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。 試験：70％ 態度・演習・発表・参加度：30％ 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。 2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。 3 板書、パワポの内容は、ノートに丁寧にまとめるようにして下さい。紙媒体の資料は、最低限にしたいと考えています。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して返却する。

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
	ナンバリング：TTC102		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育の思想と歴史を学ぶ。教育の思想・歴史といっても抽象的な事柄のみを学ぶのではなく、具体的な教育問題を考えながら、そのなかに教育の思想・原理を確認してゆく。また、それらの考え方が生まれてきた歴史的な背景を理解し、現代の教育を考える視座を確立する。 【到達目標】 （１）教育の基本的概念を身につける。（２）教育の歴史の基礎的知識を身につける。（３）様々な教育の思想や理念を理解する。		
授業計画	第１回 講義概要説明、構成的エンカウンターの体験 教育原理とは、何を学ぶのか、講義計画、評価の方法、心構えの確認。その後、「理想の教師」というテーマで学生間の意見交換を行う。 第２回 カリキュラム編成の歴史と理論（デュエイ、ブルーナー） 児童中心主義カリキュラム（デュエイ）、教科中心主義カリキュラム（ブルーナー）の成立過程とその思想について学ぶ。 第３回 近代日本の学校教育の歴史①（明治期） 1872年の学制から1890年の教育勅語体制の成立までの近代学校制度確立までの歴史を学ぶ。歴史に埋もれた自由教育の可能性を掘り起こす。 第４回 近代日本の学校教育の歴史②（大正自由教育） 対象自由教育を及川平治と木下竹次の実践と思想を検討しながら学ぶ。特に両者の能力観と学習班の作り方を検討し、教育の平等と能力別教育とについて検討する。 第５回 習熟度別授業について 前回のテーマの継続し、能力別の学習集団の功罪について、現在行われている習熟度別授業を検討しながら確認してゆく。 第６回 近代日本の学校教育の歴史③（戦後教育改革） 戦後教育改革から無着成恭の『山びこ学校』までの解説する。本当の民主教育とはどのようなものかを考える。 第７回 近代日本の学校教育の歴史④（教育内容の現代化） 日本における教育内容の現代化について学ぶ。水道方式、仮説実験授業を学ぶ。仮説実験授業の体験も行う。 第８回 学習指導要領について①（2008年の改正と学力論争） 当初、2008年の学習指導要領の改正とその前提となる学力論争を解説する。PISAテスト、ゆとり教育について、議論する。 第９回 学習指導要領について②（その歴史） 学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。当初、「試案」であったものが法的拘束力を持つようになっていく過程も確認する。 第１０回 教育行政の中立性について（七生養護学校の性教育裁判） 七生養護学校の性教育裁判を検討し、教育行政の中立性という原理について学ぶ。性教育のあり方についても検討する。 第１１回 自由教育について（きのくに子どもの村学園について） 受講者の大多数が受けてきた学校とは様相を異にした学校について学び、学校教育の可能性について検討する。 第１２回 生・性・死の教育を考える①（豚のPちゃんの授業） 死をみつめる教育実践を検討する。具体的には、黒田恭史氏の豚を育てて食べてしまおうとする教育実践の検討を行う。 第１３回 生・性・死の教育を考える②（がんと闘った校長先生の実践） 生と死をみつめる教育実践を検討する。具体的には、がんと闘った大瀬敏昭校長先生の教育実践を検討する。 第１４回 特別支援教育の理念 特別支援教育の理念を乙竹洋匡氏の著書を通じて学ぶ。また現在の特別支援教育の制度について確認する。 第１５回 まとめ 本講義のまとめ。授業内容の確認のための小テストを含む。		
授業の概要	教育に関する思想と歴史を学ぶ。学校教育に即して、教育に関する基本的な考え方を学んでゆく。主に近代日本の学校の歴史的な展開を踏まえて、現代日本の学校で問題となっている事象を検討しながら教育の原理・思想を学んでゆく。各回の授業は具体的なテーマを定め、講師による解説と、受講者同士で小集団議論、作業、当日提出レポート作成などを行う。授業の参加者で、教育について考え、議論する場にしてゆきたい。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で授業に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	1. 田代直人・佐々木司編著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣アルマ、2010年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領』		

評価方法・評価基準	概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト（29%）、レポート(15%)。そのれをもとに総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。
オフィスアワー	（仮）水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称：教育心理

授業コード：

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
松田盛雄・廣瀬等			
	ナンバリング：TTC201		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育活動を理解する上で重要な生徒の心身の発達及び学習の過程について、発達段階の心理的特性を踏まえて教育活動を支援するための知識や心理的援助技法を紹介する。また、「やる気の育成」「新しい評価法の実践」「不適応を呈する子どもの指導」などについて最近の研究に関する情報を提供し、検討する。 【到達目標】		
授業計画	第1回 ガイダンス：「教育心理」という授業について（担当：松田盛雄） 第2回 発達とは何か（発達段階と発達課題）（担当：松田盛雄） 第3回 知的能力の発達（発達と測定、学力と創造性）（担当：松田盛雄） 第4回 社会性の発達（道徳性、親子関係、仲間関係）（担当：松田盛雄） 第5回 学級集団の心理学（教師との関係、集団構造）（担当：松田盛雄） 第6回 パーソナリティを理解する①（理論と測定方法）（担当：松田盛雄） 第7回 パーソナリティを理解する②（学齢期の発達との関係）（担当：松田盛雄） 第8回 不適応と心理臨床①（思春期に発生しやすい精神的問題）（担当：松田盛雄） 第9回 不適応と心理臨床②（不登校・いじめ・非行と生徒指導）（担当：松田盛雄） 第10回 学習の心理（学習理解と問題解決、アクティブラーニング）（担当：廣瀬等） 第11回 授業の心理学（教授スタイルと生徒の学び）（担当：廣瀬等） 第12回 学習意欲と学力（担当：廣瀬等） 第13回 教育評価（指導と評価の一体化）（担当：廣瀬等） 第14回 発達障害とは何か（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害）（担当：松田盛雄） 第15回 授業のまとめ（動機づけ、学習意欲、不適応等についてのグループ討議）（担当：松田盛雄） 第16回 定期試験		
授業の概要	・教育心理学的視点から「授業」や「教育活動」を分析し、効果的指導方法を創意工夫できるようになる。 ・各時期における発達特性を理解し、発達の視点から学級経営や生徒指導等に活用できるようになる。 ・動機づけなどの概念を理解し、自主的な学習を促す手法など具体的場面で活用できるようになる。		
予習	・		
復習	・		
テキスト	『たのしく学べる最新教育心理学－教職にかかわるすべてのひとに』 櫻井茂男編 図書文化		
参考書	『教職をめざすひとのための－発達と教育の心理学』 富永大介他編著 ナカニシヤ出版 『生徒支援の教育心理学』 前原竹子編著 北王路書房		
評価方法・評価基準	評価は、平常点（20％）、課題レポート（40％）、定期試験（40％）などを総合的に判断して行う。平常点は授業への参加状況や参加意欲で評価する。課題レポートはコンピュータで作成し提出すること。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことが		

	できること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 宮城：授業終了後に質問を受付けます。 (仮) 廣瀬：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	・

講義科目名称：教育の制度

授業コード：

英文科目名称：Educational Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
	ナンバリング：TTC202		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育の在り方を社会的、制度的または経営的な視点から学び、教育を客観的にとらえる能力を養う。 【到達目標】 (1) 教育政策の動向を理解する。(2) 学校と地域との関係を理解する。(3) 学校の危機管理の具体的取り組みを理解する。		
授業計画	第1回 教育の制度を学ぶ意義 講義の概要説明、教育の制度を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝える。 第2回 八重山教科書問題 八重山教科書問題の概要を説明し、教科書の広域採択制度の意義と課題を確認する。それと同時に、問題となった育鵬社と東京書籍の教科書を読み比べてみる。 第3回 教育委員会の役割 八重山教科書問題の論点の一つに教科書を採択する権限がどこにあるのかという点があった。その点を確認しつつ、教育委員会制度の意義について確認する。 第4回 教科書検定制度 2007年の歴史教科書をめぐる沖縄県民集会の経緯を確認し、教科書検定制度の歴史と課題を確認する。国定教科書制度、検定制度、自由採択など各国の状況も確認する。 第5回 学習指導要領について① (2008年の改正) 学習指導要領について学ぶ。2008年改定の学習指導要領の内容を確認する。 第6回 学習指導要領について② (その歴史、法的拘束力) 学習指導要領の歴史的な背景を確認し、「試案」から「告示」へ、各回の改定の傾向などについて学ぶ。 第7回 高校入試制度 中学校と高校の接続の問題、6・3・3・の教育制度の問題点を、各国との比較や研究者の意見を吟味しつつ考察する。 第8回 アメラジアン教育権 アメラジアンスクール・イン・オキナワの事例を検討し、多文化共生教育にとどまらず、ダブルの教育権について考える。 第9回 高校授業料無償化と朝鮮学校 高校授業料無償化の意義と課題を考える。朝鮮学校をその制度の対象から除外したことの課題を確認しつつ、同制度の意義を理解する。 第10回 多文化共生教育の制度的保障 戦後日本の在日コリアンの教育を概観することにより、日本の教育制度の問題点を確認する。多文化共生教育の必要性を理解する。 第11回 教育基本法について 2006年の教育基本法の改正について学ぶ。旧教育基本法と何が変わったのかを確認する。愛国心教育についても検討する。 第12回 子どもと貧困 教育権の保障について学ぶ。6人に1人の子どもが相対的な貧困の状況にあるという状況を確認し、日本国憲法第26条の意義を再確認する。 第13回 公立小中学校の学校選択制度 新自由主義的教育改革の有効性を検討する。具体的には、公立小中学校の学校選択制度について取り扱う。 第14回 学区制を考える (沖縄県の公立高校再編計画) 戦後教育改革で、新制高校設置の原理の一つとして小学区制が採用された。その意義を確認しつつ、近年の学区制の拡大が何をもたらすのかを理解する。 第15回 まとめ 競争と教育の関係について確認しながら、本講義のまとめを行う。授業内容確認のための小テストも行う。		
授業の概要	学校教育の制度、学校経営の基礎、学級経営の基礎、教育内容を決定する制度、教員組織、教育行政、教育財政、社会教育、等について学ぶ。具体的には、沖縄における教育に関わる問題・課題 (八重山教科書問題・アメラジアン教育権・学校選択制・学区の拡大) や全国的な問題課題 (在日コリアンの教育権、大阪の教育基本条例、教科書検定制度) を検討しつつ、学んでゆく。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で講義に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	1 岡本徹・佐々木司(編著)『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房 2009 2 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加度、授業態度、レポート、授業内容確認小テストによって総合的に評価する。 居眠り、私語、内職など教員としての資質に欠ける態度が見られる学生には単位を与えない。		

	概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト(29%)、レポート(15%)。そのれをもとに総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件として教育の原理を履修済みであること。 2 「教職の基礎理論」に関する科目である。 3 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する
オフィスアワー	(仮) 水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 道徳教育の研究

授業コード：

英文科目名称：Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC302	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 道徳教育の歴史と理論を学び、基礎的な道徳教育法を身につけ、道徳教育の実践者としての基礎を養う。 【到達目標】 (1) 道徳教育の歴史や意義、原理、課題を理解する。(2) 指導案を作成し模擬授業を行えるようになる。		
授業計画	第1回 道徳教育はどうあるべきか 本講義の概要説明。道徳教育はどうあるべきか。評価方法の確認。今まで受けてきた学校での道徳教育の経験をクラスメイトとシェアする。 第2回 同和（人権）教育を学ぶ① 部落差別に関して学ぶ。道徳教育の大原則は他者の尊重であり、人権の尊重である。それが十全に保障されていない現状を学ぶ。 第3回 同和（人権）教育を学ぶ② 同和教育の実践を確認する。また、ロールプレイを用いたアクティビティを行う。 第4回 道徳の学習指導案の作成 道徳の学習指導案の作成方法を教授し、実際に学習指導要領を作成する。学期末に提出する。 第5回 〈生・性・死〉の授業の意義を考える 「生命に対する畏敬の念」はどのようにして育まれるのかを考える。ニワトリを殺して食べる授業実践を検討する。 第6回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業① 道徳性の発達理論の一つとしてコールバーグが提唱したモラルジレンマ授業の理論を理解する。代表的な授業を体験してみる。 第7回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②（模擬授業） 学生にモラルジレンマの模擬授業を行ってもら。授業者である学生は、開講直後より教員の指導を受け授業づく理をしてもらう。他の学生には、生徒役で体験してもらう。 第8回 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語） 教育勅語に象徴される戦前の修身教育の在り方を理解する。その上で、現代の道徳教育がどのようなべきかを理解する。 第9回 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論） 1958年の「道徳の時間」の特設をめぐる議論を確認する。さらに近年の教科化をめぐる議論を理解する。 第10回 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える 学習指導要領の「我が国と郷土を愛し」という個所がなぜ議論の焦点となるのかを理解する。 第11回 『心のノート』（『私たちの道徳』）の意義と問題点を考える 『心のノート』の作成経緯を理解し、その問題点を確認する。それと同時に『心のノート』を引き継いだ『私たちの道徳』の活用法を検討する。 第12回 いじめ問題を考えよう 「葬式ごっこ」を検討し、「いじめの四層構造」を理解し、学級担任として、どのような指導が求められているのかを確認する。 第13回 道徳教育と構成的グループ・エンカウンター① 人間関係づくりの手法として構成的グループ・エンカウターの有効性が指摘されている。構成的グループ・エンカウターの理解と道徳教育での活用法を学ぶ。 第14回 道徳教育と構成的グループ・エンカウンター②（模擬授業） 学生に構成的グループ・エンカウンターを用いた道徳授業の模擬授業を行ってもら。 第15回 まとめ 本講義のまとめを行う。また、授業内容確認のための小テストを行う。		
授業の概要	主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。また基本的な道徳教育法を身につける。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。 授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。また、模擬授業、指導案の作成なども行う。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』（第2版）酒井書店・育英堂 2006 2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004 3 柴田義松（編著） 『道徳育～理論と実践』学文社 1992 4 文部科学省 『中学校学習指導要領』		

評価方法・評価基準	概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト（29%）、レポート(15%)。そのれをもとに総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。 2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。 3 私語、居眠り、内職など、教師としてふさわしくない授業態度の者には単位を認定しない。
オフィスアワー	(仮) 水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称：特別活動の研究

授業コード：

英文科目名称：Extra-curricular Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
芳澤 拓也			
	ナンバリング：TTC303		

授業のテーマ及び到達目標	特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、特別活動の具体的な実践方法のいくつかを身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション（講義概要、受講心得、特別活動の課題等）	
	第2回	特別活動と教育課程	
	第3回	特別活動の意義	
	第4回	特別活動の目標	
	第5回	ホームルーム活動（学級活動）の内容	
	第6回	ホームルーム活動（学級活動）と生徒会活動	
	第7回	ホームルーム活動（学級活動）と学校行事	
	第8回	ホームルーム活動（学級活動）の指導計画	
	第9回	ホームルーム活動（学級活動）の展開	
	第10回	ホームルーム活動（学級活動）の演習①	
	第11回	ホームルーム活動（学級活動）の演習②	
	第12回	ホームルーム活動（学級活動）の演習③	
	第13回	ホームルーム活動（学級活動）の演習④	
	第14回	ホームルーム活動（学級活動）の演習⑤	
	第15回	まとめ	
授業の概要	特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力や資質」を培うことである。本講においては、特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、ホームルーム活動（学級活動）・生徒会活動・学校行事等における実践的指導力の養成を図ることを目指す。特に、学校における基礎的・基本的な生活集団としてのホームルーム活動（学級活動）の望ましいあり方やその運営方法、実践演習等を行い考究する。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	渡部邦雄 他編『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法』日本文教出版、2009年、 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加度、課題、試験等により総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること		
履修上の注意	1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。		

	出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	.

講義科目名称：教育方法

授業コード：

英文科目名称：Educational Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
森本 雅人			

授業のテーマ及び到達目標	教育方法の歴史を概観し、グループでティーチング・プランを作成し、模擬授業を実演する。		
授業計画	第 1 回	オリエンテーション/学力の定義について、沖縄の学力の現状について 講義前半はリエンテーションを設定し、講義の目的と評価方法の説明、講義計画および概要を説明する。 講義後半は、日本が抱える教育課題から沖縄の教育問題、とりわけ学力に現状について考察し、学力と何かについて討議する。また、全国学力学習・状況調査の教科に関する調査、児童生徒質問紙、学校質問紙の結果を取り上げ、「知識・技能」「思考・判断・表現力」の必要性について考えを深める。 こうした学校教育に求められる力をもとに、教育方法と子どもに付けたい力について理解する。	
	第 2 回	学力論争について、広岡良蔵、勝田守一、中内敏夫からみる学力観 学力モデルは、教師が授業実践を行うにあたって、想定される望ましい学力であり、顕在的、潜在的に授業実践の質を規定している構成概念とされている。この学力モデルにはいくつかあり代表的な説として、「広岡モデル＝三層説」、「勝田モデル＝計測可能学力説」、「中内モデル＝段階説」がある。これらの日本での学力モデルの特徴や重要性を理解し、授業設計において具体的に構想していく要素として捉えることができるようにする。	
	第 3 回	PISA調査からみる新しい学力観 知識基盤社会やグローバル化が急速に進む社会において、OECDが目指す、「自然環境の維持可能性と経済成長のバランス」、「社会的なつながりを伴う個人の成功」、「社会的平等の削減」を目指して、世界で重要なコンピテンシーとは何か、どのようにしてコンピテンシーを育むことができるかといった問題について文献をもとに考察したり、理解を深めたりする。実際にPISA調査問題を体験し、これまでの評価と異なる点を見出していく。	
	第 4 回	仮説実験授業、水道方式、教育技術法則化運動（TOSS）、有田和正の実践授業 主な教育サークルを取り上げ、民間教育団体の目的・意義・功績からその教育方法を検証する。 板倉聖宣が提唱した「仮説実験授業」は、予想や仮説をもって対象と向き合い、その答えを実験によって引き出し科学的認識が成立することをもとに授業構成をしていること。 遠山啓を中心とした数学教育協議会が提唱した「水道方式」は、量の特質に即して、比較の方法や単位の導入について発見的に学習を組織するといった授業課程の構成を開拓した。 その他の民間教育団体や個人の取り組みを知り、教育方法について理解を深める。	
	第 5 回	ジグソー学習理論及び実践、モラルジレンマによるディベート授業 実践的な指導方法について、その目的・意義等を理解する。 ジグソー学習では、ジグソー学習のバリエーションについて、教科、領域等での授業例やその解説などをもとにして、一斉画一的な授業からの脱却、討論や話し合い場の設定、分かる授業、参加する授業の必要性について理解を深める。 モラルジレンマによるディベート授業では、道徳の授業を想定し、子どもたちもしくは学生自身が葛藤が生じるような場面を設定し、ディベート授業を体験する。そこで、相手の立場や考えを踏まえた話し合いがどのような意味をもつのか、実際の授業ではどのように展開できるかなどを検証する。	
	第 6 回	学力形成とパフォーマンス評価 パフォーマンス評価の目的や授業での実践例をもとに理解を深める。 「知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法」というパフォーマンス評価の定義から、知識やスキルを統合して使いこなすことを求めるような複雑な課題「パフォーマンス課題」とは何かについて、実践事例や模擬授業をもとに理解を深める。また、「ルーブリック」や「ポートフォリオ評価」といった評価方法についても見識を深める。	
	第 7 回	新聞、ICTを活用した授業 ICTの活用では、テレビやプロジェクター、電子黒板などの提示装置や書画カメラなどの教師の指導の機器として使用されものと、タブレットなどの児童生徒用の学習用具があり、ICTには2つの側面があることを理解する。また、ICTの活用によって、学習内容の「知識・理解の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習参加する」といった資質や能力のためのツールであること理解する。 新聞を使った授業（NIE）では、新聞記事を使い、社説の読み比べなどを通して、情報を読み解く力や考える力を身に付けるとともに、実際に授業ではどのような方法で実践されているかを学ぶ。	
	第 8 回	学習指導案の構成、発問、板書、教材について 授業者が一時間の授業で、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力はなにか、また、それを同様な方法で身に付けさせるかを示すのが学習指導案である。そこで、学習指導案の一般的な作成方法や形式について理解する。 学習指導案の主な項目である「児童生徒観」、「教材観」、「指導観」、「展開」「評価」「板書」など、それぞれの項目について、実践事例を用いて指導案を検証し、指導案と照らしあわせてどのような授業が行われたを検証する。	
	第 9 回	学習指導案と模擬授業、授業検討会について 第 8 回の授業をもとに、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。その後、授業研究会を行い模擬授業の内容について検討する。 研究授業には、教師の同僚性の構築や教師としての専門性の向上を目的にしていることや、実際の学校現場では、ビデオカメラを用いて、授業を映像記録として残し、授業後、検討会に参加	

	第 1 0 回 した教師が、授業映像をもとにして、教師の発問から児童の反応を分析し、授業と学びの成立を検証していることを理解する。 教育課程編成の意義 教育課程には、子どもたちの成長と発達に必要な文化を「組織」したもの、また、教育課程は計画することだけを表すのではなく、実践し、評価するという「PDCAサイクル」に従って展開されることを知る。 学校教育に必要不可欠なものに授業があるが、教育課程と授業実践とは強い関係性がありつつも、「施設・設備論」、「進級論」、「編成論」、「教科論」といった授業研究では解消されない課題があることを理解する。 第 1 1 回 教育課程編成について①昭和 2 2 ～ 4 3 年版学習指導要領 教育の現代化 1 9 4 7 年版学習指導要領は、翌年度から改定作業が始まり、1 9 5 1 年に改定版の学習指導要領が発表された。5 1 年版の学習指導要領では、「経験」「生活」が協調され「経験こそが組織の教科」という考えが反映された。 1 9 5 8 年版の学習指導要領は「試案」ではなくなり、「告示」として提示され、学習指導要領が法的拘束力をもつ基準となった。また、教育課程編成の原理が経験主義から系統主義に転換された。 1 9 6 8 年版学習指導要領は「教育内容の現代化」運動が展開され、科学的方法や数学的な考え方が重視されるようになった。 こうした、時代の流れとともに変化する学習指導要領の変遷を理解する。 第 1 2 回 教育課程編成について②昭和 5 2 ～平成元年版学習指導要領 ゆとり教育、新学力観 1 9 7 7 年版学習指導要領は、進学率の上昇によって受験戦争がおこり、授業についていけない落ちこぼれを作り出したことや、教師による体罰、校内暴力といった社会問題が深刻となり、豊かな人間性を育てる「ゆとり教育」に方針転換が行われた。「ゆとり教育」では、授業時数と教育内容の削減され、教師の創意工夫が求められるようになった。 1 9 8 9 年版学習指導要領では、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が重視され、「新しい学力観」と称されるようになった。小学校低学年では、理科と社会が廃止され「生活科」が誕生した。 こうした、時代の流れとともに変化する学習指導要領の変遷を理解する。 第 1 3 回 教育課程編成について③1 9 9 8 年版学習指導要領、現行学習指導要領 1 9 9 8 年版学習指導要領は、「ゆとり」を実現するために「学校完全週五日制」の実施、教育内容の厳選、個性を生かす教育の推進、「総合的な学習の時間」の新設などを行い、「生きる力」の育成が方針として打ち出された。 2 0 0 8 年版学習指導要領は、「知識基盤社会」を担う子どもたちに必要な「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てることを目的に施行された。 こうした、時代の流れとともに変化する学習指導要領の変遷を理解する。 第 1 4 回 カリキュラムマネジメントの意義 カリキュラム・マネジメントは、校長・管理職のリーダーシップのもとに、学校と地域が協力して学校運営を行い、PDCAサイクルのもと、特色ある学校をつくることを目的とし、また、教職員全員がカリキュラム編成の主体であるという意識改革によって学校組織づくりを構築していく。 こうした、カリキュラムマネジメントが必要になった背景や学校運営組織についての理解を深める。 第 1 5 回 教育課程編成の計画、評価（学校評価） 1 時間、1 単元の授業ごとの教育活動に対して成果と評価する授業評価に対して、授業評価を踏まえつつ、学年や学校単位の教育目標や教育内容を対象として、その構造や系統性を問う評価をカリキュラム評価という。安彦忠彦が唱えるカリキュラム評価には「カリキュラム改定」「カリキュラム改革」「カリキュラム改善」という 3 つのレベルがあり、学校現場がカリキュラムの主体になるのは、日常的に行う授業評価「カリキュラム改善」の一環と意識することが必要と述べている。 こうしたカリキュラムの評価について理解を深める。 第 1 6 回 期末テスト
授業の概要	カリキュラムとして系統化・統合された教授材をいかにしてより効果的な教授・学習を可能にするか、について得られている多くの知見について学ぶ。 プレゼンテーション・ソフトを利用した模擬授業を実施する。
予習	その都度リーディングリストを課す
復習	振り返りメモの提出を課す
テキスト	田中耕治、他 2012 『新しい時代の教育方法』有斐閣
参考書	日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞一気づく・学ぶ・活かす」不昧堂出版
評価方法・評価基準	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「教育心理」、「教育原理」を履修していること、さらに「コンピューター演習」を履修していること。
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：生徒指導・進路指導

授業コード：

英文科目名称：Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
新里 健			
	ナンバリング：TTC204		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応するできる。		
授業計画	第1回	本講義の説明、紹介 終戦から今日までの生徒指導の流れについて紹介する。社会や家庭の変化、所得倍増による豊かな生活を獲得した一方で、現代のような少子化や核家族化、人間関係の希薄さ等の問題を念頭にどう生徒を指導していくかについて考えさせる。	
	第2回	生徒指導の意義と方法 教師は学級や学年という全体を見ながら、しかも、ひとり一人の生徒を見ていく、集団指導と個別指導という両面の指導を要求されること、また、どのように生徒への援助を行っていくかの方法についても、教授していく。	
	第3回	問題行動の理論と実際：対応①生徒の不適応行動・不登校と引きこもり 不登校や引きこもりなどの生徒の不適応行動にして、その原因や教師の対応の仕方について紹介し、ケースを提示してグループで討議させ、教師としてどのような対応が望まれるか考えさせる授業とする。	
	第4回	問題行動の理論と実際・対応②一生徒の不適応行動・いじめ いじめの定義の変遷を示し、学校現場での過去のいじめ事件等を紹介する。そのうえで、授業では実際のケースを提示して、自分自身が教師ならば、どのような対応をするかについてグループのメンバーとの討議の中から考えさせる授業とする。	
	第5回	問題行動の理論と実際・対応③一学校不適応（ADHD、アスペルガー症候群、学習障害） 学校不適応、特に学校現場で取り上げられる発達障害（ADHD、アスペルガー、学習障害など）について、その症状等を説明し、そのような障害を持つ生徒にどう接し、どう指導していくか、グループ討議の中から考えさせる授業とする。	
	第6回	問題行動の理論と実際・対応④一基本的生活習慣と非行 子どものモデルとなるべき大人のライフスタイルの変化が子どもたちの生活にも変化を与え、様々な生活習慣上の問題を引き起こしている状況を紹介し、その生活上の問題にどう対処するかを考えさせる。また、非行（犯罪少年、触法少年、虞犯少年）については、その原因等についてグループ討議を通して考えさせる授業とする。	
	第7回	教育相談における個別指導の方法①閉じられた質問と開かれた質問 「閉じられた質問」と「開かれた質問」について、実際に面接場面を設定して、その質問の意味と使い方について実践形式で練習し、その技能を獲得する授業とする。	
	第8回	教育相談における個別指導の方法②言い換え技法（パラフレーズ） 「言い換え技法（パラフレーズ）」の用語について説明し、どのようにその技法を使っていくかについて実践形式で練習し、その技能を獲得する授業とする。	
	第9回	教育相談における個別指導の方法③感情の反映（共感） 「感情の反映技法（共感）」の用語について説明し、生徒の感情に焦点を当てて面接を大々なことの重要性について説明する。その用法については、実際の面接場面を設定して、実践形式で練習し、その技法を身につける授業とする。	
	第10回	生徒指導における集団指導の方法①言語・非言語コミュニケーション 私たち人間は、言語、あるいは、非言語の両方で（トータルで）コミュニケーションを行っていることを理解させ、受講者全体で実際にロールプレイを通じて、コミュニケーションのあり方を学ぶ授業とする。	
	第11回	生徒指導における集団指導の方法③自尊感情を育てる 自尊感情が自分自身に対する評価と関わるものであること、また、自尊感情を高くすることが生徒の多くの面で重要なことであることを理解させ、受講者全体でのロールプレイを通じて、生徒の自尊感情の向上の指導の仕方を学ぶ授業とする。	
	第12回	生徒指導における集団指導の方法④自己主張の仕方（アサーション・トレーニング） 生徒間の問題が生徒自身の主張の仕方に関係があることを理解し、どのようにすれば、自分も他者も大切にすることができるかという、主張の仕方を受講者全体で学ぶ授業とする。	
	第13回	進路指導の理論と指導―進路選択と自分さがし ニートと言われる移行の困難な若者の問題や、今が楽しければいいといったタイプや引きこもって就職に結びつかないタイプなどの若者の問題を紹介し、受講者自身や生徒の進路選択についても考えさせる授業とする。	
	第14回	進路指導の理論と指導―キャリア教育 キャリア教育を単に就職や進学に結び付けるだけでなく、生徒自身がどのように生きていくかという視点を考えさせる授業とする。	
	第15回	高等学校における中途退学・不本意進学問題　まとめ 毎年、沖縄県だけでも1,000人を超える高等学校の中途退学者がいることを踏まえ、どのようにすれば、中途退学に結びつかない指導の在り方が必要なのか考えさせる授業とする。	
	第16回	定期試験	
授業の概要	近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会性の発達の遅		

	れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきた。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか、また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。
予習	授業で指示された事項を事前に調べ学習しておくこと。
復習	授業の際に指示した箇所を再度振り返って読み、理解に努めること
テキスト	授業の際にプリントを配布する。
参考書	岸田元美監修 河合伊六・佐藤修策編 『改訂 生徒指導 新しい教育改革をふまえて』 2001 北大路書房 新里健・島袋有子 『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33 学級経営に生かすSST』 2008 グリーンキャット 宮下一博・河野莊子編著 『生きる力を育む生徒指導』2005 北樹出版 平木典子 『アサーショントレーニングーさわやかに自己表現のために』2005 日本・精神技術研究所 マシュー・マッケイ、ピーター・D・ロジャース、ジュディス・マッケイ著 榊原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳 『怒りのセルフコントロールー感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts-quieting the storm within)』2011 明石書店
評価方法・評価基準	評価は、授業内レポート、試験、授業への参加状況、授業への意欲・関心などを総合的にみて行う。授業内レポート(小テスト)の課題は授業の際に指示する。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。 期末テスト50% レポート40% 授業態度10% 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教育心理を履修済みであることが好ましい。
オフィスアワー	授業や課題に関する問い合わせは、随時メールで行ってください。 メールアドレスは、初回の授業でお知らせします。
課題に対するフィードバック方法	提出された課題については、授業終了後にメールにて返却する。

講義科目名称：学校カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：School Counsering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
柳田 正豪			
	ナンバリング：TTC205		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 スクールカウンセラーの役割・必要性について理解を深める 【到達目標】 カウンセリングマインドを活かして、授業を展開させたり、相談に従事するスキルを学ぶ		
授業計画	第1回	学校カウンセリングとは。自分自身を理解しよう 学校カウンセリングのオリエンテーション。カウンセリングとは何か。自分自身への理解を深めるテスト。	
	第2回	学校カウンセリングの必要性 学校カウンセリングの機能そしてニーズ。学校での立場。	
	第3回	学校カウンセリングの役割 心の病を抱える学生、発達上の病気を抱える学生について考える。また予防教育や地域への貢献についても考える。	
	第4回	カウンセリングの理論と技術 精神分析療法 フロイトの精神分析論について学ぶ。心の構造や、意識・無意識について学ぶ。	
	第5回	カウンセリングの理論と技術 行動療法 心理療法と行動療法の違いについて学ぶ。古典的条件付けとオペラント条件付けについても学ぶ。	
	第6回	カウンセリングの理論と技術 認知行動療法 認知行動療法について学ぶ。合理的・非合理的な考えについて学ぶ。	
	第7回	カウンセリングの理論と技術 来談者中心療法 カウンセラーの3条件について学ぶ。ロールプレーを開始する。	
	第8回	カウンセリングスキル 言語的技術 1 受容・繰り返し・言い換え 言語的技法の前半の部分で学ぶ。受容、繰り返し、言い換えを習得し、ロールプレーで実践する。	
	第9回	カウンセリングスキル 言語的技法 2 支持・開かれた質問・閉ざされた質問 言語的技法の後半の部分で学ぶ。支持、開かれた質問や閉ざされた質問を習得し、ロールプレーで実践する。	
	第10回	カウンセリングスキル 非言語技法 ジェスチャーや視線、そして座る位置など、非言語的な技法を学ぶ。今までの習得したスキルを活かしてロールプレーも行う。	
	第11回	カウンセリングの諸問題への対処法 カウンセリングの対話で、遭遇する諸問題への対処法について学ぶ。	
	第12回	青年期に見られる発達障害 1 自閉スペクトラム症（自閉症・アスペルガー症候群） 広汎性発達障害について学ぶ。特に自閉症やアスペルガー症候群の類似性や違いについて学ぶ。	
	第13回	青年期に見られる発達障害 AD/HD、LD 注意欠如多動性障害や学習障害について学ぶ。	
	第14回	青年期に見られる精神疾患 1 統合失調症 統合失調症についての症状や原因について学ぶ。	
	第15回	青年期に見られる精神疾患 2 不安障害、気分障害 不安障害（強迫性障害）や気分障害（双極性障害）について学ぶ。	
	第16回	期末試験 今までのまとめ。	
授業の概要	現在、学校の教育現場では、実にさまざまな問題が存在する。学力低下や学業不振に限らず、不登校、いじめ、うつ、自殺があり、さらには家庭内暴力等の社会的問題もある。こうした問題に対しての技術や知識を学ぶことは、現代の教師には必須であり、同時にそれはカウンセリングを学ぶことにもある。更に、青年期にみられる発達障害や精神疾患も学び、その症状・原因・対策を学ぶ。基本的なカウンセリングスキルを学び、お互いにカウンセリングのロールプレイも実践する。		
予習	与えられた資料を読み込む		
復習	授業を振り返る。翌週にクイズがある		
テキスト	松原達哉 「臨床心理学のすべてがわかる本」 ナツメ社 2010年		
参考書	松原達哉 「実践ハンドブック 学校カウンセリングの考え方・進め方」		
評価方法・評価基準	授業への参加度10%、毎回のクイズ30%、期末テスト40%、課題20% 【DP 1～4との関連】 … ① 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること		

	 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. ③ 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	主体的な参加を高く評価します。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 柳田研究室
課題に対する フィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内で解答し、その翌週に返却する。

講義科目名称：介護等体験

授業コード：

英文科目名称：Practice in Social Volunteer Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2単位(1-3)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
	ナンバリング：TTC320		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 介護等体験の意義を理解し、社会福祉施設、特別支援学校での体験を充実させたものにする。それらの体験を、他の受講生とシェアし、レポートにまとめ、発表会で報告することを通じて、体験の意義を何度も反芻し、血肉化する。 【到達目標】 (1) 高齢者、障がい者と円滑にコミュニケーションをとれるようになる。(2) 人の心の痛みを理解し、多様な価値観を受容できるようになる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 本授業の概要説明。介護等体験の事務手続き。様々な社会福祉施設についての説明。 第2回 高齢者施設について 教科書を読み合わせしながら、様々な高齢者福祉施設について学ぶ。 第3回 疑似高齢者体験 高齢者体験グッズを用いて、高齢者の身体的な不具合を体験する。それを通じて、高齢者の気持ちに接近したい。 第4回 障がい者施設について 教科書の読み合わせを行い、様々な障がい者施設について学ぶ。 第5回 車いす体験 車いす体験を行い、私たちの環境が障がい者にとっていかにバリアの多い環境であるかを理解する。 第6回 社会福祉施設からのメッセージ（講師：宮城樹正氏） 長年、高齢者福祉施設で勤務なさってきた宮城樹正氏から、高齢者福祉施設での体験が成功させるための助言をいただく。 第7回 特別支援学校について① 教科書を読み合わせることで、特別支援学校についての知識を整理する。 第8回 特別支援学校の見学 鏡が丘特別支援学校、あるいは大平特別支援学校を訪問し、施設を見学し、担当者から、特別支援学校での介護等体験についての注意事項をレクチャーしていただく（ガイダンス、スーツ着用）。 第9回 特別支援教育について 中学校・高校での特別支援教育～自閉症の生徒の理解について。DVDを視聴し、どのような対応が可能か議論する。 第10回 介護体験のQ&A（学生の発表） 教科書『介護等体験ガイドブック フィリア』の内容を学生が分担し、ミニレクチャーを行う。 第11回 社会福祉施設での体験の事後報告会① 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 第12回 社会福祉施設での体験の事後報告会② 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 第13回 特別支援学校での体験の事後報告会① 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 第14回 特別支援学校での体験の事後報告会② 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 第15回 介護等体験報告会 教職課程履修中の1、2年生への介護等体験報告会を行う。レポート集を作成し、体験の意義を報告することで、その意義を再確認する。		
授業の概要	「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（以下「介護等の体験」という。）を行わせる」（通称「介護等体験特例法」）ことになっている。その介護等体験を実りあるものにするための事前・事後指導を本授業では行う。		
予習	教科書を全編、通読すること。		
復習	各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること		
テキスト	『よくわかる社会福祉施設 第4版』全国社会福祉協議会、図書印刷株式会社、2015 『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社、2007年		
参考書	権田真吾『ぼくはアスペルガー症候群』彩図社、2014年 岡野雄一『ペコロスの母に会いに行く』西日本新聞社、2012年		

評価方法・評価基準	授業への貢献度（56％）、発言の質（29％）、体験先の担当者の評価（15％）。そのれをもとに総合的に評価する。
履修上の注意	1 履修要件としてスクリーニングテストに合格、借合格していること 2 前期配当科目となっているが、10月まで体験が行われることもあるので、前期後期ともに在籍していること。 3 ふまじめな態度、教員にふさわしくない態度があった場合、履修を差し止めまることもあります。
オフィスアワー	（仮）水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は極力コメントを付し授業中に返却する。

講義科目名称：教育実習（中学）

授業コード：

英文科目名称：Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	4単位	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
	ナンバリング：TTC402		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中学校において教育実習を行う。教職課程での学びを中学校の現場で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み，態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力等）
授業計画	○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。 ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
予習	全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること
復習	日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること
テキスト	1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)
参考書	教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』 蒼丘書林、2000年
評価方法・評価基準	1. 実習校指導教員の評価 (70%) 2. 実習レポート (20%) 3. 研究授業 (10%)
履修上の注意	1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。
オフィスアワー	(仮) 照屋：水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室 (仮) 大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の土曜日に行う中間報告会で助言を与える。事後報告会での報告へ口頭でフィードバックする。

講義科目名称：教育実習（高校）

授業コード：

英文科目名称：Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2単位	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
	ナンバリング：TTC403		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 高等学校において教育実習を行う。教職課程での学びを高等学校で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力）
授業計画	○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。 ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に2週間（80時間）である。 高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」（1単位）を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
予習	全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること
復習	日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること
テキスト	1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他（学校要覧、学校経営計画等）
参考書	教育実習を考える会編『新編 教育実習の常識』蒼丘書林、2000年
評価方法・評価基準	1. 実習校指導教員の評価（70%） 2. 実習レポート（20%） 3. 研究授業（10%）
履修上の注意	1. 指定された「教職科目」を履修済であること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件をみたしていること。
オフィスアワー	（仮）照屋：水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室 （仮）大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の中間報告会や、教育実習終了後の事後報告会で助言を与える。レポートなどはコメントを付し返却する。

講義科目名称：教育実習事前事後研究

授業コード：

英文科目名称：Pre, Post-Teaching Practicum Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1単位 (0-2)	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
	ナンバリング：TTC401		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】事前研究では、教育実習を行い、教育活動に参画する自覚を高める。事後研究では、自身の課題を省察する。 【達成目標】 1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。 2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。 3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。 4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。 5. 実習校と連絡を取り、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。		
授業計画	第1回	講義の概要説明、実習に向けて スケジュールの確認、本講義で学ぶことの概要説明を行う。各自の教育実習に向けての取り組み状況を確認する。	
	第2回	学校訪問について 学校訪問の際の身だしなみ、確認すべき事項、心構え、等について確認する。	
	第3回	実習前に準備すべきこと 教材研究、アクティビティ、授業の準備、学級・HRの状況、指導教員との連絡等、実習前に準備することを確認する。	
	第4回	講話：高等学校の現場から 高等学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。	
	第5回	講話：中学校の現場から 中学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。	
	第6回	教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、担当教員からのレクチャー（特に生徒指導、HR経営に関して）。	
	第7回	教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、受講者にミニレクチャーを行ってもらう。	
	第8回	教育実習中間報告会① 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う（受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う）。	
	第9回	教育実習中間報告会② 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。	
	第10回	教育実習中間報告会③ 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。	
	第11回	教育実習反省会① 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど（受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う）。	
	第12回	教育実習反省会② 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。	
	第13回	教育実習反省会③ 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。	
	第14回	教育実習レポートの作成 教育実習の内容を、クラス内でシェアし、その後、レポートにすることで何度も反芻してもらう。教育実習という貴重な体験をやりっぱなしの経験に終わらせることなく、経験の意味を吟味することに努める。	
	第15回	教育実習成果報告会 1・2・3年生の教職履修性に向けた教育実習成果報告会を行うことにより、自身の教育実習の意味を再確認する。	
授業の概要	（事前研究）教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとしたい。 （事後研究）教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種（中学校・高等学校）、学習環境（地域差、学習母集団）等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。		
予習	テキストを熟読すること		

復習	テキスト及び配付したレジュメを再読すること
テキスト	教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』（第8版）倉丘書林 2005
参考書	特になし
評価方法・評価基準	1. 授業態度・授業への参加度（40％） 2. 発表・討議参加（30％） 3. レポート・提出物（30％）
履修上の注意	1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。 2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。
オフィスアワー	（仮）照屋：水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室 （仮）大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称：教育総合研究

授業コード：

英文科目名称：Integrated Studies in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
	ナンバリング：TTC321		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。また、模擬授業を行い、授業実践力を高める。 【到達目標】 (1) 学校教育の現状や課題を総合的に理解する。(2) 道徳、HRの模擬授業を行える。		
授業計画	第1回	講義の概要説明 本講義の概要説明。評価方法の確認。	
	第2回	教育問題についての討議①(いじめ問題) いじめ問題のケーススタディーを行う。あなたが担任ならどのような働きかけを行うか。	
	第3回	教育問題についての討議②(小学校外国語活動、小学校英語について) 小学校における英語教育についての論文を輪読し、そのあり方を議論する。	
	第4回	教育問題についての討議③(子どもの貧困について) 子どもの貧困についての教育論文を読み、教員としてどのようなことができるのかを話し合う。	
	第5回	模擬授業と批評会①(道徳の授業) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。	
	第6回	模擬授業と批評会②(道徳の授業)	
	第7回	模擬授業と批評会③(道徳の授業)	
	第8回	模擬授業と批評会④(道徳の授業)	
	第9回	模擬授業と批評会⑤(道徳の授業)	
	第10回	模擬授業と批評会⑥(道徳の授業)	
	第11回	模擬授業と批評会⑦(道徳の授業)	
	第12回	模擬授業と批評会⑧(道徳の授業)	
	第13回	模擬授業と批評会①(HR・特別活動)	
	第14回	模擬授業と批評会②(HR・特別活動)	
	第15回	模擬授業と批評会③(HR・特別活動)	
授業の概要	①これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ②さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 道徳教育の授業実践集に目を通し、模擬授業に備える。		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	講義中に適宜お知らせする。 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加・貢献度(30%)、発言の質(30%)、模擬授業(40%)によって総合的に評価する。		
履修上の注意	1 教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。		
オフィスアワー	(仮)水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室		
課題に対するフィードバック方法	課題にはコメントを付し授業中に返却する。模擬授業には口頭でコメントと助言を行う。		

講義科目名称：教職実践演習（中・高）

授業コード：

英文科目名称：Student Teaching(Junior/Senior High School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	2単位 (0-2)	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
	ナンバリング：TTC404		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。 【到達目標】①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を高める。②社会性や対人関係能力を高める。③生徒理解を深め、学級経営の知識や技術を得る。④教科内容等の指導力を高める。		
授業計画	第1回 講義の概要説明、自己の課題の確認（履修カルテを利用した個別面談） 授業の概要説明。教師に求められている4つの事項を確認する（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）。授業時間外に時間を設定し個別面談を行う。 第2回 学校フィールドワーク 2日間の学校フィールドワークの概要説明、グループ分け。実習小学校、実習中学校に関する事前学習。 第3回 学校フィールドワーク実習①観察実習、授業支援 学校フィールドワークでは、西原町内の小学校で観察実習、授業支援、学習支援などを行う。2日うち、初日は観察実習、授業支援を行う。 第4回 学習フィールドワーク実習②小学校外国語活動の授業支援、学習支援 2日目は特に、小学校外国語活動（あるいは小学校英語）を観察し、授業に関わることで、中学校入学前の英語教育の状況を把握する。 第5回 学習フィールドワークの報告会 学校フィールドワークの状況、そこで学んだことを、グループ内で共有し、小学校と中学校の接続・連携について考察を深める。 第6回 生徒理解に関する授業（教育相談について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、教育相談、生徒指導についての現状をお話しいただく。 第7回 教科に関する授業（沖縄県の英語教育について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、沖縄県の英語教育の課題についてお話しいただく。 第8回 教科に関する授業（アクティビティ研究） 教職課程履修中の3年生に対して、教育実習で行った英語授業のアクティビティの発表会を行う。 第9回 教科に関する授業（アクティビティ研究の検討会） 教職課程履修中の3年生とともに、英語授業におけるアクティビティの有効活用について話し合いを行う。 第10回 教科に関する授業（研究授業） 特定のテーマを定めて研究授業を行う。教職課程履修中の3年生に生徒役をお願いし、その後、具体的な検討を行う。 第11回 道徳に関する授業 エンカウンターを用いた道徳授業の研究授業を行い、その後にグループ討議を行う。 第12回 特別活動に関する授業 特別活動に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 第13回 学級経営・生徒理解に関する授業 学級経営・生徒理解に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 第14回 教職課程修了の報告会に向けての討議 教職課程修了の報告会に向けての事前の報告会、討議、準備を行う。 第15回 教職課程修了の報告会 教育実習を中心の4年間の教職課程で学んだことを、1・2・3年の教職課程履修者の前で報告してもらう。		
授業の概要	4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていききたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者として連携して演習を実施する。		
予習	各人の担当個所の準備を行い、各回の課題を提出すること		
復習	各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること		
テキスト	授業内容に応じて資料を配布		
参考書	適宜提供 文部科学省『中学校学習指導要領』		

評価方法・評価基準	1. 授業態度・授業への参加度（40％） 2. 発表・討議参加（30％） 3. レポート・提出物（20％） 4. 個別面談（10％）
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	（仮）照屋：水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室 （仮）大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業中にコメントを付し返却する。プレゼン、発表などの課題は授業中に口頭でフィードバックする。

講義科目名称：国際理解教育

授業コード：

英文科目名称：Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：TTC322		

授業のテーマ及び到達目標	国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる 態 度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、最終的には教材作成が出来ることを重視する		
授業計画	第1回	国際理解教育の始まりについて・講義 ねらい：国際理解教育の本科目についての共有理解、授業の始まりにむけてお互いの期待を共有 ・本授業のシラバス内容確認 ・評価、出席、テストの有無等確認 ・担当教員の国際理解教育における専門について ・グループワーク①：「あなたがこれまで体験・受講してきた国際理解教育」共有 ・グループワーク②：本授業で目指す・作っていききたい国際理解教育「こんな学びがあったらよいな」	
	第2回	戦争と国際理解教育 ねらい：国際理解教育はなぜ必要なのか、そのはじまりを知る。日本の教育現場における本教育の重要性について学ぶ ・グループワーク①：国際理解教育はなぜ必要か？ ・国際理解教育と戦争の関係、戦争から始まる教育（VTR） ・日本の教育における「国際理解教育」の取り扱い、文部科学省の指導要領 ・グループワーク②：世界で起きている紛争、移民、難民問題、ヘイトスピーチからみえること、国際理解・民衆理解について	
	第3回	世界がもし100人の村だったら ねらい：せかいの現状を100の割合になおし、ロールプレイ等のゲームで体験する。 ・世界を100人の村にしてみる中みえること ・男女の比率は？ ・世代の比率は？ ・世界の言語はどうなっているの？ ・文字が読めないとどうなるの？ ・富を分配するとどうなるの？ ・世界がもし100人の村だったら（詩の輪読） ゲームの振り返り・大事にしたいこと これを授業に取り入れることのポイント、共有	
	第4回	携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり ねらい：携帯を通して世界とつながる。携帯の中の部品が世界中の鉱物資源を輸入して作られている現状をしり、消費と世界の環境・紛争の結びつきを知る。 ・グループワーク①：「携帯の良し悪し」「携帯でできること」話し合い ・携帯クイズ ・グループワーク②：携帯販売のためのチラシから見えてくること、メディアリテラシー ・携帯と世界のつながり：脅かされる資源を奪い合う開発途上国（VTR） ・グループワーク③：携帯と私たちの生活の関係、よりよく付き合っていくためには	
	第5回	沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：わたしたち沖縄はよくチャンプルー文化、世界に開かれた島だと言われているが、ほんとうにそうだろうか？その事実を学ぶ一つに「沖縄移民」の歴史から現在の日系人につながるものがある。「沖縄移民」にまなぶ沖縄と世界のつながりを知り、教材を体験する。 ・写真にみる沖縄移民の歴史 ・体験記にみる一人ひとりの生き方 ・「移民小唄」から現在のポップミュージック。音楽を通して知る「移民の意味」 ・世界ウチナーンチュの日について（ワーク&VTR） ・世界のウチナーンチュ大会（VTR）	
	第6回	沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：前週に続く学びに加え、地域教材を通して国際理解教育を教える意味学ぶ ・さおりの学び ・グループ討論：教材を通して学んだこと ・グループ教材作成体験：沖縄移民から日系人までを学校現場で教えるとしたら？ ・グループ発表 上記共有	
	第7回	たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性表 ねらい：食文化、風土、文化、宗教、気候これらは全て切り離せることなく、融合し合ってそれぞれの食文化がなりたっていることを知る。 ・個人ワーク：我が家の自慢のカレー ・グループワーク：スパイス・カレーにみるアジアの食文化 ・食の作法：カトラリー・手職・橋食の文化について	
	第8回	アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：前週に習った食に関する教材を元に、2か国の異なるカレーの調理実習を行い、試食まで行う。 ・予定：インドカレー、タイカレーを調理実習する予定。	
	第9回	アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：予定では上記と併せて二コマ使用予定。	

	第10回 社会派映画に観る国際理解 ねらい：映像にみる世界、国際理解教育の学びとする ・国際理解教育に関連する社会派の映画鑑賞 ・グループ振り返り 第11回 自己肯定感を高めるワークショップ ねらい：国際理解教育というと、他国、大きなものの理解が真っ先に浮かびますが、私自身を知り、自己肯定できるプロセスが出来てその次に他者であり、他国理解につながるということを学ぶ。 ・個人ワーク：あなたの生い立ちの中で築き上げてきた自己理解、自己肯定感の確認 ・グループワーク①：自己肯定感を知るワークショップ体験（2～3のワーク） ・グループワーク②：自己肯定感とは何か？ ・講義：自己肯定感とはなぜ大事なのか？ ・本講義、振り返り 第12回 教材の作り方（講義・グループワーク） ねらい：国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。 ・文部科学省の学習指導要領との関係、授業の流れ作成、ねらい、対象者を絞り込んだ教材開発の重要性を知る。 ・グループワーク①：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成 第13回 学生による教材作成ワークショップ発表会① ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。 第14回 学生による教材作成ワークショップ発表会② ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。 第15回 まとめ 振り返り ねらい：半期授業の振り返りを行い、何を学び、何を実際の授業に活かしていけるのか、個人および全体で振り返りを行う。 ・学び残したアクティビティを短く体験 ・これからの国際理解教育、大事にしたいこと
授業の概要	「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。 本授業は度の学生も受講可能であるが、教育実習および教壇に立つことを想定した授業構成になっていることをご理解頂きたい。
予習	世界を知る努力の為に自分は何が出来るのか、計画を立て、予習計画を作成すること
復習	授業の中で取り上げた課題を理解するために、ニュース等さらに自己探求を深め、課題、発表等に活かすこと
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（25%）、課題（レポート）（30%）、教材発表（35%）、授業への・積極的発言（10%） 【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表（最後の授業プラン作り）を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：英語科教育法Ⅰ（＝英語教育法）

授業コード：

英文科目名称：English Language EducationⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
	ナンバリング：TTC310		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。 思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲・技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。
授業計画	第1回 講義概要説明／学校英語教育の目的－英語教育と英語科教育 全15回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。さらに、英語教育と英語科教育の違いに触れ、学校における英語教育の目的について議論し理解を深める。 第2回 日本の英語教育と世界の言語教育観－グローバル化社会における英語教育 日本の英語教育の歴史と諸外国の言語教育について取り上げ、グローバル化が進展する今日において、英語教育のあるべき姿、目指すべき方向性について議論し、理解を深める。 第3回 教師論－学び続け成長する英語教師を目指して 英語教師に不可欠な資質・能力について意見を共有し、目指すべき教師像について理解を深める。さらに、ポートフォリオを作成・記入し、教師力の向上を目指して一歩を踏み出す。 第4回 学習者論（1）－信念・学習スタイル・学習ストラテジー・動機づけ・自律 学習者要因の中で、英語習得に影響を及ぼす主要な要因について取り上げ、理解を深める。また、学習ストラテジーに関する質問紙に実際に回答し、各自の学習ストラテジーについて客観的データに基づいて把握する。 第5回 学習者論（2）－生徒の特性や習熟度に応じた指導 前時のテーマを発展させ、実際の教室現場でどのように学習者要因を踏まえ効果的な指導を行うかについて議論し、個に応じた指導の可能性を探る。 第6回 第一言語習得と第二言語習得－理論から応用へ 第一言語習得と第二言語習得における理論的側面を概観し、共通点や相違点について理解する。また、それらの知見を踏まえ、効果的な英語教育の在り方を考究する。 第7回 言語習得と英語教授法－英語でのインタラクション 英語教授法の理論的背景について理解を深める。また、英語教授法の歴史的変遷についても触れ、これまでの英語教育の課題や現状を理解し、より効果的な教授法について議論を深める。 第8回 英語教育課程－学習指導要領・教科用図書・目標設定と指導計画 学習指導要領の内容を比較し、中高における外国語「英語」の目標及び指導の在り方について理解を深める。実際に教科用図書を参照し、目標設定・指導計画の留意点について確認する。 第9回 英語教育における小中連携と中高接続－現状と課題 小学校における英語教科化、大学入試改革など、英語教育改革の動向を踏まえ、小中校それぞれの校種における英語教育の現状や課題、校種間の連携の可能性と留意点について理解を深める。 第10回 教室の使用言語－Classroom Englishの活用 「英語の授業は英語で」の意義を理解すると同時に、現状や課題についても考察する。また、英語の使い手としての英語教師の役割についても確認する。同時に、教室英語（教授用英語）の実際についても、具体例を示しながら理解を深める。 第11回 授業の形態－生徒中心の学習・ALTとのティームティーチング 一斉授業と個別指導のメリット・デメリット、また教師中心の学習と生徒中心の学習のメリット・デメリットについても比較分析し、効果的な授業の在り方について議論し理解を深める。また、効果的なティームティーチングを行う上での留意点についても確認する。 第12回 測定と評価－評価の意義と役割・観点別評価・パフォーマンス評価 評価の意義と役割について、授業運営、学習効果、学習者の動機づけとも関連づけながら理解を深める。また、観点別評価やパフォーマンス評価についても、具体例を示しながら、その可能性や課題について議論する。 第13回 音声と文字の指導－基本的特性・音声と文字による技能統合型活動 音声と文字の指導について、それぞれの基本的特性に照らして、考究する。また、学習者の熟達度や学習スタイルとも関連付けながら、効果的な指導の在り方について議論を深める。 第14回 語彙・表現に関する指導－受容語彙と発表語彙・意図的学習と偶発的学習 受容語彙と発表語彙の違いを踏まえ指導することの意義について確認する。また、意図的学習と偶発的学習についてもそれぞれの特性や相違点を確認し、効果的な語彙習得に資する指導の在り方・学習方法について議論し理解を深める。 第15回 まとめ これまで学んだテーマの中からいくつかを取り上げ、グループに分かれて意見を交わし発表する。全体で多様な意見を共有することで理解の深化を図る。
授業の概要	教育とは何かという本質的な問題提起を通して、英語科教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、学習指導要領や英語教授法の変遷について考察する。また、英語教育に関わる諸課題を広く取り上げながら現状理解を図り、日本の英語科教育の方向性について議論を深める。さらに、英語授業運営と評価方法についても基礎的知識の理解を深める。
予習	配付資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
復習	指定された課題に取り組み期日までに提出する。

テキスト	「新しい時代の英語科教育の基礎と実践－成長する英語教師を目指して」（JACET教育問題研究会編、三修社、2012年）
参考書	「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」（文部科学省） 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）
評価方法・評価基準	Take-home Exam（60%）、振返りシート（30%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 テキストとともに課題図書が指定される。 2 予習を前提として講義を行う。
オフィスアワー	（仮）毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	1）課題（Take-home Examや振返りシート）を評価・採点し、返却する。2）有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

講義科目名称：英語科教育法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Language Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2単位 (0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：TTC311	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：英語教育理論や日本の教育事情について説明できる。 思考・判断：中等教育における英語教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲：技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、議論できる。		
授業計画	第1回	講義概要説明／英語科教育の目的と英語教師に期待すること 全15回の講義計画を概観し、課題や評価方法について説明する。さらに、本講義の初回にあたって、英語科教育の目的を再確認し、英語教師に求められる資質・能力について意見を共有する。	
	第2回	教材研究と授業計画（1）－学習目標の設定と指導計画 教材研究の着眼点として、言語材料と内容の2点に着目し、レッスン全体の指導計画を立案し、そこから各授業へ落とし込んでいくプロセスを確認する。各授業の目標とレッスン全体の目標との整合性を図りながら、教材兼研究に取り組むことの重要性についても確認する。	
	第3回	教材研究と授業計画（2）－ICTを活用した授業実践 ICTを活用した学習の効果や可能性について基礎的理解を図る。同時に、ICTを活用した授業の具体例を紹介しながら、教材研究の在り方についても確認する。	
	第4回	教材研究と授業計画（3）－異文化理解と教材研究・開発 グローバル化が進展する中、異文化理解は極めて重要な課題と言える。英語科教育においても、国際共通語として英語を指導することが求められているが、そのためには文化・価値観・習慣の多様性についても同時に学習する必要がある。異文化理解教育の具体的方法、着眼点やアイデアについて共有し理解を図る。	
	第5回	学習指導案の作成（1）－指導案の構造分析・指導案作成の流れ 学習指導案の目的、作成の意義について確認する。実際の学習指導案とその元となった教科書の該当するレッスンを参照しながら、学習指導案作成のプロセスや留意点について理解を深める。	
	第6回	学習指導案の作成（2）－指導案作成の実際・ピアレビュー 前時の課題として出された学習指導案作成を踏まえ、各自が持ち寄った学習指導案をグループで共有し、意見を共有する。また、学生が作成した学習指導案について、優れた点や改善すべき点を指摘し、理解の深化を図る。	
	第7回	文法指導－文法的重要性・帰納的学習と演繹的学習・文法知識の習得から活用へ 文法指導の重要性を、言語の本質に照らし、技能面・情意面の両側面から確認する。また、技能的学習と演繹的学習の特性や相違点についても理解を深める。知識を活用することの重要性を確認し、具体的方法について概観する。	
	第8回	リーディングの指導と評価－基本概念・リーディング指導の3つのステージ リーディング能力の下位要素について確認し、効果的な指導の具体的方法について学ぶ。特に、リーディング指導の3つのステージについて、各ステージの目的や意義を踏まえ、指導の具体例を示しながら理解を深める。	
	第9回	リスニングの指導と評価－基本概念・様々なリスニング活動 リスニングの特性について、リーディングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、リスニング指導の具体的方法についても例示しながら理解を深める。	
	第10回	スピーキングの指導と評価（1）－基本概念・「やりとり」の指導 スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「やりとり」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。	
	第11回	スピーキングの指導と評価（2）－「発表」の指導 スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「発表」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。	
	第12回	ライティングの指導と評価－基本概念・様々なライティング活動 ライティングの特性について、スピーキングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、ライティング指導の具体例を示しながら、効果的な指導の在り方を学ぶ。	
	第13回	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践－4技能統合型の言語活動 「主体的」、「対話的」かつ「深い理解」を担保する授業の在り方について議論し、その具体的方法について理解を深める。4技能統合型の言語活動の目的や意義についても概観し、具体例を示しながら理解の深化を図る。	
	第14回	教育実習－実習生に求められる資質能力・実習に向けた計画 教育実習の意義や目的について理解する。特に、実習生に求められる資質能力について議論・共有し、実習に向けて各自の取り組むべき課題を再確認する。具体的な計画を立て、教育実習に向けて意識付けを図る。	
	第15回	まとめ これまで学んだ内容を総括する。いくつかのテーマを設け、グループに分かれて議論し、意見の共有を図り、英語科教育の理論と実践に関する理解の深化を図る。	
授業の概要	中学校・高等学校における英語科教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、実践的指導力の育成を図る。中学校や高等学校の教育現場の実情に照らしながら、実際に使用されている教科書を用いて教材研究や学習指導案作成を行い、授業計画の具体的方法について理解を深める。また、英語4技能の効果的な指導方法についても、様々な事例に触れながら、理論と実践の両面から修得を図る。		

予習	配布資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
復習	指定された課題に取り組み、期日までに提出する
テキスト	「新しい時代の英語科教育の基礎と実践－成長する英語教師を目指して」（JACET教育問題研究会編、三修社、2012年）
参考書	「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）
評価方法・評価基準	Take-home Exam（40%）、課題（30%）、振返りシート（20%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。 2 事前に受講資格審査を行う。
オフィスアワー	（仮）毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	1）課題（Take-home Examや振返りシート）を評価・採点し、返却する。2）有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

講義科目名称：英語科教育法演習Ⅰ（中学校・高校）

授業コード：

英文科目名称：Methods and Practice in Eng. TeachingⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城直人・Christopher Valvona			
	ナンバリング：TTC312		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解・技能・表現：①理論を指導実践に生かすことができる。②日本人学習者の課題を理解し4技能の習得について指導できる。 思考・判断：自他の授業を授業目標に沿って評価し、問題点を考察できる。 関心・意欲/他：①多面的に教材研究を行い、②課外活動に積極的にかかわり、その成果を授業にフィードバックできる。		
授業計画	第1回	講義概要説明／リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議 全15回の授業計画の概要を説明し、課題や評価の方法についても確認する。また、リーディング指導がテーマの授業映像を視聴し、指導の優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。	
	第2回	リーディング指導中心の授業づくりーリーディング指導の3つのステージの特性と役割ー リーディング指導の3つのステージ（Pre-readin、While-reading、Post-reading）の目的や意義について基本的概念を理解する。それぞれのステージの具体的な指導方法を例示し、理解を深める。	
	第3回	4年生による「アクティビティー発表会」／4年生による「模擬授業」 教育実習を終えた4年生に、研究授業等で実際に活用したアクティビティを紹介してもらい、授業づくりに資する学習の機会を提供する。また、研究授業を再現してもらい、生徒の立場から授業に参加し、優れた点や改善点について考えを共有し、各自の授業づくりに役立てる。	
	第4回	マイクロティーチング（1）ーPre-reading指導（言語材料重視）の実践ー 言語材料を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第5回	マイクロティーチング（2）ーPre-reading指導（内容重視）の実践ー 本文の内容を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第6回	マイクロティーチング（3）ーWhile-reading指導（意味理解重視）の実践ー 意味の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第7回	英語イマージョンプログラムの授業体験ーAll Englishによる授業の実際ー アミックス・インターナショナルスクールを訪問し、英語イマージョンプログラムの実際の様子を見学し、All Englishでの英語の授業運営に資する知見や技術を学び、授業実践に役立てる。	
	第8回	マイクロティーチング（4）ーWhile-reading指導（内容理解重視）の実践ー 内容の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第9回	「高校生英語弁論大会（本学主催）」へ参加ー英語科特有の課外指導の実際ー 本学主催の「高校生英語弁論大会」へ補助役員として参加し、英語科特有の課外指導の実際について体験的に学び、英語教師の仕事内容の多様性を理解する。参加後は、レポートを提出し、体験で得たことを共有する。	
	第10回	マイクロティーチング（5）ーPost-reading指導（言語材料インプット重視）の実践ー 言語材料のインプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第11回	マイクロティーチング（6）ーPost-reading指導（言語材料アウトプット重視）の実践ー 言語材料のアウトプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第12回	マイクロティーチング（7）ーPost-reading指導（内容理解の深化重視）の実践ー 内容理解の深化を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第13回	マイクロティーチング（8）ーPost-reading指導（4技能統合型）の実践ー 4技能の統合を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。	
	第14回	授業映像（5ラウンドシステムの英語授業）の視聴と討議 5ラウンドシステムの英語授業の様子を視聴し、そこで行われている言語活動や指導方法について理解を深め、授業づくりに役立てる。	
	第15回	まとめ これまで学んだことを振り返り、リーディング指導中心の授業づくりににおける留意点・着眼点について再考する。また、評価の在り方についても触れ、日々の授業と評価の整合性を図ることの重要性を確認する。	
授業の概要	本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。		
予習	演習課題に事前に取り組んでおく。		
復習	配布資料に目を通し、様々な実践例を理解する		

テキスト	「英語授業ハンドブックー中学校編 DVD付ー」（金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書店、2009年）
参考書	「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年） 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年） 「英語授業ハンドブックー高校編 DVD付ー」（金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年）
評価方法・評価基準	グループ発表や模擬授業（60%）、課題レポート（20%）、授業振り返りシート（10%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする
オフィスアワー	（仮）大城：毎週**曜日 **限目 大城研究室 （仮）Valvona：毎週**曜日 **限目 Valvona研究室
課題に対するフィードバック方法	1）提出された課題にコメントを付記し返却する。2）ミニ授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。

講義科目名称：英語科教育法演習Ⅱ（中学校・高校）

授業コード：

英文科目名称：Methods and Practice in Eng. Teaching Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2単位 (0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
	ナンバリング：TTC410		

授業のテーマ及び到達目標	知識・理解/技能・表現/思考・判断：①中・高における５０分の授業案を作成し、実践できる。 ② 授業のための教材を研究・作成することができる。 ③ 自他の授業を客観的に分析し、課題を発見し、改善することができる。 関心・意欲：他者の授業に積極的ににかかわり、支援することができる。		
授業計画	第１回	授業の概要説明／学習指導案の分析と評価 学習指導案作成の目的や意義を再確認し、学習指導案のサンプルをその元となった教科書と照らし合わせながら、作成の観点・留意点についても確認する。	
	第２回	授業観察（１）－文法指導中心の授業映像の視聴と討議 前年度の教育実習研究授業の中で、文法指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。	
	第３回	模擬授業（１）－文法の「導入」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「導入」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第４回	模擬授業（２）－文法の「説明」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「説明」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第５回	模擬授業（３）－文法の「練習」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「練習」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第６回	模擬授業（４）－文法の「活用」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「活用」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第７回	模擬授業（５）－４技能を統合した言語活動 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「４技能統合型言語活動」の観点から、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第８回	模擬授業（６）－ＩＣＴの効果的な活用方法 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「効果的なICTの活用方法」に焦点を当て、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第９回	授業観察（２）－リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議 前年度の教育実習研究授業の中で、リーディング指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。	
	第１０回	模擬授業（７）－形式スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「形式スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第１１回	模擬授業（８）－内容スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第１２回	模擬授業（９）－While-readingにおける「意味」の確認に焦点を当てて リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「意味の確認」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第１３回	模擬授業（１０）－While-readingにおける「内容理解」の確認に焦点を当てて リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第１４回	模擬授業（１１）－語彙・文法の定着を図るPost-reading活動に注目して リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「語彙・文法の定着」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
	第１５回	模擬授業（１２）－内容の理解を深めるPost-reading活動に注目して リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解の深化」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。	
授業の概要	受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践的に考究する。これまでの英語科教育法で学んだ内容を踏まえ、実習校で使用されている教科書を実際に用いて教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を２回実践する。授業後は、授業検討会を設け、授業反省・質疑応		

	答・討議を行う。一連の取り組みを通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を養う。
予習	教材研究を行い、指導案を作成する。
復習	授業の録画を視聴し反省点を「振り返りシート」にまとめ、改善点を再考する。
テキスト	1) 「英語授業ハンドブッカー中学校編 DVD付ー」(金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書店、2009年) 2) 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。
参考書	「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「英語授業ハンドブッカー高校編 DVD付ー」(金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年)
評価方法・評価基準	模擬授業(60%)、学習指導案(20%)、授業振り返りシート(10%)、授業への貢献度(10%)等を総合的に判断し評価を行う。
履修上の注意	1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。 2. 模擬授業の前に必ず、学習指導案を提出する。 3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	1) 提出された課題にコメントを付記し返却する。2) 模擬授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。

講義科目名称：教育課程論

授業コード：

英文科目名称：Principles of Curriculum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
宮城 信夫			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 (1) 一つ一つの授業の組み立て方を学び、その授業が学校教育の中でどのように位置づけられるのか、また、学校教育は社会の中でどのように位置づけられているのかを考えることができるようになること。 (2) 教科書の内容を教えるだけでなく、自分自身で何を教えるべきか、どのように教えるべきかを考えることができるようになること。 (3) 学習指導要領の歴史と意図と意義を理解し、創造的なカリキュラム編成を行う素地を身につけること。 【到達目標】 .	
授業計画	第1回	教育課程編成の意義 現在の学習指導要領がどのような社会的要請のもとに構築されたかを、戦後教育の経緯をふまえながら学んでいく。学習指導要領の総則の意義と各教科との関連性、いくつかの法規をもとに、教育課程について検討を加える。
	第2回	教育課程編成の原理 実際の学校現場ではどのように教育課程が編成されていくかを、小学校を例に考えていく。日々の教育活動がどのような原理、原則で成り立っているのかを、ペスタロッチ、デューイの理論と受講者自身の学校教育を振り返りながら確認し、学びを深めていく。
	第3回	近代・現代日本の教育課程の歩み 日本教育史の3つの大きな改革を振り返りながら、現在の教育課程がどのようにして形成されているのかを検討する。さらに戦後教育における実践者として大村はまをとりあげ、教師という職業について考察する。
	第4回	次期学習指導要領改訂の経過と特徴 平成32年度、小学校から順次改定される学習指導要領の経緯と背景について考える。どのような社会的要請が、次期学習指導要領の改訂に影響を与えたのか、授業の方法論はどのように変わっていくのかをピアジェとヴィゴツキーの理論に触れながら考察する。
	第5回	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際 次期学習指導要領で中学校教育課程に求めているものは何か、教職員としてどのような理論に目を向け、実践し、教育課程を構築していくのかについて考察していく。実際の現場では、どのようにして教育課程を編成していくのかについても併せて学んでいく。
	第6回	高等学校学習指導要領とアクティブラーニング 高等教育におけるアクティブラーニングに意味について、実際にどのような指導法が求められているのか、どのような授業がこれからの教育課程編成において重要なのかについて考察していく。
	第7回	教育課程と学校教育 教育課程が学校の教育活動にどのように具現化されているのか、授業と様々な学校行事、授業時数などを見据えながら、教育課程編成の意義について考察する。
	第8回	国、県の施策と学校の教育課程 国や県の教育施策が各学校の教育課程編成にどのように関わってくるのか、特に沖縄県の教育施策を例にとり実際の現場での脅威課程編成を見ていく。
	第9回	教育課程と評価 教育課程はどのように評価がなされているのか、カリキュラムマネジメントの視点から考察していく。また実際の授業場面での診断的評価、形勢的評価、総括的評価について、指導法と教育課程との関連について考察していく。
	第10回	生徒指導の年間指導計画 昨今の生徒指導の理論について学びながら、積極的な生徒指導をめざした年間指導計画について考察していく。
	第11回	道徳の年間指導計画 次期学習指導要領で「特別の教科」として教科化される道徳の年間指導計画と指導法について「考える道徳」「議論する道徳」というキーワードをもとに考察していく。
	第12回	総合的な学習の時間の年間計画 総合的な学習の時間のねらいをふまえ、どのような年間計画を作成していくのかについて考察していく。また校種ごとの扱いについても学んでいく。
	第13回	特別活動の年間計画 特別活動のねらいをふまえ、どのような年間計画を作成していくのかについて考察していく。また校種ごとの扱いについても学んでいく。特にHRや学級指導が学級経営、教科経営に大きく影響を与えることを事例を通して学ぶ。
	第14回	小学校外国語活動の年間指導計画 小学校で実施される外国語活動について、その経緯と意義を踏まえ、どのような問題点があるのか、また系統的な指導法について考察を深めていく。
	第15回	教育課程の総括 新学習指導要領を分析的に検証し、カリキュラムマネジメントの視点でどのように教育課程を編成していくのかについて学び、教育課程編成について総括する。

授業の概要	教育課程（カリキュラム）とは、望ましい学習が展開されるように配慮してつくられる、学校の教育内容の組織のことである。教科・科目など指導領域を設け、教材を選択・配列することによって編成される。それは、国や学校によって規定される部分もあるが、個々の教員により担われているものである。将来教員になり、学校の教育課程編成に参加してゆく能力の基礎を身につけてもらいたい。教育課程の原理、改革の歴史などを学ぶ。模擬授業も取り入れ、教育課程を反映した授業づくりについても触れていく。
予習	事前に示された資料を熟読しておくこと。各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	講義で配布された資料を熟読し、授業中の発言を再吟味すること。各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省 平成29年3月 『中学校学習指導要領』 文部科学省 平成29年3月 『教えるということ』 ちくま学芸文庫
参考書	『よくわかる教育課程』 田中耕治、ミネルヴァ書房、2009年
評価方法・評価基準	授業内レポート50% 小テスト30% 授業態度10% 受講者の発表内容10% 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 「教育課程論」は、教職科目の必修科目であることに照らして、無遅刻無欠席で授業に臨んでいただきたい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。 2 履修条件：1年次配当の「教職の意義」「教育原理」を履修済み、履修中であること。
オフィスアワー	（仮）授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	・

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior ThesisⅠ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
照屋 信治			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 大学における学習の最終的な仕上げを目指す。各学生が、それぞれ主体的に研究課題を設定し、適正な手順に則って研究し、その成果を卒業論文・レポート等の適切な方法によって発表する。 【到達目標】 （１）論理的な思考能力を高める。（２）社会に関する問題意識を高める。（３）調査能力を高める。（４）論文作成能力を高める。（５）発表能力を高める。
授業計画	前期においては、研究テーマ検討、講読、テーマ決定をおこなう。各学生に４月に漠然とでもテーマを発表してもらい、その後、講読において、学問的な手法を確認してもらい、その後、各学生はテーマと主な分析史料を決定する。 今年度の講読に関しては、教育・歴史・沖縄の三点が交錯するという点から、1940年の「沖縄方言論争」を取り上げる予定である。ただし、参加者の興味関心を確認の上で、別のテーマに変更する可能性もある。 後期においては、中間発表、章立て検討、執筆、口頭発表、論文完成という流れである。各参加者、２回ほどの発表を行う。 概ね以上を予定しているが、参加者の人数・興味関心により、指導形態・方法が変わる可能性がある。
授業の概要	担当者の専門は、近代沖縄教育史・思想史である。現代の教育、近現代教育史、近現代沖縄史に関連する卒業研究の指導を行う。主に歴史学の学問的な手法に依拠する。先行研究を収集・精読し、史料を読み・考え、論文の構想を練り、口頭発表、論文完成という手順を踏む。
予習	指定された論文を熟読すること
復習	指定された論文を、自身の論文に活かすつもりで再読すること
テキスト	教場において随時提示する。
参考書	教場において随時提示する。
評価方法・評価基準	卒業論文の水準によって評価する。出席状況も加味する。 【ＤＰ 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	卒業論文の作成には、莫大な時間と労力を要する。よく考えたうえで、担当教員・研究テーマをきめること。どのような手法・分野を選ぼうとも、卒業研究をしっかりと行った経験は、卒業後に何らかの形で役立つものであるから、しっかりとがんばってもらいたい。
オフィスアワー	（仮）水曜日と木曜日の昼食時間 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	議論・発表の際には口頭でフィードバックする。レポート、論文に関しては、口頭、文面での助言を行う。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
新垣 誠			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：物事の内容を説明できる。 思考判断：論理的思考ができる。 関心意欲：社会に興味を持てる。 態 度：計画的な研究計画を立てる。
授業計画	卒業研究Ⅰ（４月～７月）：テーマ設定のための事前調査、テーマ選択の指導、テーマ決定。先行研究調査。学術論文の基本的考え方、データ収集方法、質的・量的リサーチ、統計処理方法などに加え、引用の方法、文章の体裁・構成、論文執筆の手順などを学ぶ。研究計画書の最終バージョン、アウトラインの完成、先行研究のまとめをおこなう。 夏休み（８月～９月）：インタビュー、聞き取り調査、参与観察、アンケートなどの実施。 卒業研究Ⅱ（９月～２月）：執筆開始。データ処理作業、個別相談、グループでの読み合わせ作業、中間報告、体裁整え・仕上げの作業。
授業の概要	卒業研究Ⅰでは、知的財産権や論文の形式・構成など、学術論文執筆における基礎を学ぶ。また、卒業研究における様々な調査方法、統計処理、先行研究調査、理論的枠組の活用方法を学ぶ。卒業研究Ⅱでは、実際の執筆作業を通して、理論展開、議論の整合性、文章構成のテクニックなど、学術論文における技術を習得する。卒業研究・卒業論文作成の作業を通して、豊かな観察力、言語力、コミュニケーション能力、批判的思考力、論理的思考力を身につけることが、主な目的である。 国際平和学や国際関係論、国際ボランティア論など、インターナショナル・サービス関連科目、また異文化理解やカルチュラル・スタディーズ、文化人類学などの講義で扱ったトピックを中心に研究テーマを選択し、データ収集をおこない、論文を執筆する。学際研究であるため、理論的アプローチや調査方法などに関して特に規定はないが、綿密な相談の上、研究テーマを決定することが望ましい。
予習	次回の授業や面接に備えて出された課題を終わらせること。
復習	授業で学んだことや面接で指摘されたことを振り返って対応すること。
テキスト	必要な資料等は、講義担当者が準備します。
参考書	必要な資料等は、講義担当者が準備します。
評価方法・評価基準	授業参加度（３０％）、各週に課される課題（１０％）、研究計画書（３０％）、先行研究のまとめなどの提出状況と、内容（３０％）をもとに評価します。 【ＤＰ １～４との関連】 .. １ 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ ２ 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ ３ 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. ４ 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	作業を進行させる各ステップにおいて、綿密な打ち合わせと指導・相談が必要です。設定された時間には必ず出席し、課された作業を確実にこなすことが重要となります。
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@ocjc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは評価後に希望に応じて返却します。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
仲里 和花			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	1) 学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成することができる。 2) 「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆくことができる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。 〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い。卒業論文を完成させる。12月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2月上旬には卒業論文の提出。	
	第2回	分析方法の説明(1) 3年次後期の「卒業基礎研究Ⅱ」で収集したデータ（インタビュー調査、アンケート調査、フィールドワーク）を分析する方法を学ぶ。 ●インタビュー調査（ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析など）	
	第3回	分析方法の説明(2) 3年次後期の「卒業基礎研究Ⅱ」で収集したデータ（インタビュー調査、アンケート調査、フィールドワーク）を分析する方法を学ぶ。 ●アンケート調査（エクセルを使った度数分布の集計、エクセルを使ったクロス集計など） ●フィールドワークの分析方法	
	第4回	分析方法の選択 第2回、第3回の講義で学んだ分析方法の中から、各自、適切な分析方法を選択する。	
	第5回	データ分析の実施(1) インタビュー調査を実施した学生は、各自、ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析などから選択した手法でデータ分析を行う。 アンケート調査を実施した学生は、各自、コンピュータ室で、エクセルを使用して、度数分布の集計やクロス集計を行う。	
	第6回	データ分析の実施(2) インタビュー調査を実施した学生は、各自、ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析などから選択した手法でデータ分析を行う。 アンケート調査を実施した学生は、各自、コンピュータ室で、エクセルを使用して、度数分布の集計やクロス集計を行う。	
	第7回	データ分析の実施(3) インタビュー調査を実施した学生は、各自、ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析などから選択した手法でデータ分析を行う。 アンケート調査を実施した学生は、各自、コンピュータ室で、エクセルを使用して、度数分布の集計やクロス集計を行う。	
	第8回	データ分析の実施(4) インタビュー調査を実施した学生は、各自、ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析などから選択した手法でデータ分析を行う。 アンケート調査を実施した学生は、各自、コンピュータ室で、エクセルを使用して、度数分布の集計やクロス集計を行う。	
	第9回	データ分析の実施(5) インタビュー調査を実施した学生は、各自、ライフヒストリー分析、会話分析、内容分析などから選択した手法でデータ分析を行う。 アンケート調査を実施した学生は、各自、コンピュータ室で、エクセルを使用して、度数分布の集計やクロス集計を行う。	
	第10回	データ分析の結果発表(1) 学生は、各自のデータ分析の結果を発表する。	
	第11回	データ分析の結果発表(2) 学生は、各自のデータ分析の結果を発表する。	
	第12回	考察(1) データ分析の結果を踏まえて、考察を練る。	
	第13回	考察(2) データ分析の結果を踏まえて、考察を練る。	
	第14回	考察(3) データ分析の結果を踏まえて、考察を練る。	
	第15回	中間報告 各自、分析結果を踏まえて練った考察を発表する。	

授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	卒業論文の作成 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	前期：毎週月曜日（4限目）／毎週水曜日（5限目） 後期：毎週月曜日（4限目）／毎週火曜日（4限目） 仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題（分析結果の発表）はその都度、授業内でフィードバックを行い、中間報告のフィードバックは最終授業時に行う。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing. In line with Bloom's Taxonomy, each lesson builds upon the previous one. Students will work towards the final goal of creating and presenting something unique. In-class work will involve pair and small group discussions, the sharing of original ideas as well as making and giving interesting presentations.		
授業計画	Meeting 1	Introductions / syllabus / writing process a. Take role b. Distribute syllabus c. H.O.1 Conducting Interviews (students practice interviewing skills and introduce the interviewee to the class) d. Discuss subject, audience, & purpose by listing examples of each e. Divide class into small groups f. H.O.2 In-class Brainstorming Exercise HOMEWORK: a. Finish the In-class Brainstorming Exercise for discussion in next week's meeting.	
	Meeting 2	Lecture 1 a. Discuss results of H.O.2, identify relationships among details in brainstorming, label relationships with category names, share group results with the class on the white board, identify trends, differences among groups, genders, etc. b. Collect the results of their work in H.O.2 HOMEWORK: a. Brainstorm on 5 separate Post-it notes (a) your short-term goals, (b) long-term goals, (c) likes and dislikes, (d) things that make you happy, and (e) images of Okinawa b. H.O.3 Brainstorming Homework c. Create a Gmail account	
	Meeting 3	Lecture 2 a. H.O.4 Small-group Discussion of Brainstorming b. Each group creates a Google Drive Presentation that creatively represents the data drawn from H.O.4 HOMEWORK: a. H.O.5 Collaboration	
	Meeting 4	Small-group work 1 a. H.O.6 Similarities and Trends b. Discuss results of H.O.5 Collaboration	
	Meeting 5	Small-group work 2 a. H.O.6.5 Logical Analysis b. H.O.7 Critical Analysis HOMEWORK: Finalize your presentation	
	Meeting 6	Practice 1 Practice time for presentations	
	Meeting 7	Presentations 1 MIDTERM PRESENTATIONS	
	Meeting 8	Presentations continued Presentations (continued) Small-group discussions (Brainstorm, take notes, and discuss the details that group members already know or understand about their chosen topics.) H.O.7.5 Research Questions and Methods of Investigation HOMEWORK: Finish the work in H.O.7.5	
	Meeting 9	Small-group work 3 Clarify what your group already knows about the issue, what the goals are, and then update your Google Drive PowerPoint. These details should be clearly expressed in your PowerPoint. H.O.8 Research Team HOMEWORK: Finish the work in H.O.8	
	Meeting 10	Small-group work 4 Discussion of the Research Team handout. Discussion of the Research Team handout. HOMEWORK: Be prepared to report new progress in the next meeting.	
	Meeting 11	Small-group work 5 H.O.9 Research Progress	

	Meeting 12 Small-group work 6 Critical discussion of results Meeting 13 Small-group work 7 Include results in the presentations Meeting 14 Practice 2 Finalize results and practice presentations Meeting 15 Presentations 2 FINAL PRESENTATIONS
授業の概要	In this class, students are encouraged to take a fresh look at themselves and at their society. The fifteen-week course is divided into two seven-week cycles, which follow Bloom's Taxonomy of learning objectives. In the first cycle, issues such as 'self-identity', 'group identity' and 'community identity' will be investigated. In the second cycle aspects of Okinawan culture will be investigated more deeply. Field research may be included.
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	This depends on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
参考書	This depends on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
評価方法・評価基準	The advisor assigns a mark based on quality of research and level of effort exhibited by student throughout the entire year. Incomplete theses receive no passing mark. 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to meetings on time and focusing on the work is necessary for success.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
新垣 友子			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 自ら明らかにしたいテーマを設定し、文献研究・調査等を踏まえて卒業論文を完成させる。 【到達目標】 文献の収集方法、調査方法習得し、実践することができる。論理的・批判的思考で問題意識をもって自らのテーマを捉え、客観的に分析することが出来るようになる。
授業計画	4月～6月 卒論の書き進め方、研究の方法を詳しく学ぶ。 先行研究を収集し、テーマ設定のための演習を行なう。 7月 中間報告会を行なう。（研究の目的、方法、章立て、先行研究など） 8～9月 先行研究の読み込み、論文構成、調査研究。 10～11月 調査結果の分析と考察・執筆。 12月 研究結果のまとめ（ゼミ内提出） 1月 フィードバックに従い追加修正 2月 推敲
授業の概要	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などあらゆる側面から言語に関する研究を行なう。研究の対象となる言語は主に日本語、英語、沖縄語（うちなーぐち）、ウチナーヤマトグチで、身近にある言語現象を細かく調査・分析し、何故そのような言語現象が起こるのか追求する。コーパスを用いて談話分析を行ったり、必要に応じてフィールドワークを実施し、データの収集・分析法を学ぶ。
予習	前期は文献の輪読、各先行研究の読み込み、文献発表、後期は研究計画書に従って執筆する。適宜発表の準備や文献のまとめを行う。
復習	フィードバックに沿って研究計画書の作成や修正を行いながら、調査・執筆を行う。
テキスト	随時提示する。
参考書	随時提示する。
評価方法・評価基準	卒業論文(80%) 授業態度（発表、参加度など）(20%)を基準とし、総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・卒業研究は学生主体であるため、一方的な講義は期待せず、積極的に授業に参加すること。 ・毎回、授業では発表・発言を求められるため、かなりの時間を割いて準備をすることが要求される。予習を怠らないこと。 ・学生同士のフィードバックがとても大切である。みんなで作る授業であるという意識を持って、積極的にピア・レビューを心がけること。
オフィスアワー	（仮）毎週火曜日 3,4限目 新垣友子研究室（前期） （仮）毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室（後期）
課題に対するフィードバック方法	研究計画書、レポート、論文の提出・添削はオンラインで行う。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
大城 直人			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	学術論文作成のプロセス（テーマ設定/先行研究リサーチ/データ収集/データ分析/データ解釈/論文執筆）を体得し、各自の研究テーマに沿った論文の完成を目指す。 1）研究計画を立案し、計画に沿ってリサーチを遂行することができる。2）データの分析を行い、結果を解釈・考察することができる。3）論文作成の基礎的事項を理解し、それを踏まえ論文を執筆することができる。
授業計画	前期（4月～7月） 先行研究リサーチと並行して、データ収集に向けた準備（アンケート調査の質問紙作成など）を行った後、データ収集（アンケートの実施など）に取り組む。 後期（10月～2月） 統計ソフトを用いてデータを処理・分析し、さらに分析結果の解釈を試みる。その後、論文の執筆作業を開始する。後半は個別指導を中心に、論文の推敲を重ね完成させる。
授業の概要	先行研究リサーチの成果発表と並行して、データ収集に向けた取り組み（アンケート調査の質問項目作成など）を進める。また、データ分析の手法（統計ソフトの活用など）を学び、論文執筆の土台づくりを行う。さらに、論文執筆における約束事（引用方法、図表等の提示方法など）についても具体例を取り上げ、理解を深める。
予習	研究テーマに沿って、各自の課題（先行研究リサーチ、調査方法の検討など）に取り組む。
復習	指導助言を踏まえ、継続的に課題に取り組む。
テキスト	必要な書類は適宜、授業内で配付する予定です。
参考書	必要な書類は適宜、授業内で配付する予定です。
評価方法・評価基準	卒業論文(80%) 授業態度（発表、参加度など）(20%)を基準とし、総合的に評価する。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。
オフィスアワー	（仮）毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対するフィードバック方法	適宜、面談を行い、進捗状況を確認し、課題の改善に向けた助言を行う。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】論文への理解と実践 【到達目標】自ら問題の設定をし、資料収集と文献を読み解き、思考を整理し、基本的な約束事の形式に従って卒業論文を完成させることができる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション「卒業論文とは」論文についての概要説明をおこなう。学生達のテーマや興味についての情報収集をおこなう。	
	第2回	研究課題の設定、研究の進め方、資料収集論文を書く為の要件説明をおこなう。	
	第3回	研究課題の設定、研究の進め方、資料収集テーマ設定を実際におこない、そのテーマに合わせた論文や資料を読み、その表現や規則を学ぶ。	
	第4回	研究課題の設定、研究の進め方、資料収集論文を書く上での諸注意をおこなう。又、各自資料の収集の仕方を学ぶ。	
	第5回	論文の読み方と書き方実際に論文の基礎となる資料の文章を纏める訓練をおこなう。	
	第6回	論文の読み方と書き方文章を書く上での諸注意をおこなう。実際に論文の基礎となる資料の文章を纏める訓練をおこなう。	
	第7回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第8回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第9回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第10回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第11回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第12回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第13回	各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第14回	ディスカッション、口頭発表各自、これ迄読んで来た資料を纏めて発表する。	
	第15回	前期まとめ一学期間の資料収集と分析してきたことを、それぞれがまとめて発表して提出。	
	第16回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第17回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第18回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第19回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第20回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第21回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第22回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	
	第23回	個人指導学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。	

	第 2 4 回 個人指導 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 2 5 回 個人指導 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 2 6 回 卒業研究発表 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 2 7 回 個人指導 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 2 8 回 個人指導 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 2 9 回 個人指導 学生それぞれのテーマに沿って個人指導をおこなう。 第 3 0 回 まとめ 卒業論文提出 それぞれの完成した論文をチェックして提出。
授業の概要	学生自ら研究テーマを設定する。情報収集、文献研究の方法、論文の書き方を学び、口頭発表を経て、論文を仕上げる。
予習	卒論テーマに関する文献をあらかじめ探して読む
復習	指導された内容と文献を精査する
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業態度：30% 受講者の発表：50% その他：20% 【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。
オフィスアワー	(仮) 毎週水曜日 4 限目 金研究室
課題に対するフィードバック方法	個人指導の時間に論文指導をおこなう。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
近藤 功行			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 担当者のゼミでは、第4章構成のスタイルをとる。そのため、全体構成を作り記載して行くことで、規定枚数対応への心配はない。つまり、当該章立てで書き終わるとこの内容は既にクリアしているからだ。大学院進学にあたって、学部レベルの論文であれば、第4章構成が望ましい。つまり、当該論文指導の手法として、[はじめに]+[第1章 各節立て+小括]～第4章 各節立て+小括]+[おわりに（課題）]+[文献]の構成である。各章の始まり部分で、各章でこれから何を論じるのか明記させる。また各章ごとに小括でまとめることとし、そのことは、各章立てがどこでどう有機的に連動するのかを説明することともつながる。第4章構成の章立てを行うことで、当該論文では、犯人が捜し出せているのか、ここを一緒にみてゆき挿入をはかる。文献は15冊程度、これらの諸作業は、一緒に行く。ミスを防ぐため。3年次から指導が連動することが多いと考えられるが、その時期、何を行っていたのか、論文を解明する努力を行っている。つまり、記録を入れてゆくことである。学術的内容と社会的視座＝就活などの両方を育成しつつ、完成に導く。ゼミ全体の調和をはかる。
授業計画	4月～6月 ① テーマ設定の仕方についての指導。② 先行研究の文献検索の仕方の指導。③ 研究方法の検討。④ 文献挿入に際して有効なインターネット検索とそうでない場合の説明。⑤ 章だて節だて（各章ごとの最後に「小括」を挿入）に向けた学習（1期生から、これまで第1章～第4章構成で卒論指導実施）。⑥ 聞き取り・アンケート調査の手法を学ぶ（実施者を想定し）&予備（プレ）調査実施、分析・検討。（なお、「アンケート手法」が、必ず必要と言うわけではない。ただ、「聞き取り」は、その時期、何を行ったのか、記録が残せる。早いうちの着手が、どうかたちであるか、ここは大事である。そのため、自宅で両親に聞く、祖父祖母がいる場合も同様に聞き取りが出来ると考えるため、積極的な関与を奨励。⑦ 論文構成の確認（「はじめに」「本論（第1章～第4章）」「おわりに（課題）」「文献」）。 7月～9月 ① アンケート調査（実施者のみ）票の作成（＝前述したように、アンケートは、必ず必要ではない。そのため、学生の意向や卒論内容に沿って、進めてゆく。また、アンケートではなく、聞き取り調査にまわす場合もあり。両方を挿入する学生も、これまで、多数出てきている。）。 ② アンケートを実施する学生は、7月期迄に終える指導を行っている。後回しにしていると、処理が大変となるためである。 ③ 8月期＝日本学術振興会事業、ひらめき☆ときめきサイエンス（＝高校生対象で実施）が、その年度、採択されている場合、実施当日の1日、また、その実施に至る準備で、お手伝いをお願いしている。 ④ 卒業論文指導（＝夏休み、各自での実施体制をつくる）。 10月～12月 ① 10月期をめぐり、フィールドワークなどがある場合、終えておく。また、こうした本調査の実施を終えた内容をまとめる。その後、本文の必要箇所に挿入する。② 10月期～11月、データ整理と分析を終える。本文の必要箇所に挿入する。③ 各章節の文章化（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。④ 引用と参考文献の用い方実践（＝各自の卒論を通して、文献と本文記載内容を実際に全件チェックを一緒に行く。）。 ⑤ 解説：文献に15個記載されている場合、本文の中にも、その15個の内容が記載されていなければならない。逆の書き方も、出来る。そのため、文献記載は、とても重要である。その整合性がきちんと出来ているか、この作業は、指導教員と一緒にやる。12月前後で実施。⑤ 卒論進展状況の発表＝ゼミ時間帯で、どういう進捗具合になっているかなど、話あう時間あり。 12月～冬休 ① 全体文章を安全圏に持ち込む。そのチェック作業（本論：第1章～第4章迄の入力中の文章、各節の文章量を安全圏に持ち込む。） ② 各章の「小括」＝まとめ文章を作成する。 ③ 「要約」を書く作業。 ④ 「キーワード」の抽出。各人によって、取り扱う論文の内容が違うため、その個数は違ってくる。 ⑤ 「目次」（＝図表がある場合これらも該当）をつくる作業。 ⑥ 文献が15冊以上挿入されているか。文献挿入は、ミスチェックが必要なため、研究室で一緒に執り行う。 ⑦ 必要な場合は、「付記」「謝辞」挿入があるか。ある場合は、どう書いてゆくか、一緒に検討をはかり、この時期、書ききる。 1月～2月 ① 研究結果のまとめ（＝指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。② 提出に向けた指導教員との最終の詰めの作業。③ 本論あとの「終わりに」の中で、今回解明出来なかった内容&将来に持ち越すこととなる「（課題）」文章作成&④「要約・キーワード」「目次（本文&図表）」「表紙」作成と、そのチェック。⑤ 挿入された全文献記載の整合性を指導教員と最終チェック&完成。毎年度、ゼミ内で他人の卒論を見てミスがないかそのチェックを実施。ゼミ内での最終チェック。⑥ 提出日2日の設定がある中、初日朝イチでその年度出す全員の提出をはかる。ミスが出て来た場合、ゼミ内で協力し合い助ける。1人にしない。
授業の概要	学際的領域の担当となっている。1期生で、①日米両文化の食、②アロマセラピーとハーブを通した癒やし、③自己のジム通いを通してみるスポーツの重要性、④沖縄に移住してくる人の意識面、⑤日本人の宗教観、⑥絵本にみる比較文化、⑦三味線を通してのウチナーンチュの心、当初7名の卒論提出から、現在に至っている。卒論の全体構成を作っていく際のアドバイスは、一緒に行く。当初出てきた発想で、それを取り消す場合がある。しかし、同じ人の頭の中から出てきたものであり、論文を作成することを生業としている指導教員の立場からは、第4章構成で、そのどこかの章に入れられる、そして、有機的に結びつけられると踏んでいる。そのた

	め、出てきた発想、アイデアを消さないことを奨めている。消す必要は、ない。それを結びつけるのが指導教員であって、時として、ゼミ内全員で全体構成完成までのプロセスをブレインストーミング的に一緒に考えることも実施している。状況に応じて進捗をはかりながら、完成へと目指してゆく。
予習	随時、説明してゆきます。第4章構成（各節立ての数は、各章によって違いあり。多い場合、5～6節まで。）の中に、いち早く、何月何日何曜日の記録を入れられることが大事と考え、そこを頭に入れて欲しい。
復習	随時、説明してゆきます。前述したように、第4章構成（各節立ての数は、各章によって違いあり。多い場合、5～6節まで。）の中に、いち早く、何月何日何曜日の記録を入れられることが大事と考え、そこを頭に入れて欲しい。
テキスト	指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」欄では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。
参考書	指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」欄では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。
評価方法・評価基準	卒業論文指導は、前述したように、章立て・節立ての手助け含めて、マンツーマンでのやりとりを実施している。時として、卒論ゼミ内全体で検討することもある。そのため、最終提出があった評価に関しては、『秀』以外存在しないを念頭にその年度年度、取り組んでいる。それ以外の評価でなければ困る学生（＝つまり『秀』を付けられると困る）に関しては相談に応じる。ただし、過去にその事例は、もちろん、存在しない。各自、その年度の卒論ゼミ全体を見渡して仲間を助ける等、また自分自身で動いて欲しい。評価は、個人個人の出来にかかっているが、その評価に全員がつながるゼミ作りも努力関与して欲しい。 【DP 1～4との関連】 ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	「何でかねえー」当初疑問を持ったことを、科学的に説明する力を身につけて欲しい。「第○章第○節と第○章第○節のここを見て下さい」「ここで類似あるいは相違があるでしょう。だから、最後に出てくる犯人を決める材料はここにあるんです。」こうした裏付けを論文で展開して欲しい。出来れば、自分が作ったオリジナルな図・表（＝ここでは、欄外に「2018年：××××作成」記載が出来ればよい。××××は、卒論提出者氏名）で、勝負出来ればこの論文はある意味、新発見（New Finding）が得られたことにつながるため。 [担当教員メールアドレス（質問・レポート等の受付）] noriyuki@ocjc.ac.jp メールやりとり及び、随時、下記研究室来研で指導を実施している。 [研究室] 北研4-4
オフィスアワー	予定；毎週月曜日&火曜日4限目 近藤功行研究室(北研4-4：エレベーター前)
課題に対するフィードバック方法	論文の完成し、教務課提出後＝一通りのチェックが通過したこととなるため、この後、【謝辞】で何らかの人が記載されている場合、とりわけ、調査でお世話になった人がいるなど、この場合、冊子を作り、お世話になった人に配布するように心がけている。履修者各人とは、どの年度も添付ファイルで完成稿を共有している。簡易製本（＝背表紙付け）冊子作りは、「謝辞」がある人を優先している。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior ThesisⅠ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
玉城 直美			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。
授業計画	〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次終了時に決定した卒論テーマを基本として進めていく。培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集团的に学び、個別発表を行う。中間発表（Ulvogゼミと合同）を必ず参加し、前期でテーマ、問題意識、参考文献の決定、卒論の半分を仕上げられるように進めていく。月の始めは図書館のスペースを使って文献整理を行う予定。 〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議を前半は進めていきながら、後半は個別指導を行っていきながら、12月下旬にはゼミ内における卒業論文を完成、提出を目指す（締切12月22日）。2月上旬には卒業論文の提出。
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。
予習	学生は、前期後期と授業計画に従い、文献を読み、論文に取り掛かること。
復習	中間の取り組みをゼミの教員とやり取りを行い、提出の指示を受けた場合、そのやり取りを進めていく中で、与えられた課題に取り組み、論文の修正を行うこと。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	4年次の前期の時点でテーマが決定されており、中間発表、前期、後期の進め方を守ることを前提とします。卒論に必要なテーマ決定から文献整理、理論的思考、結果を規定通り進めていくことで評価を出します。 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	毎週金曜日 3限目 玉城研究室 ※事前予約をお願いします
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
A. David Ulvog			
	ナンバリング：THE490・491		

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文の完成。卒業論文のテーマは担当教師との相談の上、決定。
授業計画	April~July (1st term): Determine topic Learn research techniques and commence research Form basic outline of thesis October~February (2nd term): Continue research in more depth Present research findings Submit initial and final drafts
授業の概要	Over the course of one year, students will learn in more detail how to write a senior thesis, research their topic, present regular progress report to the class, gain valuable feedback from their fellow students, and write their graduation thesis.
予習	Students should set aside a fixed time each week to work on their thesis, and prepare any progress reports, questions or other consultations for the professor and/or fellow students for discussion and review.
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis.
テキスト	All necessary texts or prints will be distributed in class.
参考書	There are many websites and books describing how to write a thesis. Students should also look at the theses written by OCU graduates to gain a better understanding of what a senior thesis entails.
評価方法・評価基準	Students will be assessed based on the work of previous graduates and should pay particular attention to the description presented by the professor of how their papers will be evaluated. Composition will following the standard OCU format. The work will have a basis thesis that starts with a research question. The research question is the core of the thesis. It focuses the study, determines what methods the student will employ, and guides the inquiry, analysis, and reporting. 【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	登録前に担当教師と相談するのが必修である。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4 年	2単位 (0-2)	学科必修科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。 【到達目標】 学術論文を制作するために求められる、研究テーマの決め方、研究活動の進め方、並びに研究結果を論述する作文能力を修得し、卒業論文を完成させる。
授業計画	〔4 年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3 年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。 〔4 年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い、卒業論文を完成させる。1 2 月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2 月上旬には卒業論文の提出。
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。
予習	アドバイザーから出された課題について、資料を熟読し、次の授業の討論等に備えること。
復習	授業中に指摘を受けたことに関しては、自身が行っている卒業研究にどのように反映してゆかイメージし、その都度資料を精査し、自身の考えを明確にするよう努めること。
テキスト	研究テーマに関連する文献等
参考書	研究テーマに関連する文献・図書等
評価方法・評価基準	卒業研究に向かう姿勢：30% 計画性のある進捗状況、論文関連資料の学習状況等 卒業研究論文：70% 論文の構成、論述能力、論文の内容等 【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	分からないことは、オフィスアワーを活用し、積極的に聞きに来て下さい。 (仮) 毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対するフィードバック方法	授業中、逐次フィードバックいたします。。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
上地 恵龍			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】「顧客満足度・社員満足度を軸とした観光ビジネスの経営」 【到達目標】 .		
授業計画	第1回	オリエンテーション 顧客満足（CS）とは一体どんな意味を持ち、どのように理解し、どう成果に結びつけていいのかという「顧客満足（CS）の常識」について説明する。	
	第2回	資料講読 2017年も大企業の不祥事が相次ぎ、「不祥事」の定義を、可能な限り明確にしておくことが重要です。不正行為の発見。神戸製鋼でのデータ改ざんの前には、日産自動車と三菱自動車による燃費不正問題や、欠陥エアバッグで6月に民事再生法の適用を申請した自動車部品メーカーのタカタなどの不祥事が相次いでいた。一連の報道の資料について講読しながら内容について討議する。	
	第3回	資料講読 研究調査に役に立つSWOT分析のやり方とはどのようなものか？手順と例を交えながら習得していく	
	第4回	資料講読 事例研究対象先を取り巻く環境で、最も影響を与えやすい「マクロ環境」の概要について学び、「マクロ環境」を4つの外部環境要因にわけ分析するフレームワーク「PEST分析」について理解し、活用できるように事例を交えながら習得する。	
	第5回	事前研究 研究テーマに沿った県内企業、観光関連産業、観光地を選定し、絞り込み作業をすすめる。	
	第6回	事前研究 事例研究対象先に関する現状、背景となっている事実を把握するため、入手した資料を分析・整理する作業をすすめる。	
	第7回	事前研究 実地調査において訪問先における質問事項や確認項目を整理する。	
	第8回	実地調査 日程を沿って時間管理や訪問先で発言された意見をメモ書きの要領でレポートへ書きこみ（聞き上手、まとめ上手、書くスピードの実践）	
	第9回	実地調査 同上の作業を繰り返す	
	第10回	実施調査 同上の作業を繰り返す	
	第11回	研究報告書作成 役割分担をし、報告書の内容について協議して、全員一致・多数決で重要な項目を決めていく。	
	第12回	研究報告書作成 実地調査で各自のもっている体験・情報・写真媒体を全員で共有し、テーマにあった内容にまとめる。	
	第13回	研究報告書作成 訪問先に対する提案、問題点に対する改善策などを考え、まとめる。（提案や改善策は、現実的で自分たちがすぐ手を打てるレベルの対策を立てる。）	
	第14回	成果報告会準備 プレゼン資料のパワーポイントを作成し、内容に沿った説明文章の確認作業を行う。	
	第15回	成果報告会準備 発表の事前練習や修正作業を通じて、発表者の理解を深め、説得力と納得性の高い発表会にしていく準備。	
	第16回	成果報告会と評価	
授業の概要	顧客（来訪者）中心の観光ビジネスの日常において顧客満足度（CS）の重要性の認識、モデル産業（または観光地）の実地調査・分析などを通じて、その手法および評価基準を体得する。 また、観光ビジネスの長期的・持続的な成長循環を実現していくために社員満足度（地域住民満足度）を実践していくことが特に重要である。本ゼミの仕上げとして社員満足（地域住民満足）の本質を理解するとともに、具体的なESの実例を学び、関連産業の価値の最大化にとっても重要なプロセスとなることを認識する。		
予習	資料、文献購読、特定の箇所についてディスカッションを行い、発表する		

復習	研究調査の手法を学び、実地調査を行います。実地調査の結果をまとめ、研究報告書を提出する。
テキスト	資料配布
参考書	その都度案内する
評価方法・評価基準	平常点（出席点など）に、各自の課題の取り組む姿勢や研究報告書のまとめ方の評点を加えた総合評価。 また、プロジェクトに参加する際には次のような姿勢で臨むことが求められている。 【D P 1～4との関連】 … 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること … 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 ・「ホスピタリティ産業」に強い関心がある人 2 ・実地調査に参加できる人 3 ・グループワークや産連産業との接触が好きな人、好きになりたい人 4 ・前向き、明るい姿勢で協働体制を構築できる人
オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日・金曜日 11：30－13：00 上地研究室
課題に対するフィードバック方法	・ゼミ生に関しては随時対応する。また事前アポにより、その都度に対応することも可能。 ・実地調査における手法や調査の対象を事前に確認し、指導をする。 ・調査報告書については内容の添削や議論のポイントについて指導する。 ・発表会においては外部有識者の参加を招き、幅広い意見を求め、受講生の学習効果を高めていく。